

令和3年度「RESASを活用した施策立案支援事業」



新たな鹿角流ビジネスモデルの構築に向けた課題と対策の検討

～RESASを活用した施策立案支援事業～

令和3年7月～令和4年3月 秋田県鹿角市

01 はじめに

(1) 「新たな鹿角流ビジネスモデルの構築に向けた課題と対策の検討」にむけて

本市は、少子高齢化を要因として、産業各分野の担い手が減少、後継者不足になっている。また、多様な資源を抱えているものの、十分な付加価値を付けられず、稼げるポテンシャルを活かしきれていない。「稼げる産業」×「やりがいと楽しい産業」=「やりたくなる仕事」となるような、鹿角市独自の新たなビジネスモデルの構築が必要である。

新たなビジネスモデル構築に向けて取り組むべき課題を、鹿角市産業部及び総務部のメンバーにより、それぞれの担当分野である人口・産業・観光・農業・林業ごとに分析を行うこととした。

(2) 「RESASを活用した施策立案支援事業」活用の背景

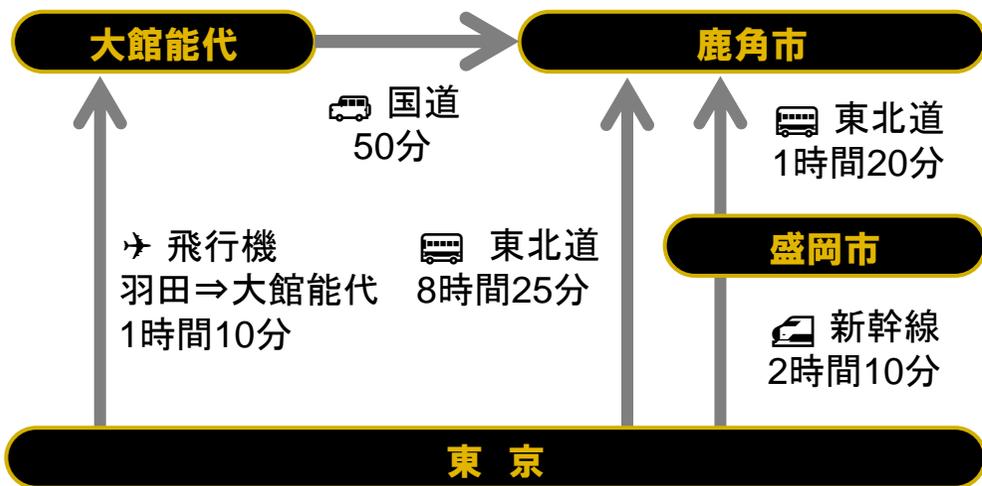
令和2年度に策定した「第7次鹿角市総合計画」において、将来都市像及び重点施策を既に定めているが、総合計画の内容を踏まえつつ、改めて地域の現状・実態を把握するツールとしてRESASを活用することし、施策立案に活用する手法について東北経済産業局の支援を受けながら、令和4年度の新規事業の立案を目指すこととした。

02

鹿角市の概要

鹿角市ってどこ？

北東北のちょうど真ん中にあります



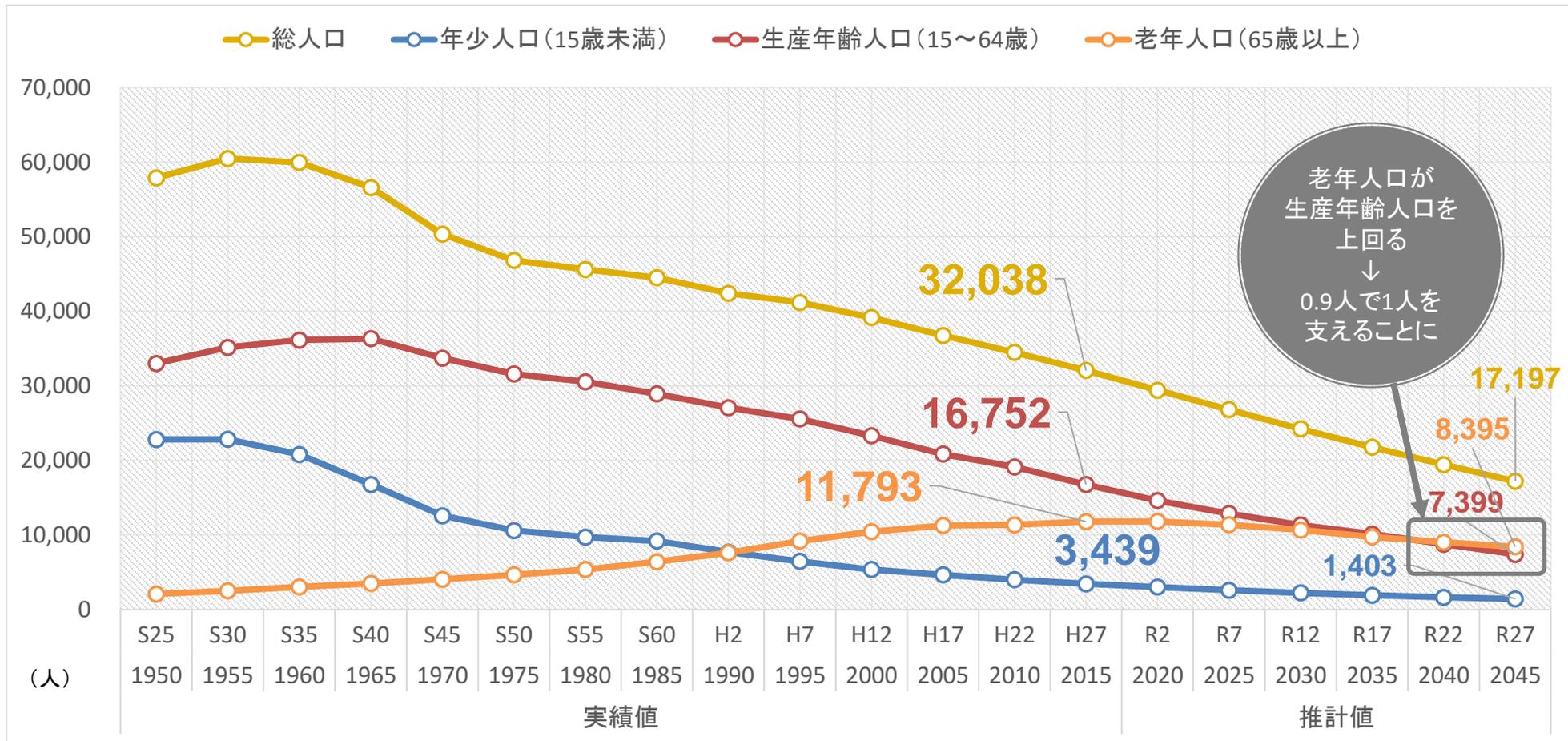
03

人口構造
分析

鹿角市を取り巻く社会情勢と
人口構造から見える地域課題

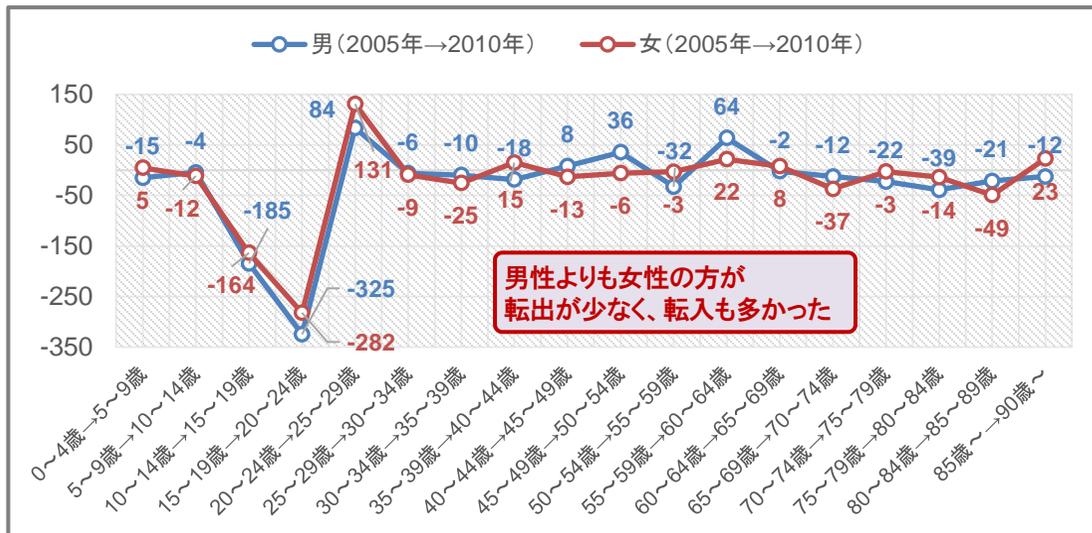
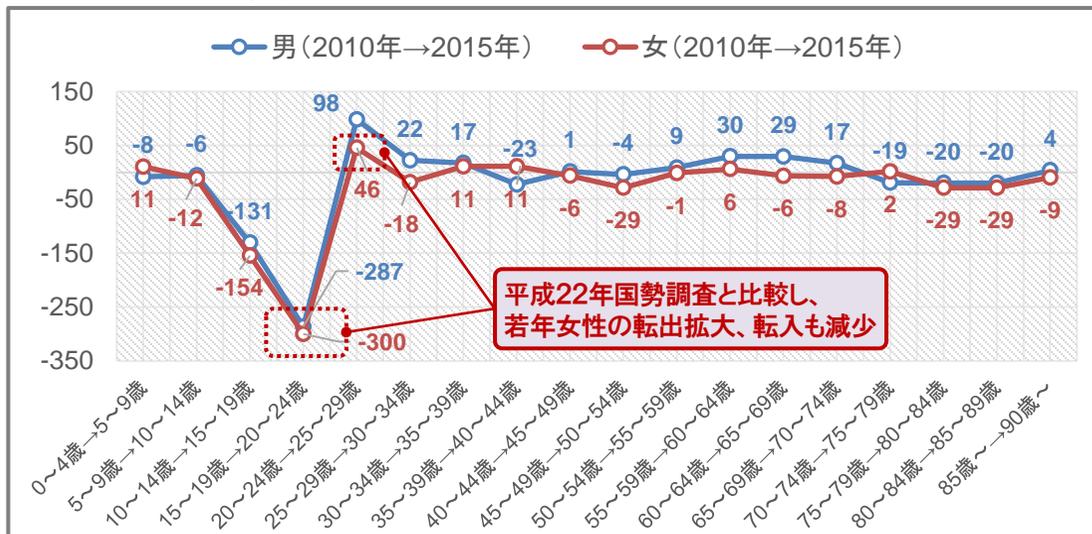
年齢3区分別人口の推移と将来推計

- 生産年齢人口は、令和17年には1万人を下回ると推計されている。
- 老年人口は、令和22年には生産年齢人口を上回ると推計されており、約0.9人で高齢者1人を支えていく計算となる。



性別・年齢階級別純移動数

性別・年齢階級別純移動数



鹿角市における若年層(15歳~29歳)の人口流出状況を国勢調査の「性別・年齢階級別の純移動数」で分析した。

〈2010年→2015年の純移動〉

- ①10~14歳→15~19歳
男131人、女154人の**転出超過**
- ②15~19歳→20~24歳
男287人、女300人の**転出超過**
- ③20~24歳→25~29歳
男98人、女46人の**転入超過**

〈2005年→2010年の純移動〉

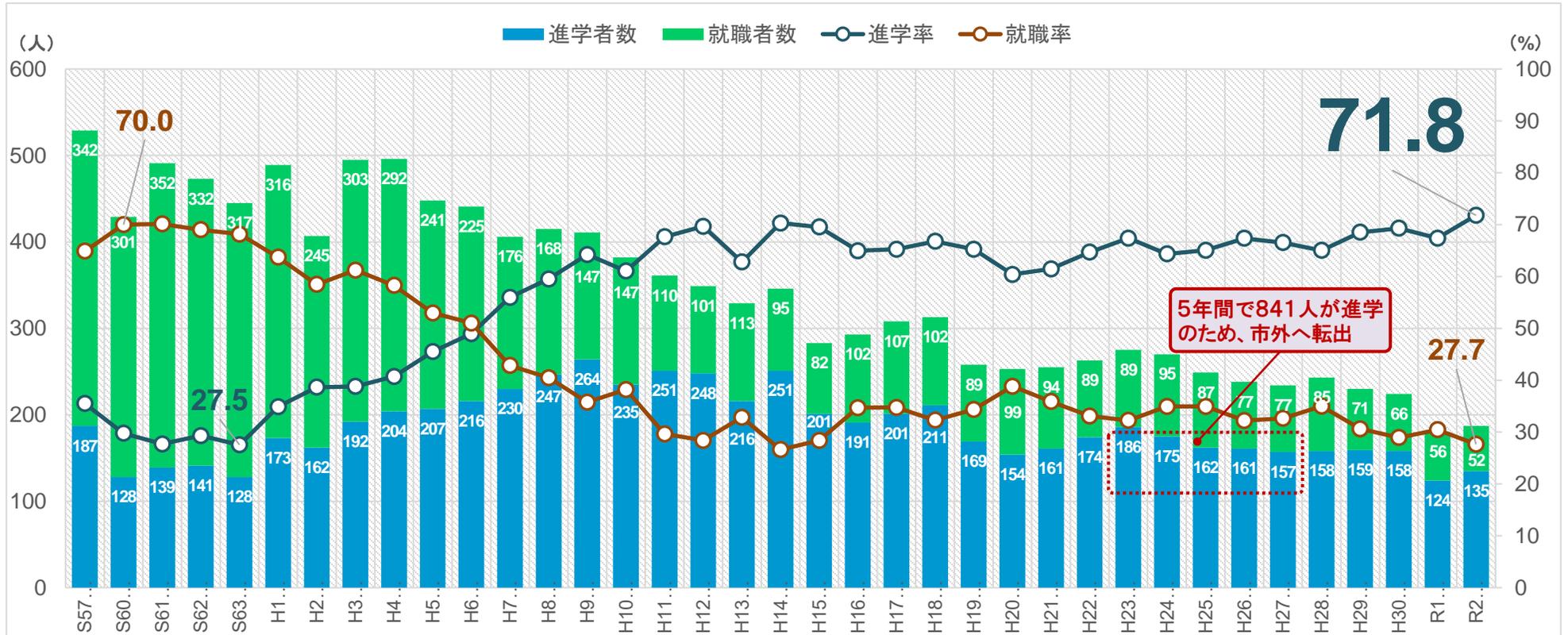
- ①10~14歳→15~19歳
男185人、女164人の**転出超過**
- ②15~19歳→20~24歳
男325人、女282人の**転出超過**
- ③20~24歳→25~29歳
男84人、女131人の**転入超過**

- 転出超過の要因は、高校卒業後の進学に伴うものと考えられる。
- 転出超過を補うだけの転入超過がない。

資料:鹿角市人口ビジョン改訂版(総務省「国勢調査」)

高校卒業者の進学者数・進学率の推移

高校卒業者の進学者数・進学率の推移



資料: 鹿角市の統計「高等学校卒業者の進学率及び就職率(市内各高等学校)」

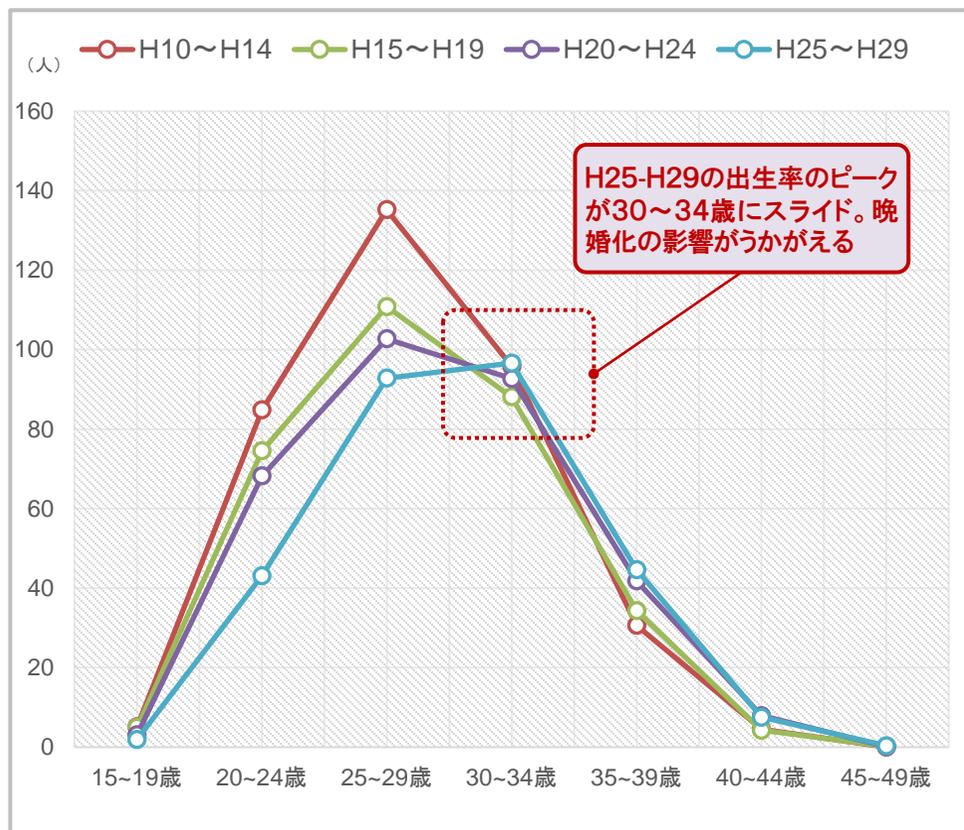
転出超過の要因と考えられる進学者数と進学率の推移を鹿角市の統計から分析した。

- 令和2年の進学率は71.8%で過去最高の高さ。一方、就職率は27.7%で過去2番目の低さ。
- 昭和60年代は進学率が2割弱、就職率が7割だったが、令和2年ではその水準が逆転した。
- 平成23年から平成27年までの5年間をみると、841人が進学のため市外に流出したことになる。

晩婚化と未婚率

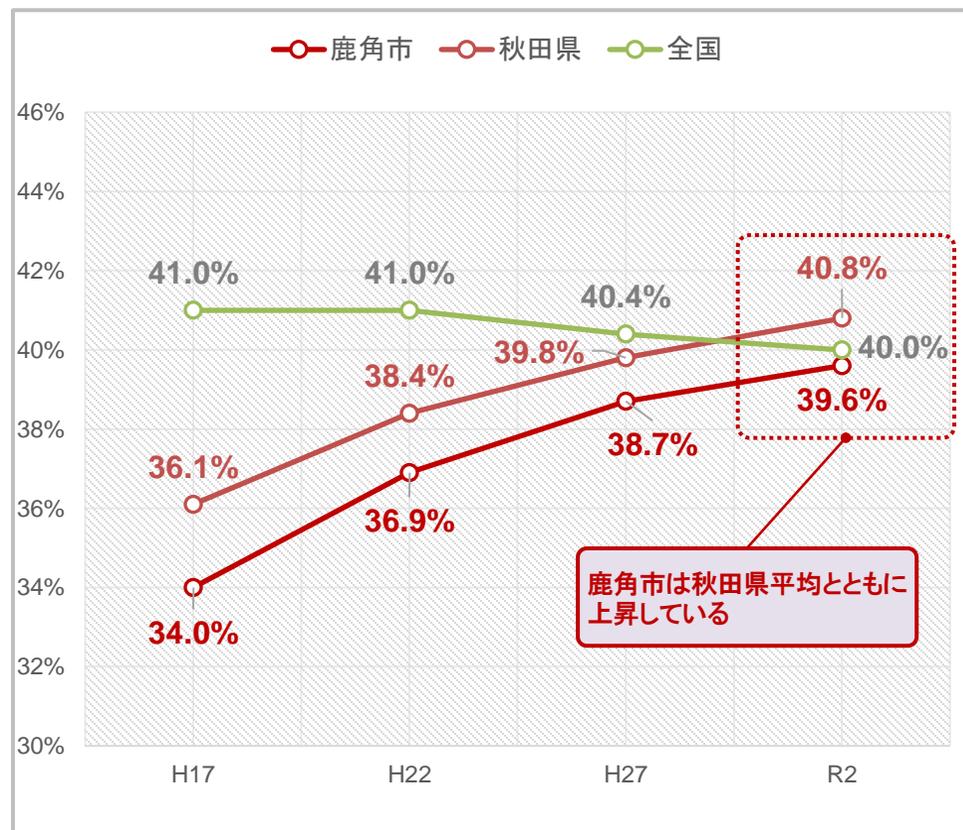
- 母の年齢階級別出生率を見ると、H20～H24までは出生率のピークが25～29歳までの階級だった。しかし、H25～H29は30歳から34歳の階級にスライドしており、晩婚化がうかがえる。
- 未婚率は、全国の割合が低下傾向にある一方で、鹿角市は上昇傾向にある。

母の年齢階級別出生率(女性人口千対)



資料:厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

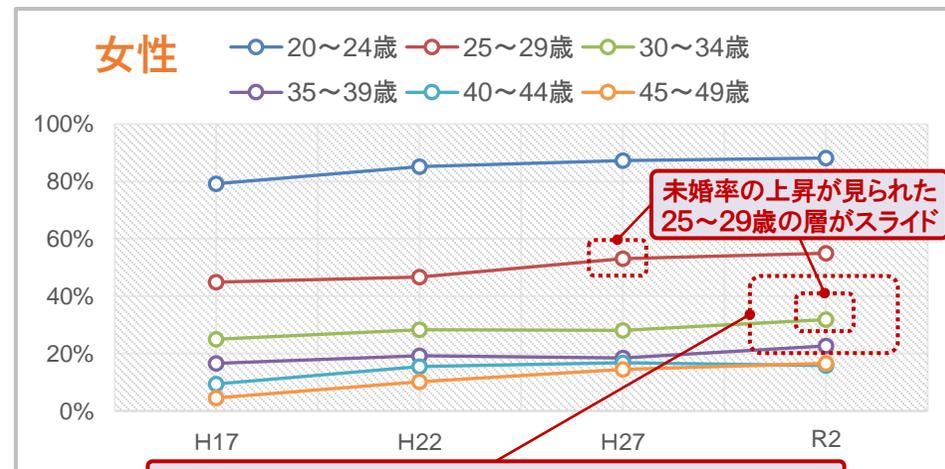
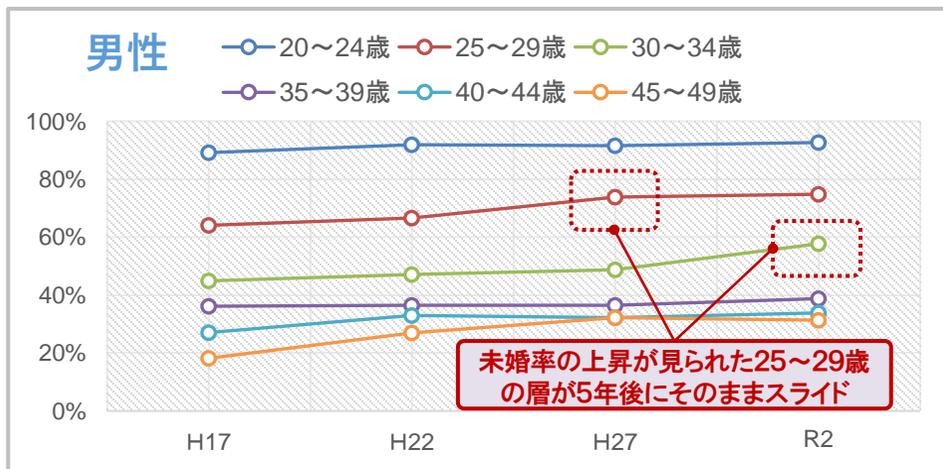
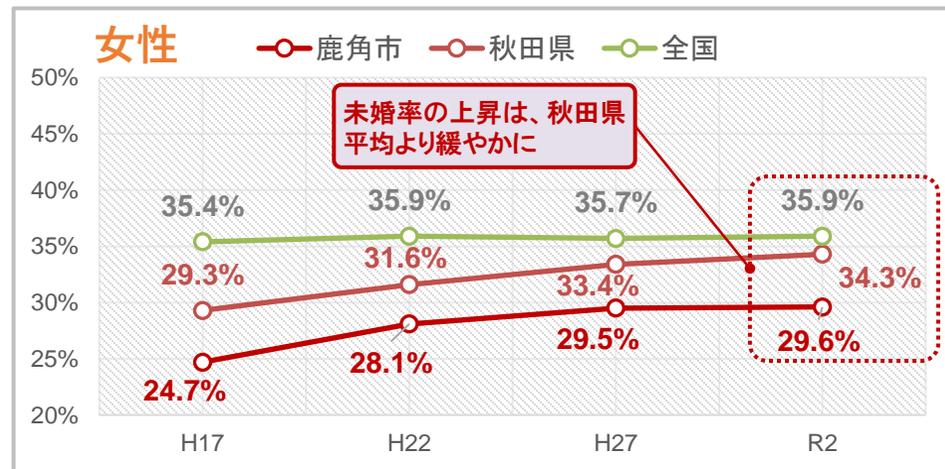
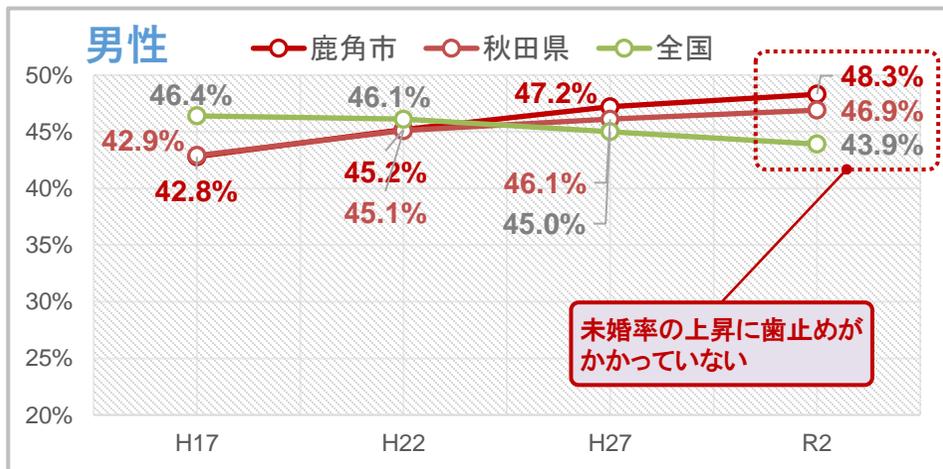
国・県・市の未婚率の比較



資料:総務省「国勢調査」

男性と女性の未婚率の比較

- 男性の未婚率は秋田県、全国を上回る48.3% (R2)。5歳階級別では、30～34歳で上昇しているが、H27で上昇がみられた25歳～29歳の層がスライドしたと考えられる。
- 女性の未婚率は29.6% (R2)と緩やかに。5歳階級別では男性と同様の傾向が見られる。



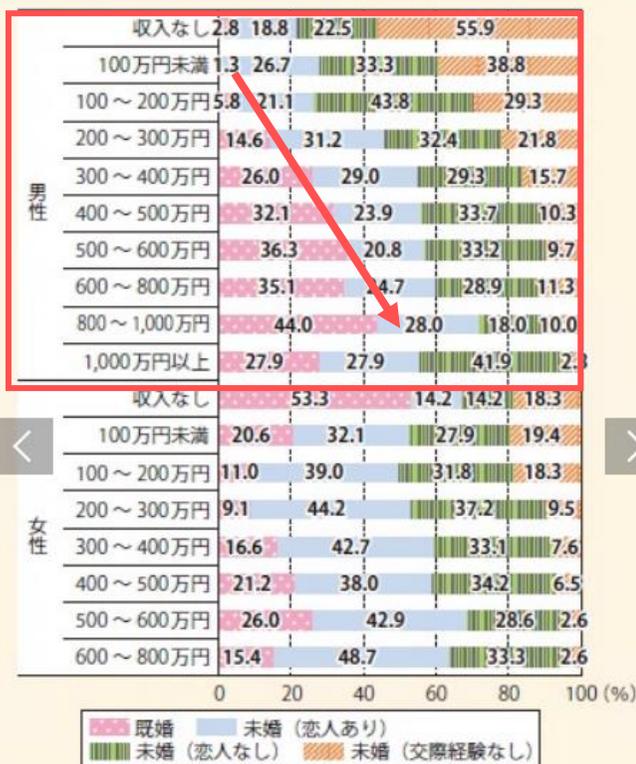
資料：総務省「国勢調査」

H27で低下傾向にあった30～34歳、35～39歳の層が上昇

就業者の年収別の未婚率

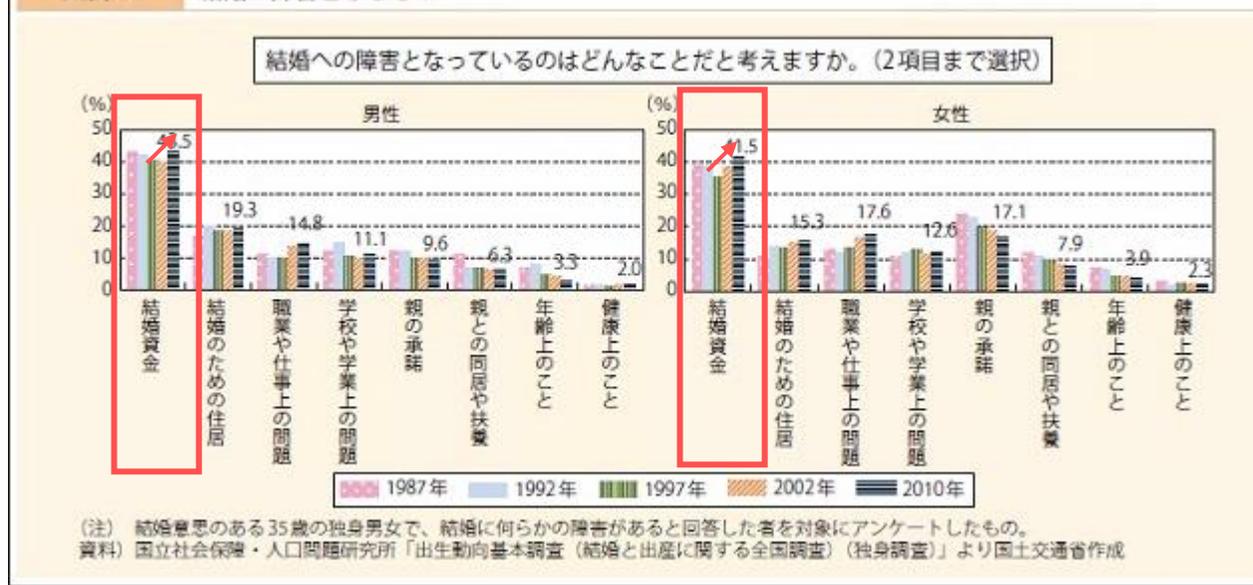
- 男性の年収別の婚姻・交際状況を見ると、年収の高さに応じて既婚率も高くなっていることが分かる。
- 結婚の障害となるものは、男女ともに「結婚資金」が最も高く、所得水準低下による将来への不安が要因として考えられる

図表79 年収別の婚姻・交際状況 (20代・30代)



(注) 1 「既婚」は、結婚3年以内である。
 2 女性の収入「800～1,000万円」及び「1,000万円以上」は、それぞれ該当者が11名、3名しかいないため、グラフ中に含めていない。
 資料) 内閣府「平成22年度結婚・家族形成に関する調査報告書」より国土交通省作成

図表77 結婚の障害となるもの



資料(左): 内閣府「平成22年度結婚・家族形成に関する調査報告書」より国土交通省作成
 資料(右): 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)(独身調査)」より国土交通省作成

人口のまとめ

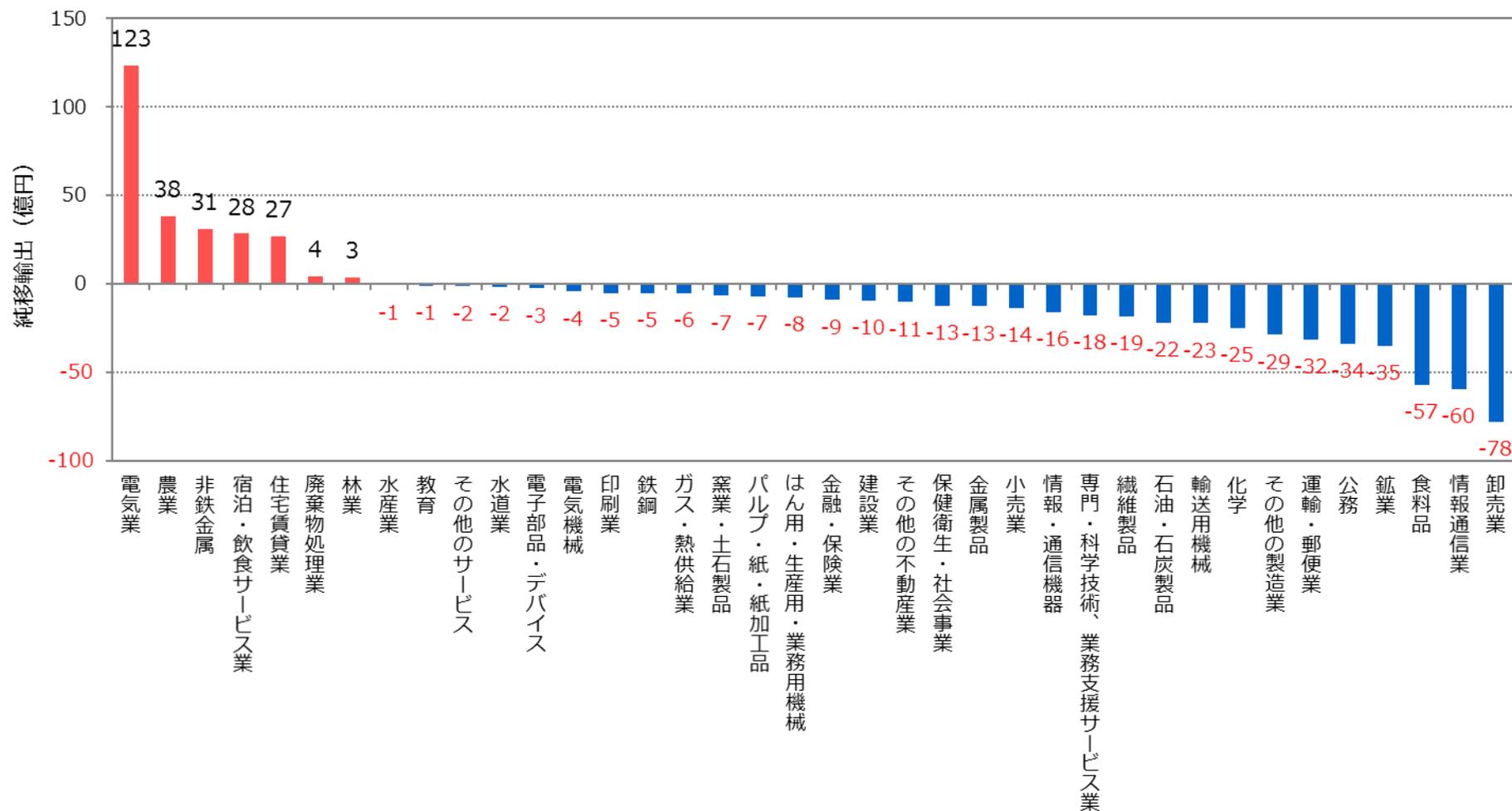
- 国の推計では、鹿角市は2040年に**老年人口が生産年齢人口を上回る**とされている。都内でも同様の現象が始まりつつある。
- 10代後半～20代前半は進学等による転出超過、20代後半は卒業等で戻ってくるため、転入超過となっている。しかし、**転出超過を補うだけの転入超過がない。**
- 市内高校の進学率は71.8%（R2）と過去最高値となった。
- 男性の**未婚率が上昇**し続けており、全国・県と比べても高い水準である。
- **未婚率と年収との間には相関関係**があり、所得水準低下による将来への不安が要因として考えられる。

04 鹿角市の産業分析

産業分析

域外から所得を獲得している産業はなにか

2015年 鹿角市の移輸出入収支額



豊富な再生可能エネルギーを生み出すまち

再生可能エネルギー電力自給率

373.6%

全国36位、市では1位

鹿角市は、かつて主要産業だった
鉱山に使用する電気を作るため、
明治時代に水力発電所が開設されたほか、
風力・地熱の開発も進んでいます。



大自然の恵みが産業を支えています。

2016年 鹿角市の付加価値額（企業単位）大分類

付加価値額(企業単位)：28,029百万円



八幡平ポーク



北限の桃



鹿角りんご



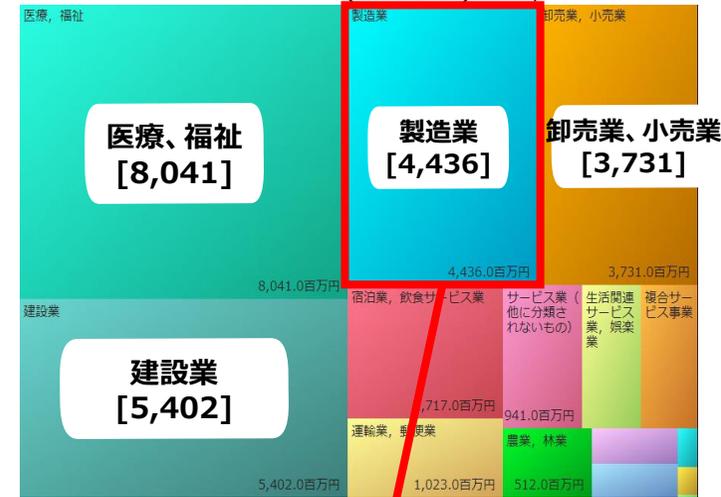
かづの牛



トマト・きゅうり



淡雪こまち



2018年 付加価値額（実数）すべての中分類

12,048.67百万円



鹿角市は温泉郷が3つ

鹿角市内には、大湯・湯瀬・八幡平と3つの温泉郷があり、宿泊業や飲食サービス業などが盛んです。



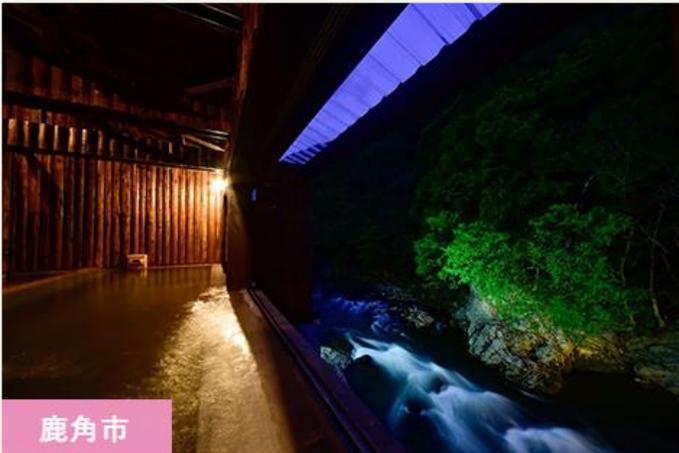
鹿角市

大湯温泉郷



鹿角市

八幡平温泉郷



鹿角市

湯瀬温泉郷

2016年 鹿角市の企業数（企業単位）中分類

企業数(企業単位)：1,117社



鹿角市の産業の労働生産性は相対的に低い

産業構造マップ → 全産業 → 労働生産性（企業単位）

➤ 企業単位での労働生産性を産業別に表示

2016年 労働生産性（企業単位）すべての大分類



※労働生産性 = 付加価値額（企業単位） ÷ 従業者数（企業単位）で算出

労働生産性（企業単位）順位 鹿角市(2016)	
秋田県内	全国
17 位	1,442 位

RESAS_総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

- 鹿角市の労働生産性は県、全国平均より低い。
- 近隣では、仙北市よりは高いが、大館市・小坂町・十和田市・八幡平市より低い。

鹿角市（産業）のSWOT分析

	強み（strength）	弱み（weakness）
内部環境	<ul style="list-style-type: none">生産額で見ると、3次産業の中では電気業の割合が秋田県・全国平均よりも際立って高い。稼ぐ力では「林業」、「農業」が高い。「住宅賃貸業」、「電気業」は、比較的生産額が多く、域外からも稼いでいる産業である。移輸出入収支では「電気業」、「農業」、「宿泊・飲食サービス業」等がプラスとなっており、域外から所得を得ている。東北自動車道で北東北三県の主要都市と繋がっている。	<ul style="list-style-type: none">鹿角市の労働生産性は相対的に低い。介護事業や建設業など、社会保障費・公共事業費に依存する産業へのウェイトが高く、稼げる産業が育っていない。創業比率が低く、事業者の新陳代謝が進んでいない。地域経済循環率が低い。市民所得が低い。
外部環境	<ul style="list-style-type: none">「脱炭素社会」への転換が世界的な潮流になっている。半導体の国産化が進む。IoTやAIなどの進化により、労働力不足を補える可能性がある。副業解禁に加え、コロナでテレワークが一気に進み、鹿角市外に転出しなくても働ける可能性がある。	<ul style="list-style-type: none">全国的な人口減により、地方同士の人口の奪い合いが懸念される。ニプロ（大館市）の増設で、市内労働力のさらなる流出が懸念される。

注力すべき問題点：産業全体の労働生産性の低さ

なぜ、労働生産性の向上が必要なのか

>> 労働者数が減少しても、付加価値額を維持・向上させるためには、労働生産性の向上が必要

需要減、労働人口減の中でも付加価値を生み出し続ける

製品やサービスの生産量（付加価値）

労働生産性※ =

労働者数

少子高齢化による労働人口の減少

図表7 労働投入量が1%減少した時の実質GDPおよび労働生産性への影響



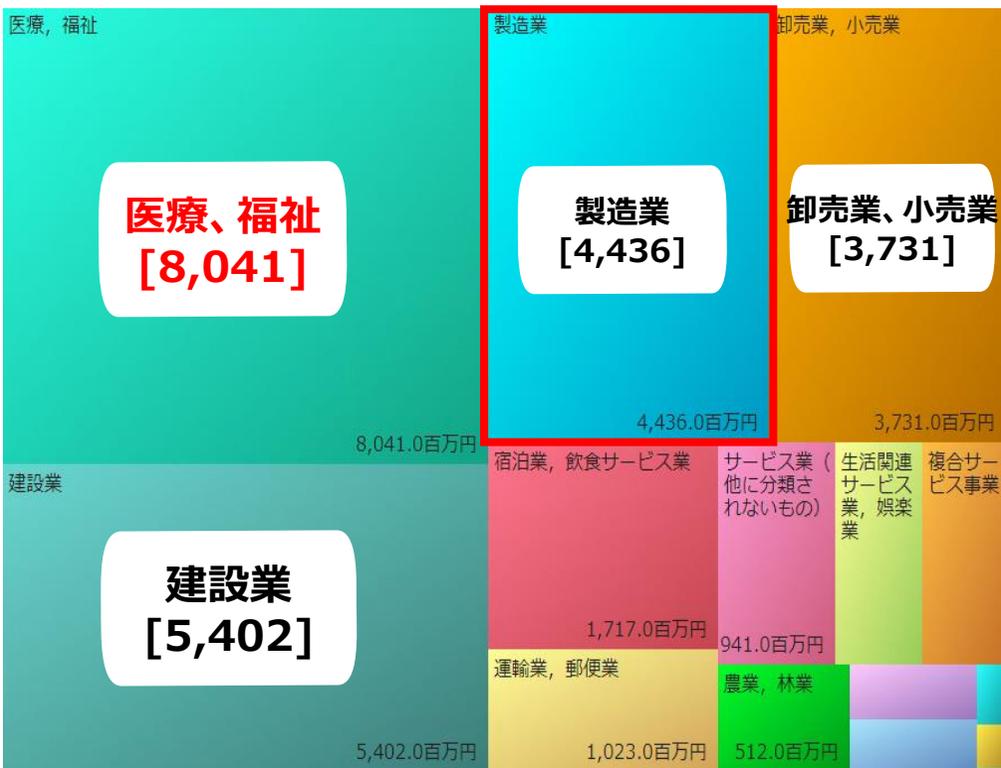
出典：内閣府「国民経済計算」より筆者作成

※補足：労働投入量を1%減少させれば生産性は0.37%上昇する。つまり、労働投入量を減少させると、生産性が上昇するのは事実なのである。しかしながら、労働投入量の減少による生産活動の縮小効果がそれを上回るため、結果として、労働投入量の減少によって経済は縮小してしまう

産業の中でも、製造業の労働生産性に着目

2016年 鹿角市の付加価値額（企業単位）大分類

付加価値額(企業単位) : 28,029百万円



2016年 鹿角市の従業者数（企業単位）大分類

従業者数(企業単位) : 10,057人



総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工
RESAS 総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

- 医療、福祉や建設業など、社会保障費・公共事業費に依存する産業へのウェイトが高いため、
付加価値や従業者数が3番目に多い「製造業」に着目

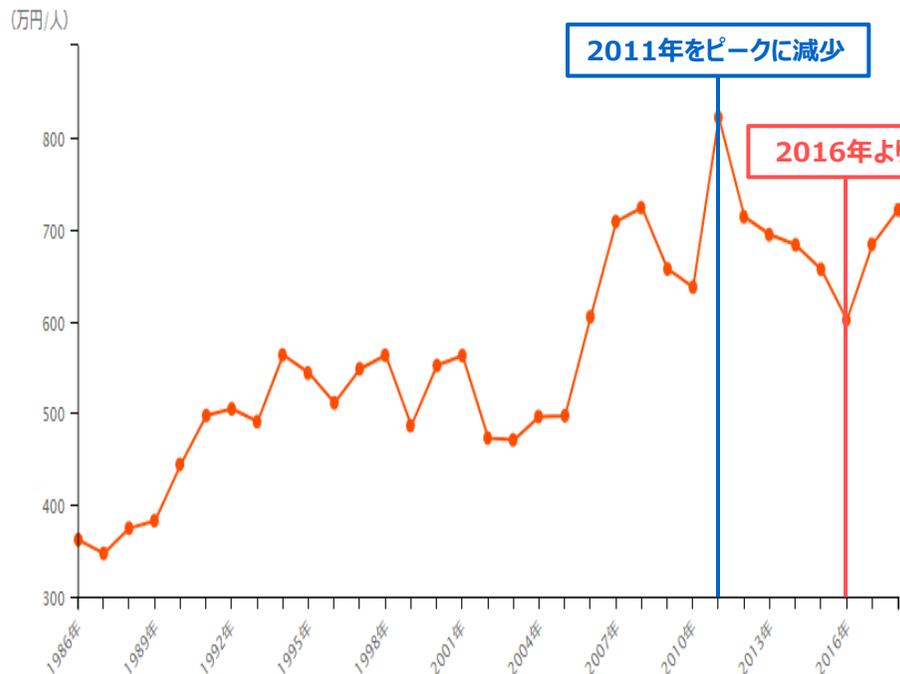
鹿角市の製造業の労働生産性は相対的に低い

労働生産性（実数）の推移

秋田県鹿角市

製造業 > すべての中分類

● 秋田県鹿角市

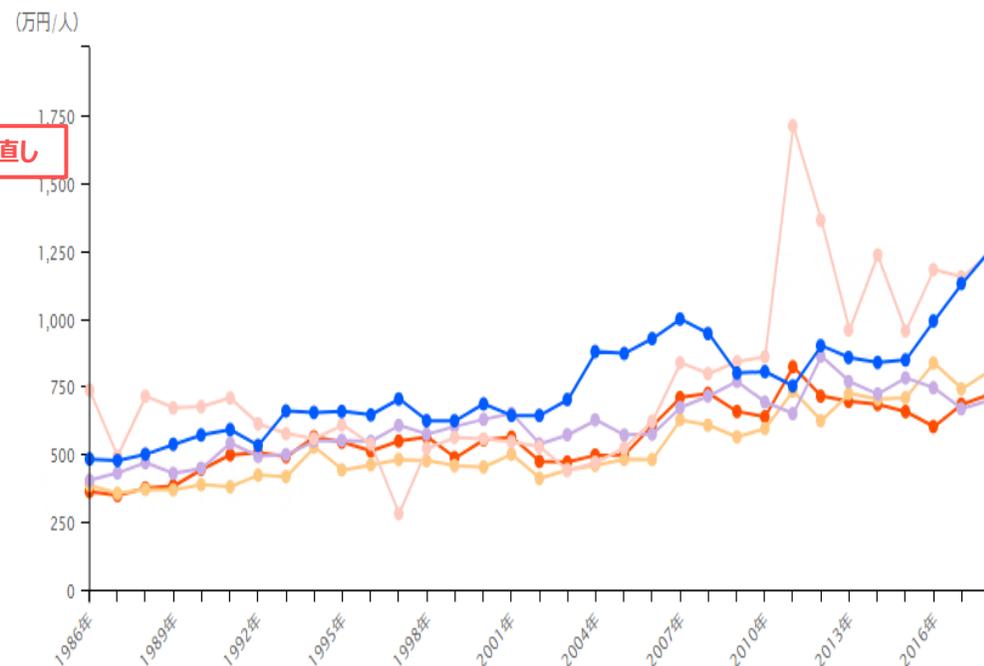


労働生産性（実数）の推移

秋田県鹿角市

製造業 > すべての中分類

● 秋田県鹿角市 ● 秋田県仙北市 ● 秋田県湯沢市 ● 秋田県男鹿市 ● 秋田県湯上市

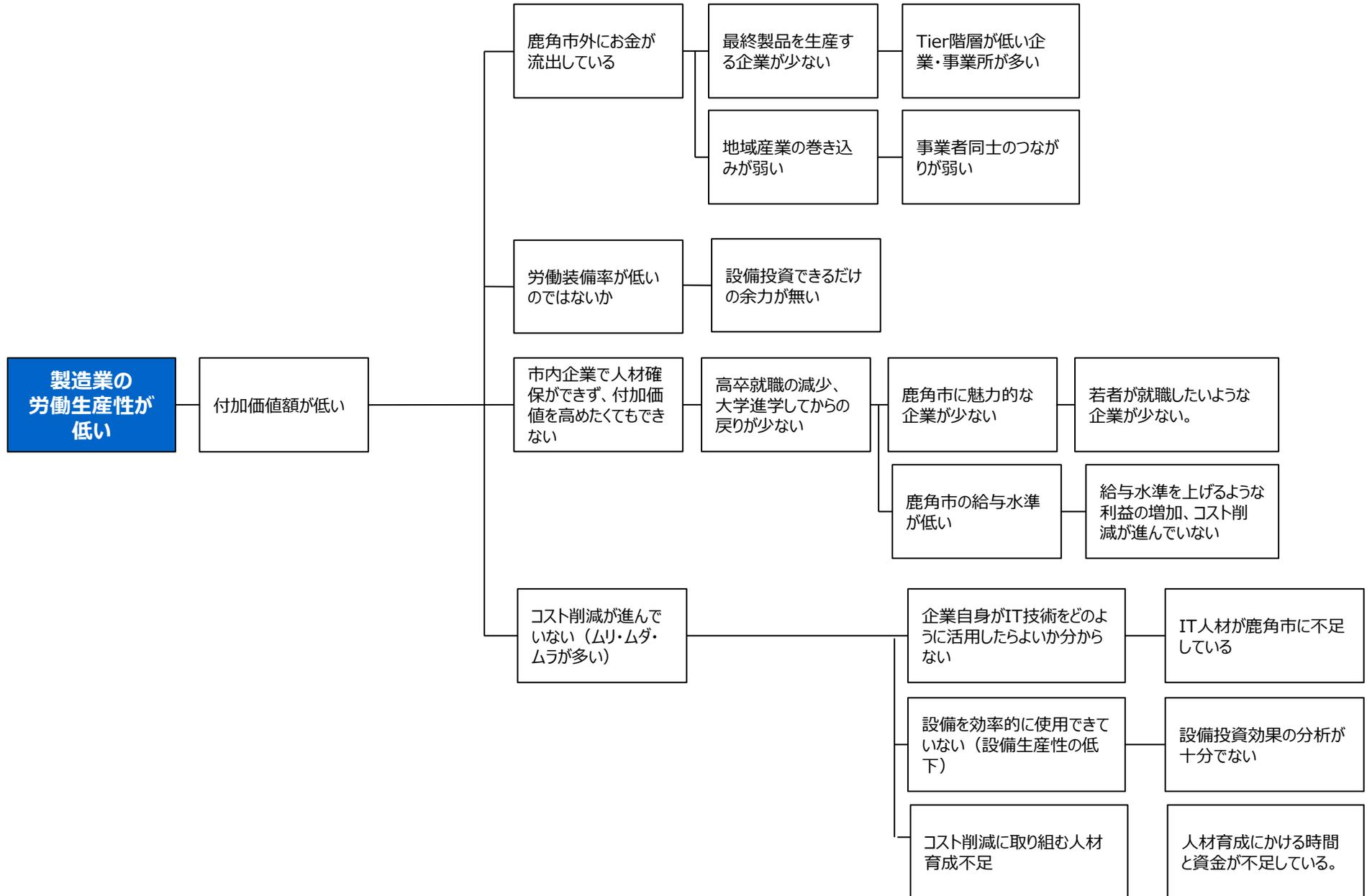


POINT >>

RESAS 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

- 年齢階級別人口割合が類似した自治体（秋田県内）と比較すると、労働生産性は低い水準である

製造業の労働生産性が低い（仮説の構造化）



鹿角市の製造業の付加価値額は相対的に低い

付加価値額が低い



付加価値額（1事業所あたり）の推移

付加価値額（1事業所あたり）の推移

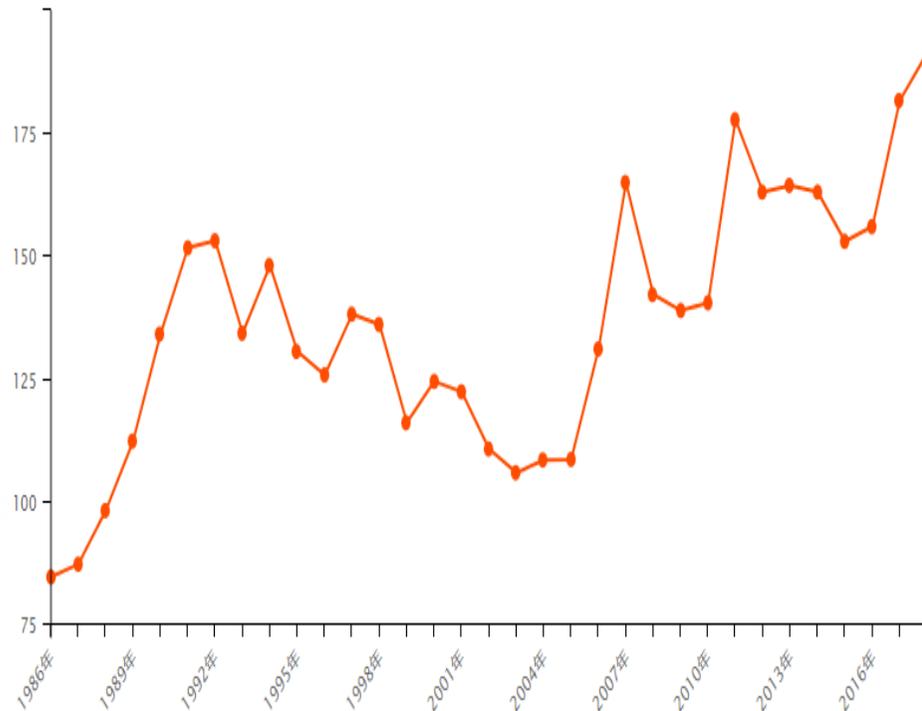
秋田県鹿角市
製造業 > すべての中分類

秋田県鹿角市
製造業 > すべての中分類

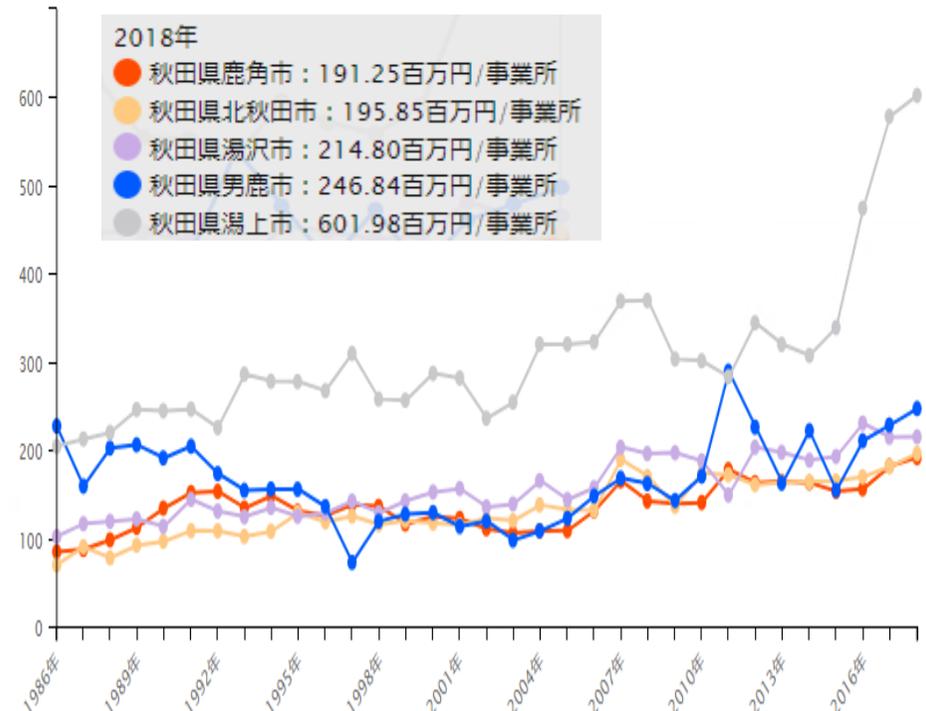
● 秋田県鹿角市

● 秋田県鹿角市 ● 秋田県北秋田市 ● 秋田県湯沢市 ● 秋田県男鹿市 ● 秋田県潟上市

(百万円/事業所)



(百万円/事業所)



POINT >>

RESAS 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

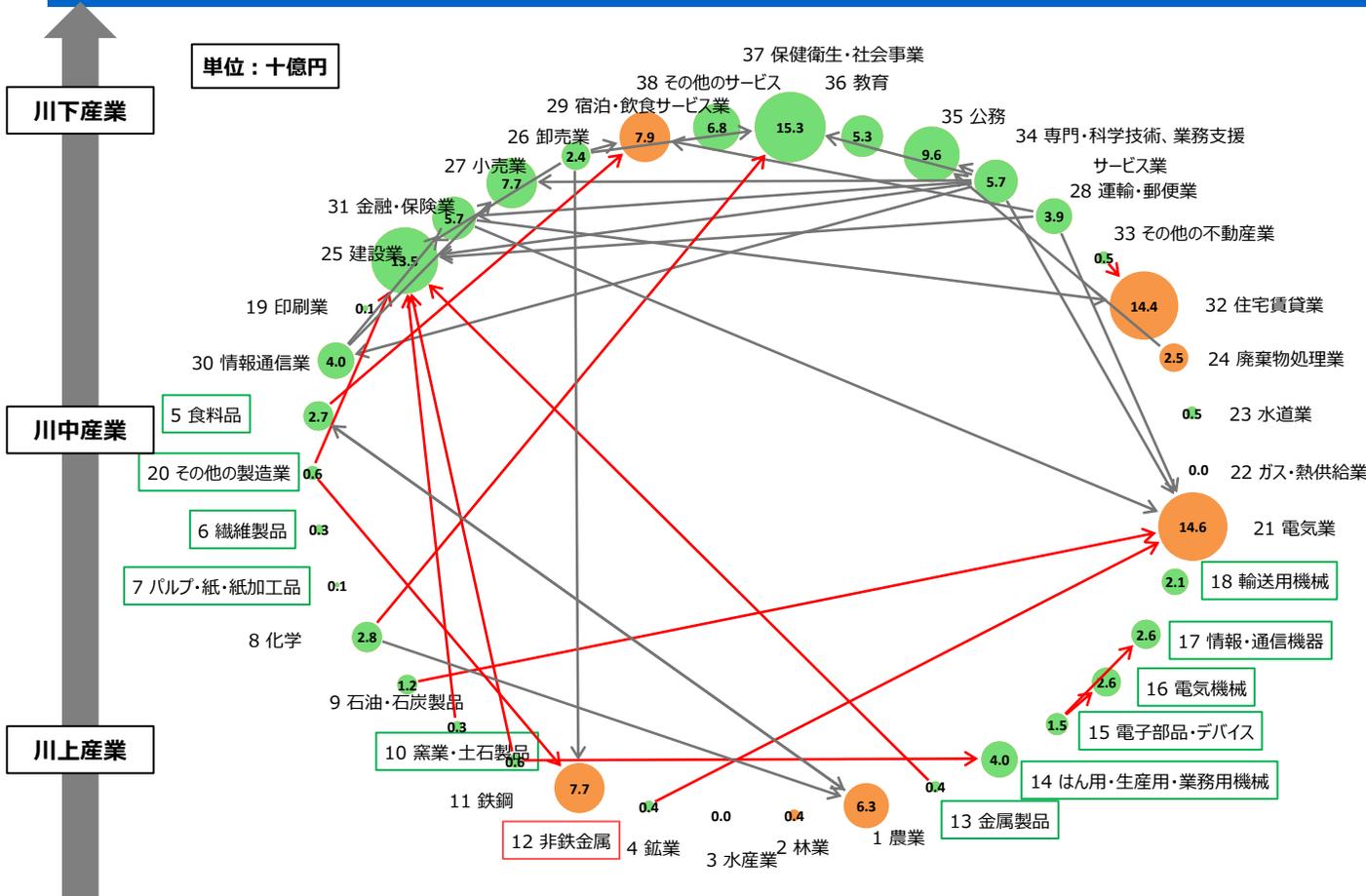
付加価値額（1事業所）あたりの推移は、2005年以降増減を繰り返しているものの増加の傾向にあるが、年齢階級別人口割合が類似した自治体と比較すると、低水準となっている。

鹿角市の製造業の取引構造について

地域産業の巻き込みが弱い

産業間取引構造

単位：十億円



- 純移輸出額がプラスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 純移輸出額がマイナスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める取引
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める、かつ当該産業の地域内生産額の30%以上を占める取引

資料：地域経済循環分析（環境省）_地域産業連関表より作成

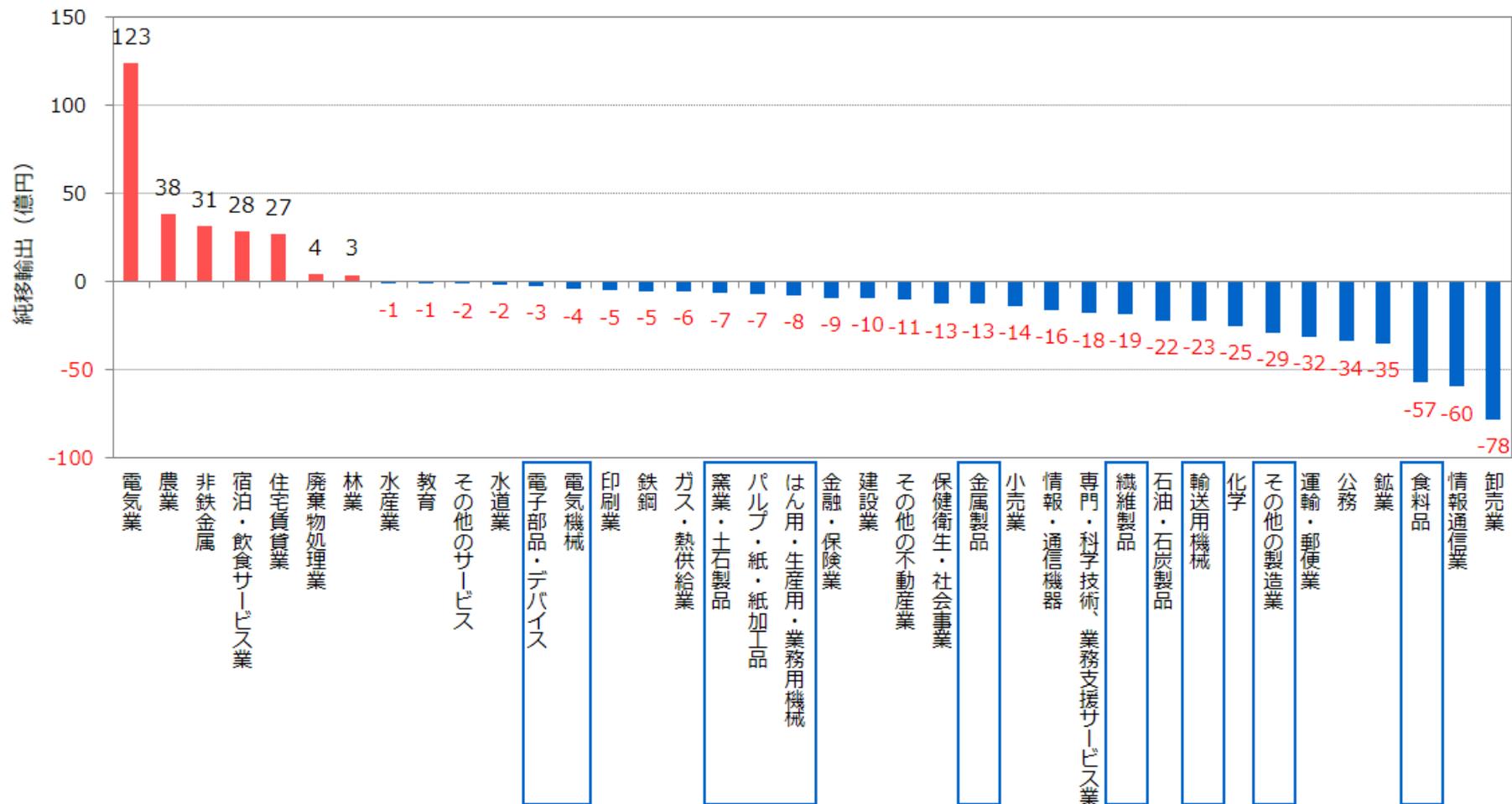
POINT >>

- 各製造業で取引はあるものの、域外へ流出している産業がほとんどである。
- 特に→の部分は地域内の主要な取引であるため、地場産業の巻き込みにより大きな効果が期待できる

鹿角市の移輸出入収支額

地域産業の巻き込みが弱い

2015年 鹿角市の移輸出入収支額



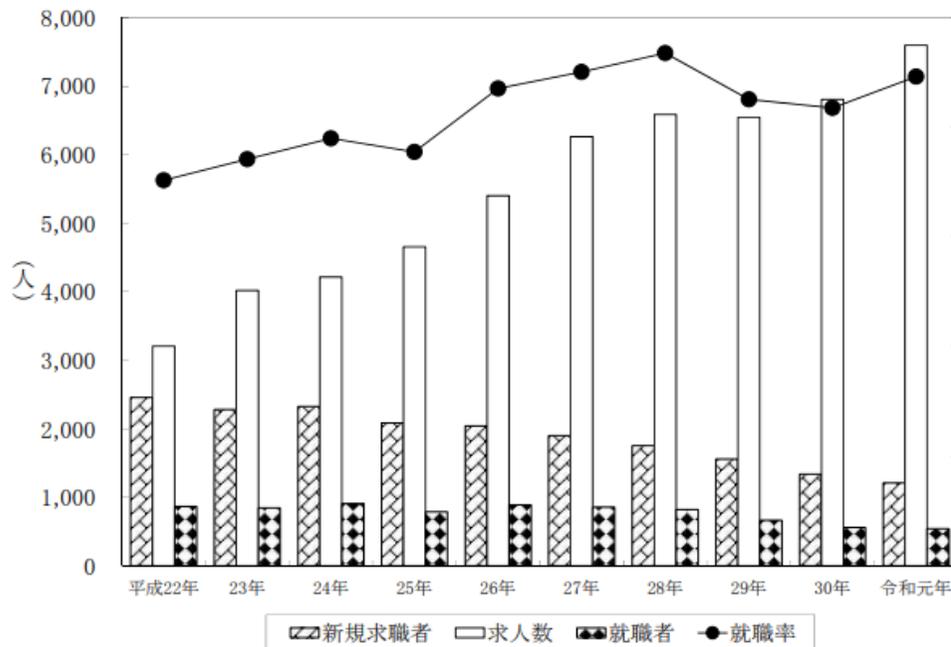
資料：地域経済循環分析（環境省）_地域産業連関表より作成

- 鹿角市の製造業は、非鉄金属以外は外貨を稼げていない。特に、製造業で最も付加価値額を生み出している食料品製造業のマイナスが大きい

鹿角市の新規求職者は減少傾向

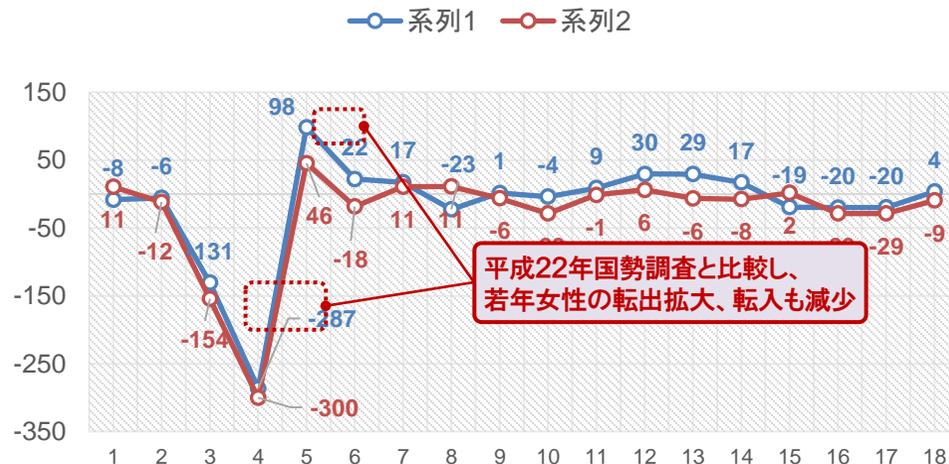
高卒就職の減少、
大学進学してからの
戻りが少ない

職業紹介状況の推移



令和元年版鹿角市統計書

性別・年齢階級別純移動数



資料:鹿角市人口ビジョン改訂版(総務省「国勢調査」)

〈2010年→2015年の純移動〉

- ① 10～14歳→15～19歳
男131人、女154人の**転出超過**
- ② 15～19歳→20～24歳
男287人、女300人の**転出超過**
- ③ 20～24歳→25～29歳
男98人、女46人の**転入超過**

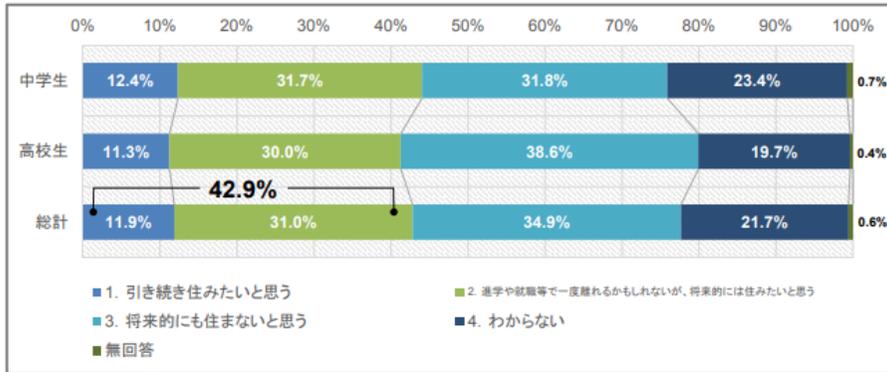
POINT >>

- 新規求職者数、就職者数は年々減少傾向にある。
- 転出超過を補うだけの転入超過がない。

若者の定住意向について

- ◆ 42.9%が居住意向あり。将来的にも住まないと思う割合 34.9%を上回る

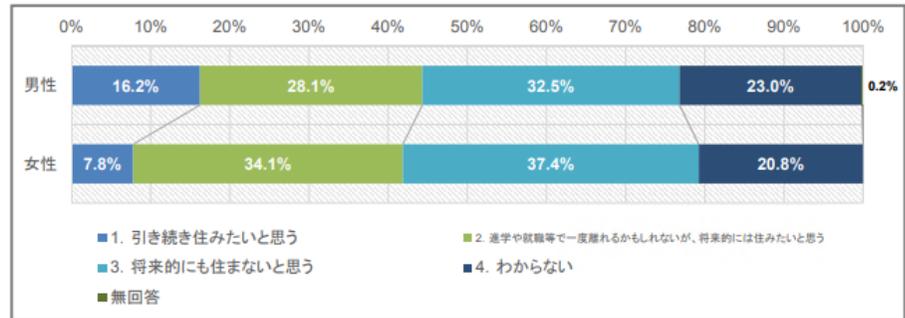
1 中高生別（回答者数 n=1,205）



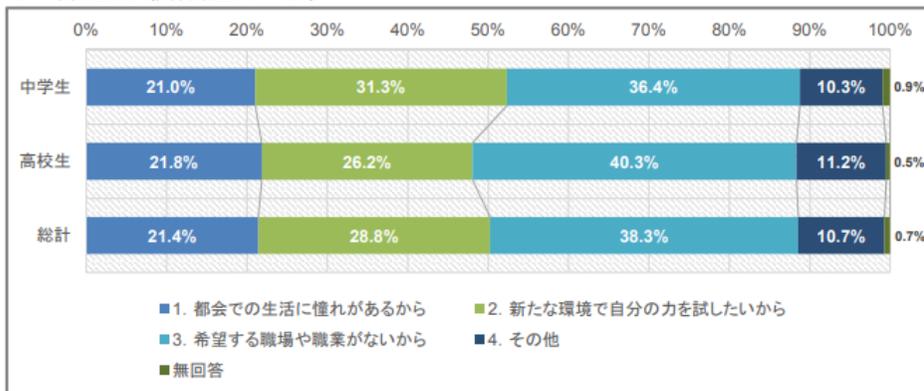
- ◆ 将来的にも住まないと思う割合は女性が高い傾向に

高卒就職の減少、
大学進学してからの
戻りが少ない

3 男女別（回答者数 n=1,193 ※性別不明を除く）



1 中高生別（回答者数 n=420）



- ◆ 将来的に住まないと考える理由については、都会への憧れと新たな環境での挑戦が約半数
- ◆ 希望職種がないと回答した割合は学年が上がるにつれて上昇傾向に

鹿角市の製造業の現金給与総額は低い水準

鹿角市の給与水準が低い

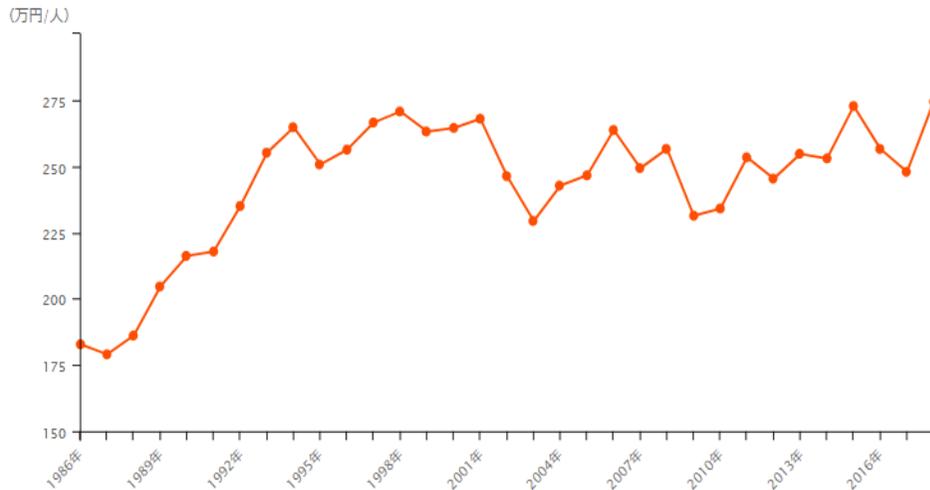
産業構造マップ → 製造業 → 製造業の比較 (時系列グラフで分析)

▶ 製造品出荷額等、事業所数、常用従業者数などの年次推移を表示

2018年 現金給与総額 (従業員一人あたり) すべての中分類

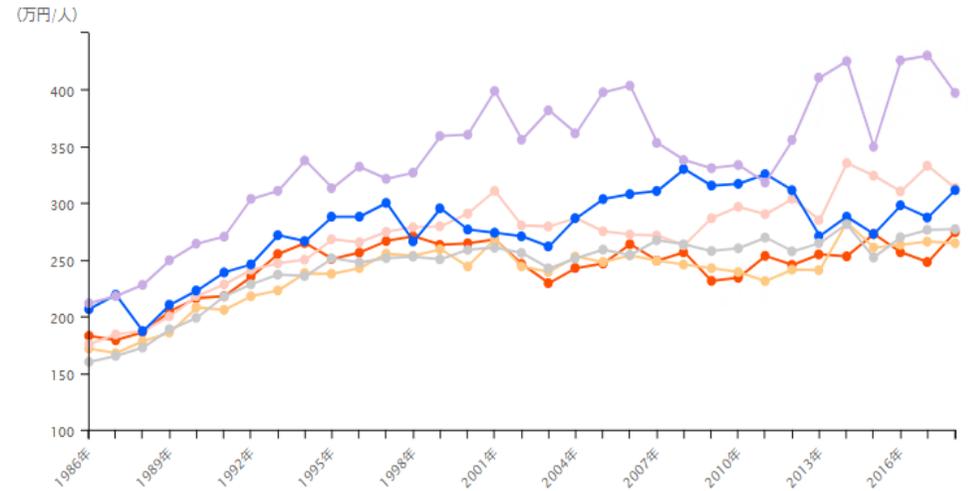
現金給与総額 (従業員1人あたり) の推移

秋田県鹿角市
製造業 > すべての中分類
● 秋田県鹿角市



現金給与総額 (従業員1人あたり) の推移

秋田県鹿角市
製造業 > すべての中分類
● 秋田県鹿角市 ● 秋田県仙北市 ● 秋田県湯沢市 ● 秋田県男鹿市 ● 秋田県北秋田市 ● 秋田県湯上市



POINT >>

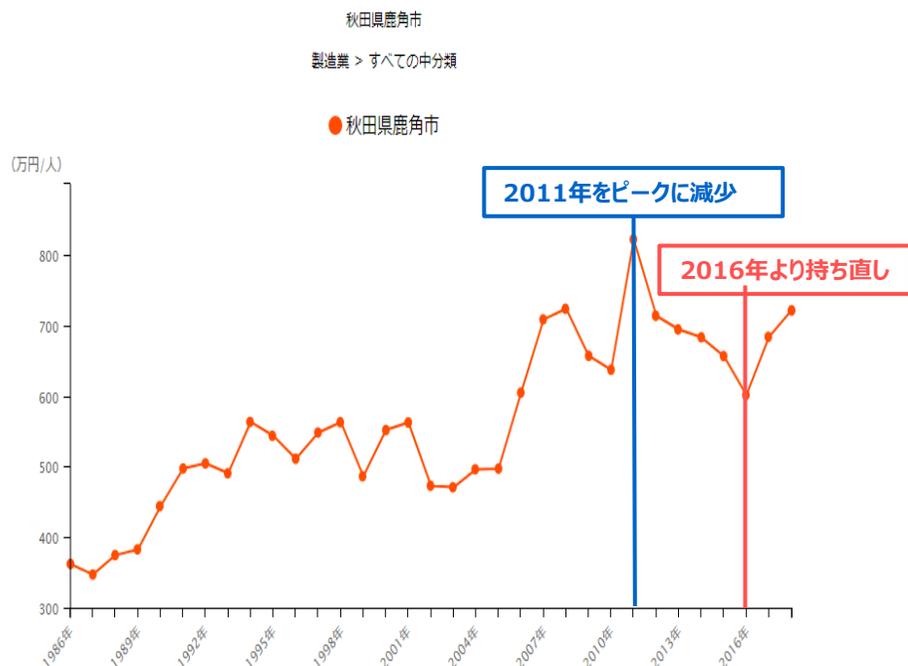
RESAS 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

- 現金給与総額は、近隣自治体と同様に2000年以降伸び悩んでおり、近隣自治体より低位で推移している
- 給与水準は、1998年代と大きく変わっていない。

鹿角の製造業の労働装備率・設備生産性について

- 鹿角市の製造業15社に対して「企業立地助成金（高度化支援）」を実施

労働生産性（実数）の推移



→11社の労働生産性が向上

$$\text{労働生産性} = \frac{\text{製品やサービスの生産量（付加価値）}}{\text{労働者数}}$$

$$= \frac{\text{有形固定資産}}{\text{労働者数}} \times \frac{\text{製品やサービスの生産量（付加価値）}}{\text{有形固定資産}}$$

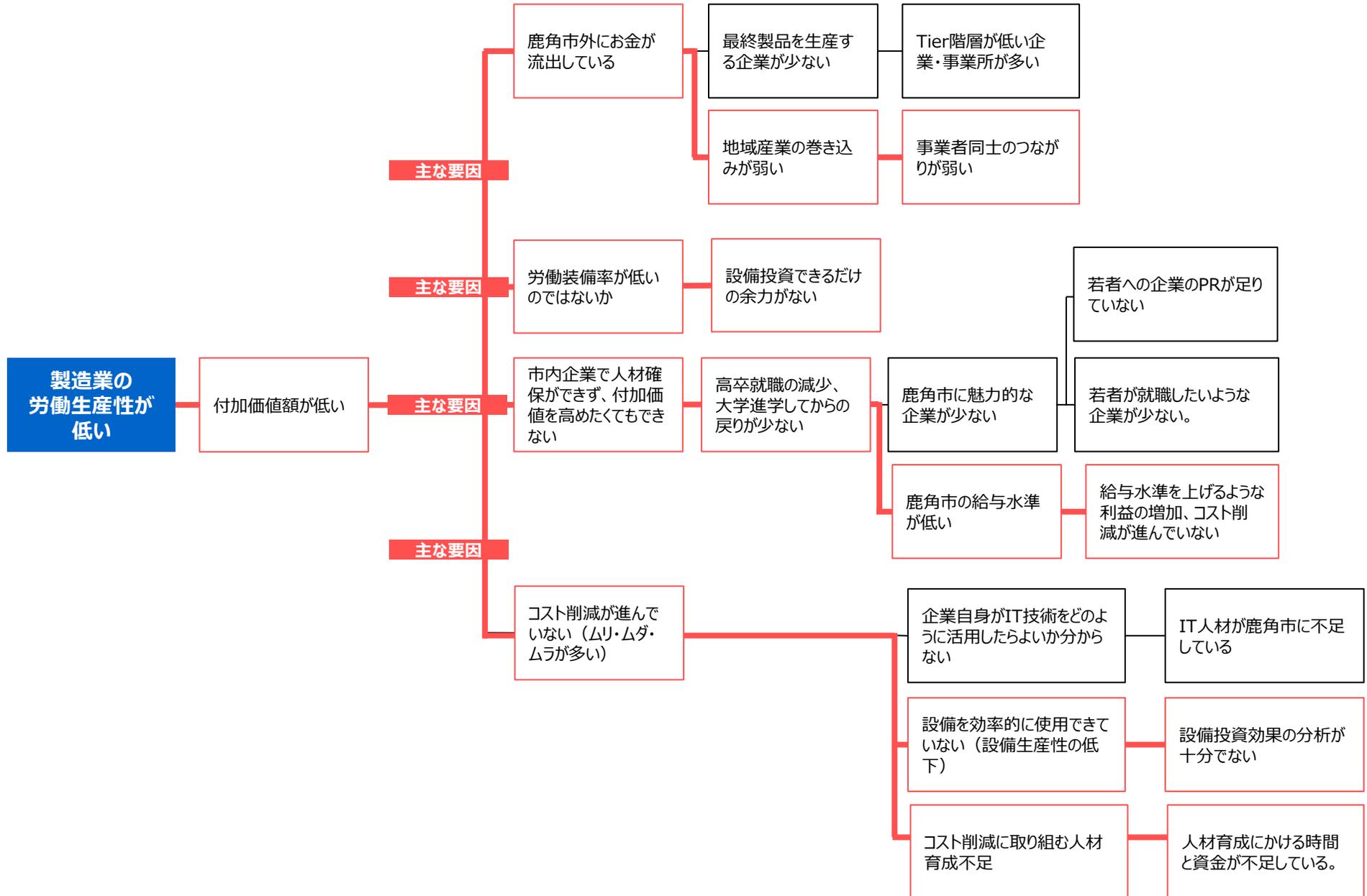
労働装備率：機械装置などの有形固定資産が従業員1人あたりどれくらい利用されているか示す指標。

設備生産性：企業が投資した有形固定資産などの生産設備がどれくらい効率的に活用されているかを示す指標

→ 全体も低下、7社の設備生産性が低下

>> 設備生産性を向上できれば、さらなる労働生産性の向上を期待できる。

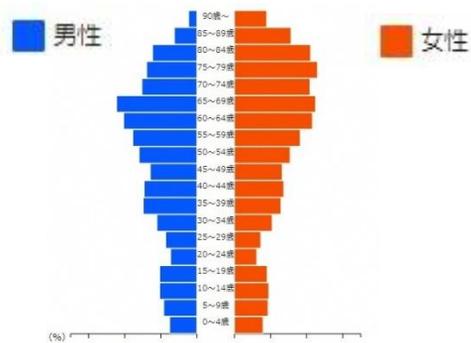
製造業の労働生産性が低い要因を抽出



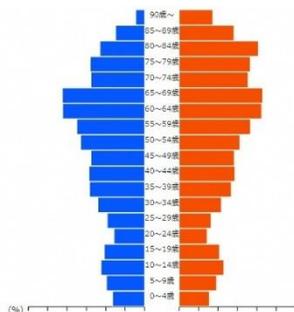
鹿角市と類似した自治体と比較

●データ分析支援機能から、年齢階級別人口割合が類似した自治体（秋田県以外の東北地方）を抽出し、産業の構造（付加価値額）も類似している山形県庄内町と比較することとした。

人口ピラミッド



老年人口(65歳以上)	11,793 人	(36.81 %)
生産年齢人口(15~64歳)	16,752 人	(52.29 %)
年少人口(0~14歳)	3,439 人	(10.73 %)



老年人口(65歳以上)	7,404 人	(34.17 %)
生産年齢人口(15~64歳)	11,742 人	(54.20 %)
年少人口(0~14歳)	2,518 人	(11.62 %)

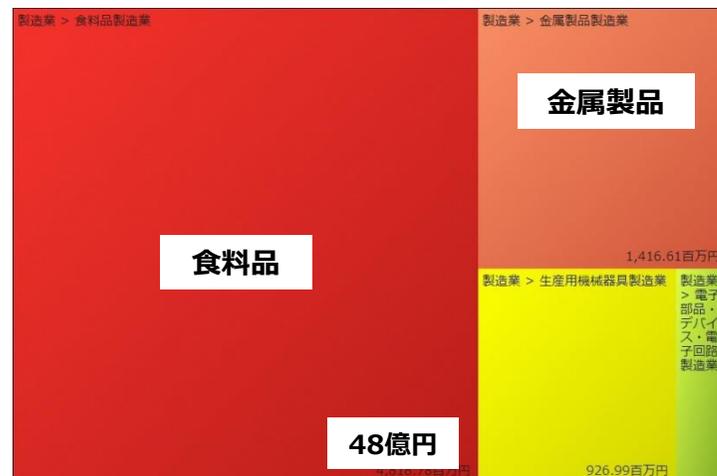
秋田県鹿角市

山形県庄内町

製造業の構造（付加価値額） 2019年_事業所単位



118億円



106億円

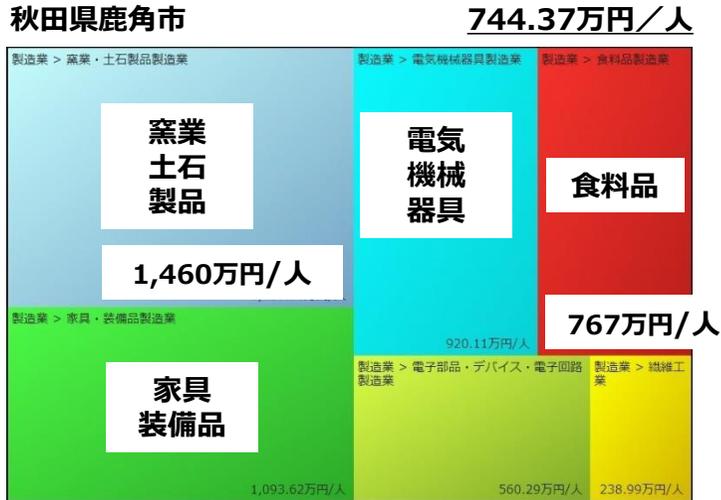
RESAS 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

RESAS 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

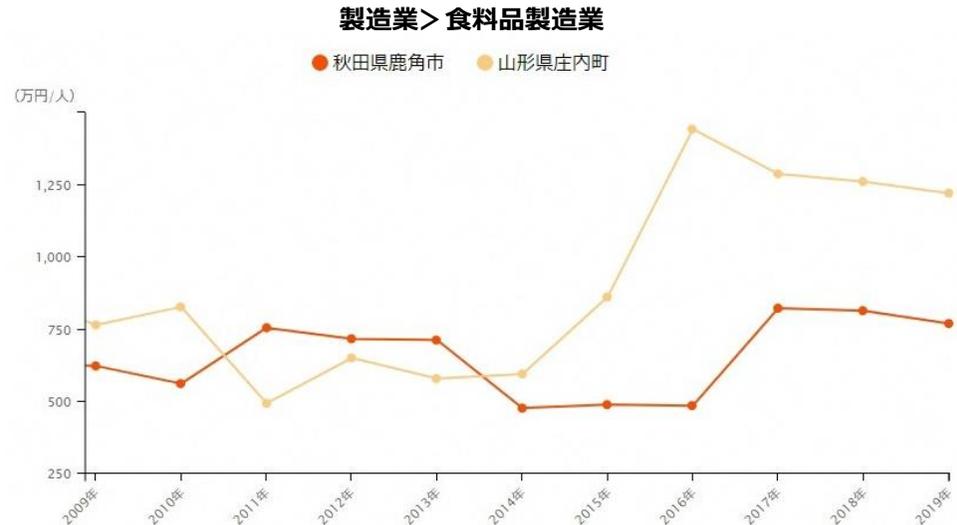
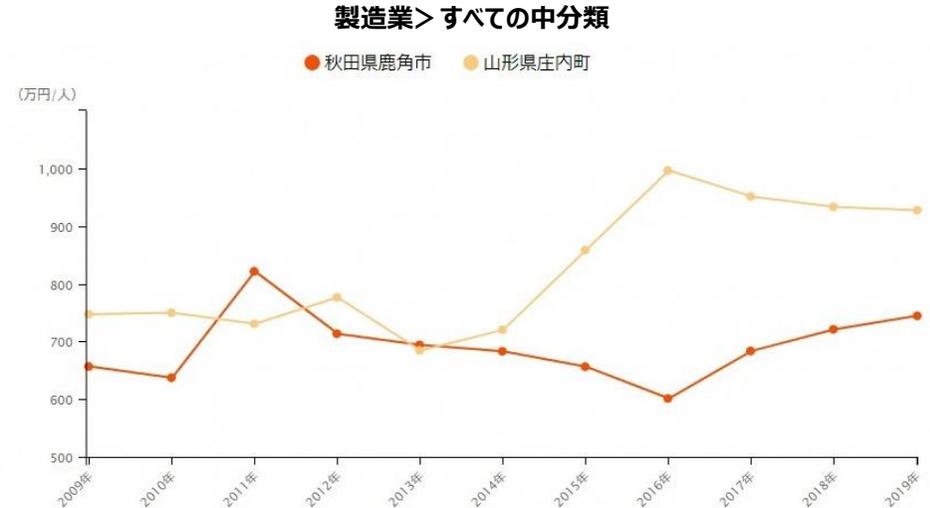
● 製造業の付加価値額を比較すると、山形県庄内町と類似している。どちらも、最も付加価値額が高い業種は食料品製造業である。

製造業の労働生産性を類似自治体と比較

製造業の構造（労働生産性）2019年_事業所単位



製造業の比較（労働生産性）2019年_事業所単位



RESAS 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

- 鹿角市は、庄内町と比べて労働生産性が低く、低位で推移している。
- 庄内町の食品製造業は付加価値額も労働生産性も最も高いが、鹿角市の食品製造業の労働生産性は全製造業の4番手に下がる。

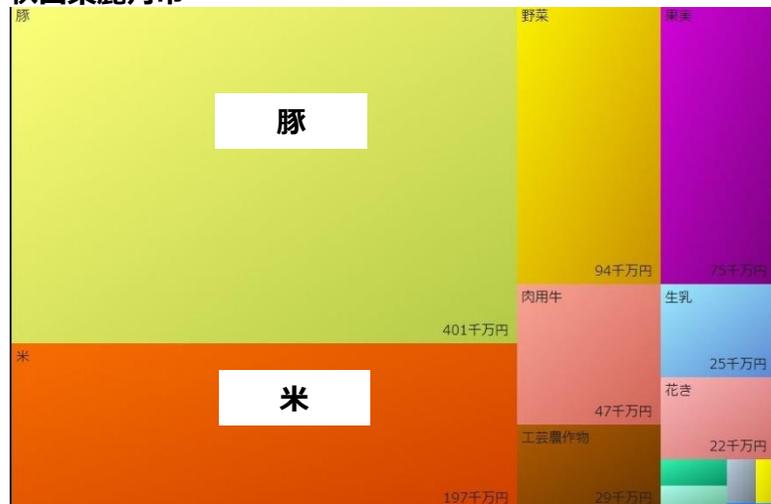
食料品製造業について類似自治体と比較

品目別 農業産出額_2015年

RESAS 農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」

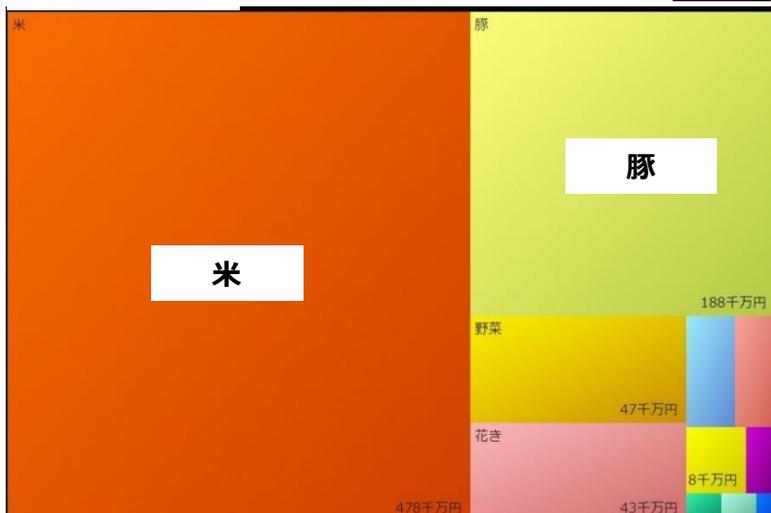
91億円

秋田県鹿角市



山形県庄内町

79億円



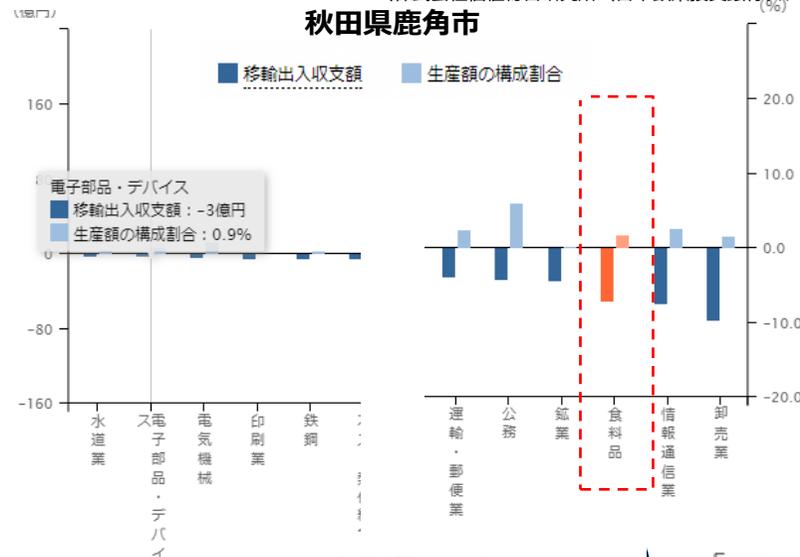
- 鹿角市は、「豚」の農業産出額が最も高く、次いで米が高い。
- 庄内町は「米」の産出額が大きく、ついで「豚」「花き」「野菜」となっており、両市の推計算出額は類似している。

移輸出入収支額_2015年

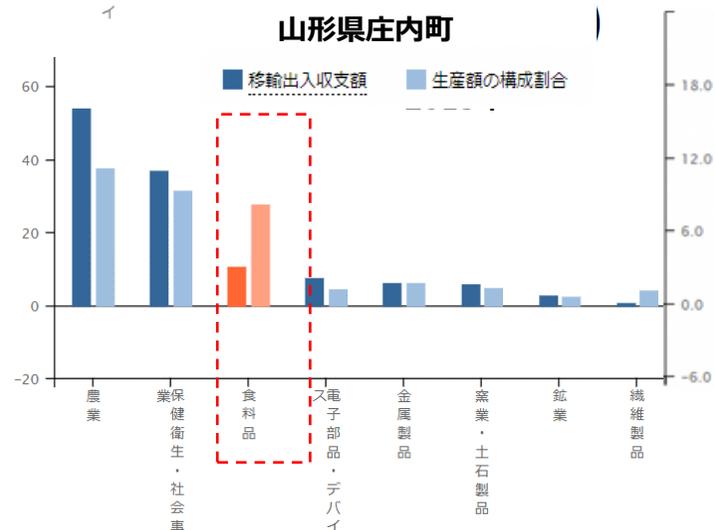
RESAS 環境省「地域産業連関表」「地域経済計算」

(株式会社価値総合研究所 (日本政策投資銀行グループ) 受託作成)

秋田県鹿角市



山形県庄内町



- 食料品製造業の移輸出入収支額を見ると、鹿角市は流出している一方で、庄内町は流入している。
- 付加価値額向上 (労働生産性向上) に向けては、域内取引が鍵となる可能性

地域の取引構造について類似自治体と比較

秋田県鹿角市

山形県庄内町



単位：十億円

単位：十億円

5 食料品

5 食料品

- 純移輸出額がプラスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 純移輸出額がマイナスの産業
(数値及び円の大きさは当該産業の地域内生産額)
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める取引
- 当該産業(矢印始点)が他の産業(矢印終点)に販売した財・サービスの総額が地域内総生産額の0.2%以上を占める、かつ当該産業の地域内生産額の30%以上を占める取引

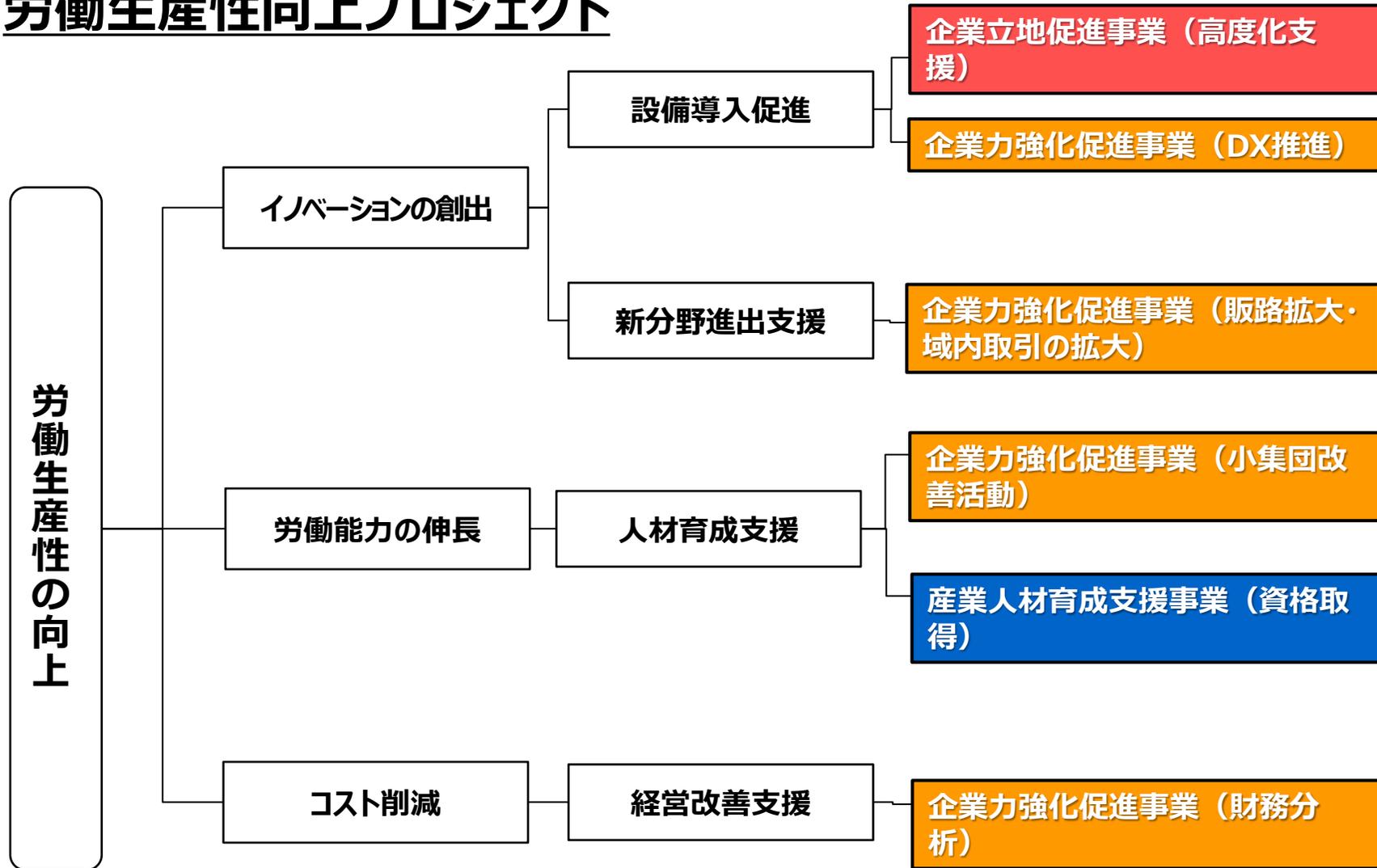
資料：地域経済循環分析（環境省）_地域産業連関表より作成

・ 食料品製造業の地域の取引構造を比較すると、庄内町の方がより多くの業種と取引している。

→食料品製造業の地域内取引を活性化させることで、移輸出入収支と労働生産性の向上が期待できる。

製造業の労働生産性を向上させるために

労働生産性向上プロジェクト



製造業の労働生産性を向上させるために



企業力強化促進事業	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>取組内容：産業コーディネーターを配置し、</p> <p>①販路開拓、域内取引の拡大（継続） 【期待する効果】売上額の向上、移輸出入額の改善</p> <p>②小集団改善活動の促進（継続） 【期待する効果】人材育成によるコスト削減</p> <p>③財務分析（新規） 【期待する効果】個々の企業の課題を明確化</p> <p>④DX推進（新規） 【期待する効果】コスト削減</p>	<p>基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える 取組方針1_地域産業の成長を支援します</p> <p>②製造業の域際収支の改善を目指した産業の高付加価値化</p>	<p>地場産業を巻き込めていない</p> <p>給与水準が低い</p> <p>設備投資効果の分析が十分でない</p>
企業立地促進事業（高度化支援）	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>取組内容：設備投資の助成（継続） 【期待する効果】労働装備率の向上</p>	<p>基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える 取組方針1_地域産業の成長を支援します</p> <p>①地域産業の自走力を高める経営基盤の強化</p>	<p>設備投資して労働生産性向上につながっているものの、労働装備率や設備生産性が低下している企業もある</p>
産業人材育成支援事業（研修・資格取得助成）	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>取組内容：従業員の研修・資格取得にかかる費用を助成（継続） 【期待する効果】人材育成によるコスト削減、売上向上</p>	<p>基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える 取組方針1_地域産業の成長を支援します</p> <p>①地域産業の自走力を高める経営基盤の強化</p>	<p>コスト削減に取り組む人材育成不足</p> <p>人材育成にかける時間と資金が不足している。</p>

新たな取組み

- ・地域内連携事業（H28～R3）を発展させ、「**企業力強化促進事業**」として、産業コーディネーターを増員して実施。

③財務分析（新規）

【期待する効果】個々の企業の課題を明確化

- ・中小企業診断士に依頼し、決算書を分析して企業が取り組むべき個別課題を明確にする。



④DX推進（新規）

【期待する効果】コスト削減

- ・都市部に勤務するプロ副業人材と市内企業をマッチングさせ、DX導入によるコスト削減を図る。

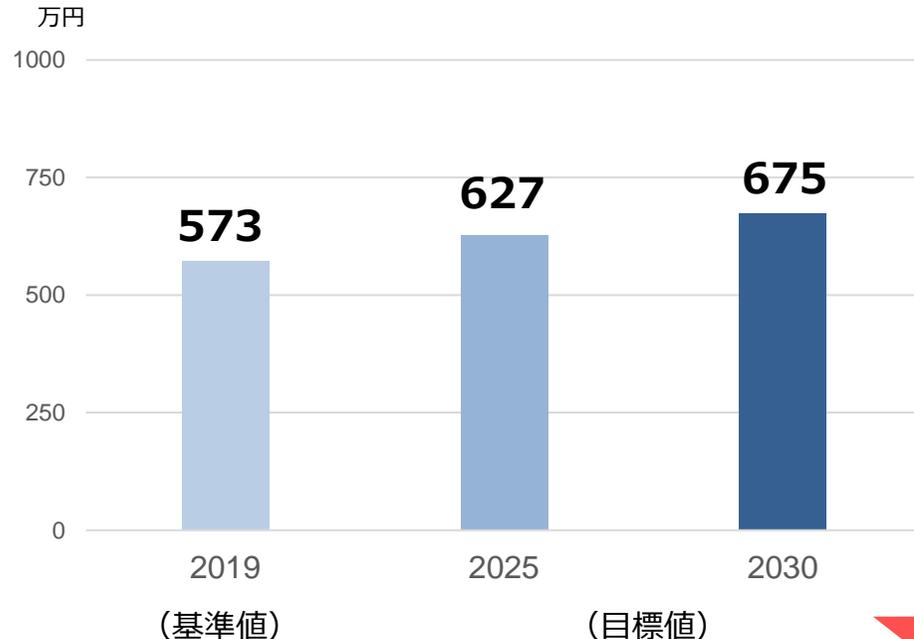


鹿角市の目指す姿

労働生産性の向上

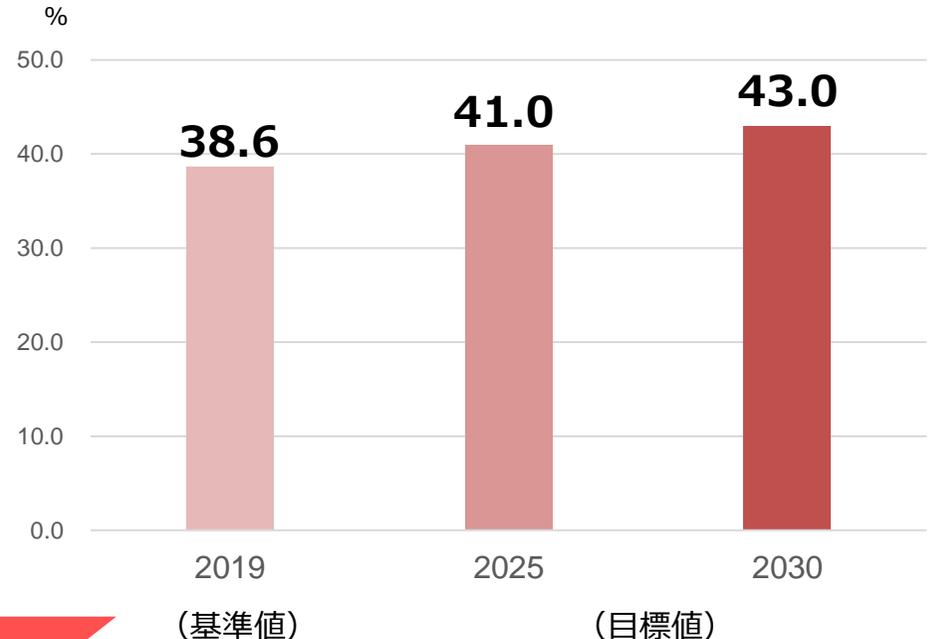
製造業の域際収支の改善を
目指した産業の高付加価値化

成果指標：製造業付加価値額
(従業員1人当たり)



地域産業の自走力を高める
経営基盤の強化

成果指標：製造品出荷額に対する
付加価値額の割合

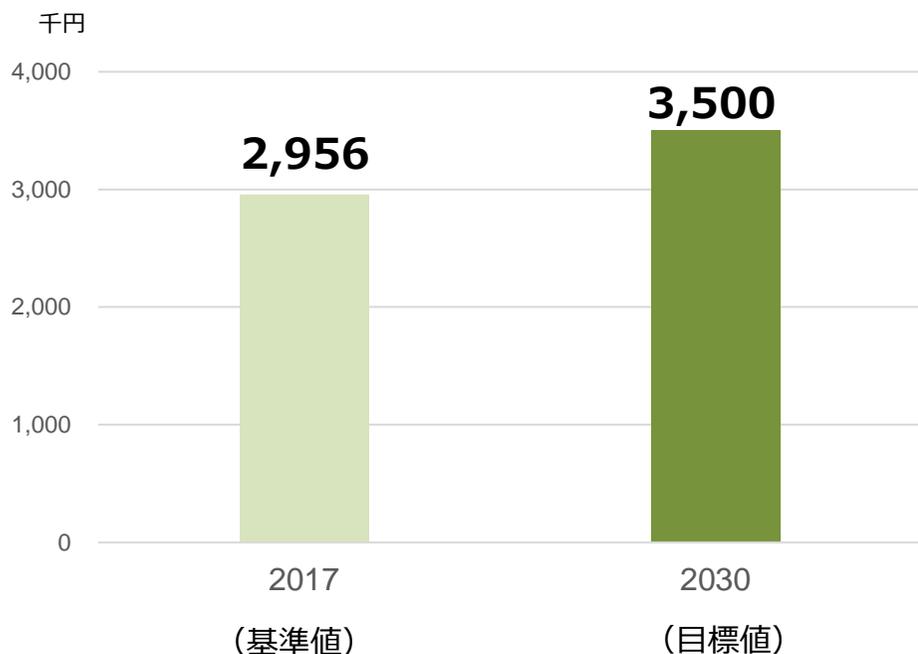


鹿角市の目指す姿

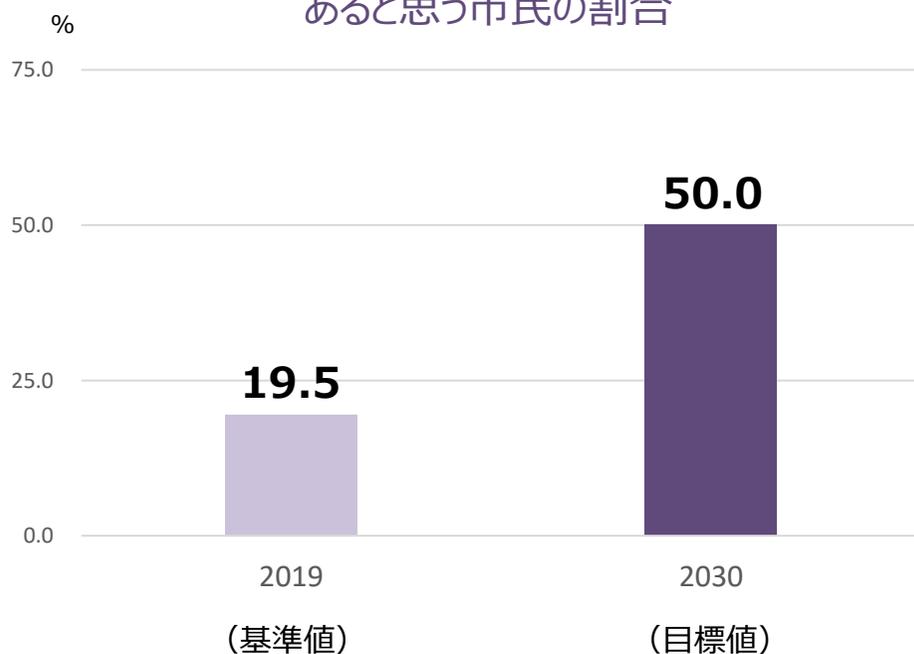
労働生産性の向上

1人あたり市内総生産の向上による市民所得の増加

目標指標：1人あたり市内総生産



目標指標：地元産業が元気で活力があると思う市民の割合



鹿角市の目指す姿

労働生産性の向上



1人あたり市内総生産の向上による市民所得の増加



市民所得増加による未婚率の減少、転入の増加

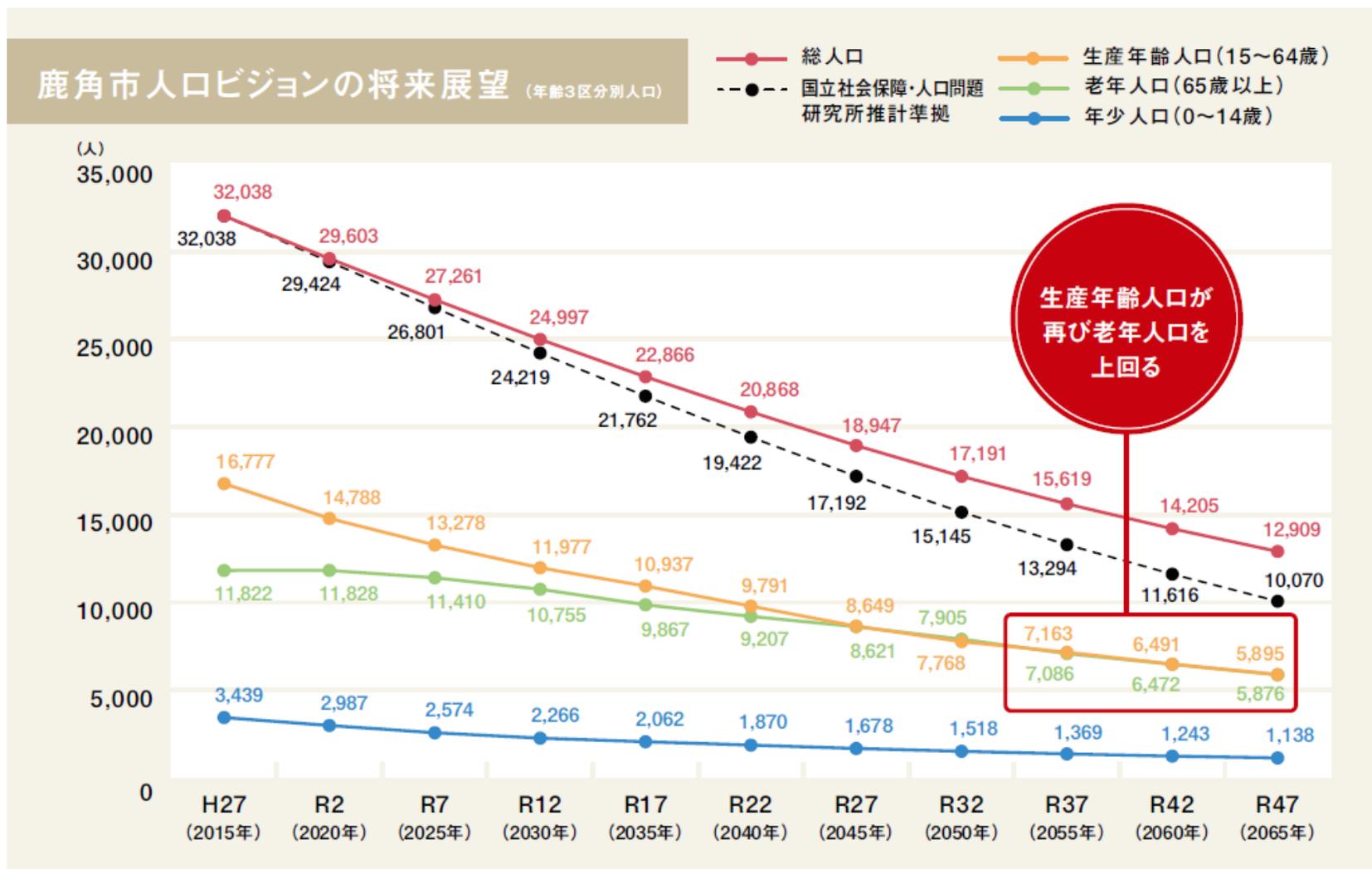
未婚率(R2) 男性 48.3% 女性29.6%

移住者数 (H28~R2) 271人(54.2人/年)

→年間58人以上

鹿角市の目指す姿

年少人口比率が安定し、生産年齢人口が老年人口を上回る持続可能な社会を展望

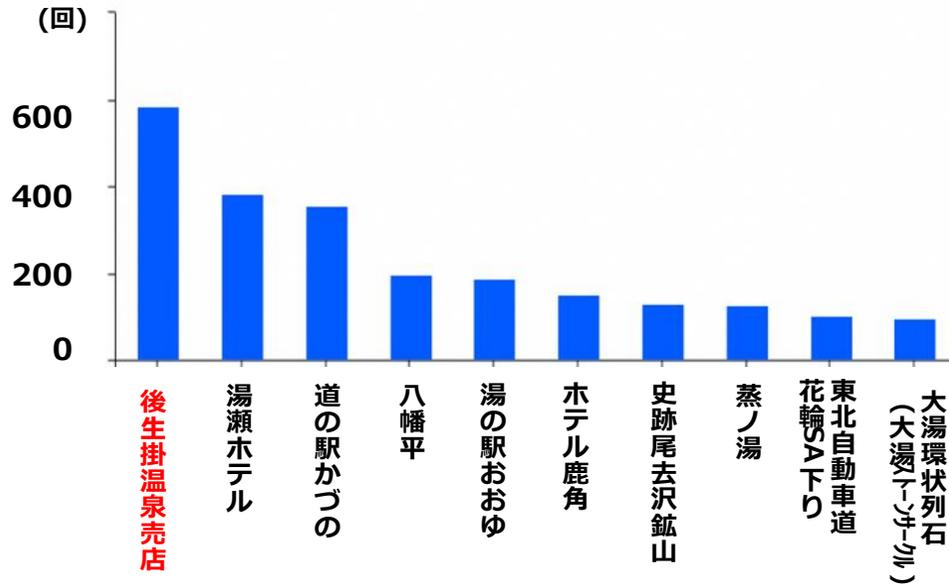


05 鹿角市の観光分析

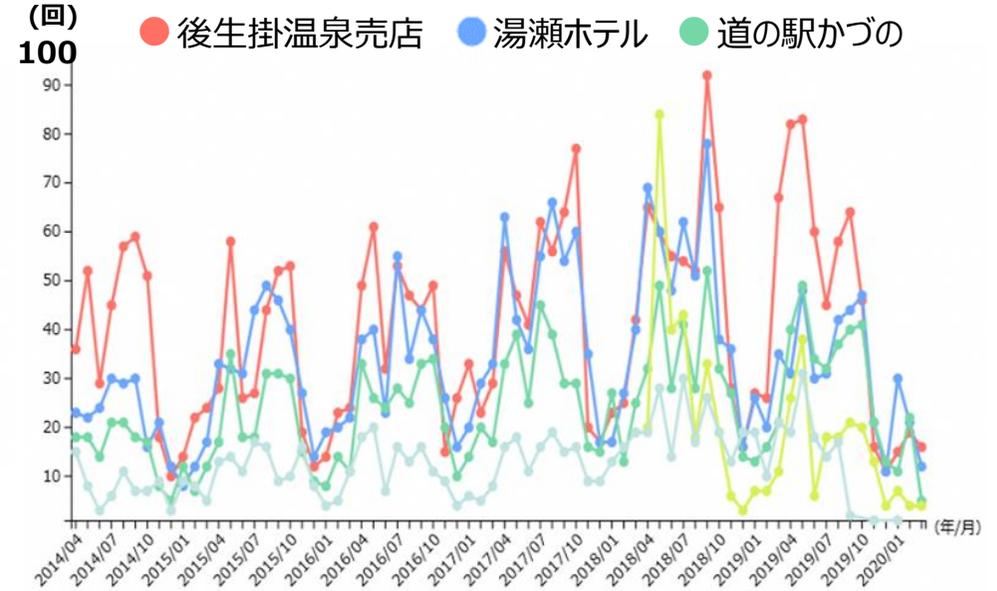
観光分析

鹿角市 目的地分析

目的地検索ランキング
(2019年、休日、交通手段は自動車)



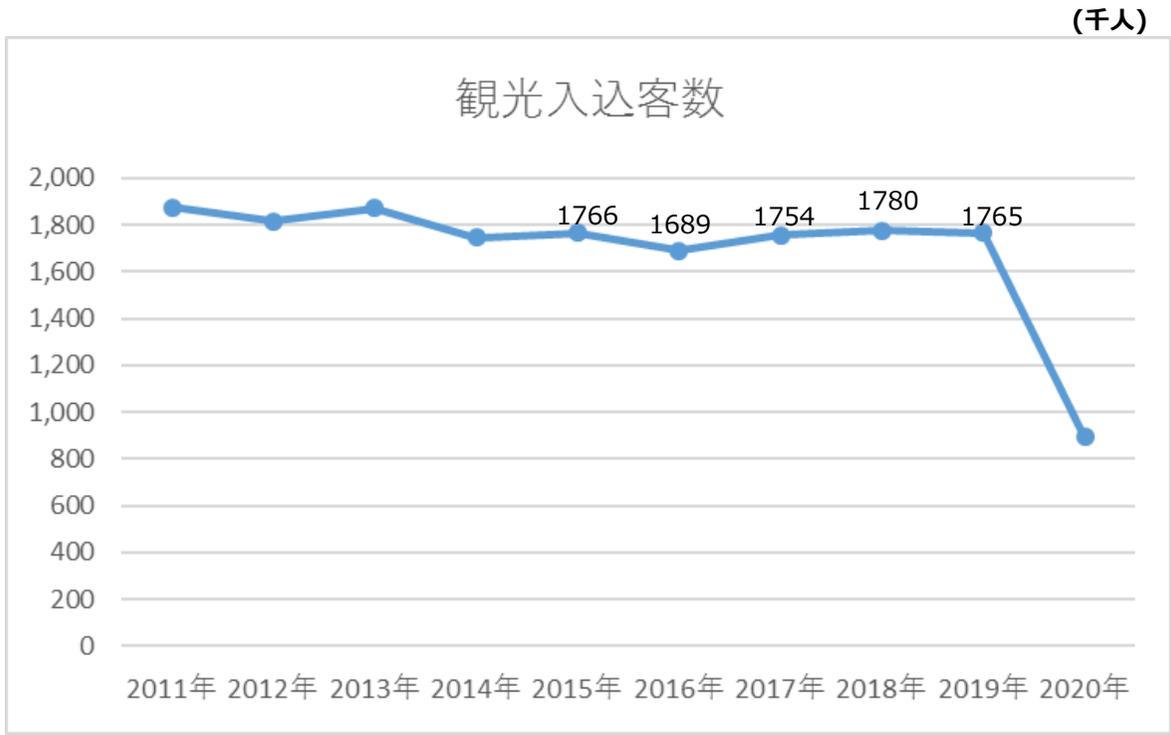
月別検索回数の推移
(休日、交通手段は自動車)



- 「後生掛温泉売店」の検索が最も多く、8月（祭り）、9月～10月（紅葉）に検索回数が多かった。

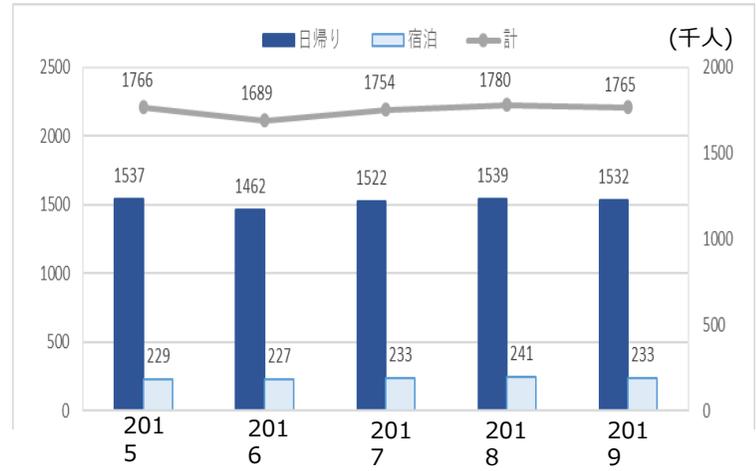
鹿角市への来訪者数

鹿角市内の観光入込客数の推移（2011年～2020年）



- 観光入込客数は、170万人前後で、横ばい傾向。
- 日帰り及び、宿泊者数も横ばい傾向。

<参考>鹿角市観光入込客数の推移（2015年～2019年）～日帰り・宿泊者数データ含

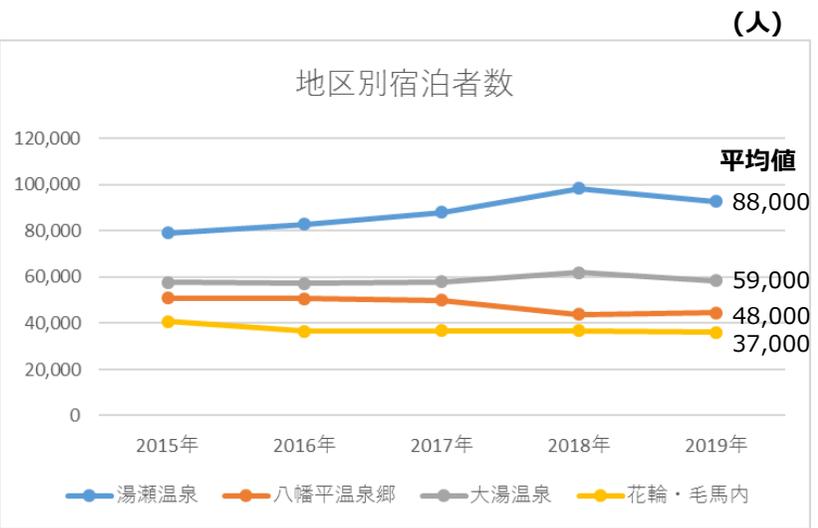
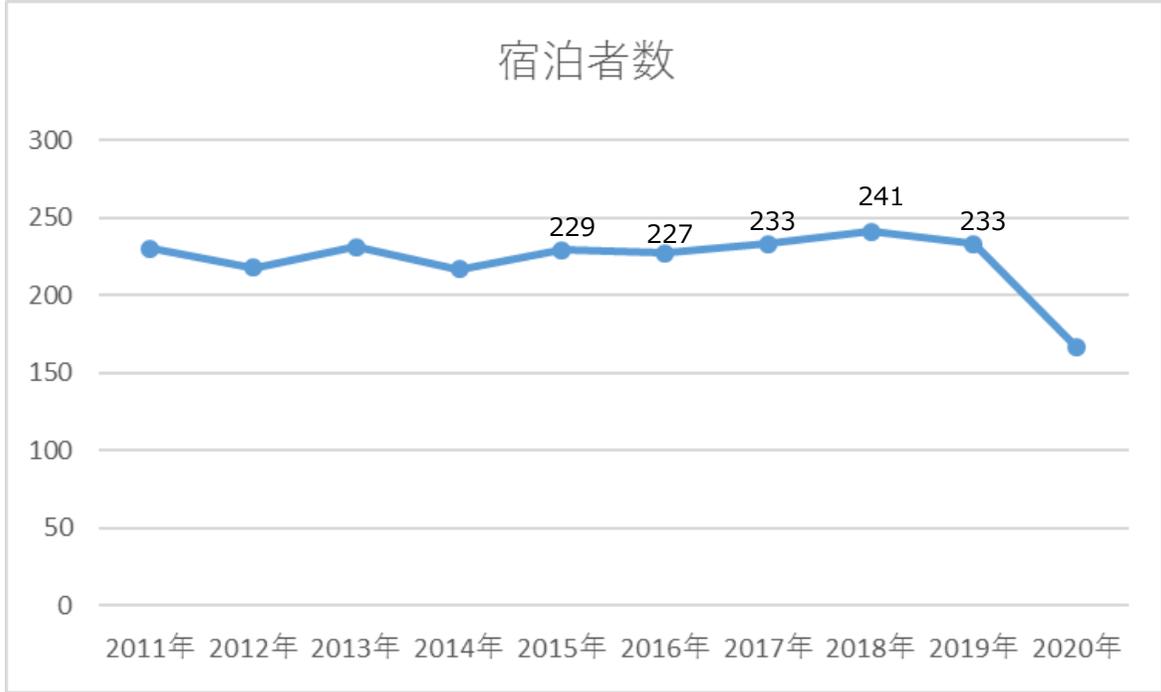


出典：鹿角市産業活力課

- 鹿角市は日帰り旅行者が多い

鹿角市内の宿泊者数

鹿角市内の宿泊者数の推移（2011年～2020年） (千人)

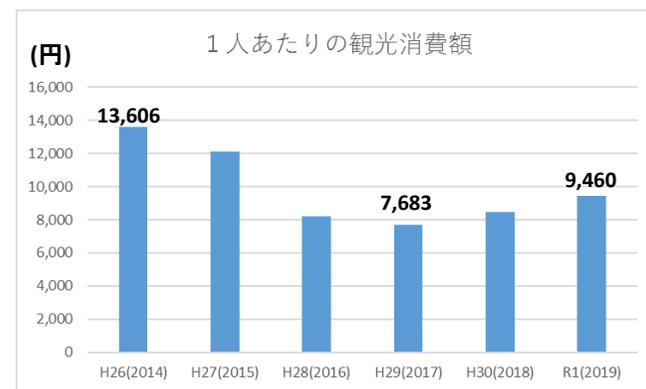
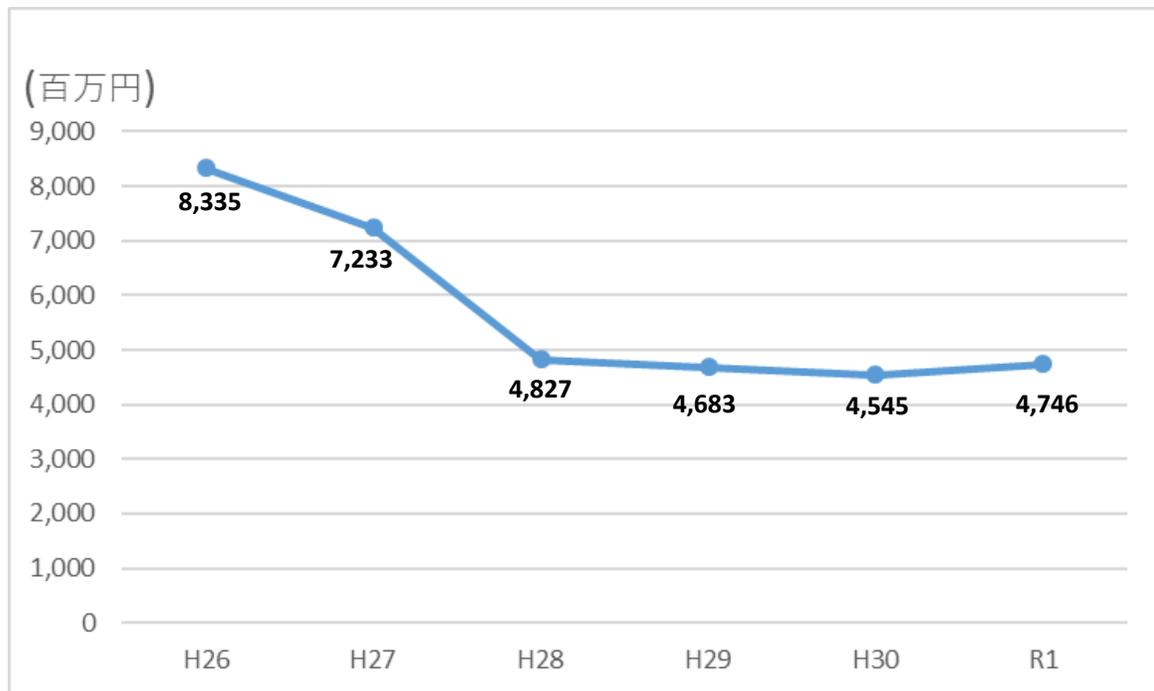


出典：鹿角市産業活力課

- 宿泊者数は、23万人前後で、横ばい傾向。
- 地区別の宿泊者数では、湯瀬温泉、大湯温泉で全体宿泊者数の約6割を占める。
- **八幡平温泉郷は2017年度以降、減少傾向**

鹿角市の観光消費額の推移

観光消費額【目標値:8,446 百万円（平成 28（2016）年度）】



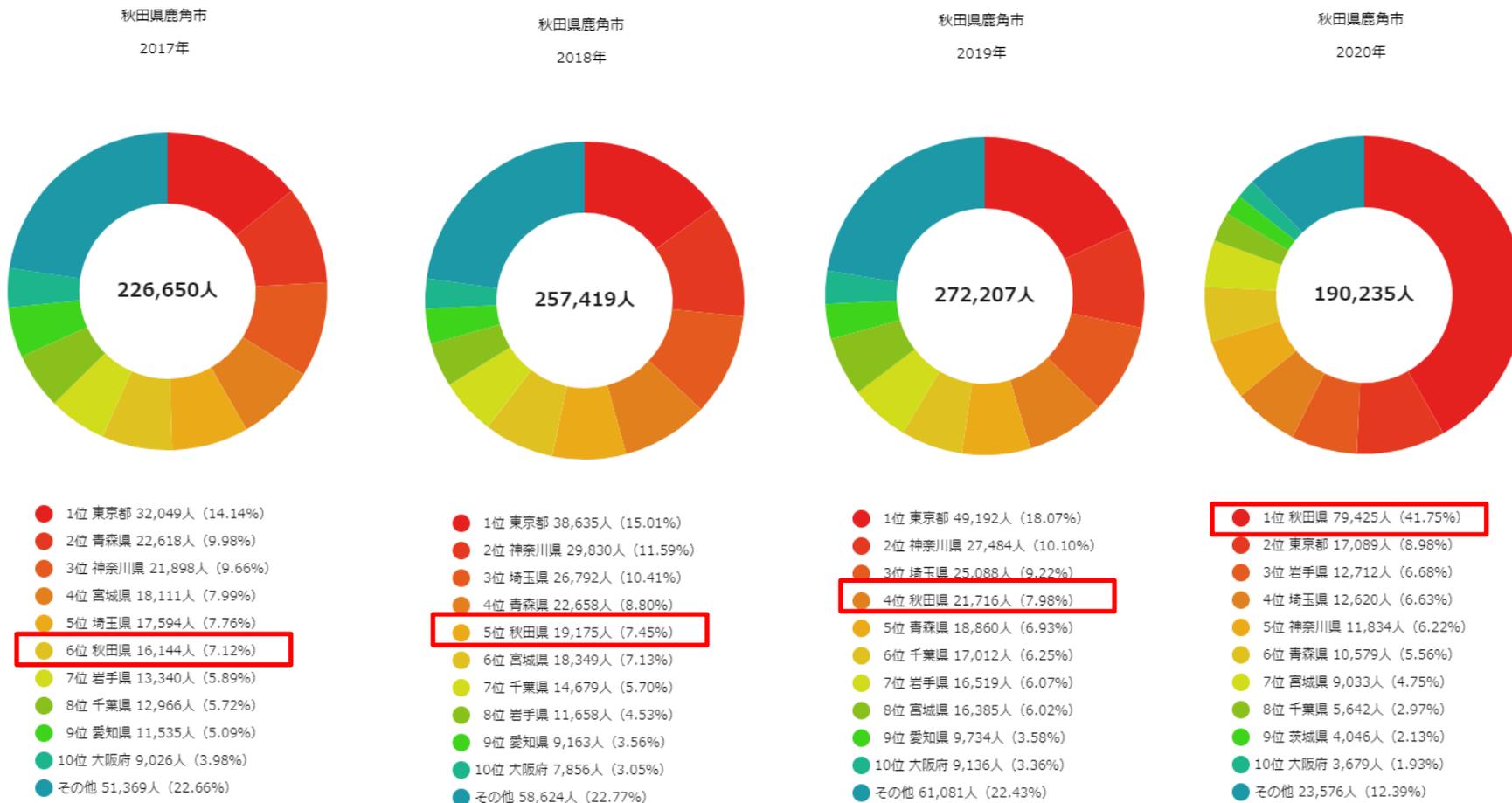
※ 秋田県「秋田県観光統計」に基づき作成（毎年8月末発行）

※ H28年から秋田県「秋田県観光統計」調査地点の一部変更あり

・全体の観光消費額は減少傾向にあるものの1人あたりの消費額は増加傾向に転じていることから土産品の開発など客単価の増加を目指すための取り組みを強化し、付加価値を高めていく必要があります。

鹿角市 宿泊者数の構成と推移

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合



- 関東地方からの旅行者が多く、2019年は東京都、神奈川県、埼玉県が上位
- 2020年はコロナ禍にあっても秋田県内の宿泊者が増加し、増加率は33.77%である。

鹿角市・大館市 宿泊者数について大館市との比較

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合



- 2020年はコロナ禍にあっても、増加率は県内他地域と比較しても顕著である。

鹿角市・大館市 コロナ禍における宿泊動向

宿泊者分類の2019年同月比の推移

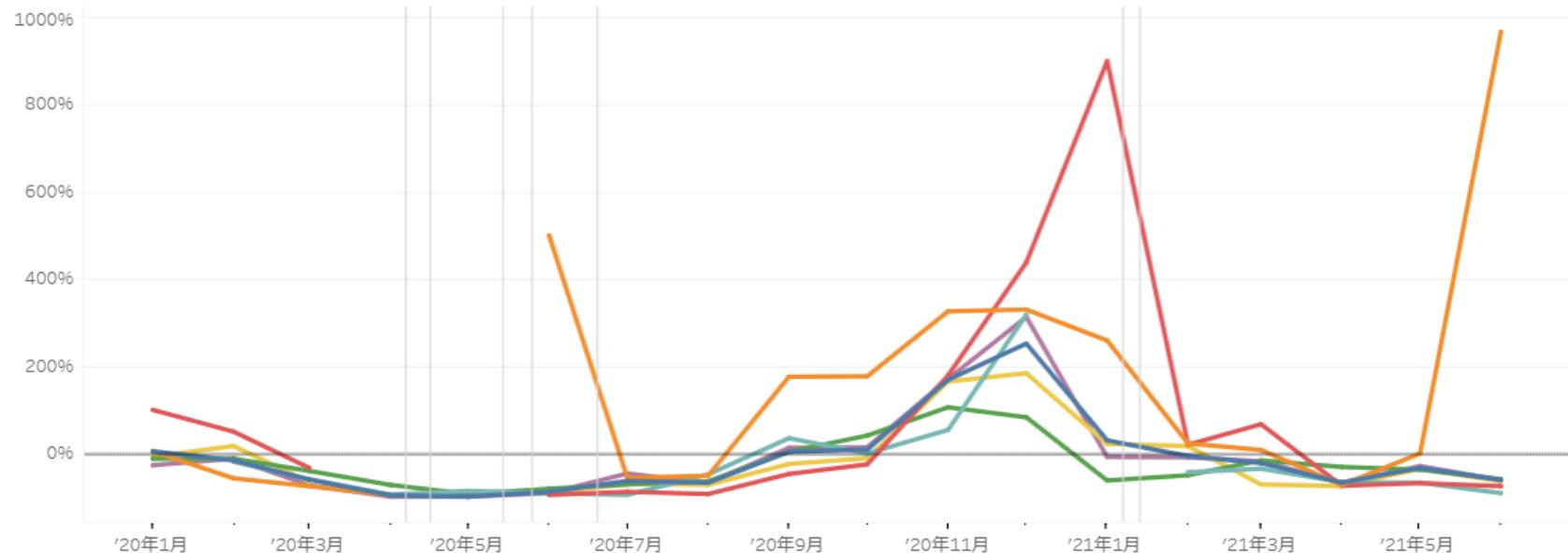
2020年1月1日～2021年6月30日

エリア

大館・鹿角

宿泊者の分類：

■ すべての宿泊者の分類 ■ 女性グループ ■ 一人 ■ 夫婦、カップル(男女二人含む)
■ 子ども連れ(子ども=13歳未... ■ 男性グループ ■ 男女グループ(13歳以上子ども...



- 大館、鹿角エリアは、子供連れや女性グループの宿泊者が多い。

鹿角市・大館市 コロナ禍における宿泊動向

予約代表者の居住地ごとの2019年同月比の推移

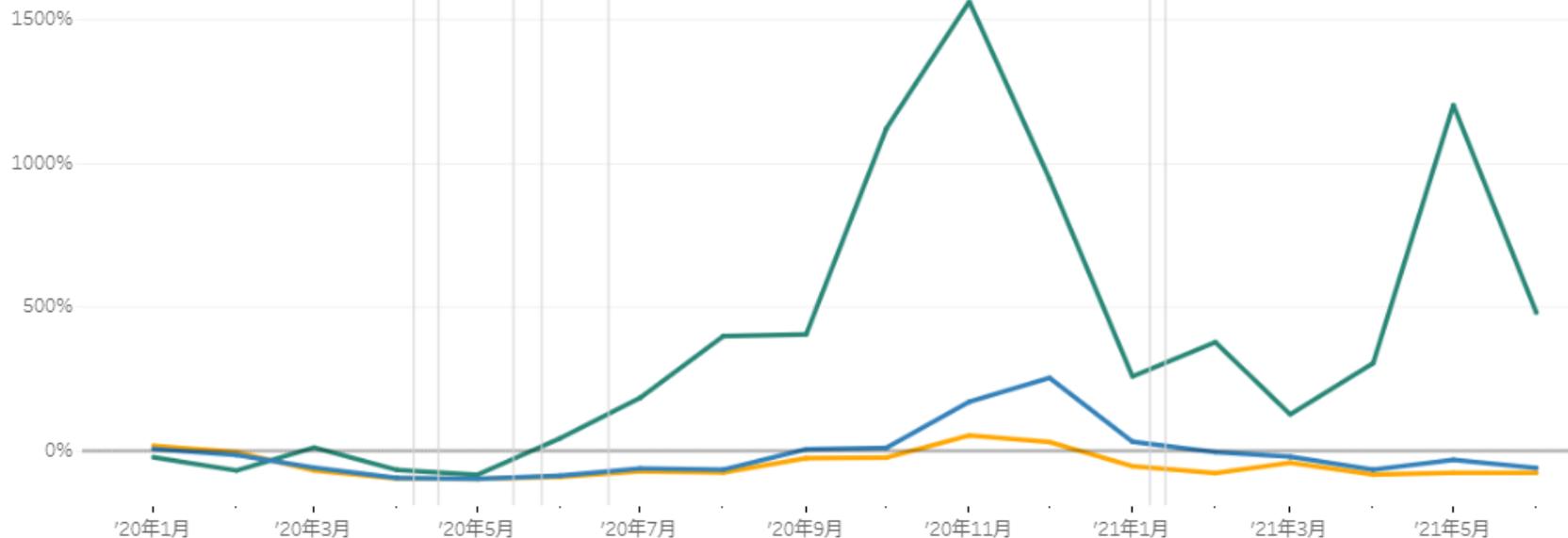
2020年1月1日～2021年6月30日

エリア
大館・鹿角

宿泊者の分類
すべての宿泊者の分類

予約代表者の居住地：

すべて 都道府県内 都道府県外

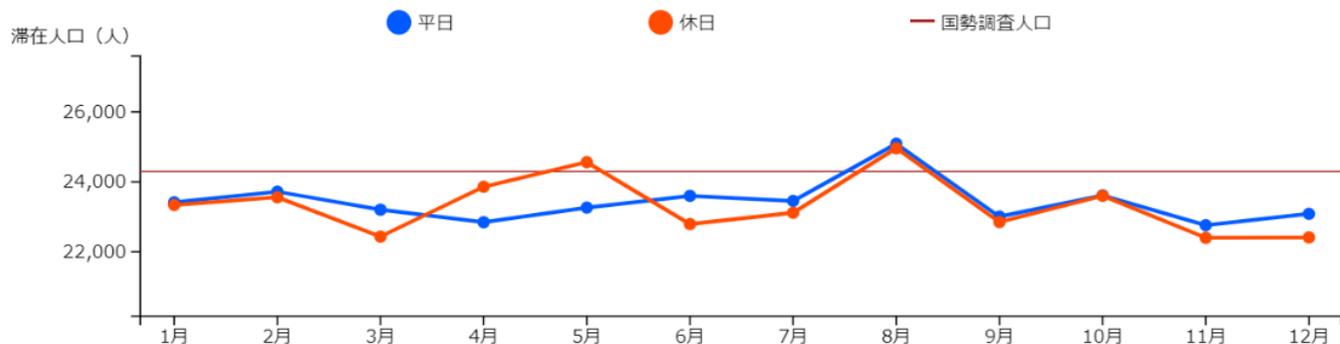


- ・ 県内旅行者が急増し、秋田県全体に比べても高い水準である。

鹿角市 滞在人口

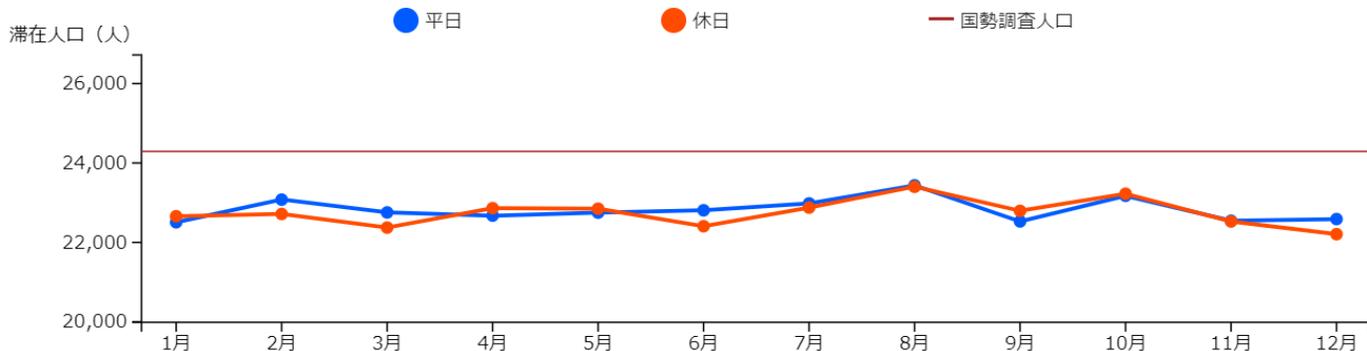
滞在人口の月別推移

秋田県鹿角市
2019年 14時
総数 総数（15歳以上80歳未満）
（国勢調査人口：24,293人）



滞在人口の月別推移

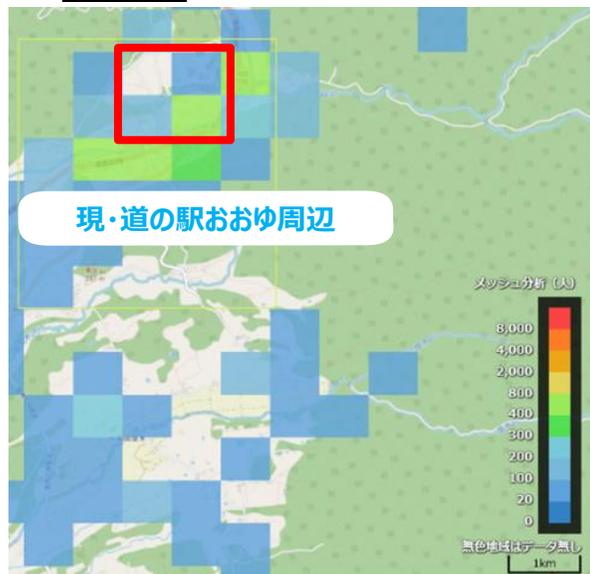
秋田県鹿角市
2020年 14時
総数 総数（15歳以上80歳未満）
（国勢調査人口：24,293人）



- 2019年以前は、5月休日や8月のお祭り時期などに休日、平日ともに滞在人口は増加傾向。
- 滞在人口の推移では、2020年はコロナ禍の影響で平日・休日ともに減少している。

道の駅おおゆ開業による人の流れの変化

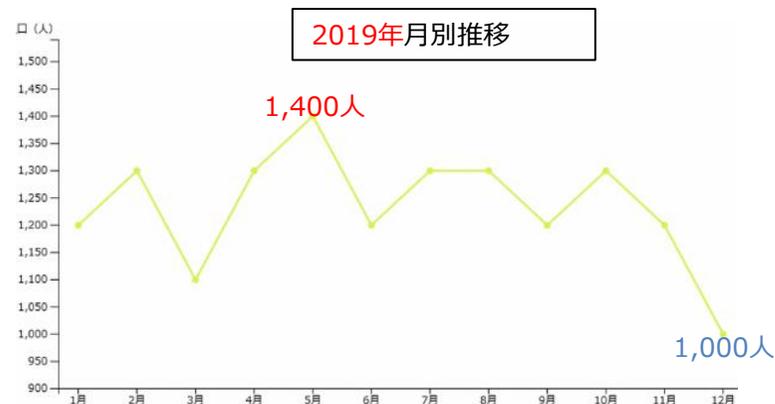
ヒートマップ (2017年5月 休日 14時)



2017年ピーク
800人

2018年4月 道の駅おおゆ オープン

ヒートマップ (2018年5月 休日 14時)



・道の駅おおゆの開業により、施設周辺の誘客促進につながっていることは確認できるが、宿泊者数は横ばい傾向。

(参考) 住民の所得が地域内で消費されているか

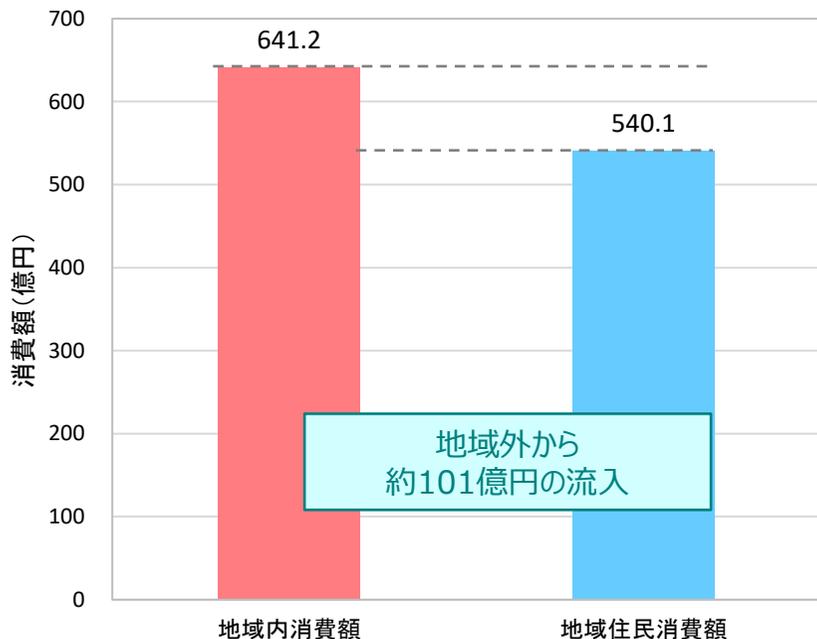
分析の視点

- 消費面では、地域の住民の所得が地域内で消費されているかを把握する。
- まず、地域内消費額と地域住民消費額を比較し、消費の流出・流入状況を把握する(下図①)。
- 次に、消費の流出率を県や人口同規模地域と比較して、どの程度の流出水準であるかを把握する(下図②)。

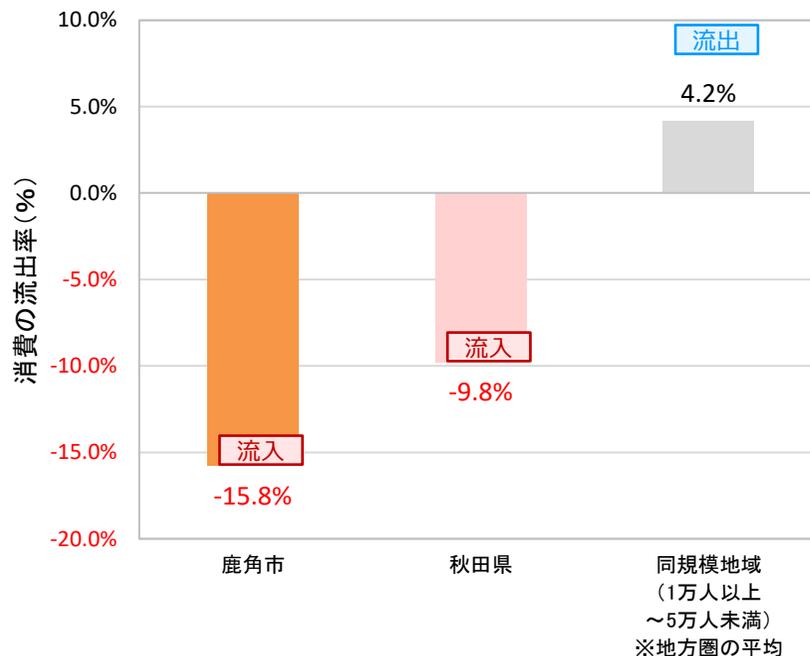
地域内で消費される額が、地域住民が消費する額よりも101億円程度多く、消費が流入している。

消費の流出率は-15.8%であり流入している。流入率は県や人口同規模地域と比較して高い水準である。

①消費の流入・流出



②消費の流出率

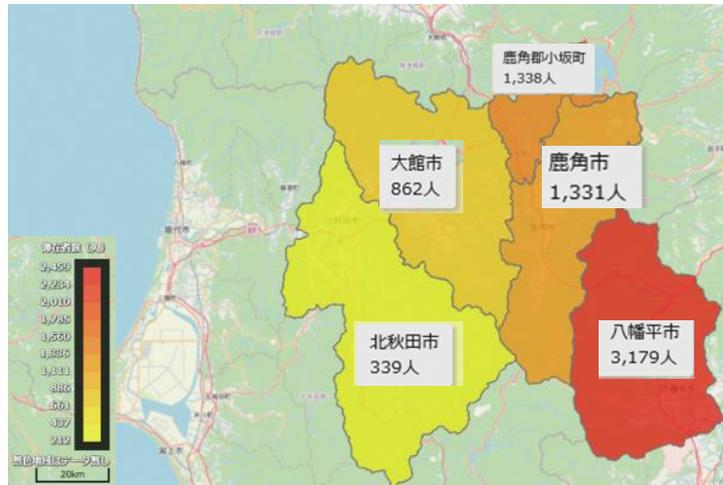


注) 地域内消費額は、地域内の民間消費(誰が消費したかは問わない)を表す。
地域住民消費額は、地域住民の民間消費(どこで消費したかは問わない)を表す。

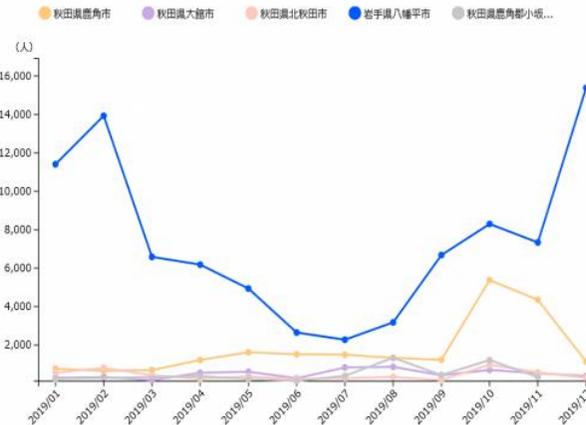
注) 消費の流出率(%) = (地域住民消費額 - 地域内消費額) / 地域内消費額 × 100
流出率のマイナスは流入を意味する。

鹿角市を訪問する外国人滞在者の把握

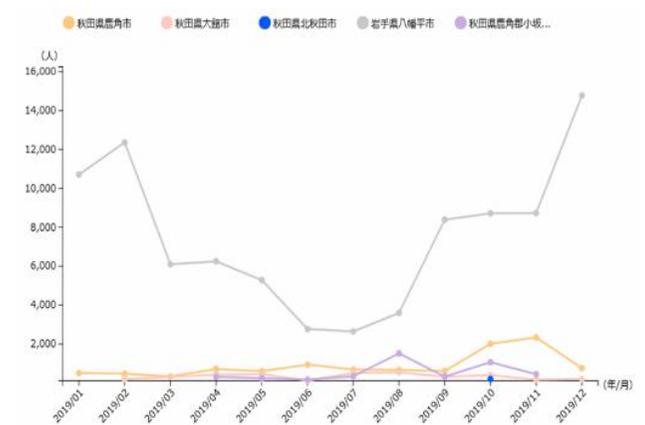
外国人滞在人口数 ヒートマップ
2019年8月 昼間



地域別滞在者数推移
2019年 昼間



地域別滞在者数推移
2019年 夜間



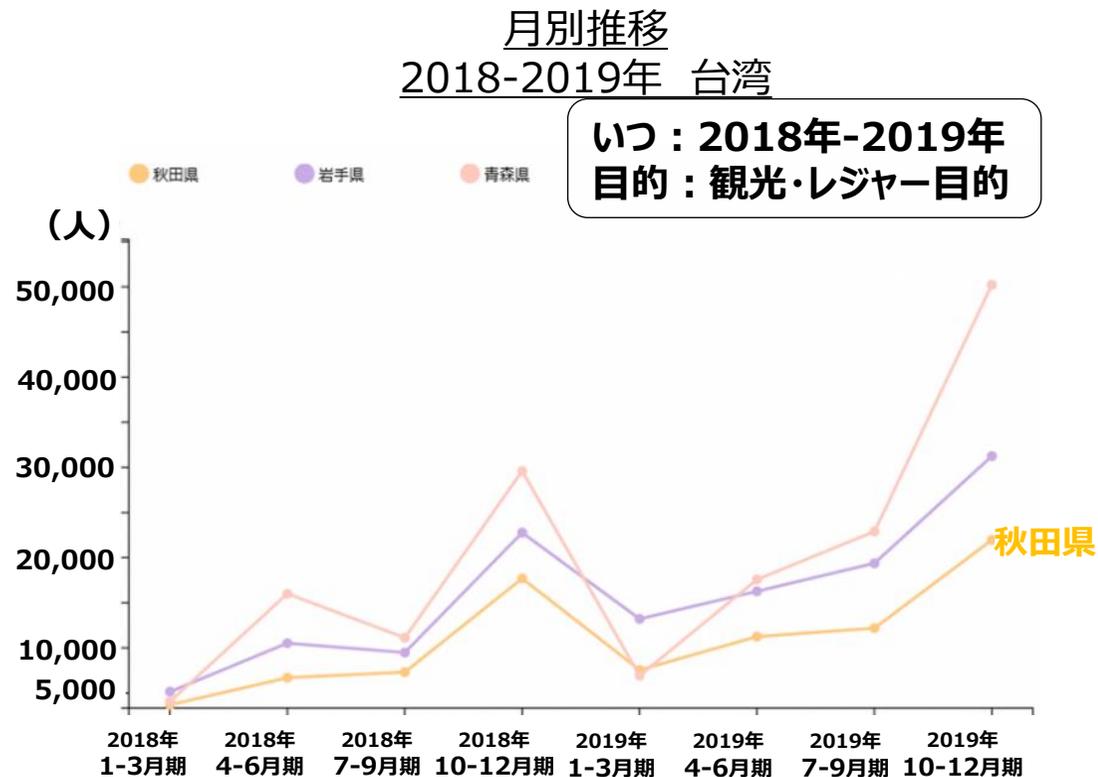
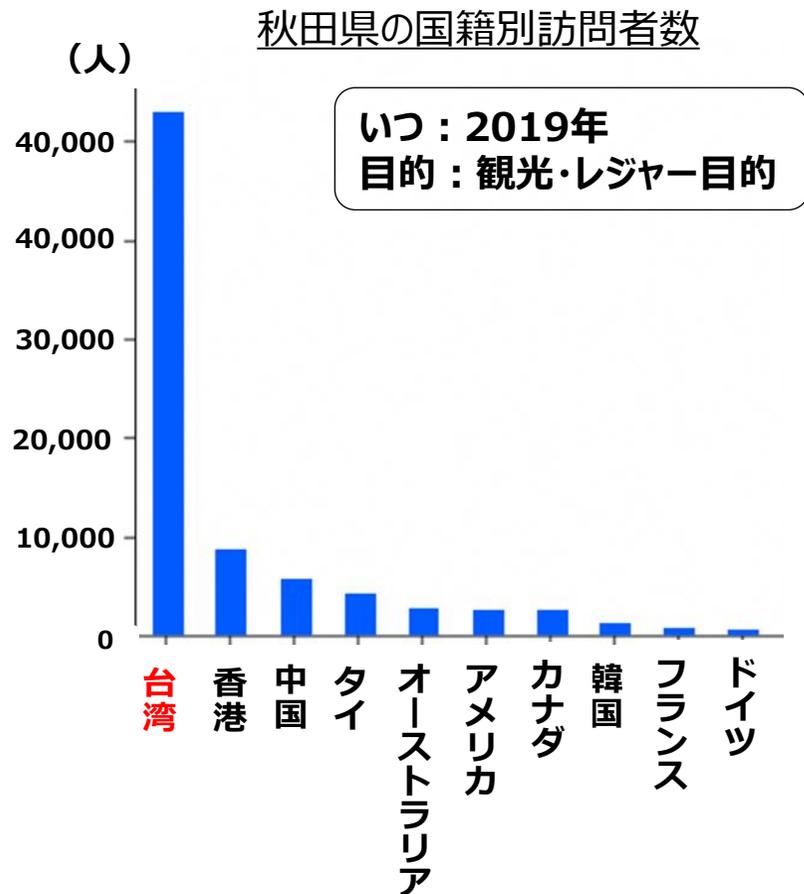
RESAS_株式会社 N T T ドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

鹿角市は外国人が昼間に滞在しており、2019年10-11月が最も多く滞在している。
また夜間の滞在も、10-11月が多い。
隣接する岩手県八幡平市は冬期間の滞在が非常に多い。

秋田県の外国人訪問者

観光マップ → 外国人 → 外国人訪問分析

➤ 国籍別・目的別「観光・レジャー目的」の外国人訪問者数を、都道府県単位で表示



RESAS_観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客数」

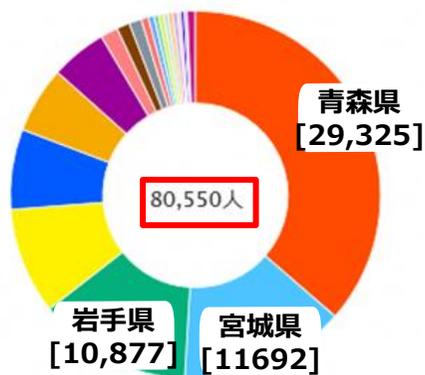
秋田県は、台湾からの訪問者数が多くなっており、秋（紅葉シーズン）ピークがみられる。

秋田県の外国人訪問者

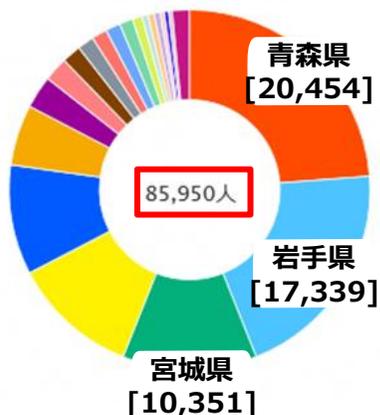
観光マップ → 外国人 → 外国人訪問分析

➤ 国籍別・目的別「観光・レジャー目的」の外国人訪問者数を、都道府県単位で表示

滞在直前に滞在した地域
2019年



滞在直前に滞在した地域
2019年



鹿角市に訪問する外国人の空港利用
2019年

順位	訪問者が多い国籍 (※1)	入国者が多い空港 (※2)	出国者が多い空港 (※2)
1位	台湾	成田国際空港	成田国際空港
2位	中華人民共和国	仙台空港	仙台空港
3位	香港	東京国際空港 (羽田空港)	東京国際空港 (羽田空港)

RESAS_観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客数」

秋田県に滞在した外国人が、その直前に滞在した地域でもっとも多いのは青森県。直後に滞在した地域で最も多いのも青森県。

秋田県のインバウンド傾向

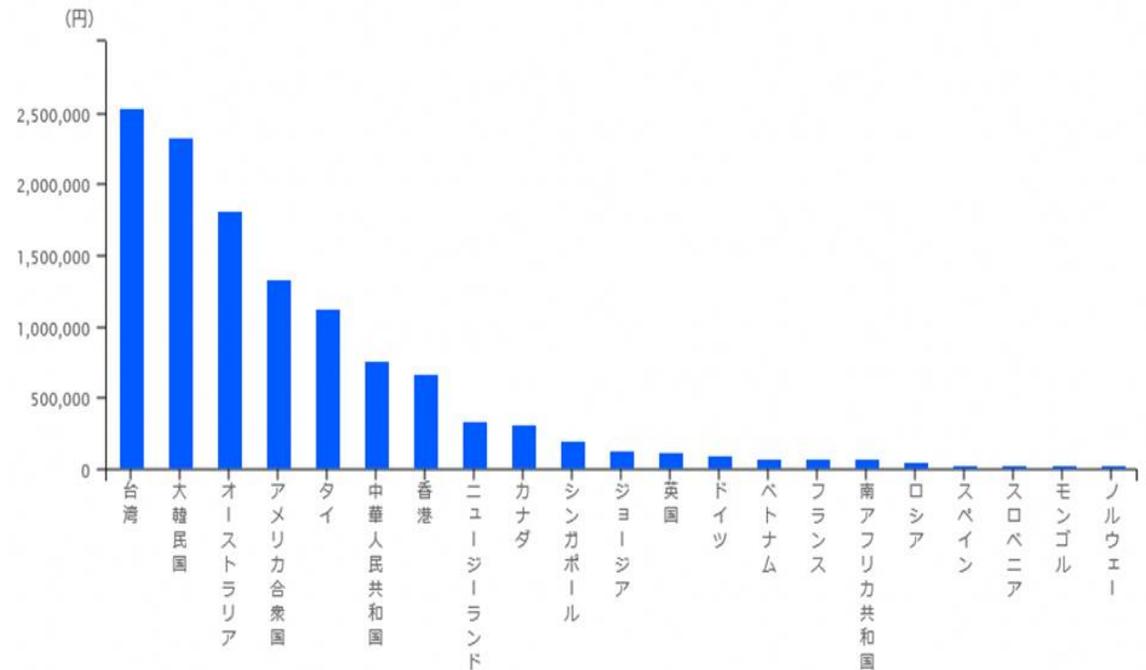
観光マップ → 外国人 → 外国人消費の構造 / 外国人消費の比較 (クレジットカード)

- 外国人訪問客によるクレジットカードの消費額を、月別、部門別、国籍別に割合で表示
また、消費履歴を基に、地域別・国籍別に消費額とその推移や取引件数などを表示

秋田県 2019年 部門別消費額 (構成割合) アジア州



秋田県 2019年 国籍別消費額



- 宿泊の消費額が約22億6千万円と最も高い。
- また、国籍別消費額では、「台湾」が高い。

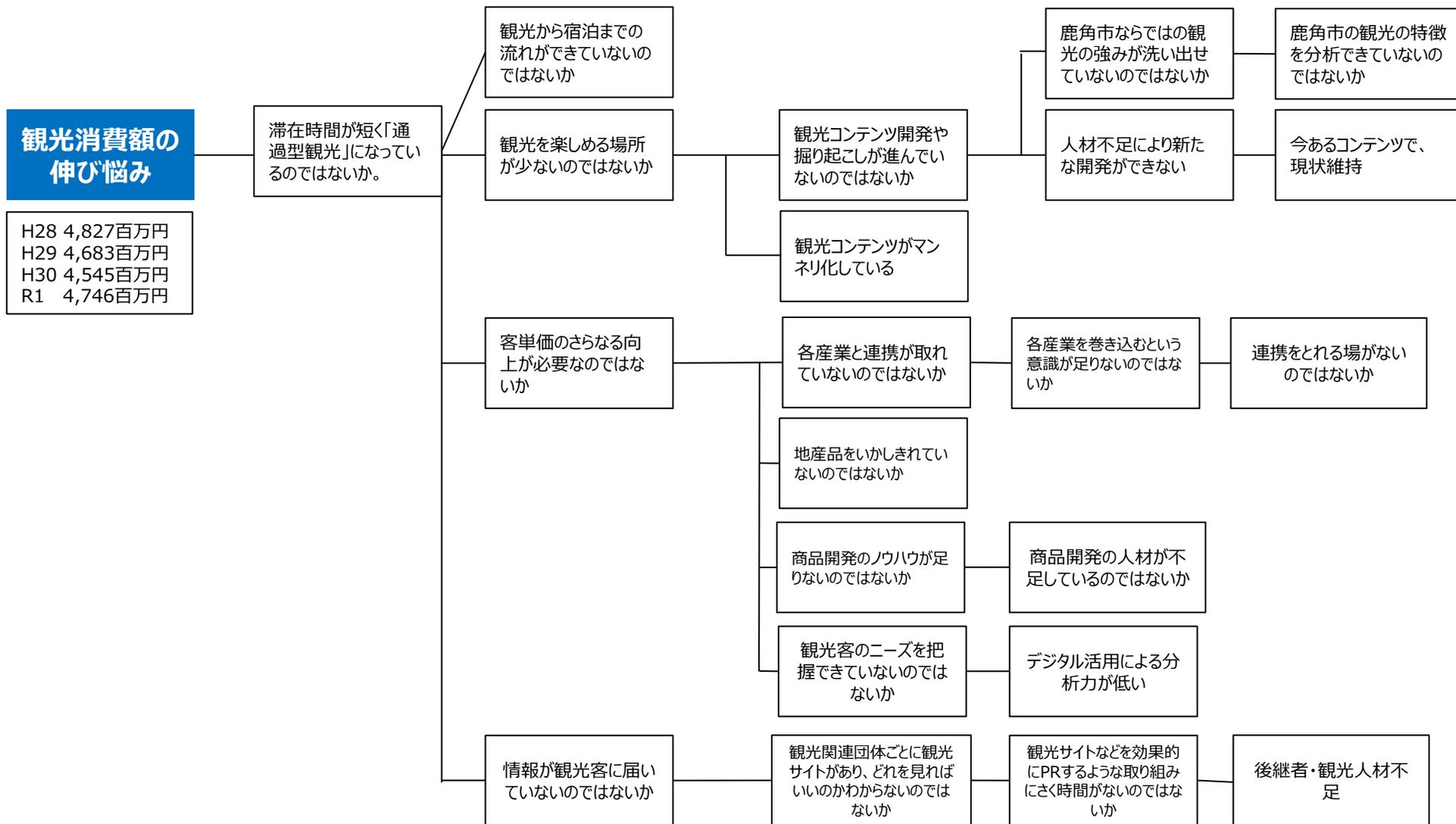
鹿角市（観光）のSWOT分析

	強み (strength)	弱み (weakness)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも<u>県内宿泊者割合は高い</u>。 ・宿泊動向は子連れ（ファミリー層）や女性グループが多い。 ・目的地となる観光地は3温泉郷と2道の駅が主。 ・来訪者の<u>地域外割合が比較的高い</u>。 ・インバウンド滞在者は10ヶ月前まで増加傾向。台湾が主。滞在者人口は大湯温泉が最も多い。来訪時期は秋～冬（日本人が減少）にピーク。 ・宿泊、飲食サービスの<u>付加価値額、労働生産性は高い</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>観光消費額は2014年以降減少を続けており、目標値とのギャップも大きい</u> ・道の駅おおゆ開業による宿泊者数の増加にはつながっていない。 ・道の駅おおゆ開業前より、流動人口の増加は見られるものの、冬期間の減少傾向は変わらない。 ・八幡平温泉郷の宿泊者数は2017年以降減少傾向にある。
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年7月大湯環状列石を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産登録。構成資産である、三内丸山遺跡の来訪者は増加傾向。（5～6月が多い傾向。） ・大湯環状列石の出発地ランキングは、秋田県内と青森県が多い。（三内丸山遺跡と関連するのでは。） ・道の駅かつのの出発地ランキングは、秋田県内、岩手県が多い傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町（八幡平市、小坂町）の滞在人口が高い。 ・インバウンドの夜間滞在者数は、隣接する八幡平市が、昼・夜間ともに非常に高い。



【注力すべき問題点】観光消費額の伸び悩み

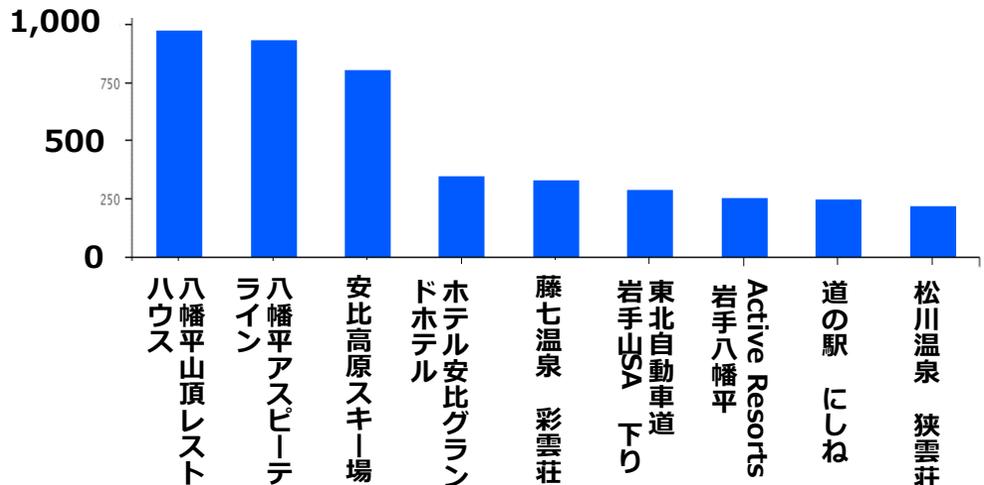
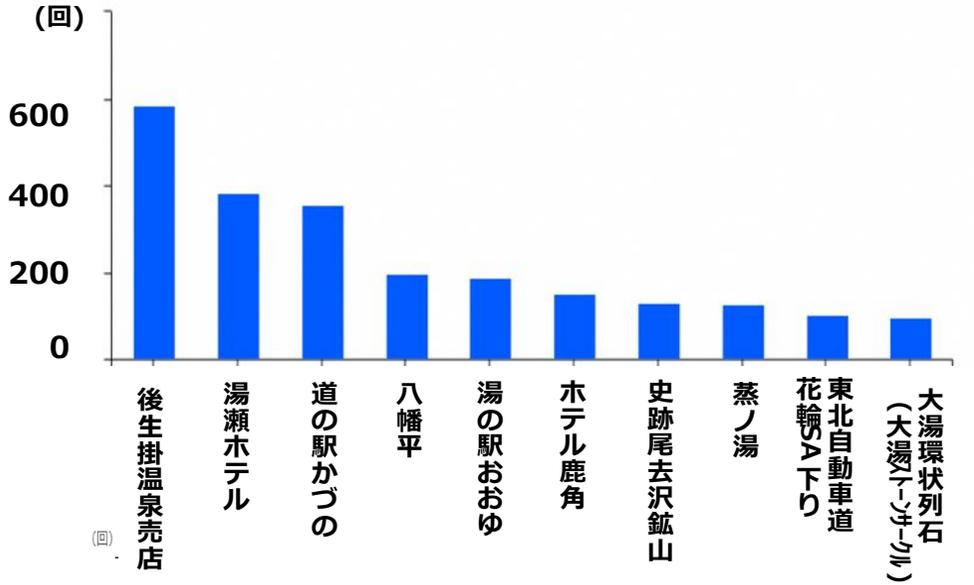
観光消費額の伸び悩み（仮説の構造化）



鹿角市・八幡平市 比較 目的地分析

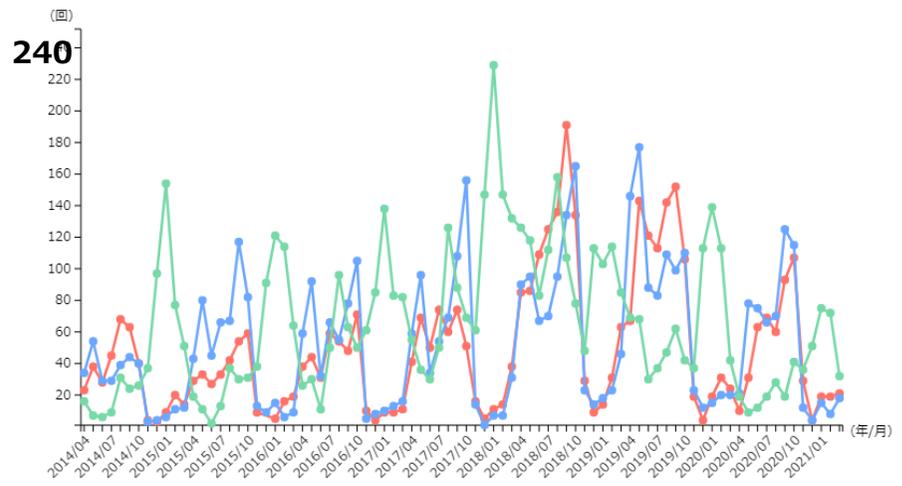
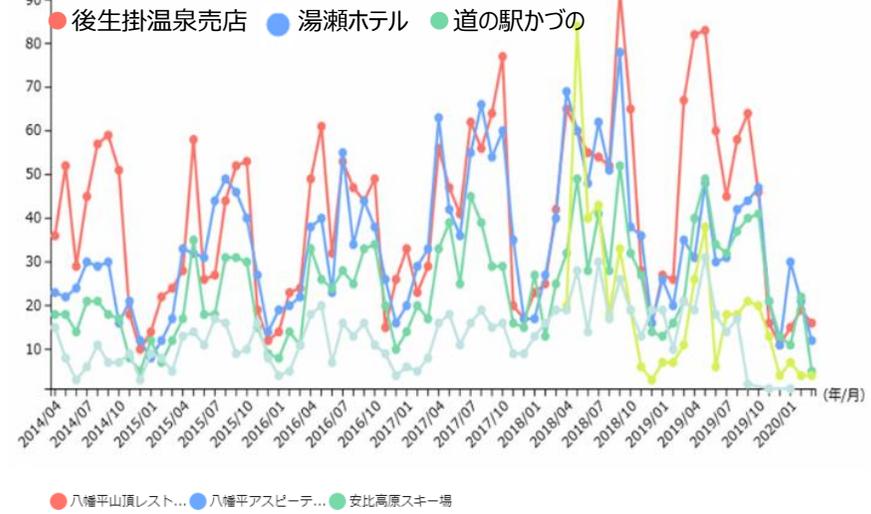
観光を楽しめる場所
が少ないのではない

鹿角市 目的地検索ランキング
(2019年、休日、交通手段は自動車)



鹿角市と八幡平市を比較すると、鹿角市の検索回数は低い水準であり、宿泊施設以外のコンテンツが相対的に少ない。

月別検索回数の推移
(休日、交通手段は自動車)



RESAS : 株式会社ナビタイムジャパン
「経路検索条件データ」

鹿角市での滞在時間が少ない（通過型観光）

滞在時間が短く「通過型観光」になっているのではない。

2019年10月
14時

八幡平市

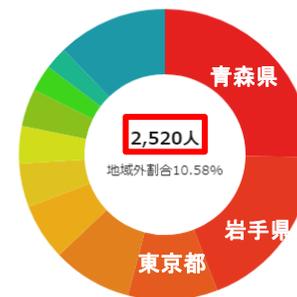
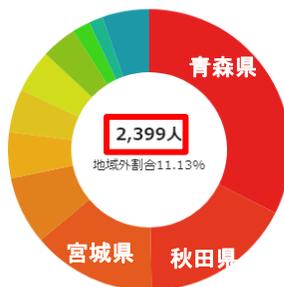
鹿角市

滞在人口 / 都道府県内

滞在人口 / 都道府県外

滞在人口 / 都道府県内

滞在人口 / 都道府県外



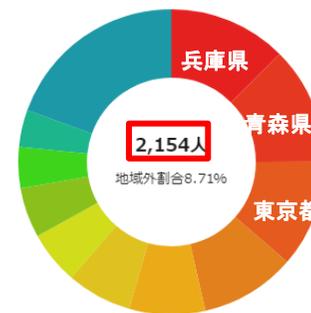
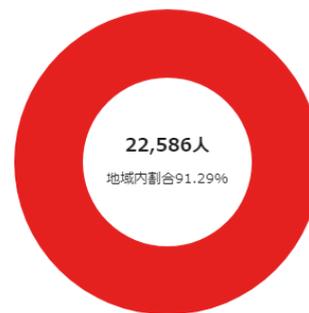
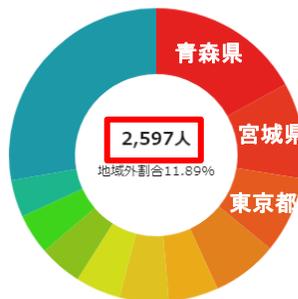
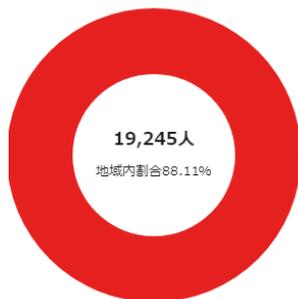
2019年10月
20時

滞在人口 / 都道府県内

滞在人口 / 都道府県外

滞在人口 / 都道府県内

滞在人口 / 都道府県外

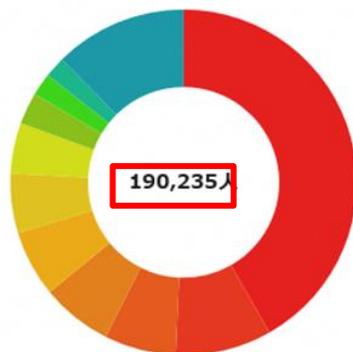


- 日中の滞在者数は鹿角市が多いものの、夜間の滞在者数は八幡平市が多い→通過型観光

鹿角市・八幡平市 延べ宿泊者数（日本人）の推移

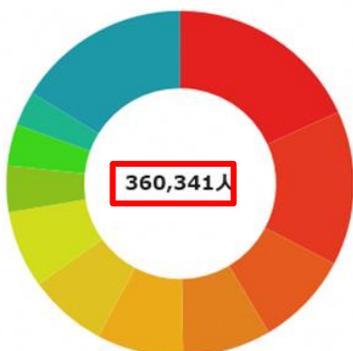
2020年

鹿角市

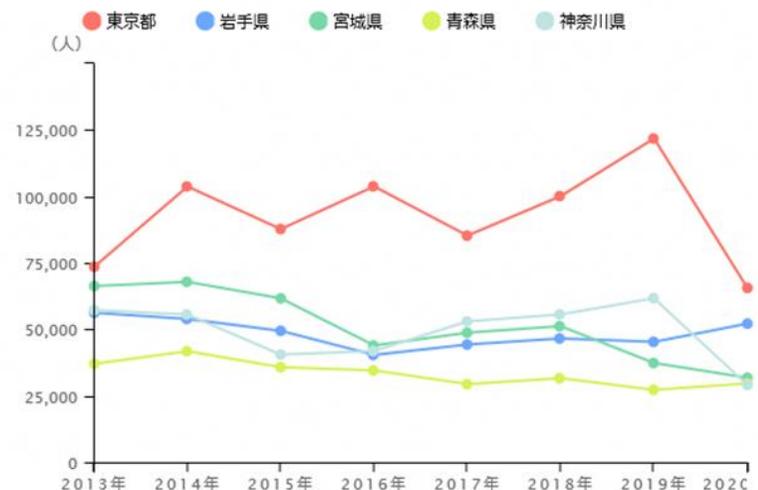
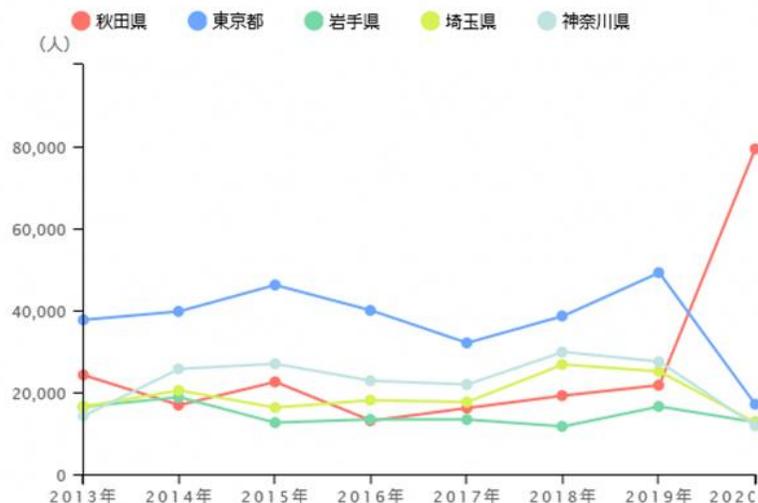


- 1位 秋田県 79,425人 (41.75%)
- 2位 東京都 17,089人 (8.98%)
- 3位 岩手県 12,712人 (6.68%)
- 4位 埼玉県 12,620人 (6.63%)
- 5位 神奈川県 11,834人 (6.22%)
- 6位 青森県 10,579人 (5.56%)

八幡平市



- 1位 東京都 65,596人 (18.20%)
- 2位 岩手県 52,126人 (14.47%)
- 3位 宮城県 31,798人 (8.82%)
- 4位 青森県 29,623人 (8.22%)
- 5位 神奈川県 29,076人 (8.07%)
- 6位 埼玉県 26,393人 (7.32%)



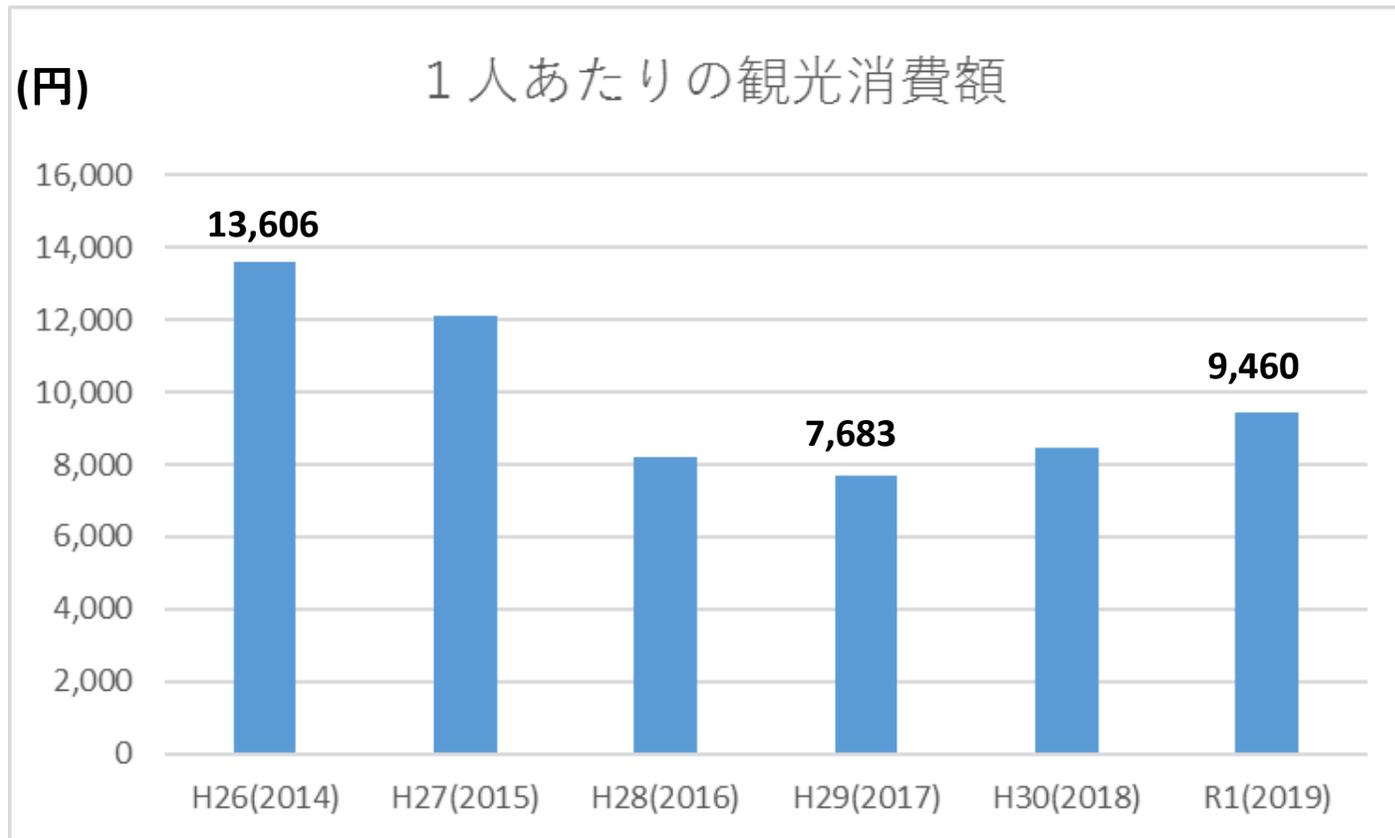
観光から宿泊までの流れができていないのではないかと

滞在時間が短く「通過型観光」になっているのではないかと

- 八幡平市と比べて宿泊者数は相対的に少ない。コロナ後は県民限定クーポン等の効果から、秋田県内の宿泊者が増加している。

鹿角市の観光消費額の推移（再掲）

客単価のさらなる向上
が必要なのではないか



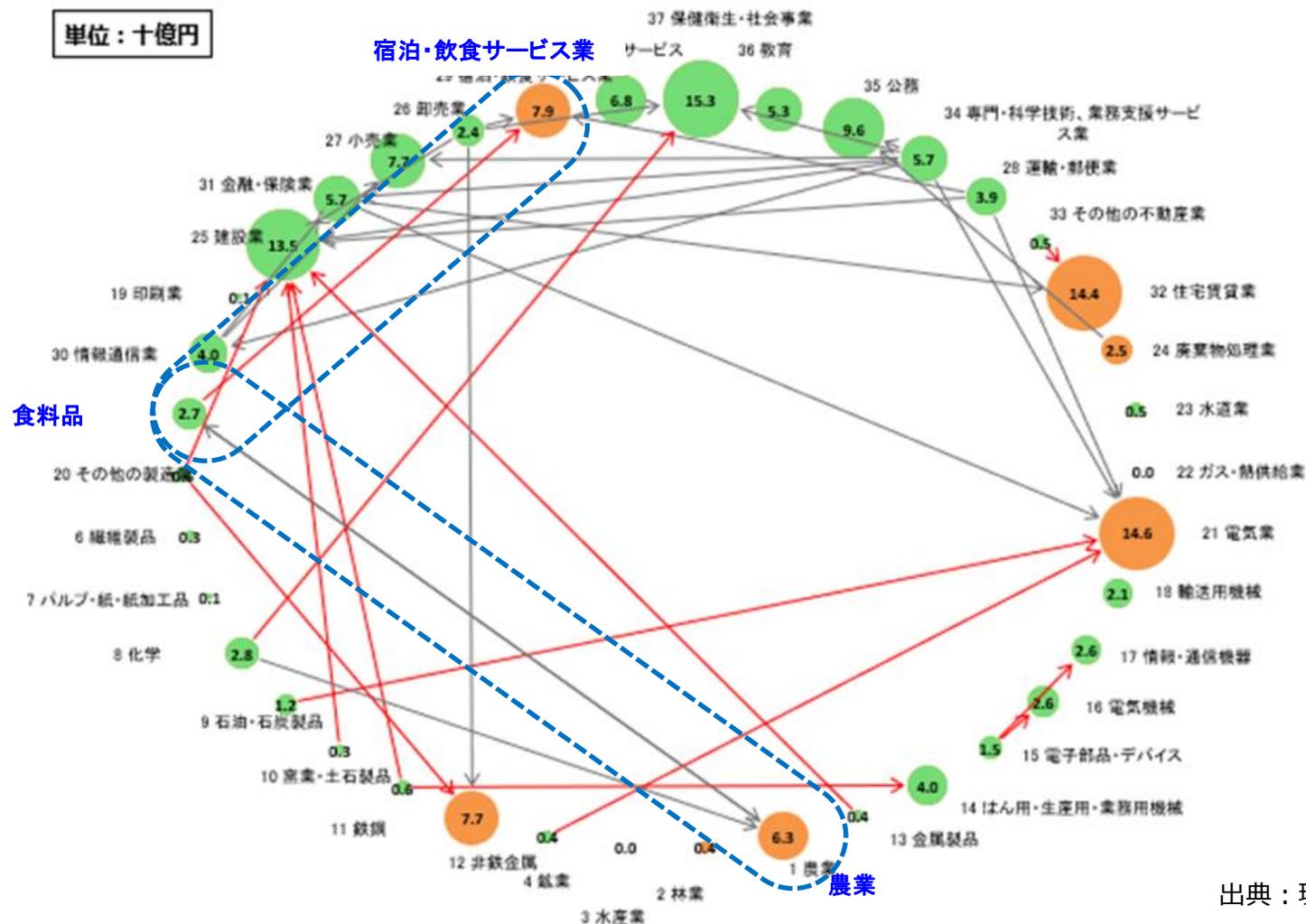
※ 秋田県「秋田県観光統計」に基づき作成（毎年8月末発行）

※ H28年から秋田県「秋田県観光統計」調査地点の一部変更あり

・全体の観光消費額は減少傾向にあるものの1人あたりの消費額は増加傾向に転じていることから土産品の開発など客単価の増加を目指すための取り組みを強化し、付加価値を高めていく必要があります。

鹿角市の取引構造について

各産業と連携が取れていないのではないか



出典：環境省「地域経済循環分析」

- ・「宿泊・飲食サービス業」は域外から所得を獲得できているが、「宿泊、飲食サービス」他産業の取引は少ない
- ・例えば、観光×農業で連携し、地域農産品ブランドを開拓すれば、観光消費額が農業も増加するのではないかと

鹿角市の観光情報について（デジタル版）

情報が観光客に届いていないのではないか

鹿角市と八幡平市のネット情報比較（観光検索）

八幡平市観光協会
八幡平市観光協会による八幡平観光案内。イベント情報、宿泊や日帰り温泉の紹介。

八幡平市の人気スポット

- 岩手山 4.6 ★★★★★ (248) ハイキングができる火山
- 安比高原スキー場 4.3 ★★★★★ (1,971) フードコートのあるスキーリゾート
- 八幡平 4.4 ★★★★★ (157) ハイキングと景色を楽しむ平

「八幡平市観光」検索→八幡平市観光協会がTOPIに

「鹿角市観光」検索→エージェントの旅行商品

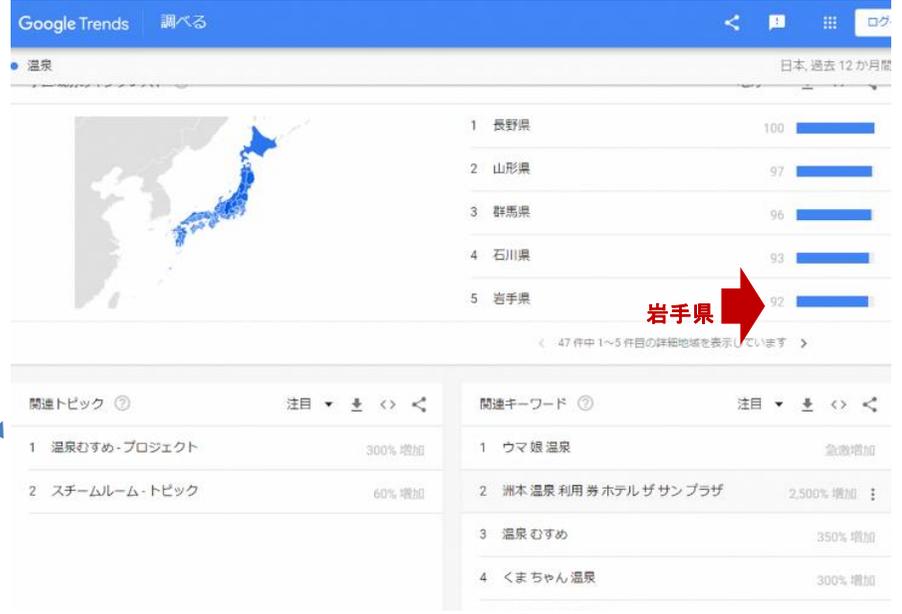
鹿角市の観光スポットランキングTOP10 - じゃらん.net
十和田湖・大館・鹿角の観光スポットランキングTOP10
十和田湖・大館・鹿角の観光スポット・1大面寺(秋田県鹿角市)・2秋田犬の里(八幡平)・3大湯温泉(秋田県鹿角市)・4鹿角観光ふるさと館「あんたらあ」・5なりた農園 6...

鹿角市の人気スポット

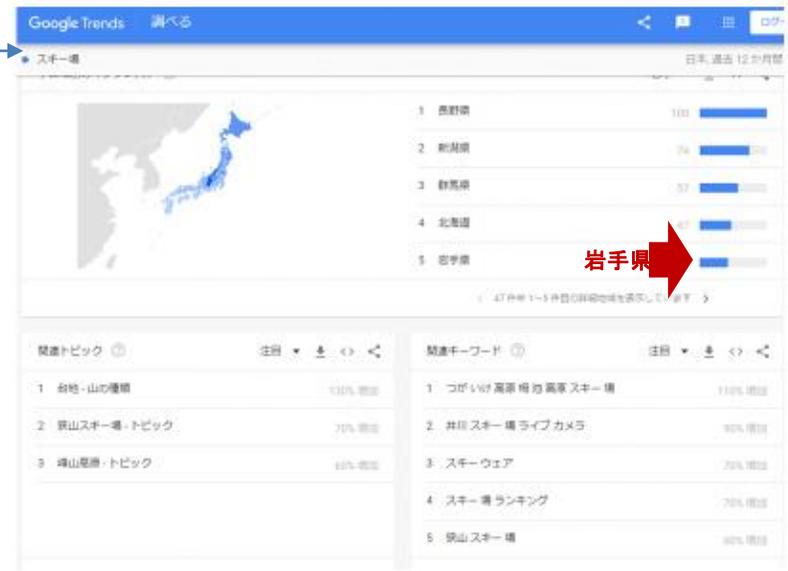
- 八幡平 4.4 ★★★★★ (157) ハイキングと景色を楽しむ平
- 十和田八幡平国立公園 4.3 ★★★★★ (856) 火山、火口湖、温泉がある国立公園
- 大湯環状列石(万座環状列石) 3.9 ★★★★★ (300) 祭祀に使用された古代の環状列石

・Google Trend
「温泉」「スキー場」検索でも、岩手県は5番目。
このほか「八幡平市」で検索→「八幡平ドラゴンアイ」「八幡平マウンテンホテル」など、観光コンテンツが上位。
「鹿角市」→「国民体育大会」「日本の地方議会」など。

「鹿角市」と「八幡平市」HP比較→八幡平市はTOPページから「観光」クリックで「八幡平市観光協会」ページへ。



岩手県

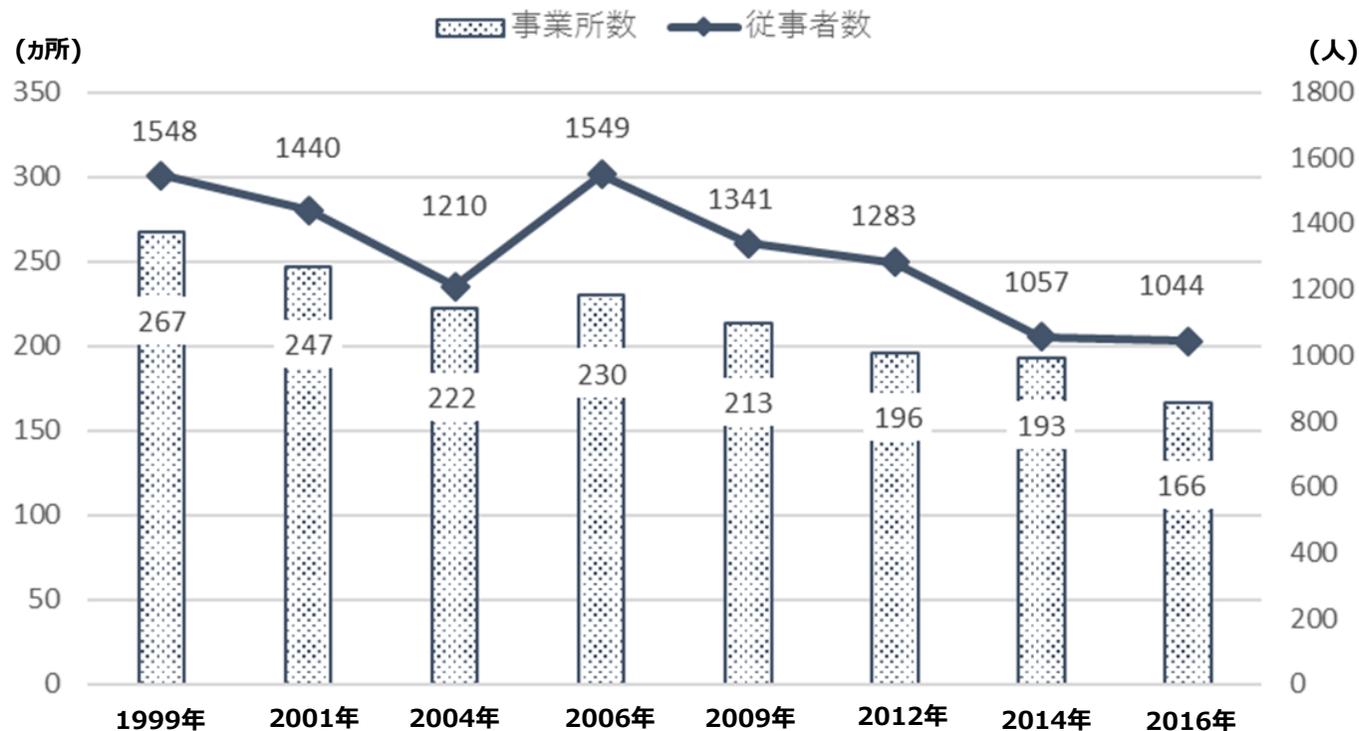


岩手県

鹿角市の観光事業所の従事者数について

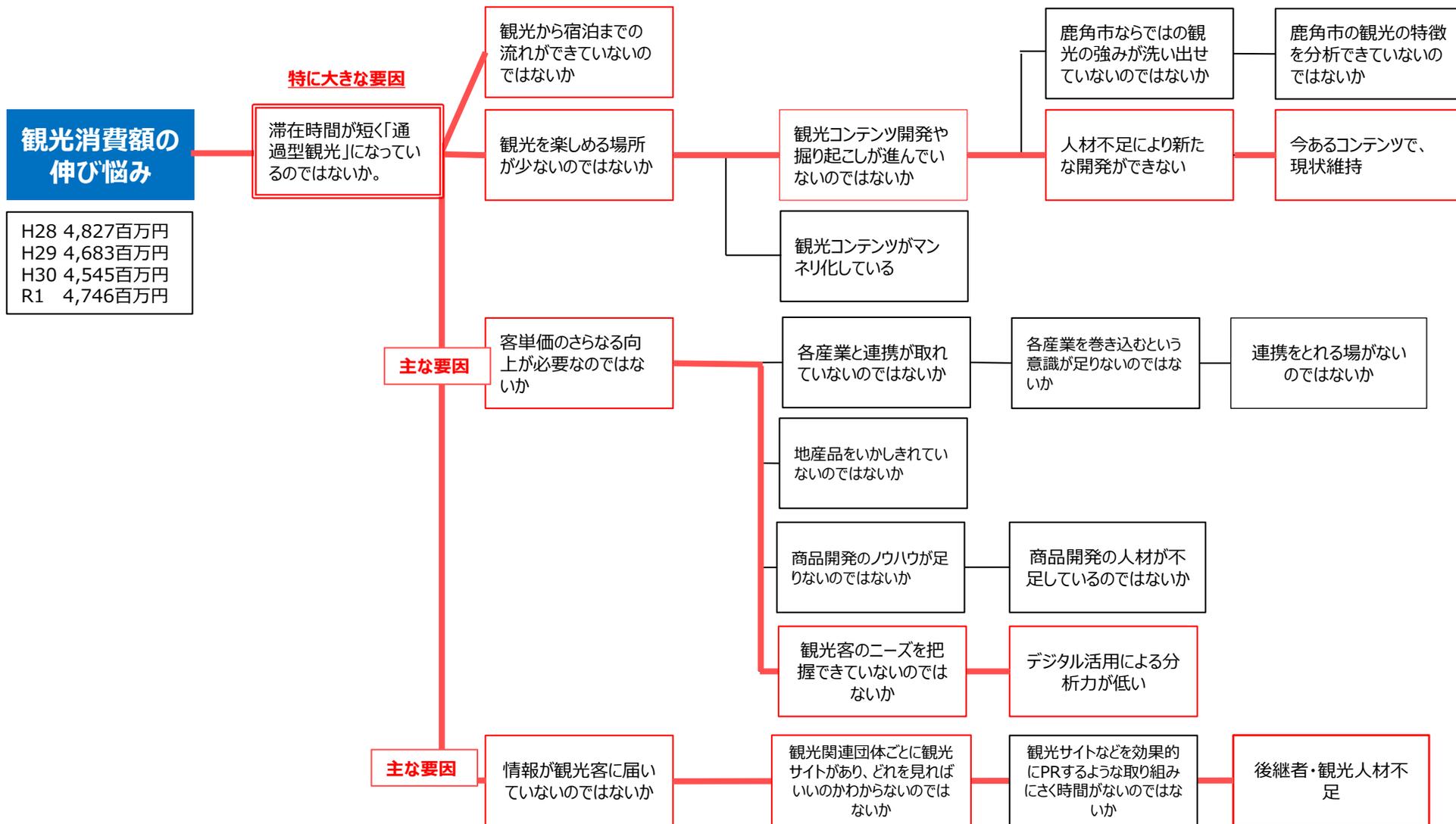
後継者・観光人材不足

鹿角市内観光業の事業所数及び従事者数の推移（1999年～2016年）



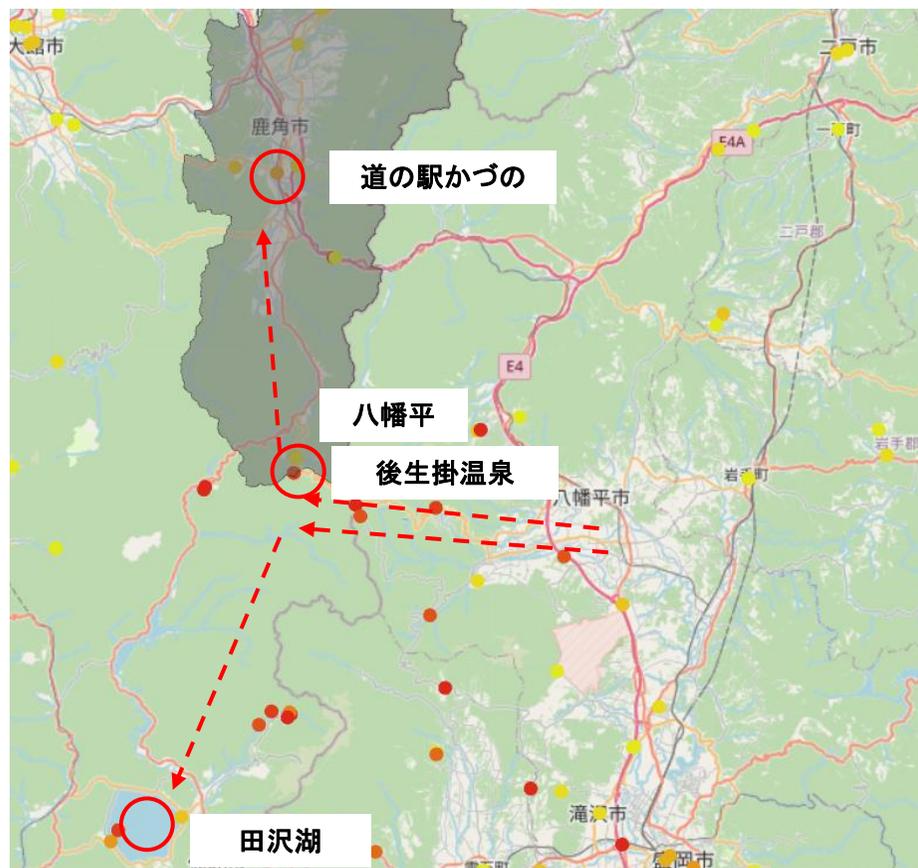
観光関連事業所数及び、従事者数は、2006年に一度持ち直し基調が見られた。それ以降、減少傾向に歯止めがかかっていない。

観光消費額の伸び悩みの**主要因**を抽出



通過型観光について、八幡平地域に着目し分析

八幡平エリアは、鹿角市の入り口であり、八幡平温泉郷や八幡平ドラゴンアイなどの観光地がある。アスピーテラインを交通網として後生掛温泉、鹿角市中心部へと続く要所である。



出発地点	到着地点	鹿角観光ふるさと館 あんどらあ
		鹿角
青森	山本	0.2%
	北秋田	0.9%
	鹿角	8.0%
岩手	鹿角	14.8%
秋田	山本	1.4%
	北秋田	1.6%
仙北	北秋田	0.2%
	鹿角	2.6%
山本	青森	0.7%
	秋田	0.8%
	北秋田	2.6%
北秋田	山本	0.0%
	青森	0.8%
	秋田	1.4%
	仙北	0.1%
	山本	2.5%
鹿角	鹿角	9.5%
	北秋田	0.0%
	青森	6.9%
	岩手	15.2%
鹿角	仙北	3.4%
	北秋田	8.7%
	鹿角	0.0%
岩手	仙北	1.9%

岩手県から鹿角市（道の駅かづの）を目指し出発する割合は14.8%と比較的高い。田沢湖は18.9%。

岩手県→田沢湖 18.9%

武家屋敷	田沢湖
8.8%	18.9%

- 岩手から道の駅かづのに行く割合が多いため、八幡平に誘客し、滞在時間を長くできるのではないかと
- 岩手→田沢湖に行く人数も一定数いることから、途中にある鹿角八幡平エリアをPRして消費を促せないかと

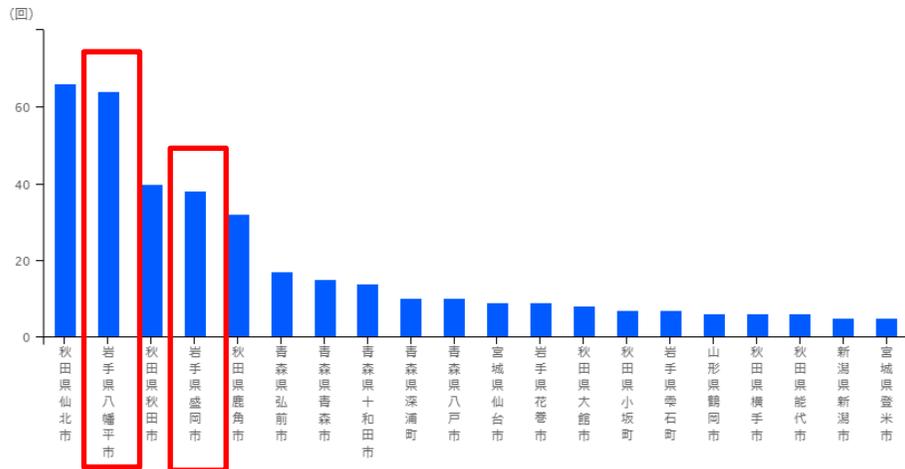
目的地分析で八幡平の注目度を見る

目的地への出発地一覧

2019年度 休日

自動車

後生掛温泉売店

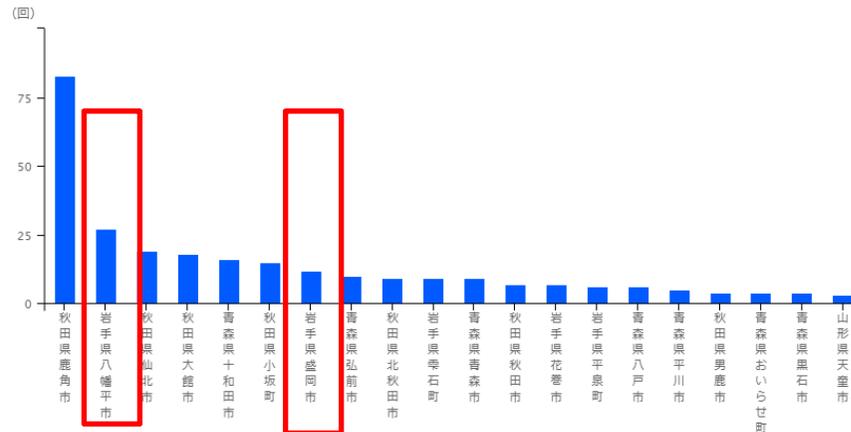


目的地への出発地一覧

2019年度 休日

自動車

道の駅かつの

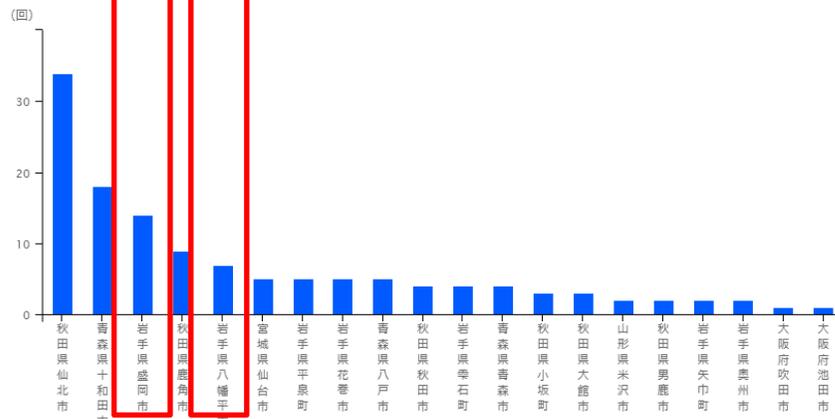


目的地への出発地一覧

2019年度 休日

自動車

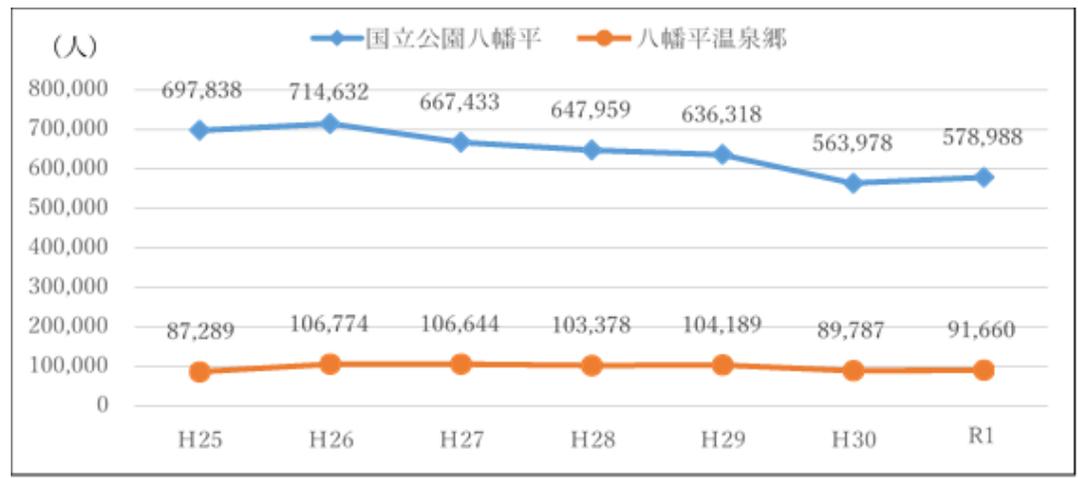
八幡平



- ・後生掛温泉は盛岡市、八幡平市から一定数の検索がある。しかし、八幡平を見ると、後生掛温泉に比べて少ないことから、通過している可能性が高い。
- ・これだけ後生掛温泉の検索回数が多いのであれば、八幡平へ誘客できるコンテンツを再構築し、ルートを作ることができるのではないか

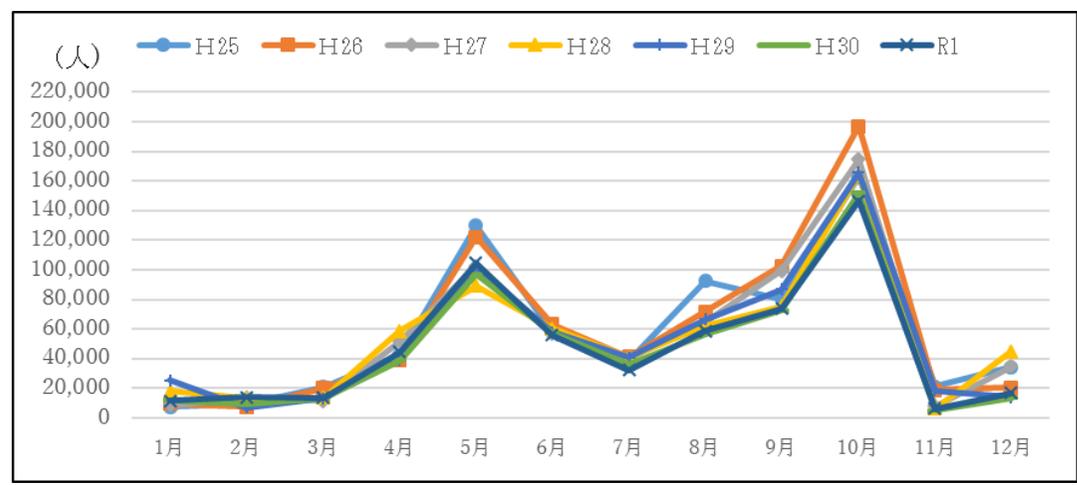
国立公園八幡平エリアの現状

国立公園八幡平及び八幡平温泉郷の入込客数の推移



- ・平成25年以降、**国立公園の入込客数は減少傾向**にある。
- ・八幡平温泉郷では、平成26年から29年まで10万人台で推移していたが、平成30年には**大型ホテルの廃業等の影響もあり8万人台まで減少**。

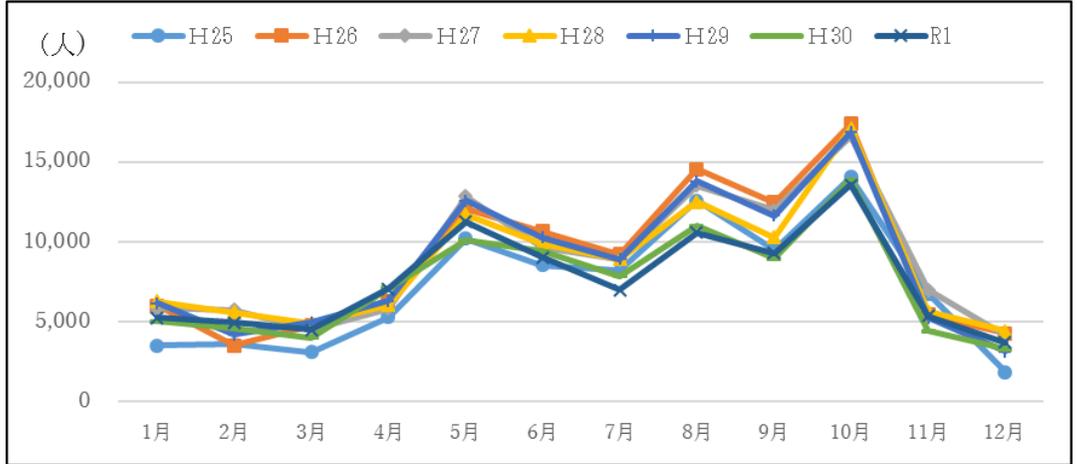
国立公園八幡平の月別入込客数の推移 (資料：鹿角市産業活力課)



- ・入込客数を月別にみると、アスピーテライン開通の4月、ドラゴンアイシーズンの5月、紅葉期の9月から10月にかけて入込客数が集中的に増加する傾向にある。
- ・アスピーテラインや周辺施設の一部が冬季閉鎖となる**11月から3月の冬期間において**は急激に入込数が落ち込む。

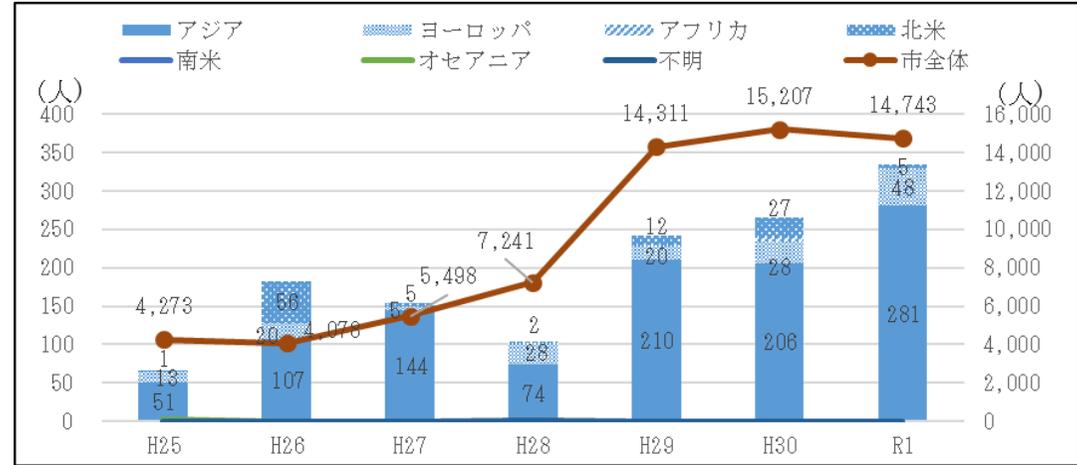
国立公園八幡平エリアの現状

八幡平温泉郷の月別入込客数の推移 (資料：鹿角市産業活力課)



- 八幡平温泉郷の入込客数を月別にみると、**国立公園と同様の傾向がみられる**が、8月は花輪ばやしなどの祭典により、9月より多い。
- 12月から3月にかけては**例年一定数の宿泊利用**がある。(近年、全国規模のスキー大会が継続しての開催されていることが大きく影響。)

鹿角市の外国人宿泊客数に占める八幡平温泉郷内の宿泊客数 (資料：鹿角市産業活力課)

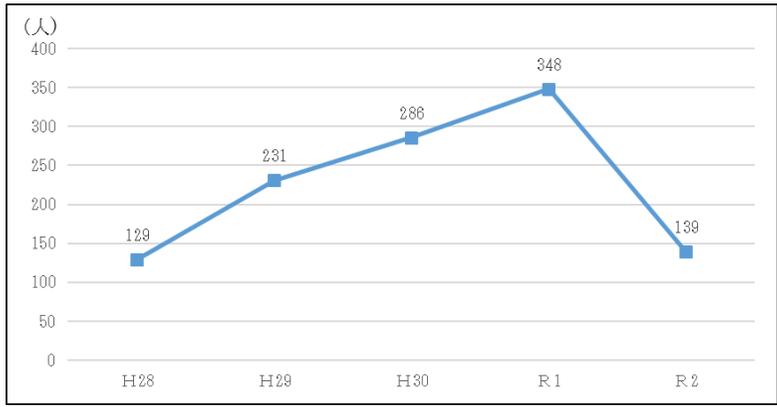


- 宿泊客の年齢層は60代から70代が大半を占め、若い世代になるほど割合は少ない傾向にある。
- 利用形態は、夫婦やカップルが大半を占め、リピーターも一定数みられるが、家族連れは少ない。
- 湯治や湯めぐり、登山や自然散策、スキーなどの利用目的での来訪が多い。
- 近年、市内における外国人旅行客は台湾の団体客を中心とした**アジア圏からの入込客が増加**している。八幡平エリアにおいても増加傾向。

出典：八幡平温泉リゾート協会 (「平成28 (2018) 年統アンケート」)

国立公園八幡平エリアの現状

十和田八幡平観光路線バス「八郎太郎号」利用客数（資料：鹿角市産業活力課）



・アクセス手段は、**自家用車利用**がほとんど。レンタカーと鉄道、空港、高速バスなど公共交通手段の組み合わせも多い。
（市内の公共交通機関は、市街地から国立公園エリアに直接アクセスできる民間公共交通路線が廃止されたことを受け、市では平成28年度より十和田湖休屋から八幡平山頂間を結ぶ観光路線バス「八郎太郎号」を運行。運行開始後、年々利用者数が増加傾向。しかし、運行期間や運行便数が限定されているため、特に自家用車を利用できない来訪者にとっては利便性が十分とはいえない。）

八幡平エリアの主要な観光コンテンツについて

- ・トレッキング（秋田焼山、大沼・後生掛の2つの自然研究路や自然探勝コースなど。来訪者のレベルや目的等に応じて自然を満喫）
- ・ウィンターアクティビティ（スキー、スノーシューなど。秋田八幡平スキー場中心。）
- ・湯治（八幡平温泉郷。（古くから国民保養温泉地として湯治文化が継承されている。個々の施設で異なる泉質や効能、ロケーションが魅力。）
- ・高山植物鑑賞（八幡平山頂付近）
- ・八幡平ドラゴンアイ（融雪期、八幡平山頂（鏡沼）。近年、知名度が上がりつつある。）
- ・樹氷（2月（厳冬期） ※活用に向け検討中。
 - ※ 魅力的なコンテンツが多数存在するが、**現状、物見遊山的な通過型の利用にとどまっている。**
 - ※ 各観光コンテンツを有機的に捉えながら、周遊性を生み出す利活用ができていない。
 - ※ **既存コンテンツや体験メニューなどのマンネリ化。**滞在時間の増加につなげていない。

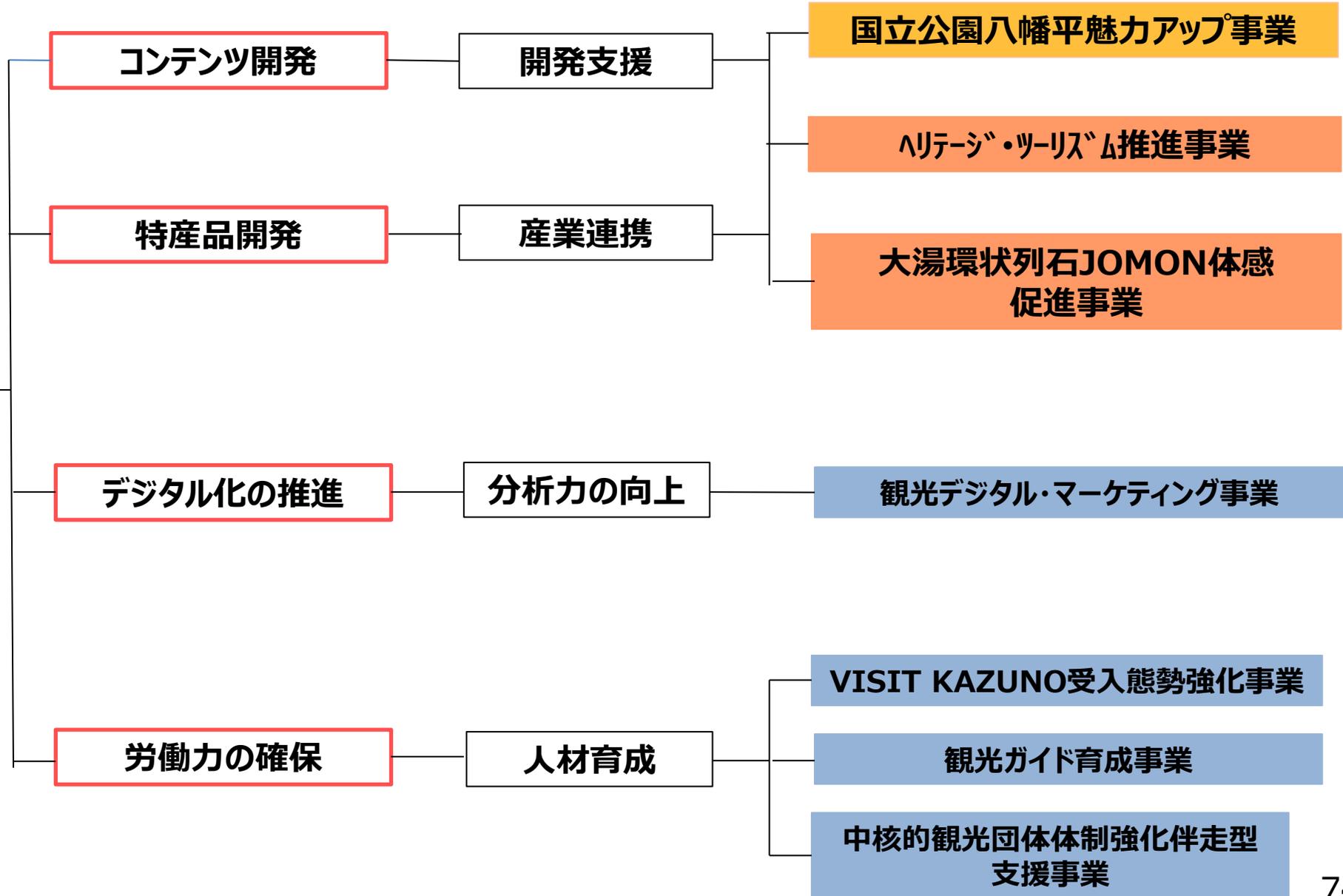
八幡平エリアの認知度について

- ・国立公園八幡平は、岩手・秋田の両県にまたがっている。
- ・「八幡平温泉郷」は大部分が鹿角市に位置し、仙北市、岩手県八幡平市の一部を地域に点在する温泉の総称。**観光客にとっては八幡平＝岩手県と認知していることが多く、「秋田八幡平」の対外的な認知度が不足**している。
- （H29～R1年度、大手旅行サイトやSNSを活用したプロモーション実施（隣接する自治体や関係団体等と広域連携による事業等を展開。飛躍的な認知度向上には至っていない。）

➡ 国立公園八幡平エリアの魅力向上と知名度UPが必要

観光消費額を増加させるために

観光消費額の増加



観光消費額を増加させるために

国立公園八幡平魅力アップ事業

取組内容:国立公園八幡平魅力アップ構想の実現を支援

①八幡平満喫プログラムの実施

[期待する効果]八幡平エリアへの誘客促進

②八幡平魅力アップ構想の推進

[期待する効果]コンテンツ開発、滞在時間の増加

③八幡平物産フェアの開催

[期待する効果]物販による観光PR

鹿角市第7次総合計画との関連性

経営戦略1 まちに人・モノ・外貨を呼び込む

取組方針24 稼げる観光振興を進めます

①市全体を観光資源として生かした滞在型観光の充実

解決したい要因

観光コンテンツ開発や掘り起こしが進んでいないのではないか

客単価のさらなる向上が必要なのではないか

VISIT KAZUNO受入態勢強化事業

取組内容:観光客の受入態勢整備を支援

①観光デジタルマーケティング事業

[期待する効果]マーケティング強化

②コミュニケーション講座の開催

[期待する効果]ホスピタリティの向上

③観光ガイドの育成、人材支援

[期待する効果]観光人材の確保

鹿角市第7次総合計画との関連性

経営戦略1 まちに人・モノ・外貨を呼び込む

取組方針24 稼げる観光振興を進めます

②世界水準DMOによる国際的観光地としての受入態勢づくり

解決したい要因

観光客のニーズを把握できていないのではないか

情報が観光客に届いていないのではないか

鹿角の観光業は若い世代が参画できていないのではないか

ハルitage・ツーリズム推進事業

取組内容:文化財の観光コンテンツ化

①ツアー造成、コンテンツ開発

[期待する効果]滞在時間の増加、リピーター確保

鹿角市第7次総合計画との関連性

経営戦略2「世界遺産のまち」をつくる

取組方針28 ハルitage・ツーリズムに取り組みます

③観光資源としての文化の最大限の活用

④海外向けデジタル観光情報の発信強化

解決したい要因

観光コンテンツがマンネリ化している

大湯環状列石JOMON体感促進事業

取組内容:文化財の観光コンテンツ化

①ツアー造成、コンテンツ開発

[期待する効果]滞在時間の増加、リピーター確保

滞在時間を増やし観光消費額を増加させるために

コロナ禍における新たな取り組み

R2

プラチナプラン

1人最大1万円割引

・一人当たり消費額

宿泊料金 平均 15,088円

宿泊料以外 平均 3,595円

・合計消費額 (10,189人分)

宿泊料金 154百万円 (うち助成額 94.3百万円)

宿泊料以外 37百万円

内訳 交通費 5.5百万 お土産 17.6百万

飲食 9.9百万 その他 4百万

・経済波及効果 372百万 (※327百万)

※アンケートにて元々予定があった等、市助成がなくて来たと思われる割合を除いた額

1人3千円(食事や特産品)お得

ゴールドプラン

・一人当たり消費額

宿泊料金 平均 13,527円

宿泊料以外 平均 5,373円

・合計消費額 (25,548人分)

宿泊料金 346百万円 (うち助成額 76.6百万円)

宿泊料以外 137百万円

内訳 交通費 24.7百万 お土産 61.7百万

飲食 38.4百万 その他 12.3百万

・経済波及効果 919百万 (※397百万)

※アンケートにて元々予定があった等、市助成がなくて来たと思われる割合を除いた額

R4

かづの宿泊促進事業

◆鹿角連泊促進事業

発行総数5,800セット

・2泊(5,000円助成) 3,000人泊

・3泊(10,000円助成) 2,000人泊

・4泊以上(15,000円助成) 800人泊

◆観光スタンプラリー事業

市内観光施設を巡るスタンプラリー

毎月総額100円の市内特産品を景品

連泊+スタンプラリーで、市内周遊を促し滞在時間の増加を狙う!

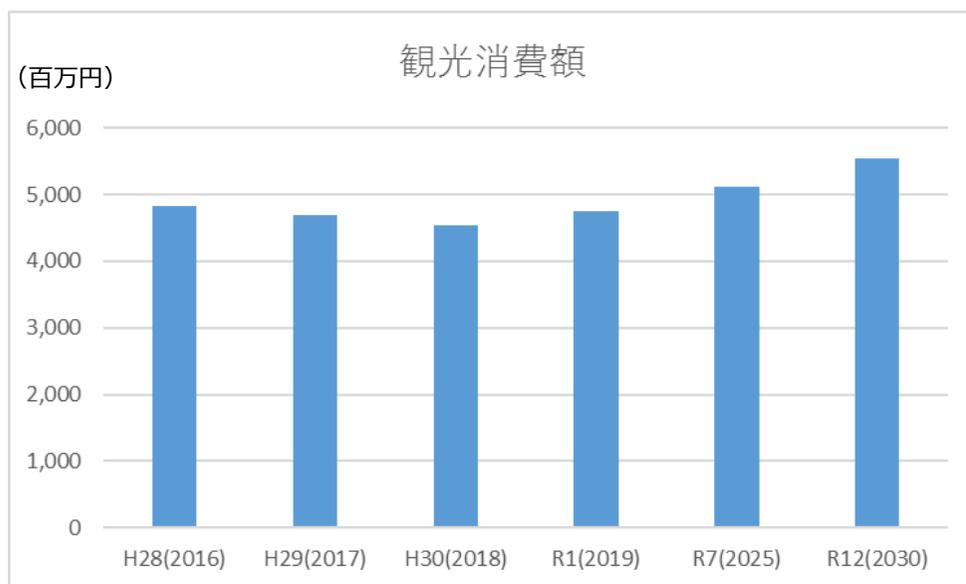
➡ 観光消費額の増加 76

観光消費額の増加

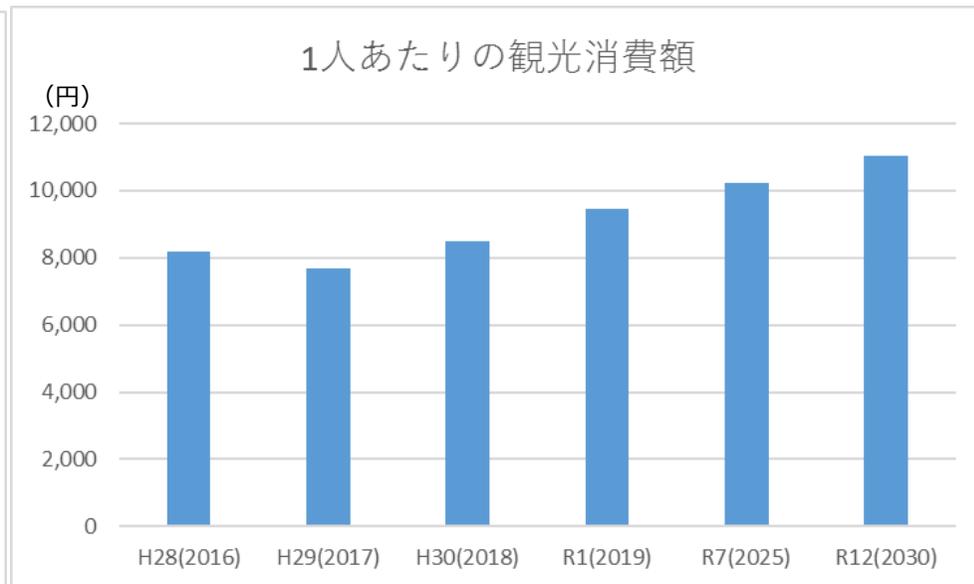
◆滞在時間を増やし観光消費額を増加

【成果指標】R7 5,125百万円

【成果指標】R7 10,216円（1人あたり）



【基準値】 【目標値】



【基準値】 【目標値】



出典:鹿角市産業活力課

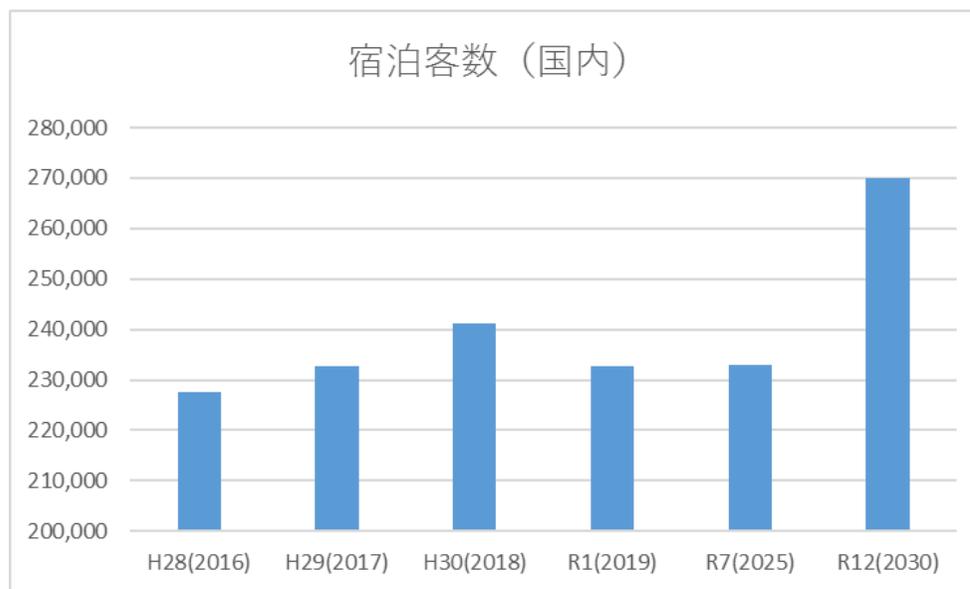
鹿角市の目指す姿

観光消費額の増加

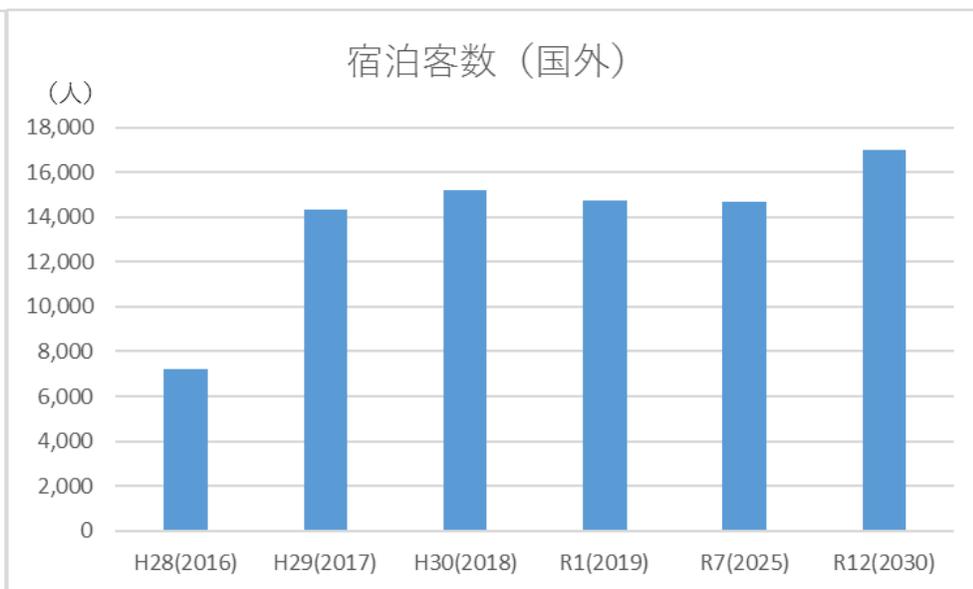
◆ 宿泊客数を増やし観光消費額を増加

【成果指標】R7 233,000人

【成果指標】R7 17,000人



【基準値】 【目標値】



【基準値】 【目標値】



出典:鹿角市産業活力課

鹿角市の目指す姿

観光消費額の増加

◆新たなコンテンツ開発

「国立公園八幡平魅力アップ構想」の実現を支援



アクティビティエリア整備
を最優先

→新たなコンテンツ
=アドベンチャー施設

【目標】

★年間利用者
初年度 8,500人
→5年目 13,000人
★売上
初年度 25,500千円
→5年目 39,000千円⁷⁹

観光消費額の増加

◆滞在時間の増加

「国立公園八幡平魅力アップ構想」の実現を支援

→地域活性化起業人材確保（株JALサービスより出向） 1人
（中核的観光団体体制強化伴走型支援事業の活用）

ヘリテージ・ツーリズム造成による誘客

→リピーターの確保
・かづのプレミアムツアー開催

大湯環状列石JOMON体感促進事業

→JOMON体験プログラムの開発
・食
・まつり
・暮らし

観光消費額の増加

◆産業連携による土産物開発

道の駅おおゆ販売体制強化事業

→物販の展開 ※地域商社事業との連携

→オリジナル商品の開発  販路拡大

→イベントの開催

観光消費額の増加

◆デジタル・マーケティングによる分析力強化

→観光チャットボット導入

→観光予報プラットフォームの使用

→デジタルプロモーション

→観光消費額推計（継続）



分析力強化

的確な時期に的確な
ターゲット層へのPR可能

観光消費額の増加

◆労働力の確保・観光人材育成

中核的観光団体体制強化伴走型支援事業

→地域活性化起業人の活用（再掲）

（八幡平温泉リゾート協会）

→ステップアップ計画の策定を支援

（NPO中滝ふるさと学舎、NPO関善）

観光人材確保

職業ガイドへ
発展

観光ガイド育成事業

→新たな観光コンテンツの案内

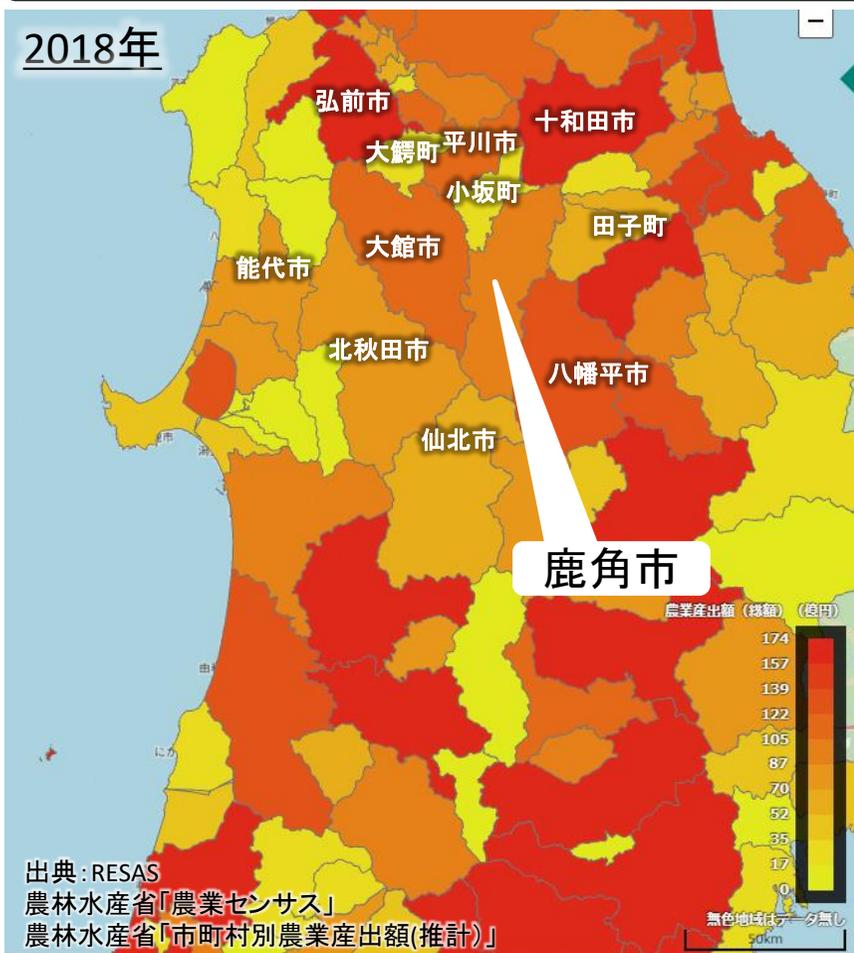
（現状：まちの案内人協議会（30人））

06 鹿角市の農業分析

農業分析

鹿角市の農業産出額

産業構造マップ → 農業 → 農業算出額



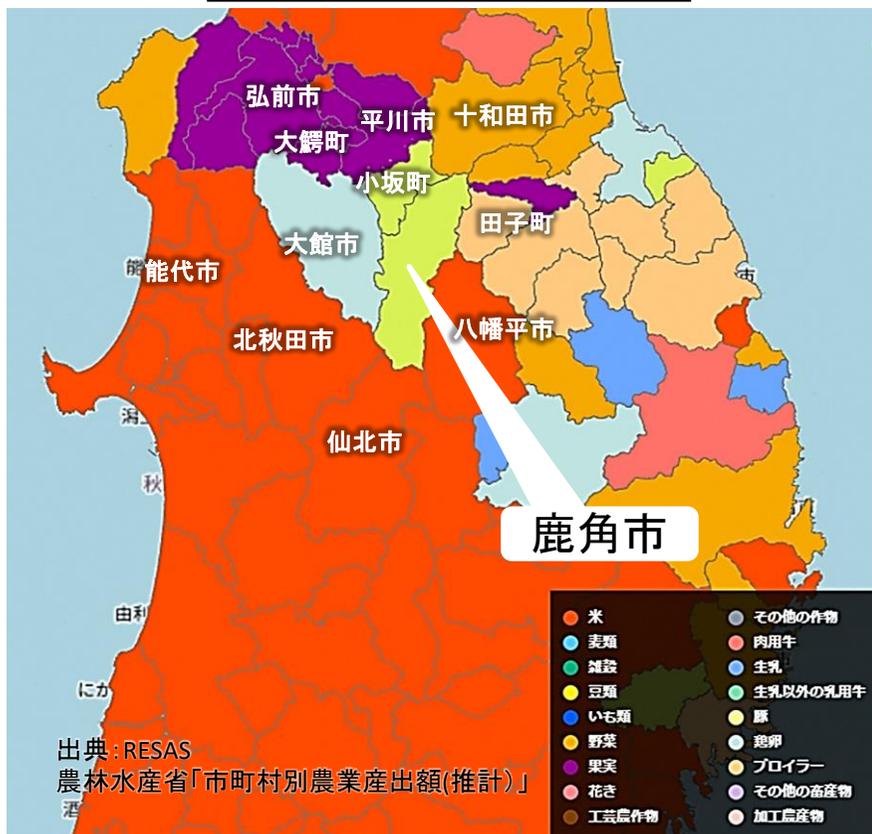
都道府県名	市区町村名	農業産出額計 (千万円)
青森県	弘前市	4,298
青森県	十和田市	2,465
岩手県	八幡平市	1,393
秋田県	大館市	1,205
青森県	平川市	1,171
秋田県	鹿角市	957
秋田県	能代市	853
秋田県	北秋田市	745
青森県	田子町	690
秋田県	仙北市	656
青森県	大鰐町	281
秋田県	小坂町	244

・秋田県では第6位であり、県北地区では大館市に次いで高い値である。

鹿角市の農業の構造

産業構造マップ → 農業 → 農業の構造

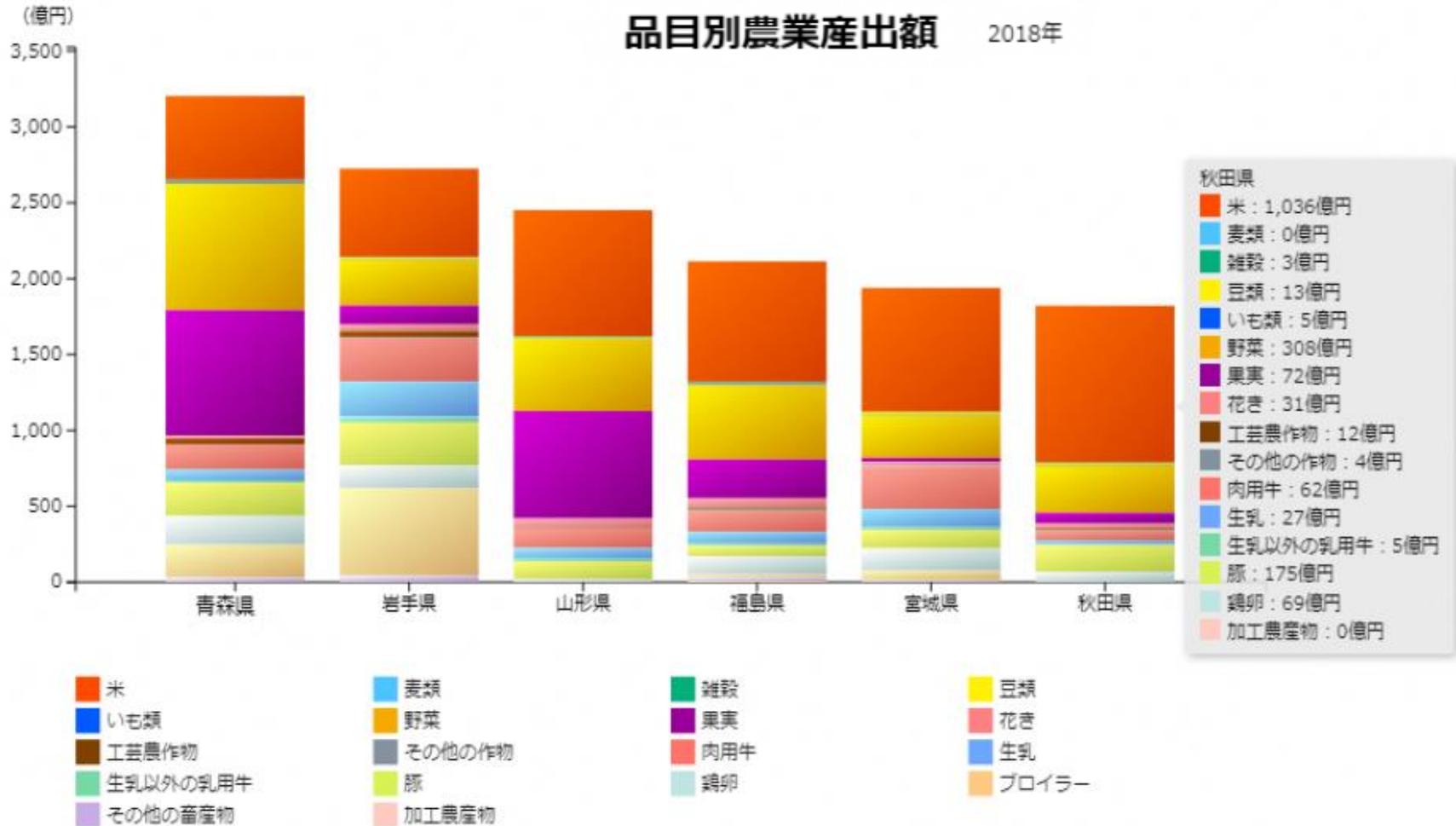
2018年の主要作物マップ



県名	市町村名	主要作物	主要作物の農業産出額(千万円)
秋田県	鹿角市	豚	378
秋田県	小坂町	豚	X(秘匿値)
秋田県	大館市	鶏卵	417
秋田県	北秋田市	米	359
秋田県	能代市	米	493
秋田県	仙北市	米	355
岩手県	八幡平市	野菜	226
青森県	弘前市	果実	3,576
青森県	十和田市	野菜	916
青森県	平川市	果実	680
青森県	大鰐町	果実	218
青森県	田子町	野菜	131

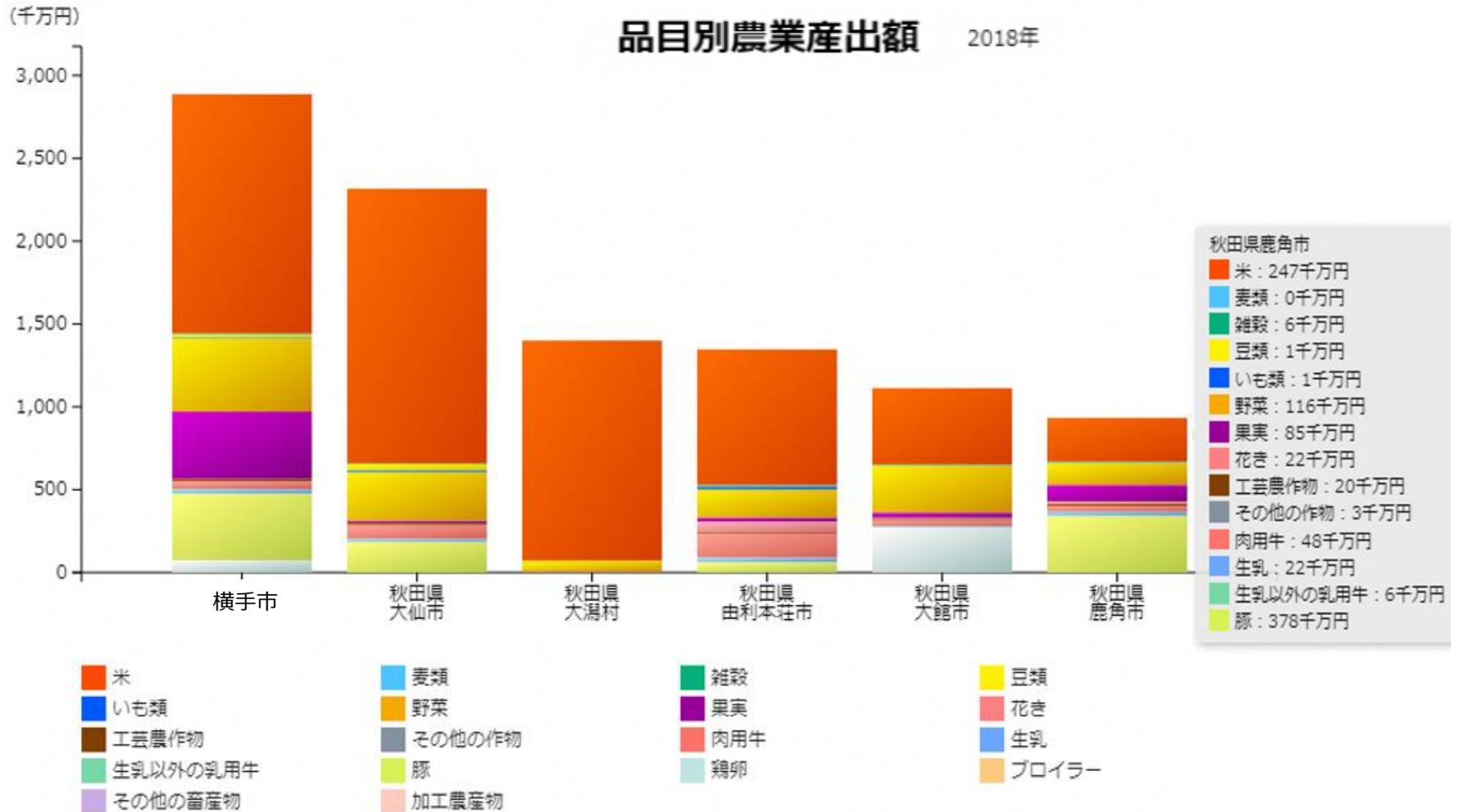
秋田県内で比較すると、米を以外が主要作物である自治体は少ない。鹿角市の米の産出額は247千万円で全県で第16位である。

東北6県の品目別農業産出額



・秋田県の農業産出額は東北最下位である。

秋田県内の品目別農業産出額



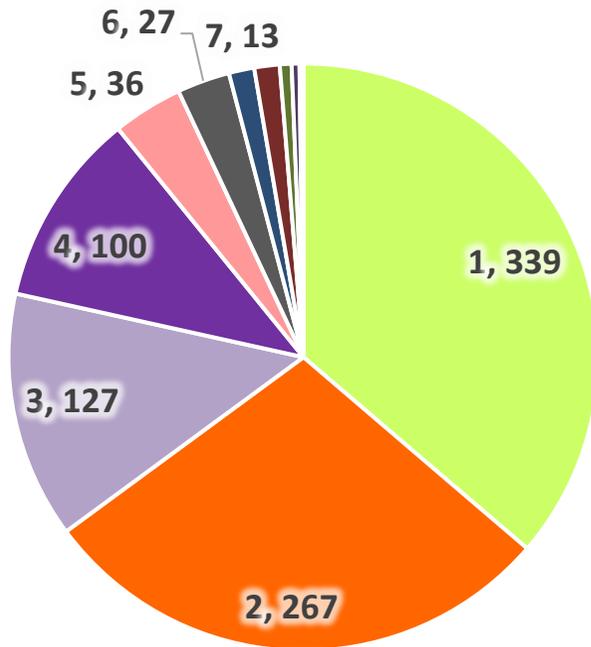
・平成30年度の鹿角市の産出額では秋田県内 第6位（957千万円）である

秋田県と鹿角市の農業産出額割合の比較

2019年 品目別 農業産出額 鹿角市

市町村別農業産出額（推計）：937千万円

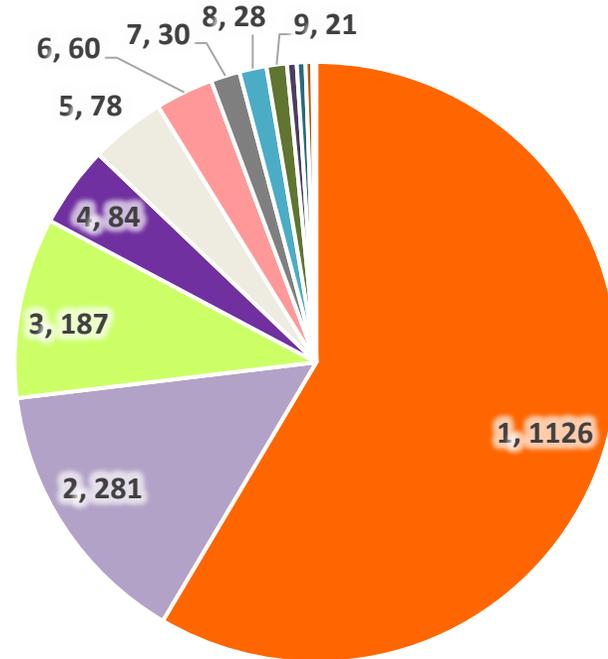
単位：1,000万円



2019年 品目別 農業産出額 秋田県

市町村別農業産出額（推計）：1,931億円

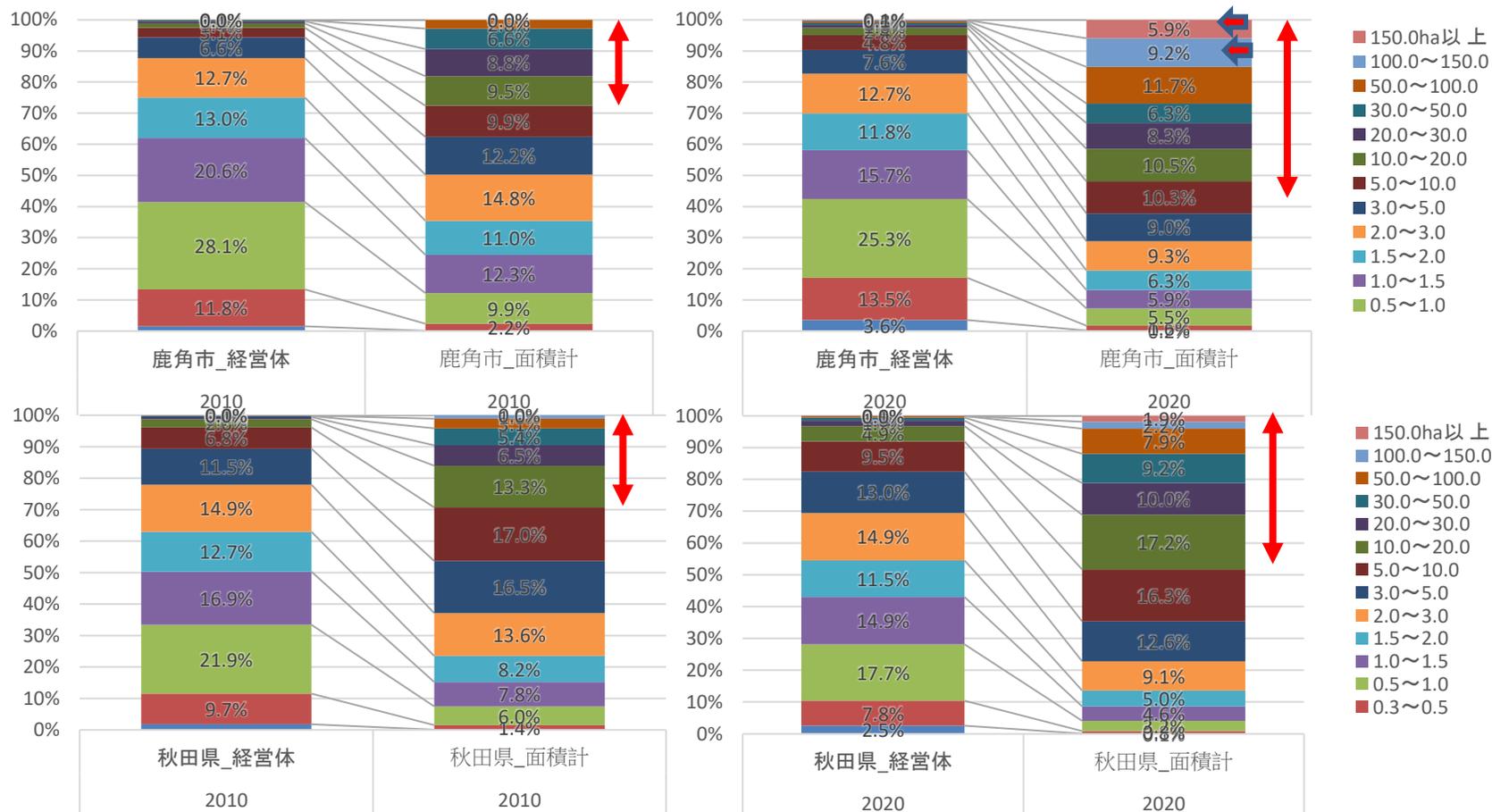
単位：億円



作成：鹿角市農業振興課

- 鹿角市は、「豚」の農業産出額が最も高く、次いで、「米」、「野菜」、「果実」が高い。

鹿角市の1経営体あたりの耕作面積

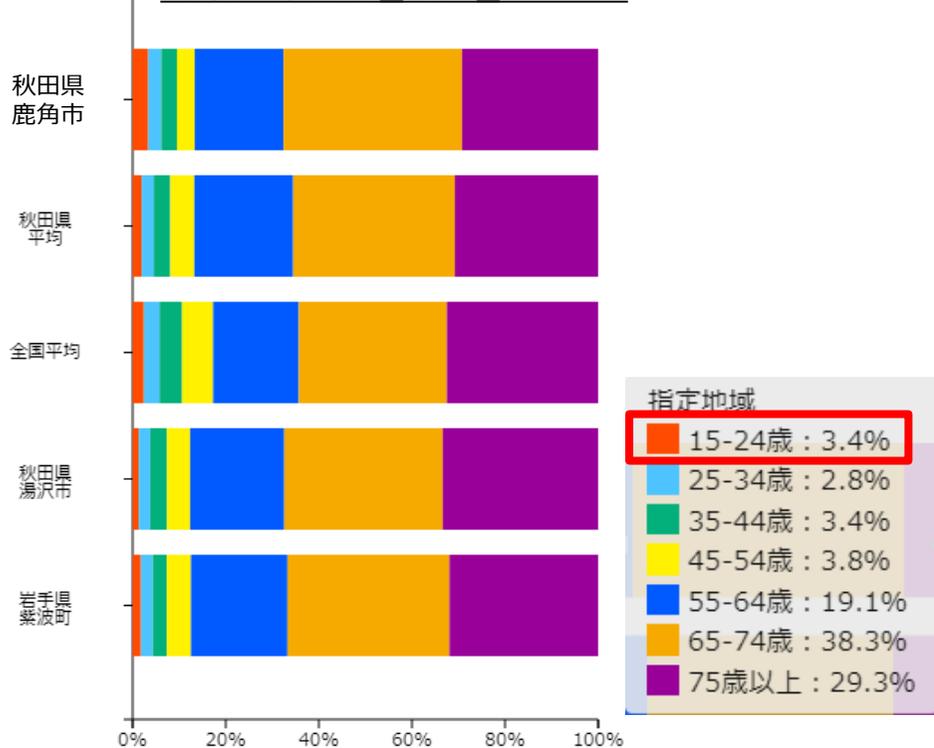


- 2010年に比べ、小規模農家の耕作面積が減り、大規模農家（10ha以上）が耕作する面積が全体の半分を占めるようになった。
- 大規模法人の経営面積は県平均よりも全体に占める割合が高く、より大きな経営規模の法人が面積を担っている→個々の法人の経営面積が上限に迫っている可能性。
- 一方で、小規模農家（5ha未満）については、県平均よりも数および面積割合が大きい。

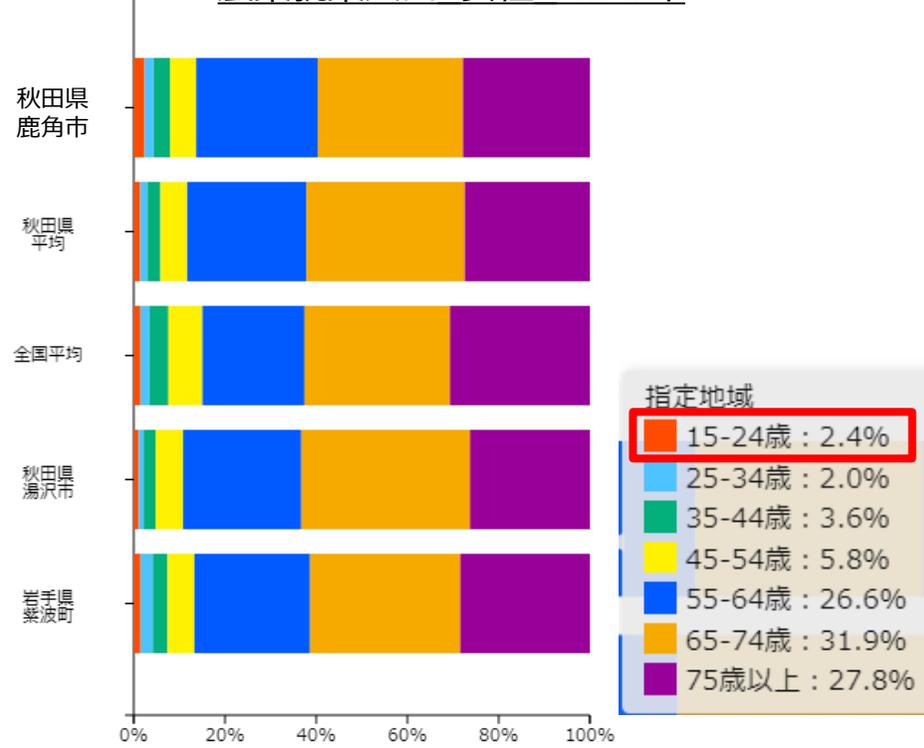
鹿角市の農業従事者の特徴

産業構造マップ → 農業 → 農業者分析

農業就業人口の年齢構成
農業就業人口 男性 2015年



農業就業人口の年齢構成
農業就業人口 女性 2015年

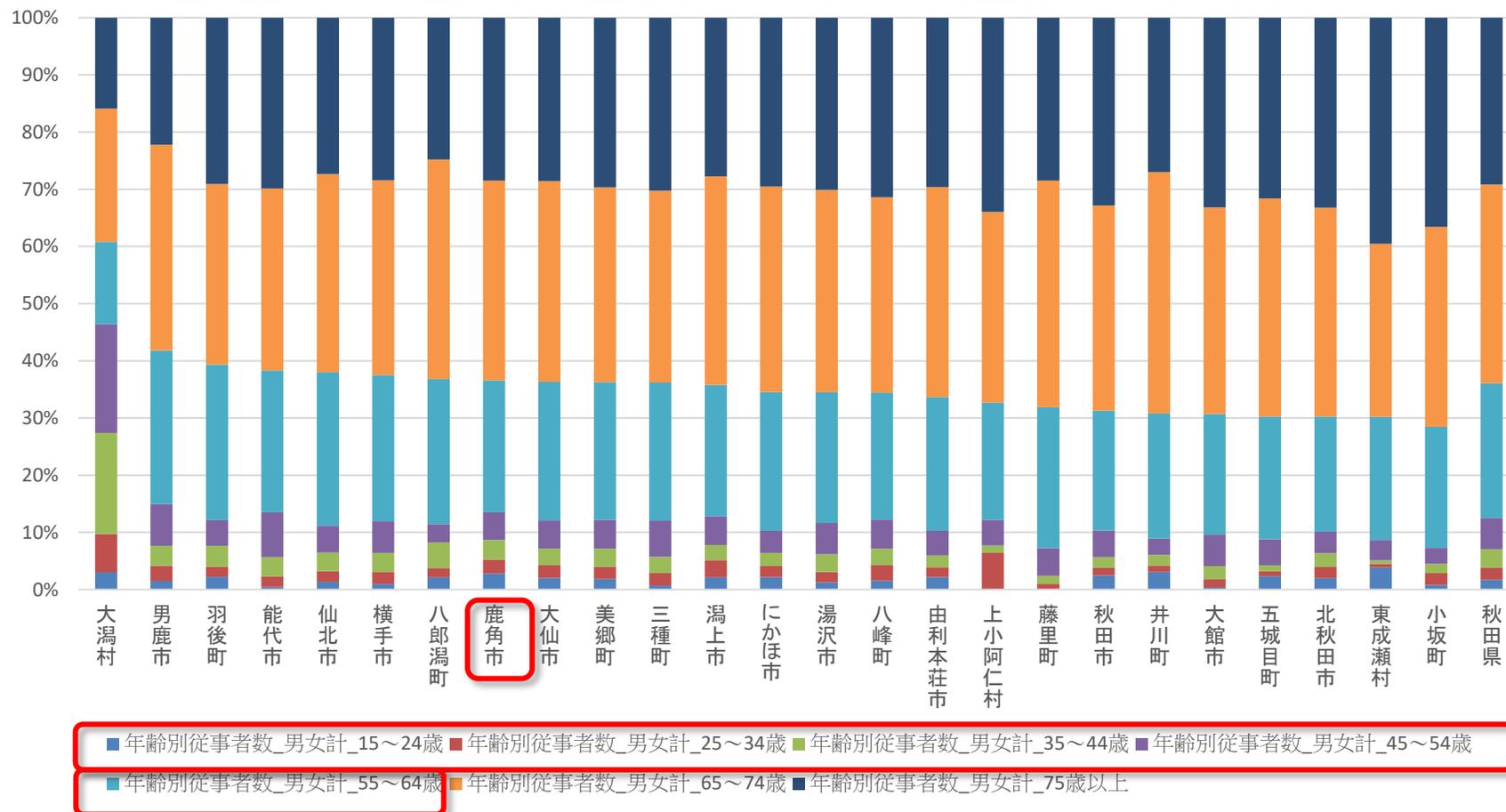


POINT >>

「農業就業人口」について分析すると、県や全国、湯沢市、紫波町と比較して男女ともに「15-24歳」の就業人口の割合が高い（男性（秋田県1.9%、全国2.4%）、女性（秋田県1.4%、全国1.5%））。若い世代の農業参加を推進する施策などが効果的になっているか。認定農業者制度の活用が進んでいるか。

鹿角市の農業従事者の年齢比率

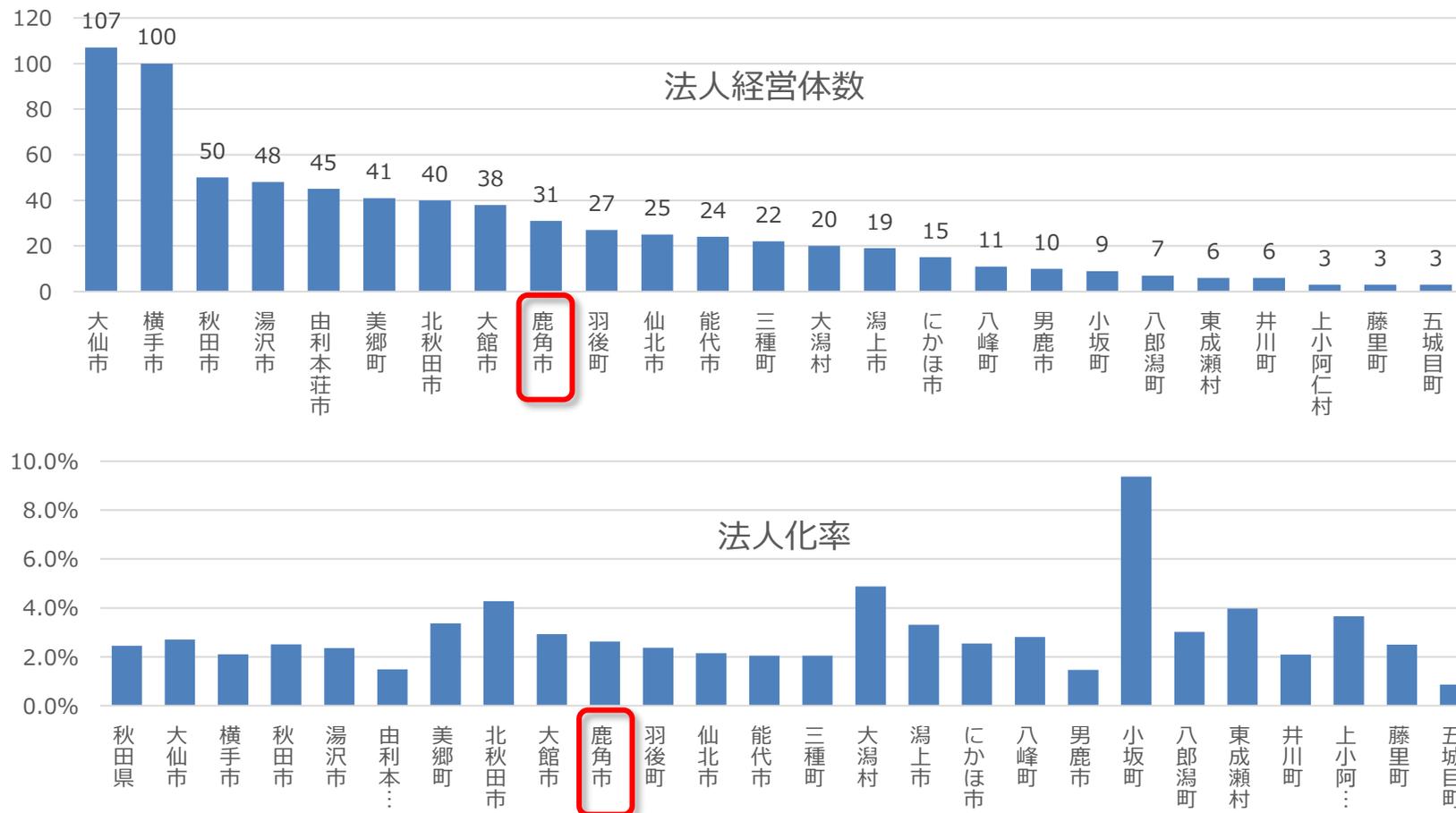
農業従事者の年齢比率(64歳以下でソート) 2015年農林業センサスより



- 全県で高齢化が進行している。県全体では65歳以下の農業従事者の割合は36.1%。
- 鹿角市の65歳以下の割合は36.6%で、上位から8番目で県平均に近い。
- 54歳以下、44歳以下はともに県平均より高いがその差は微々たるもので、実数も非常に少ない

秋田県内の法人経営体数と法人化率

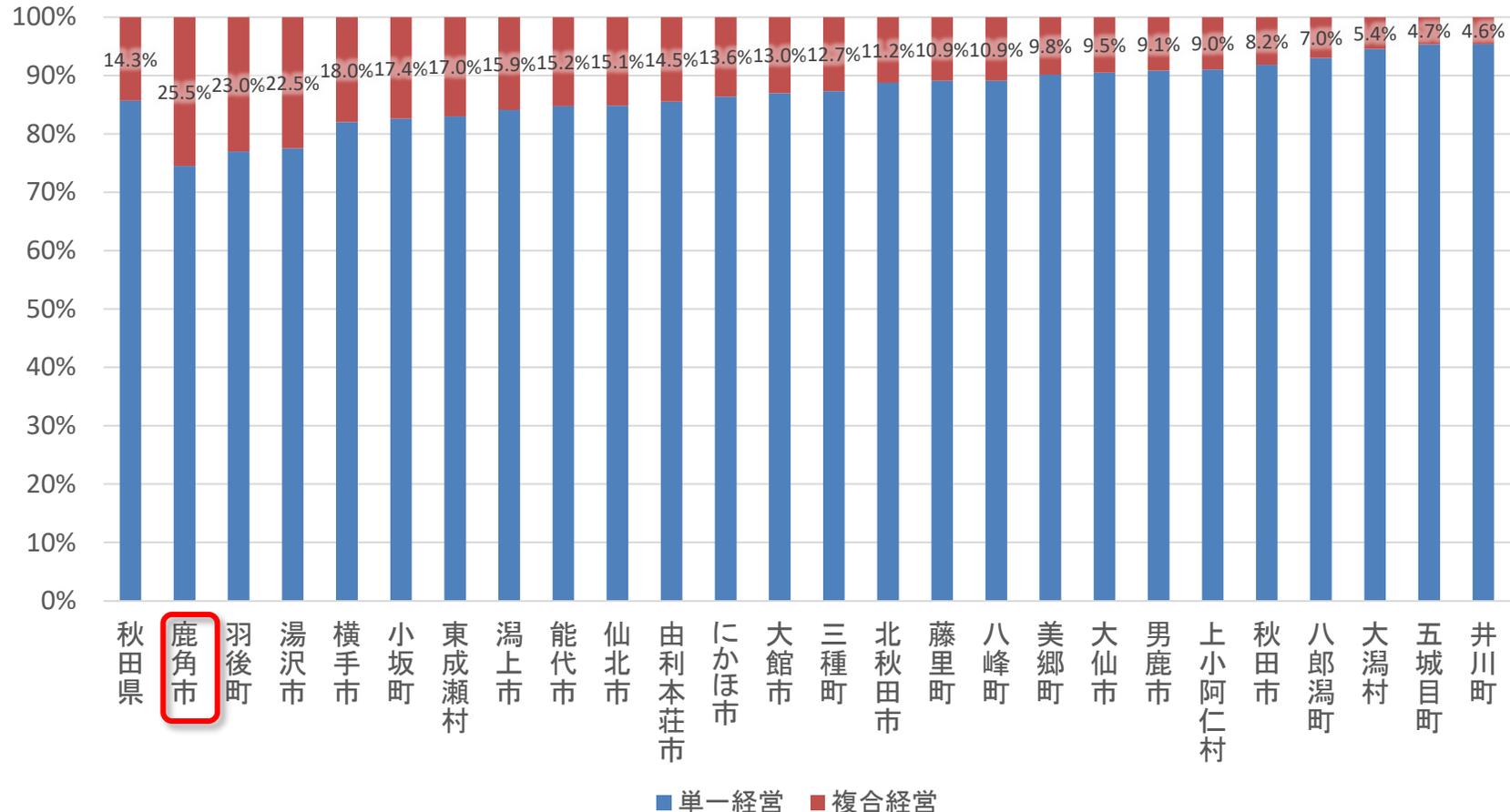
法人経営体数と法人化率（2020センサス）



- 法人経営体数は県内第9位
- 法人化率は県内第12位 2.6% 県内平均2.5%よりも高く、県内でも法人化は進んでいる方である。

鹿角市の複合経営体の比率

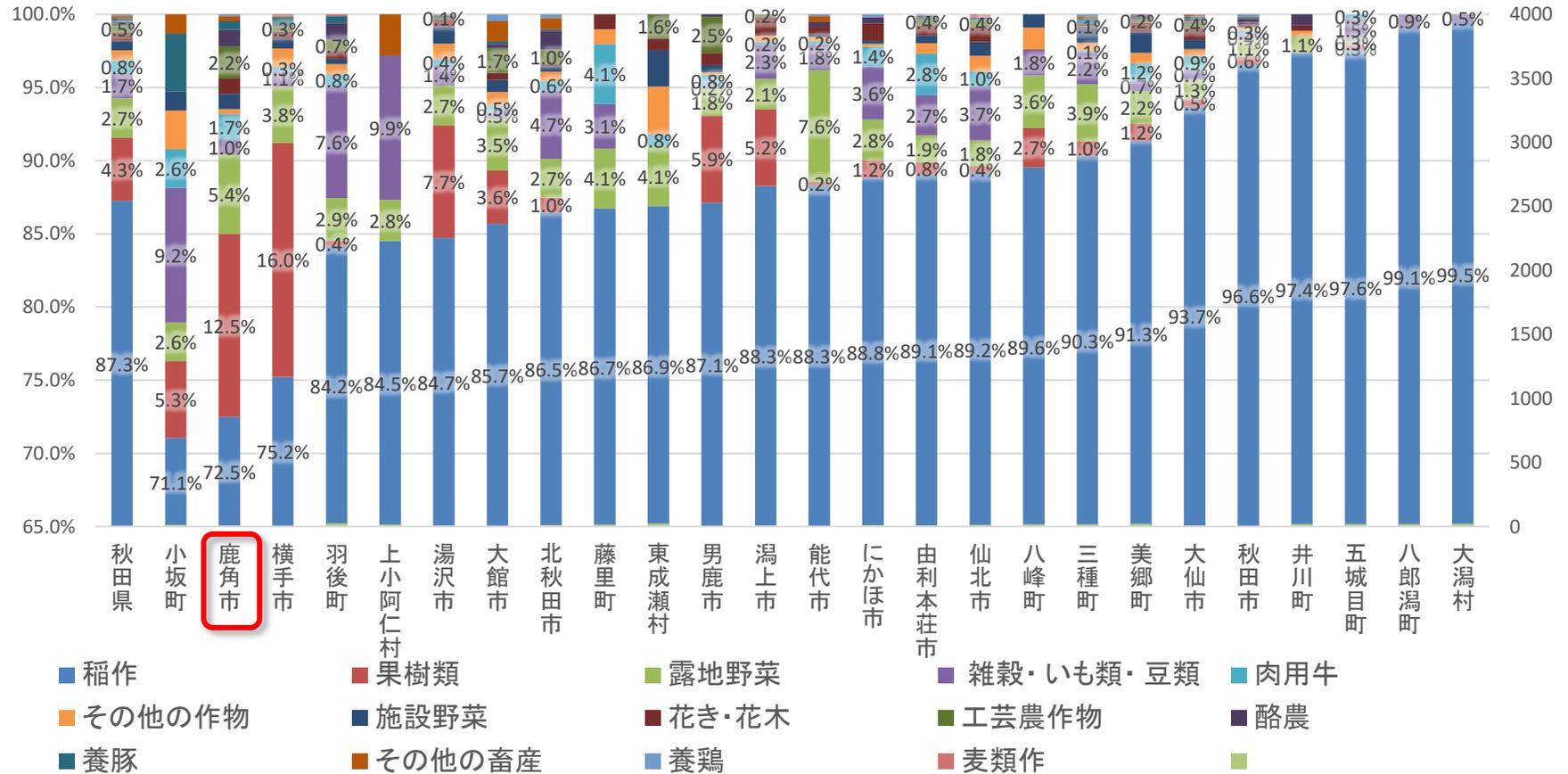
農産物の販売のあった経営体うち複合経営体の比率@複合降順(2020センサス)



- 第1位の作物の売上額が80%未満→複合経営体。(2015までは60%未満)
- 2005 (県2.9%、鹿角市6.0%) 2010 (県3.1%、鹿角市6.6%) 2015 (県2.8%、鹿角市6.5%) **複合経営体の比率は県内一位 (過去4回ととして)**

鹿角市の単一経営体の作物

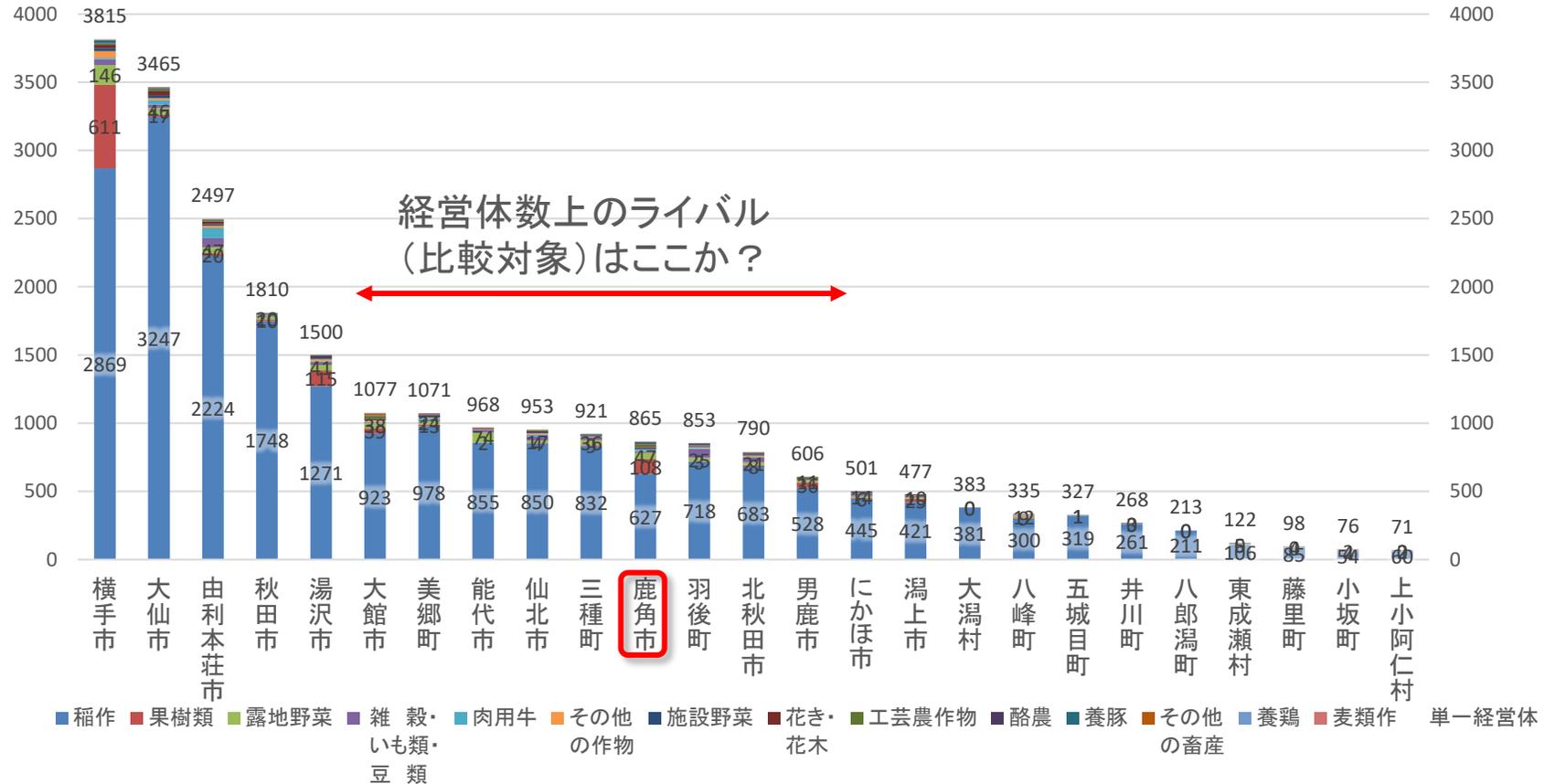
単一経営体（第1作物の売り上げが全体の80%以上）の作物（2020センサス）



- 全経営体に対する水稻単一経営体の割合は全県で下から2位
- 実数との比較が必要
- 水稻を主としない経営体が多いのは狭隘な土地（林地以外の土地における、水稻作付可能な平野部が少ないこと）が要因か？もしくは先人が頑張って台地を切り拓いたか。

鹿角市の単一経営体の作物

単一経営体(第1作物の売上げが全体の80%以上)の作物(2020センサス)



- 全経営体に対する水稲単一経営体の割合は全県で下から2位
- 市レベルでは水稲単一経営体の割合が一番低い → 水稲への依存度が低い
- 複合経営は進んでいるが、実面積で比べるとそれほど優位ではないかもしれない。

鹿角市の認定農業者の水稲作付面積と複合作物

	生産者数 (JA等)	認定率	認定農業者(個人)		水稲作 付なし	水稲面積				複合経 営者の 比率
			比率	水稲作 付なし		0-5ha未 満	5以上- 10ha未 満	10以上- 20ha未 満	20ha以 上	
水稲単一	2,220		39	19.2%		16	12	8	3	
複合作物(複 数ある場合 は面積第1位)	きゅうり	132	30.3%	40	19.7%	2	31	4	3	24.4%
	りんご	229	12.7%	29	14.3%	5	17	6	1	17.7%
	葉たばこ	61	29.5%	18	8.9%		16	1	1	11.0%
	トマト	28	57.1%	16	7.9%	1	9	4	1	9.8%
	もも	137	7.3%	10	4.9%	2	5	3		6.1%
	新テッポウユリ	23	30.4%	7	3.4%	3	3	1		4.3%
	乳用牛	10	70.0%	7	3.4%	6	1			4.3%
	アスパラガス	47	12.8%	6	3.0%		4	2		3.7%
	黒毛一貫経営			6	3.0%	3	3			3.7%
	そば			5	2.5%	1	2	1	1	3.0%
	繁殖牛(黒毛)			5	2.5%	2	3			3.0%
	いちご			2	1.0%		1		1	1.2%
	ねぎ	24	8.3%	2	1.0%		2			1.2%
その他			11	5.4%	1	7		3		6.7%
合計			203	100.0%	26	120	34	18	5	16.4%

30代	40代	50代	60代	70代	80代
1	6	5	12	14	1
	4	7	18	10	1
1	3	3	11	8	3
1	1	6	5	4	1
2	1	1	9	3	
	1	1	4	3	1
3	1		3		
	1	1	4	1	
	1		3		2
	2		4		
1			3	1	
		1	1	3	
			2		
				1	1
0	0	1	4	5	1
9	21	28	81	53	11
4.4%	10.3%	3.8%	39.9%	26.1%	5.4%

認定農業者(法人)

	水稲面積				
	作付なし	0以上 5ha未満	5以上 10ha未満	10以上 20ha未満	20ha以上
水稲単一				1	1
複合作物	そば	1		3	8
	枝豆			1	3
	豚	5			
	その他	4			5
	合計	10	0	2	4
割合	30.3%	0.0%	6.1%	12.1%	51.5%

作成：鹿角市農業振興課

※市としては生産拡大のため、認定農業者へ誘導したい。

- 個人農業者の約6割は水稲作付が5ha未満。法人は約5割が20ha以上。
- 個人農業者の約7割が60歳以上。
- 認定農家がJA生産者数に占める割合が低い作物は、兼業(主業じゃない)が多い?労働生産性が低い?
- 認定率が低い→生産拡大のための融資、補助事業の活用を必要とする人の割合が低い。

鹿角市の認定農業者が課題と感じていること

課題と感じていること	合計	認定農業者								新規就農者
		法人	個人合計	水稲単一	複合経営					
					りんご	きゅうり	葉たばこ	トマト	その他	
労働力の確保	48	10	34	5	10	6	3	3	7	4
自身・家族の高齢化	40	1	39	6	12	6	4	3	8	
収益の確保・経費削減	37	7	25	6	5	5			9	5
後継者不足	28	7	21	4	4	6	1	2	4	
売価低迷	23	5	18	4	1	4	2		7	
栽培技術	19	3	13		3	4	2	1	3	3
経営面積の拡大	18	6	9	2	2	2			3	3
売り先の確保	10	3	5		1	2			2	2
経理等の事務	5	1	2		1				1	2
アンケート回答者の実数	87	17	63	10	15	13	4	3	18	7

課題の解決策	合計	認定農業者								新規就農者
		法人	個人合計	水稲単一	複合経営					
					りんご	きゅうり	葉たばこ	トマト	その他	
機械導入支援	58	9	46	9	10	10	1	2	14	3
人材確保支援	39	10	25	3	9	3	1	2	7	4
農地の集積・集約	25	4	19	4	2	5	2		6	2
事業継承支援	21	5	16	3	4	4		1	4	
スマート農業の普及	18	5	11	4	3	1		1	2	2
販売促進活動	14	2	11	1	3	3	1		3	1
セミナー・研修会等の実施	10	2	7	1		2	1	1	2	1
新規就農支援	8	1	5		2	2			1	2
域内流通拡大（直売等）	6		5	1	1	2			1	1
アンケート回答者の実数	87	17	63	10	15	13	4	3	18	7

認定農業者等アンケート結果

1. 実施目的

認定農業者等の方々が抱える課題を抽出し、今後の施策に反映させることで、本市農業の持続的な発展につなげることを目的とする。

2. 実施期間

令和3年4月1日～23日

3. 調査対象

認定農業者及び認定新規就農者253名

4. 調査方法

調査対象に郵送配布、郵送回収

5. 回答状況

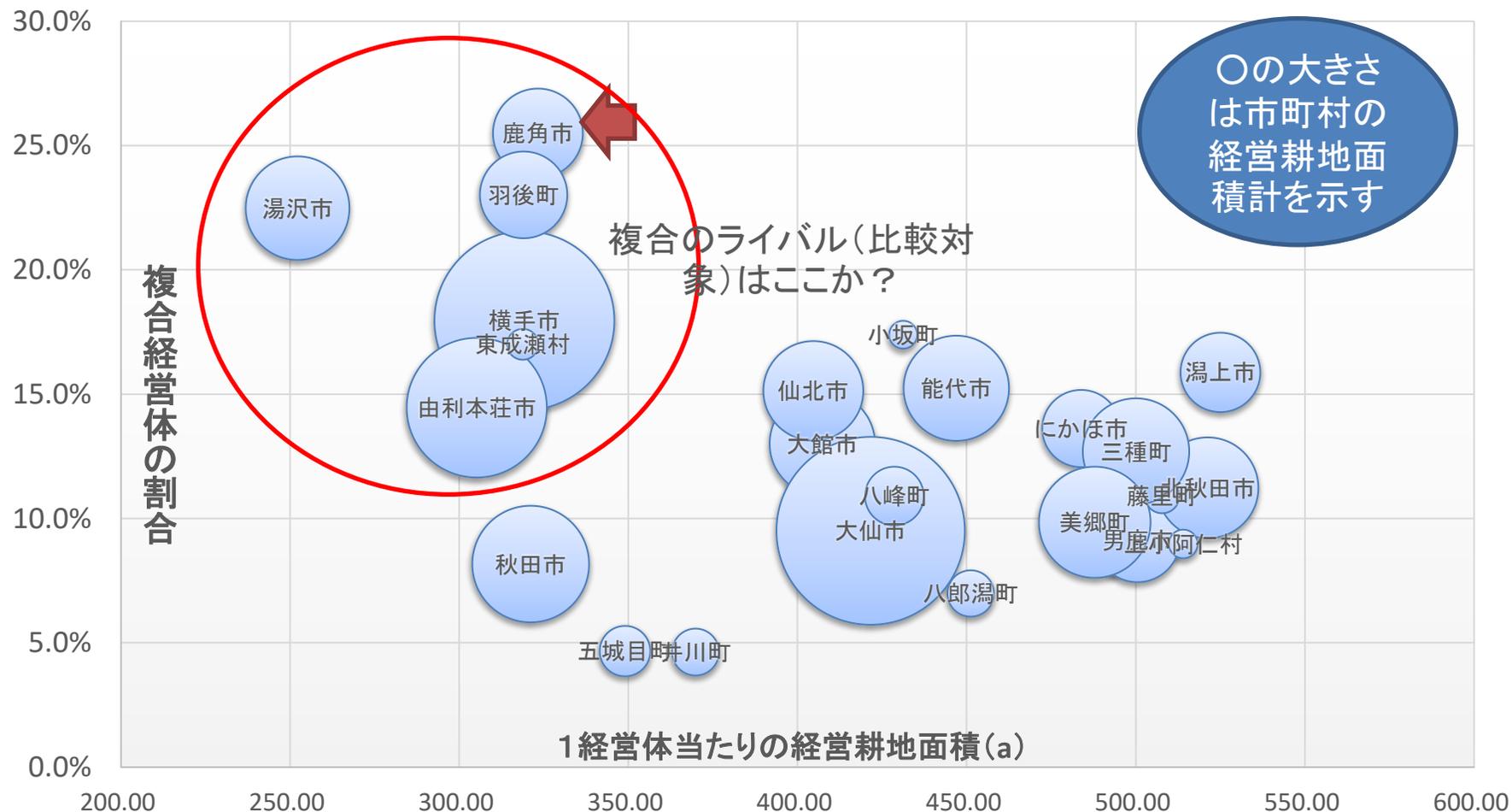
回答者数87名(回答率:34%)

作成：鹿角市農業振興課

- 課題感は法人と個人で異なり、また、個人でも主作物によって傾向が異なる。
- 課題の解決策については、全体では「機械導入支援」が圧倒的(66.7%)であるが、法人で見ると「機械導入支援」と「人材確保支援」がほぼ同率になる。

鹿角市の複合経営体と経営耕地面積の関係

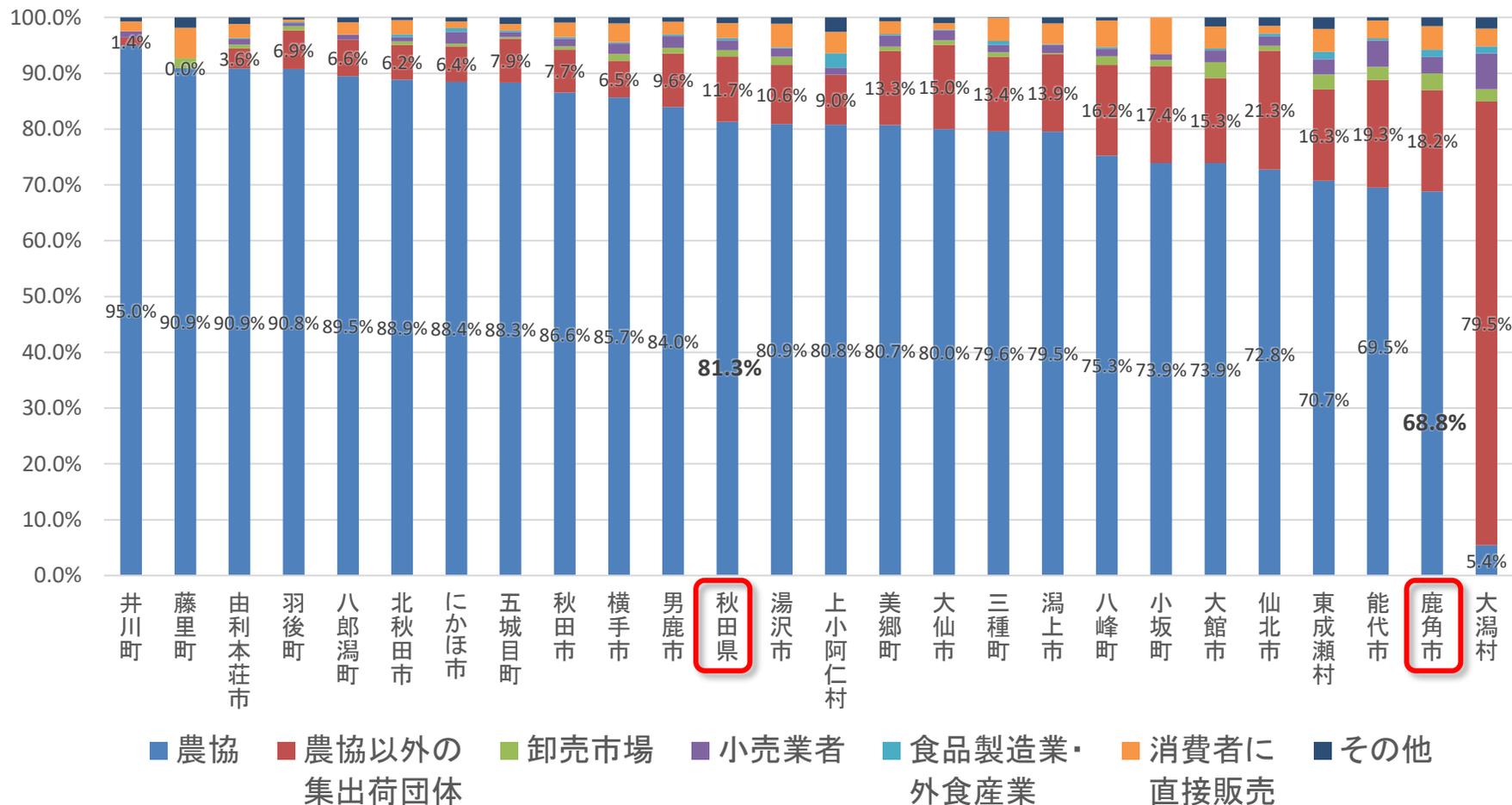
複合経営体と経営耕地面積の関係(2020センサス)※大潟村除き



- 1経営体あたりの経営耕地面積が少ないほど複合経営が進んでいる傾向がある。
- 大潟村は右下に突出するため省略。
- 複合経営 強み（米価下落の影響が弱まる）弱み（労働生産性低い？）

鹿角市の農作物販売額 1 位の出荷先

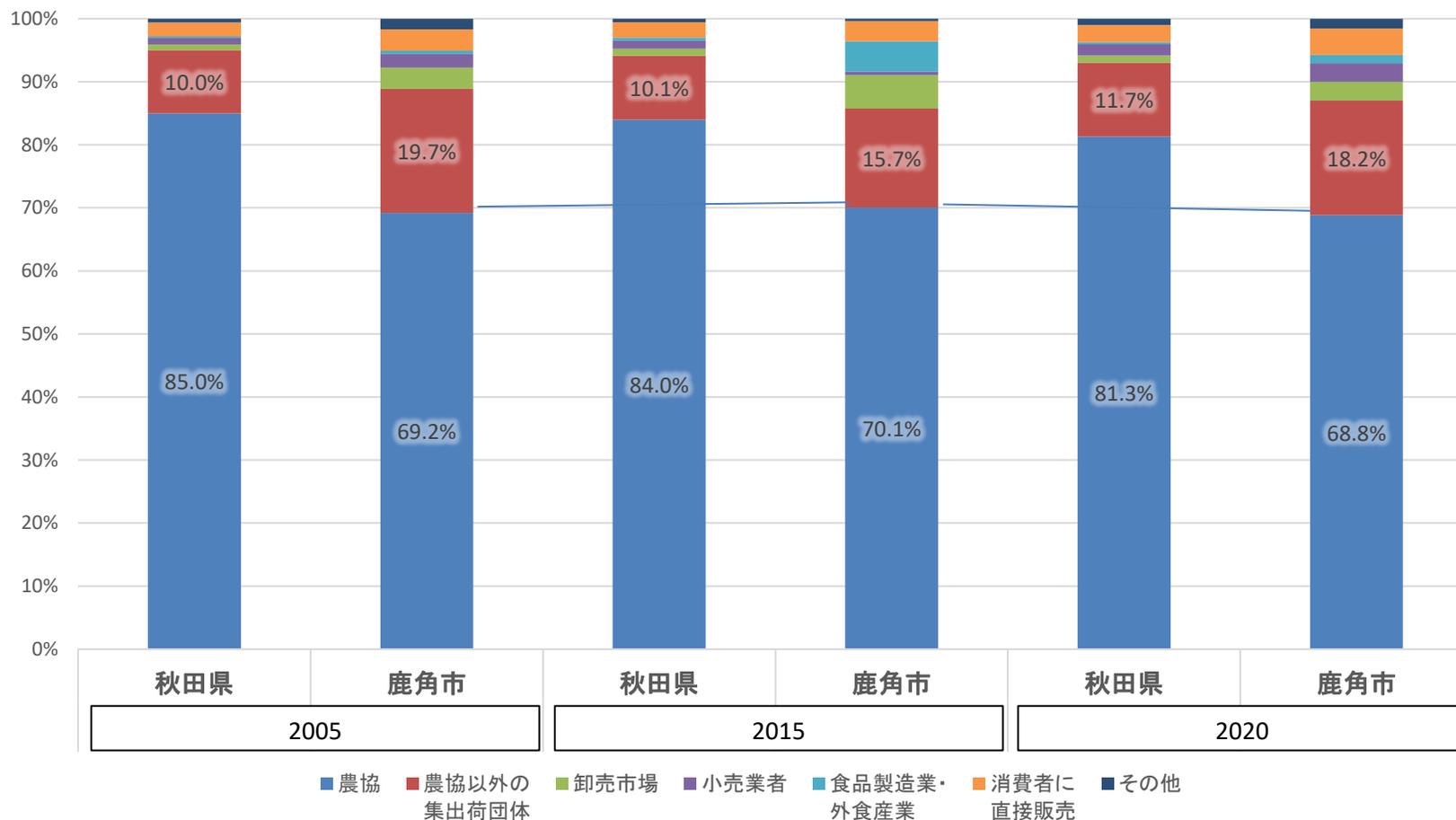
農産物販売金額 1 位の出荷先 (2020 センサス)



- 大潟村を除くと J A への出荷比率が県内で一番低い (68.8%) ⇔ 秋田県 (81.3%)
- 強み (個販・有利販売が進んでいる。) 弱み (系統出荷のメリットを引き出せない)

秋田県と鹿角市の農産物販売金額 1 位の出荷先の推移

農産物販売金額1位の出荷先(2020センサス)



- 県全体での J A への出荷比率は下落傾向
- 鹿角市の J A への出荷比率は横ばい

鹿角市の農畜産物の作付・飼育状況 わがマチ・わがムラ

販売を目的とした農畜産物の作付・飼育状況

■ 稲、麦、雑穀、いも類、豆類、工芸農作物

	農業経営体数	作付面積
水稲	999 経営体	2,145 ha
陸稲	X	X
麦類		
小麦	2 経営体	X
大麦	X	X
裸麦	-	-
そば	69 経営体	511 ha
その他雑穀	2 経営体	X
いも類		
ばれいしょ	9 経営体	0 ha
かんしょ	-	-
豆類		
大豆	9 経営体	25 ha
小豆	4 経営体	0 ha
その他の豆類	11 経営体	9 ha
工芸農作物		
さとうきび	-	-
なたね	-	-
茶	-	-
てんさい	-	-
こんにゃくいも	X	X
その他工芸農作物	64 経営体	44 ha

■ 野菜

	農業経営体数	作付面積
だいこん	38 経営体	5 ha
にんじん	X	X
さといも	3 経営体	0 ha
やまのいも	X	X
はくさい	30 経営体	1 ha
キャベツ	31 経営体	3 ha
ほうれんそう	29 経営体	3 ha
レタス	3 経営体	0 ha
ねぎ	38 経営体	8 ha
たまねぎ	2 経営体	X
ブロッコリー	5 経営体	0 ha
きゅうり	122 経営体	23 ha
なす	14 経営体	1 ha
トマト	39 経営体	8 ha
ピーマン	3 経営体	X
いちご	8 経営体	2 ha
メロン	1 経営体	X
すいか	1 経営体	X
その他の野菜	280 経営体	36 ha

■ 果樹

	農業経営体数	栽培面積
温州みかん	X	X
その他のかんきつ	-	-
りんご	238 経営体	143 ha
ぶどう	9 経営体	2 ha
日本なし	X	X
西洋なし	3 経営体	1 ha
もも	X	X
すもも	1 経営体	X
おうとう	-	-
うめ	X	X
びわ	-	-
かき	X	X
くり	-	-
キウイフルーツ	-	-
パインアップル	-	-
その他の果樹	19 経営体	X

■ 花き

	農業経営体数	栽培面積
花き類	42 経営体	14 ha
花木	7 経営体	4 ha

■ その他の作物

	農業経営体数	栽培面積
その他の作物(稲(飼料用)を除く)	16 経営体	40 ha

■ 畜産

	農業経営体数	飼養頭(羽)数
乳用牛	11 経営体	416 頭
肉用牛	46 経営体	1,007 頭
豚	6 経営体	41,856 頭
採卵鶏	-	-
	農業経営体数	出荷羽数
ブロイラー	1 経営体	X

注1:2020年農林業センサスによる令和2年2月1日前1年間の値。

注2:作付(栽培)面積については、販売を目的として作付け(栽培)された面積。

注3:農家の自己申告による。

鹿角市の作物別販売額の県内順位

販売額の県内順位(令和元年市町村別農業産出額)

区分	産出額計 ①+②+③	耕種計 ①	米	計	麦類				雑穀 計	そば	豆類		いも類			
					小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦			大豆	小豆	計	ばれい	かんしょ	
産出額	937	533	267	x	x	-	-	-	6	6	4	4	0	1	1	-
県内順位	R1	7	13	16	5	5			2	2	15	15	10	18	18	
	H30	6	13	16	3	3		1	2	2	18	18	12	15	15	10
	H29	6	13	17	3	3			2	2	20	21	8	16	15	11

区分	計	野菜																その他		
		だいご	にんじ	さいい	やま	はくさ	キャベ	ほうれ	レタス	ねぎ	たまね	ブ	きゅうり	なす	トマト	ピーマ	いち		メロン	すいか
産出額	127	3	1	0	1	1	1	4	0	6	0	0	57	2	20	0	3	0	0	28
県内順位	R1	11	8	1	15	7	11	6	6	15	18	15	1	16	4	9	3	14	18	
	H30	10	12	5	12	5	10	7	10	15	20	12	3	17	5	10	3	10	16	
	H29	11	12	5	13	5	10	7	8	15	20	12	3	18	5	8	3	10	14	

区分	計	果実											花き			
		みかん	りんご	ぶどう	日本なし	西洋なし	もも	おうとう	びわ	かき	くり	うめ		すもも	キウイフルー	パインアップ
産出額	100	-	83	1	0	1	14	-	-	0	-	-	0	-	-	13
県内順位	R1	3	2	7	13	5	1			2			6		7	
	H30	3	2	8	14	7	1			7			4	3	5	
	H29	3	2	8	14	8	1			10			4	3	5	

区分	工芸作物 計	さとうきび	たばこ	茶(生葉)	てんさい	こんにゃ	その他
県内順位	R1	3					5
	H30	1	1				5
	H29	1	1				5

区分	畜産計 ②	肉用牛	乳用牛		豚	鶏	その他畜産物	計 ③	加工農産物				
			計	生乳					乳牛	鶏卵	プロイラー	荒茶	畳表
産出額	404	36	27	21	6	339	0	-	x	1	-	-	-
県内順位	R1	3	5	6	6	3	12		4	8			
	H30	3	4	5	5	3	2		4	6			
	H29	3	5	5	5	3	2		4	5			

作成：鹿角市農業振興課

- 県内順位では、産地形成やブランド化を進めている作物の特徴が出ている。
- 意外にランキングが高いのが「いちご」。①湯沢市、②羽後町についで3位。

鹿角市の作物別販売額の全国順位

販売額の全国順位(令和元年市町村別農業産出額)

区分	産出額計 ①+②+③	耕種計 ①	米	麦類				雑穀計	豆類計	いも類					
				小麦	二条大麦	六条大麦	はだか麦			大豆	小豆	計	ばれい	かんしょ	
産出額	937	533	267	x	x	-	-	6	6	4	4	0	1	1	-
全国順位	R1	290	324	163	686	563		43	38	297	224	320	927	675	
	H30	281	345	186	651	532	153	36	33	486	367	526	811	526	1092
	H29	302	399	218	577	460		60	54	635	549	302	806	570	1091

区分	計	野菜																	その他	
		だいご	にんじ	さとい	やまの	はくさ	キャベ	ほうれ	レタス	ねぎ	たまね	ブロッコ	きゅうり	なす	トマト	ピーマ	いちご	メロン		すいか
産出額	127	3	1	0	1	1	1	4	0	6	0	0	57	2	20	0	3	0	0	28
全国順位	R1	437	348	309	1000	188	376	575	304	657	389	1183	1183	38	685	224	651	557	520	913
	H30	488	488	318	773	147	455	676	439	828	358	1282	993	66	725	233	572	581	321	787
	H29	553	600	482	820	171	634	758	484	760	444	1300	1021	86	711	269	513	570	327	801

区分	計	果実													花き	
		みかん	りんご	ぶどう	日本な	西洋な	もも	おうとう	びわ	かき	くり	うめ	すもも	キウイ		パイン
産出額	100	-	83	1	0	1	14	-	-	0	-	-	0	-	-	13
全国順位	R1	181	37	503	633	62	45			467			353			474
	H30	204	38	516	666	87	51			691			249	536		332
	H29	205	38	553	666	103	48			719			246	561		354

区分	計	工業作物					その他
		さとうき	たばこ	茶(生	てんさい	こんに	
産出額	13	-	-	-	-	x	
全国順位	R1	217				531	
	H30	173		44		480	
	H29	160		35		514	

区分	畜産計 ②	肉用牛	乳用牛		豚	鶏計	その他畜産物	計 ③	加工農産物	
			計	生乳					乳牛	荒茶
産出額	404	36	27	21	6	339	0	-	-	-
全国順位	R1	224	417	460	473	364	42	874	370	295
	H30	191	362	468	487	363	35	932	395	215
	H29	190	443	450	476	318	34	937	395	256

- 全国順位100位以内の作物を黄色で着色。
- 時期や季節での特徴的なものもあるかもしれない（年額では把握できない）。
- 全国順位になると、県内順位に比べ途端に特徴がなくなる。

鹿角市の作物別販売額の県内順位

販売額統計データとJA販売額データの比較(令和元年市町村別農業産出額)

令和元年秋田鹿角市 単位:産出額(1,000万円)																					
区分	産出額	計			米				雑穀				豆類		いも類						
		耕種計	米	麦類	小麦	二条大	六条大	はだか麦	計	そば	計	大豆	小豆	計	ばれいし	かんしょ					
産出額 R1	937	533	267	x	x	-	-	-	6	6	4	4	0	1	1	-					
県内順位	7	13	16	5	5				2	2	15	15	10	18	18						
JA販売額 R1			267																		
割合			100%																		
区分	計	野菜																			
		だいこん	にんじん	さといも	やまのいも	はくさい	キャベツ	ほうれん	レタス	ねぎ	たまねぎ	ブロッコ	きゅうり	なす	トマト	ピーマン	いちご	メロン	すいか	その他	
産出額 R1	127	3	1	0	1	1	1	4	0	6	0	0	57	2	20	0	3	0	0	28	
県内順位	11	8	1	15	7	9	11	6	6	15	18	15	1	16	4	9	3	14	18		
JA販売額 R1										4			39		11					4	
割合										62%			68%		53%					13%	
区分	計	果実														花き					
		みかん	りんご	ぶどう	日本なし	西洋なし	もも	おうとう	びわ	かき	くり	うめ	すもも	キウイフ	パインアップル						
産出額 R1	100	-	83	1	0	1	14	-	-	0	-	-	0	-	-	13					
県内順位	3		2	7	13	5	1			2			6			7					
JA販売額 R1			14				13									9					
割合			17%				95%														
区分	計	工芸農作物					その他作物														
		さとうきり	葉たばこ	茶(生葉)	てんさい	こんにゃくいも															
産出額 R1	13	-	-	-	x																
県内順位	3				5																
JA販売額 R1			25																		
割合			#####																		
区分	畜産計	肉用牛		乳用牛		豚	計	鶏		その他畜計③		加工農産物									
		計	生乳	乳牛	生乳	乳牛	計	鶏卵	ブロイラー	荒茶	畳表										
産出額 R1	404	36	27	21	6	339	0	x	1	-	-	-									
県内順位	3	5	6	6	3	3	12	4	8												
JA販売額 R1			24			291		7													
割合			89%			86%		#####													

作成：鹿角市農業振興課

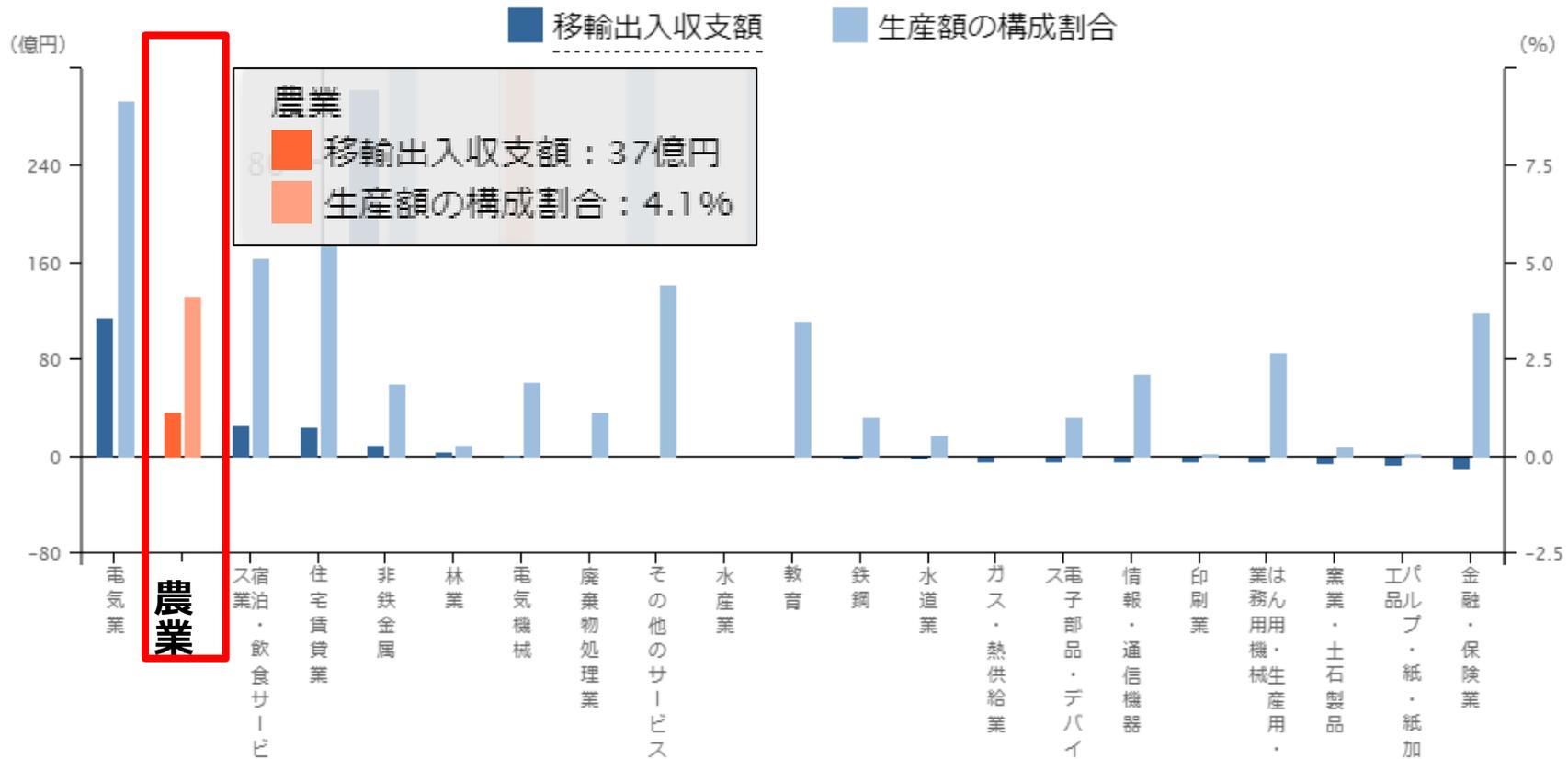
- 野菜は統計データの販売額に対し、JA販売額が5-6割を示している。統計はあくまで推計であるが、JA以外の流通がある程度あると推測できる。
- りんごについては乖離が大きい。個別販売や別市場への出荷が相当数占めているものと推測される。「もも」も同様と考えられるがデータ上はほとんど乖離がない。

鹿角市の地域経済循環における農業の位置づけ

地域経済循環マップ → 生産分析

➤ 産業別の移輸出入の収支状況を表示します。

2015年 移輸出入収支額（産業別） 秋田県鹿角市



出典：RESAS_環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」

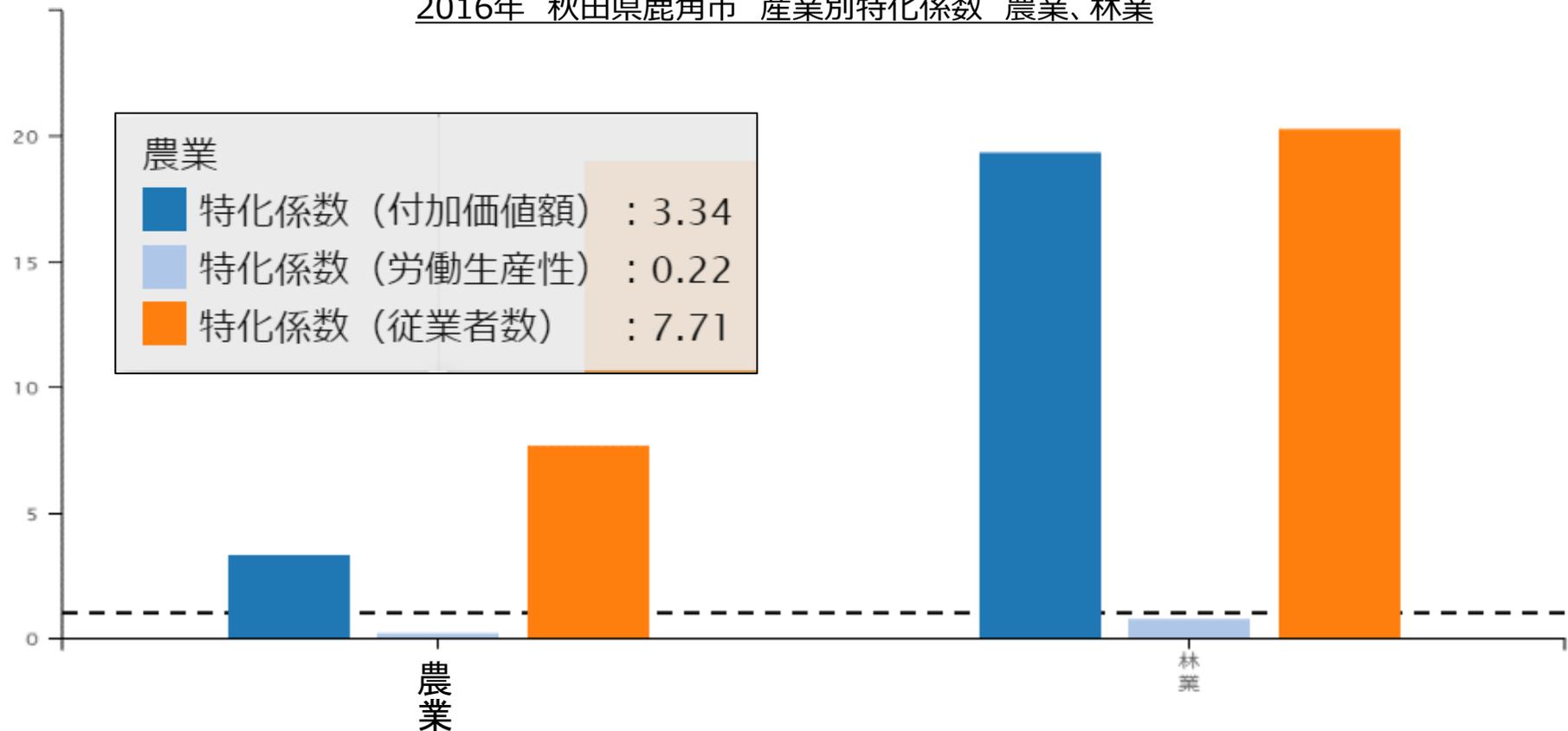
- 鹿角市の「農業」は移輸出収支額が37億円で鹿角市では2番目に域外から所得を稼げている産業である。

鹿角市の農業の稼ぐ力

産業構造マップ → 全産業 → 稼ぐ力分析

➤ どの産業が効率的に稼いでいるか、全国と比較できる特化係数を用いて表示します。

2016年 秋田県鹿角市 産業別特化係数 農業、林業



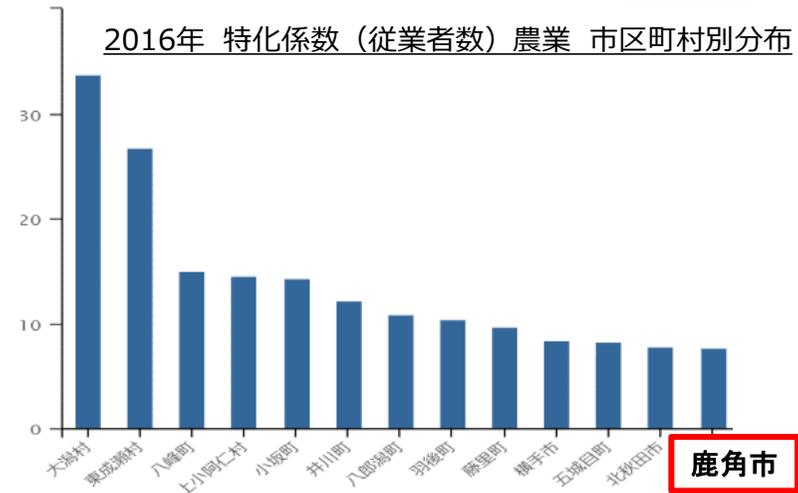
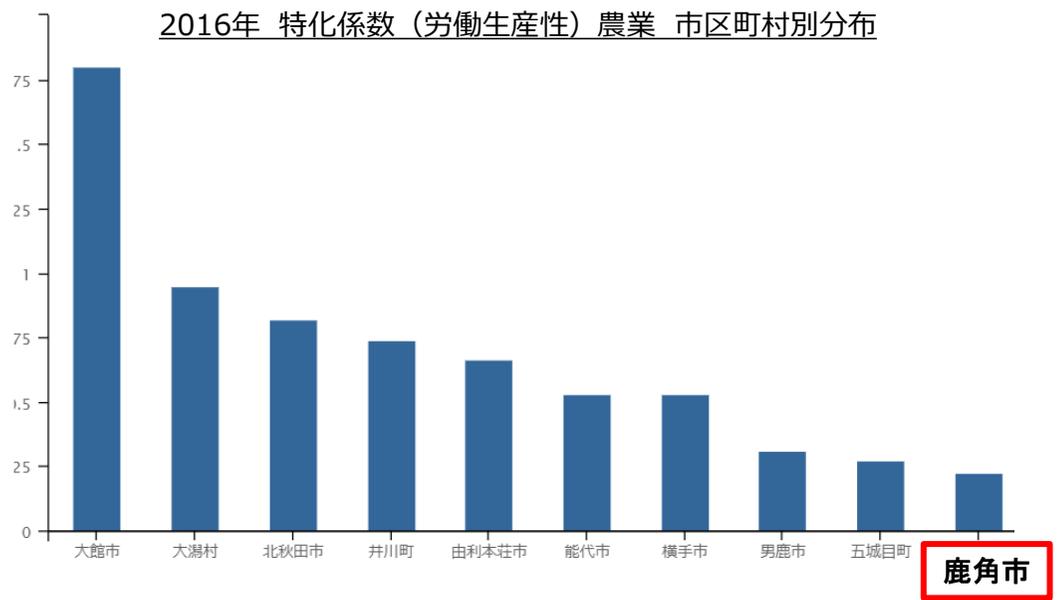
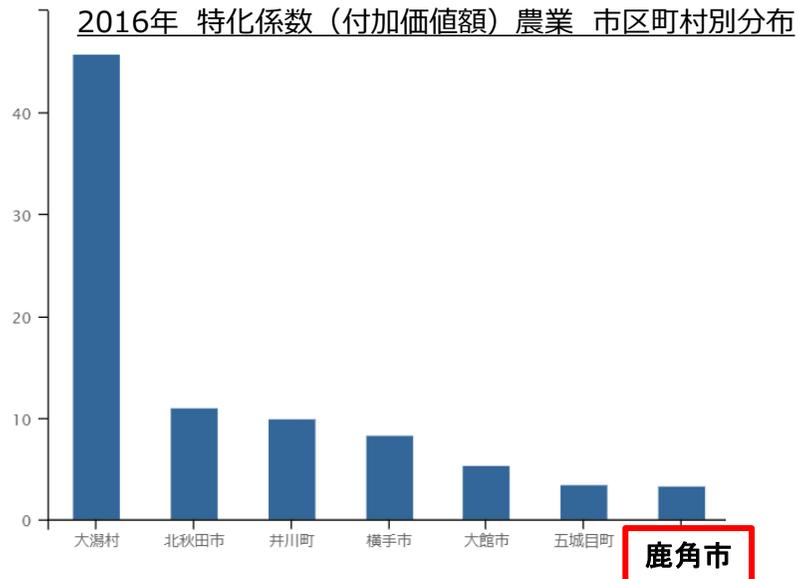
出典：RESAS_経済産業省「経済センサス-活動調査」

- 鹿角市の「農業」は全国と比較して付加価値額は高く、労働生産性は低い。雇用力は高い。

鹿角市の農業の稼ぐ力

産業構造マップ → 全産業 → 稼ぐ力分析

➤ どの産業が効率的に稼いでいるか、全国と比較できる特化係数を用いて表示します。



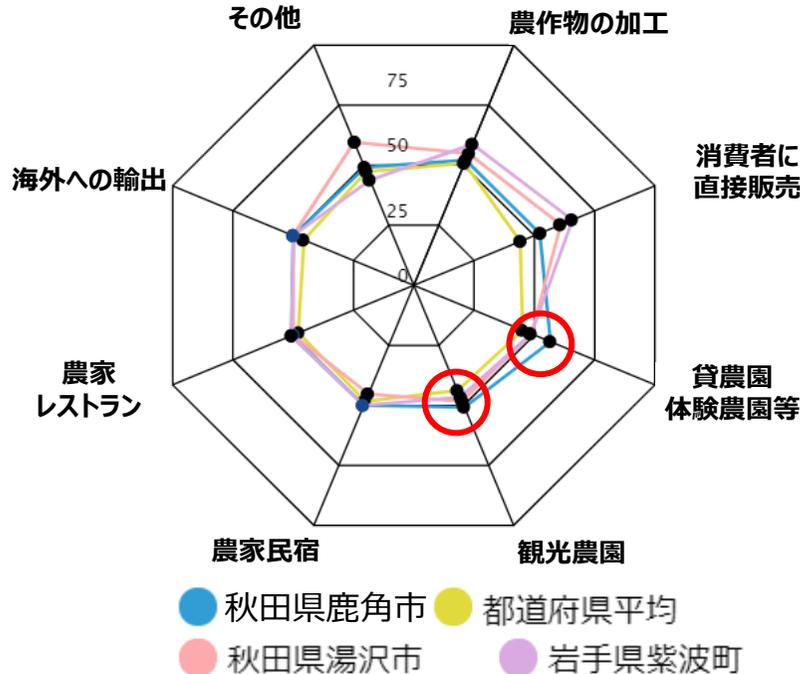
出典：RESAS_経済産業省「経済センサス-活動調査」

- 特化係数を秋田県内で比較すると、付加価値額は6番目、労働生産性は10番目、従業者数は13番目となっている。

鹿角市の農業生産関連事業と産業取引構造

産業構造マップ → 農業 → 農業者分析 (左) / 環境省 地域経済循環分析 (鹿角市_2015年) (右)

2015年 農業生産関連事業の実施状況
(レーダーチャート)



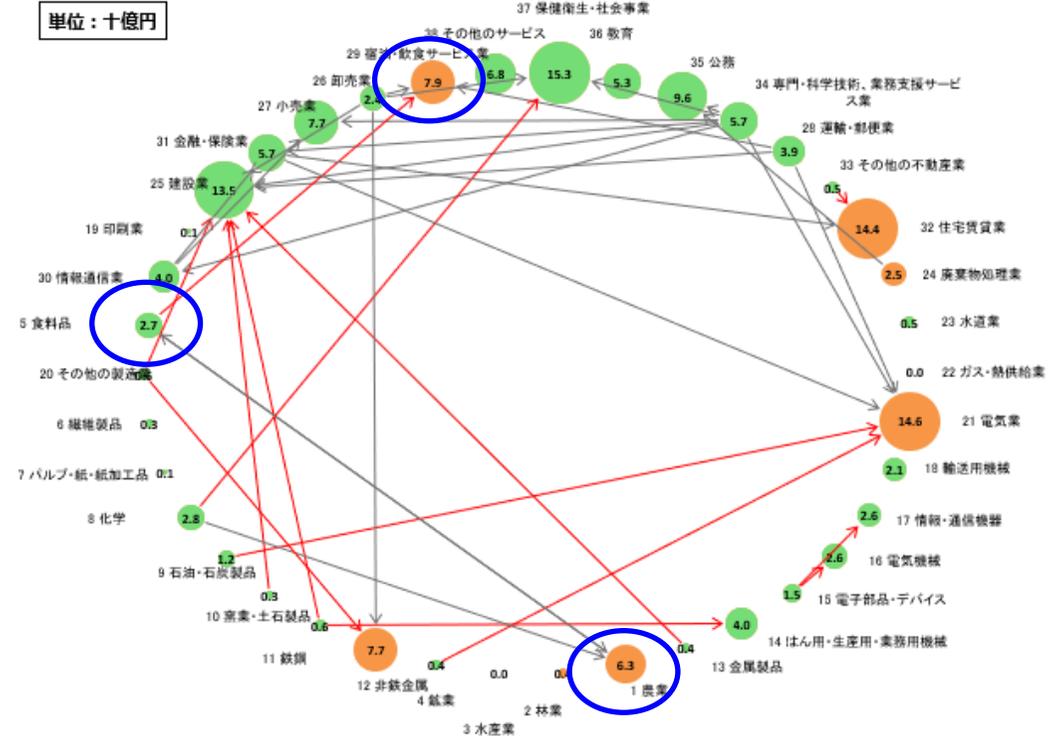
観光農園

指定地域	51
都道府県平均	44
秋田県湯沢市	48
岩手県紫波町	47

貸農園、体験農園等

指定地域	57
都道府県平均	45
秋田県湯沢市	49
岩手県紫波町	49

環境省 地域経済循環分析 産業間取引構造
(鹿角市 2015年)

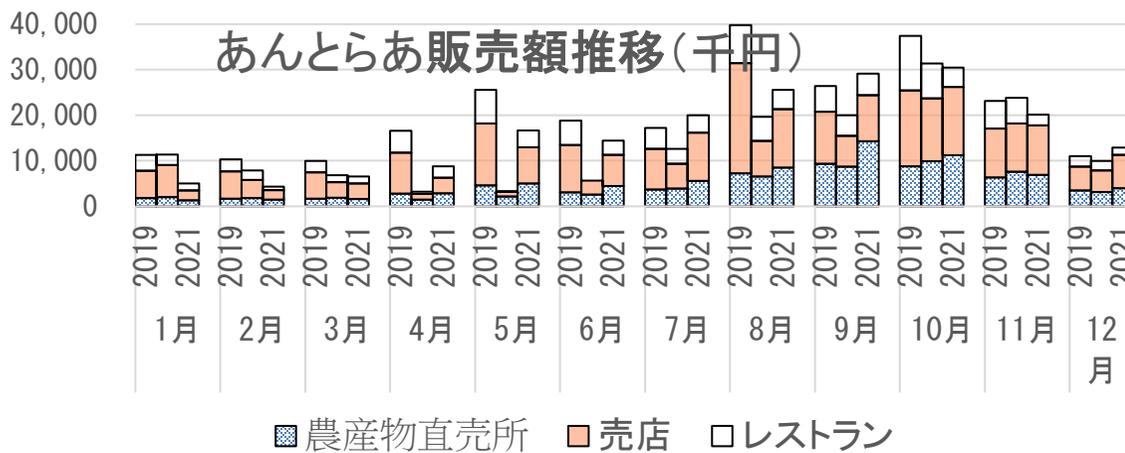


出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工
環境省「地域経済循環分析」

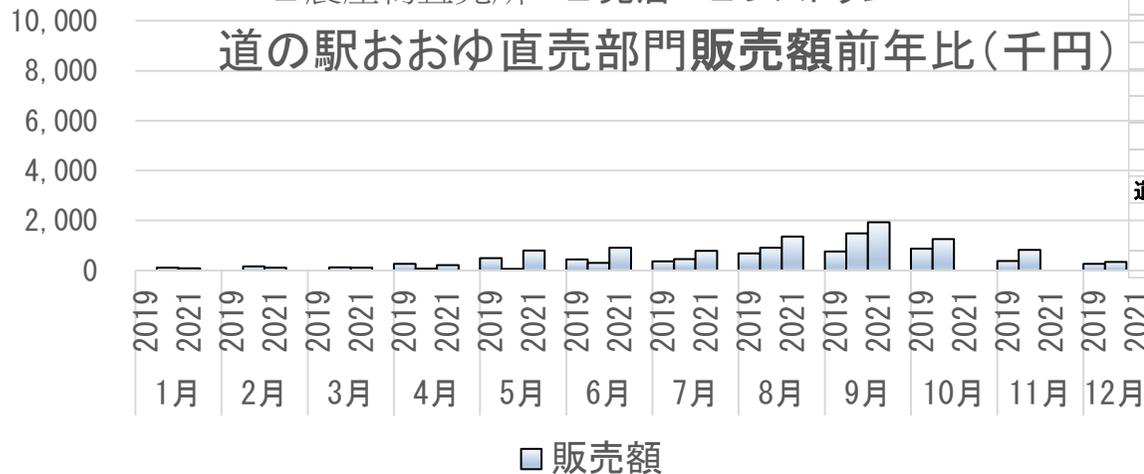
POINT >>

・「農業生産関連事業」をレーダーチャートで見ると、「観光農園」、「貸農園、体験農園等」が県平均を上回っている。産業間の構造取引を見ると「農業」と「食料品」の取引は弱く、「農業」は域外から所得を獲得できているが、「食料品」は域外へお金が流出している。「農業」と「宿泊、飲食サービス」は取引がないため農業の6次化という観点では進んでいないと思われる。6次化支援の施策の検討や若い農業従事者を巻き込めば新たな商品製造などの可能性があると思われる。

鹿角市の直売所の売り上げ



あんとらあ直売所		R1 (1-12月)	R3 (1-12月)	増減	増減率
売上 (千円)	農産物直売所	54,388	67,157	12,769	123%
	売店	127,891	92,583	-35,307	72%
	レストラン	65,186	34,093	-31,093	52%
レジ通 過人数 (人)	農産物直売所	76,874	71,599	-5,275	93%
	売店	61,217	48,619	-12,598	79%
	レストラン	53,137	30,415	-22,722	57%
客単価 (円)	農産物直売所	707	938	230	133%
	売店	2,089	1,904	-185	91%
	レストラン	1,227	1,121	-106	91%
道の駅おおゆ直売所		R1 (1-9月)	R3 (1-9月)	増減	増減率
売上(千円)		3,018	5,999	2,980	199%



作成：鹿角市農業振興課

- 道の駅直売所はコロナ下であってもコロナ前よりも売り上げを伸ばしている（令和2年度は市の「農畜産物販売促進事業により」販促イベントを各種実施）
- 観光や食品加工業との相乗効果を期待できる。

農業についてのまとめ（定性分析①）

◆外部環境

<気候>

北東北の中央、奥羽山脈に囲まれた鹿角盆地。盆地ゆえに昼と夜の寒暖差が大きく、一年を通じて冷涼な気候と、奥羽山脈からの豊富な清水、広大で厚い黒土により、古くから米・野菜・果樹の栽培適地といわれています。また、野菜などは冷涼な気候によって市場への産地リレーを担っています。※寒暖差についてのデータなし。(○)

<産地リレー>

冷涼な気候による既存の産地リレーに依存。市場のニーズを把握しておらず、それに合った品目、品種、時期などの工夫がされていない。市場分析を行ったうえで産地の変容が必要である。(T)

<道の駅直売所>

果実(リンゴ、桃)、キュウリ、トマトなどが強い。(○)

総菜部門が弱い。午後、夕方の品不足が指摘されている。客層、ニーズ分析がされておらず、せっかくの販売のチャンスを逃している可能性がある。(T)

<農業者数>

少子高齢化により農業者数減(T)。新規就農者向けの作物がある(○)が、労働力が必要な作物である(機械化が難しい)(T)

農業についてのまとめ（定性分析②）

◆内部環境

<あきたこまち(米)>

県内他地域と比べ、これといった特徴なし。食味も県南には負ける。冷涼なので県内でも単収は低い方。冷涼なため、低コスト化に有効な直播栽培には向かない(収量が大幅に下がる)。(W)

<淡雪こまち(米)>

特徴は低アミロース米ということ。もちもちした食感でさめてもおいしい！。玄米もおいしい。テレビ番組で紹介されました。冷涼な気候でも直播栽培が可能で、あきたこまち一辺倒とならないよう品種分散にも一役買っています。(S)

特徴が価格に反映できず、作付面積は伸び悩んでいます。(T)

<そば>

県内一の生産量(令和2年産)。(S)

耕作放棄地対策として市が奨励。品質と生産量に課題あり。実需と域内流通をどのようにして増やすかが課題。(W)

農業についてのまとめ（定性分析③）

◆内部環境

＜かづのりんご＞JA出荷229名

長い歴史と気候により、りんごの一大産地である青森のりんごよりもおいしい！と生産者は自負しております。(S) 機械化が難しく労働集約的作物です。(T)

＜かづの北限の桃＞JA登録137名

全国の桃産地では最も遅い9月中旬の市場出荷であることから「かづの北限の桃」と名付、糖度センターを通した桃のみを「かづの北限の桃」と称し、ブランドの確立を図っております。気候から着色が良く、糖度の高い、生産者自慢の桃です。市場からの引き合いも強く、また、消費者からも好評をいただいております。海外輸出も実施してます。(S) 需要はあるものの生産面積が頭打ちです。(T)

＜シャインマスカット＞

新たに取り組みをおこなう生産者が増えてきている。価格が堅調なため、期待の作物です。(S)

＜かづのブランド「しぼり大根」八幡平松館地区で育つ伝統野菜＞

限定された地域で生産した場合のみ、本来の辛味がでるといわれている。辛味大根。GI取得。なぜかこの辛味が地元の人に愛されており、生産者もこだわりと自負を持って作っております。(S)

地域が限られているため、生産量が少ないことが課題となっています。(W)

農業についてのまとめ（定性分析④）

◆内部環境

<きゅうり>JA登録132名

寒暖差のある秋田の気候が、身のしまりの良いきゅうりを育てています。生産量がとても多い。30年で出荷量は全国17位/255市町村中。初期投資が少なくすむため、新規就農者も多い品目です。(S) 共同選果が導入されていないことも相まって、労働集約的作物の代表です。(W)

<トマト>JA登録28名

鹿角の特産の一つ。30年で出荷量は全国85位/254市町村中。初期投資が大きいため、新規就農者はほとんどおらず、生産者の減少が目立ちます。(W)

<シンテッポウユリ>

シンテッポウユリは東北一の産地となっており、気候がお盆需要に適していることから、市場から高い評価を受けております。農地をある低程度確保する必要があるものの初期投資が少なくて済むため、新規就農者が比較的多いです。(S)

労働集約的作物です。(W)

<その他>

啓翁桜(山形県に続く産地)、アスパラガス、ネギ(メガ団地)

農業についてのまとめ（定性分析⑤）

◆内部環境

＜かづの短角牛＞

ヘルシーな赤みが特徴の希少な日本短角種。自然放牧で育つので、健康状態が優良です。(S)
生産者が少なく、飼育頭数が頭打ち。また価格も伸び悩んでいます。(W)

＜八幡平ポーク＞

豚の健康にこだわって生産しています。小坂町の桃豚（桃は食べさせてなくて、飼料用米を食べさせてます）と鹿角市で豚の経済圏が出来上がっており、市・町とも豚の生産によって農業産出額が押し上げられております。市内に食肉加工場、ミートランドがあり、生産を下支えしております。また、八幡平ポークの直売所が市内に2店舗あり、こだわりの生産方法、熟成肉も販売しています。（桃豚の直売所も市内に1か所あります）。域内での規模拡大が難しく、市外の農場もあります。(S)

自社加工と直売が人手不足により伸び悩み。規模拡大に莫大な投資が必要(W)。

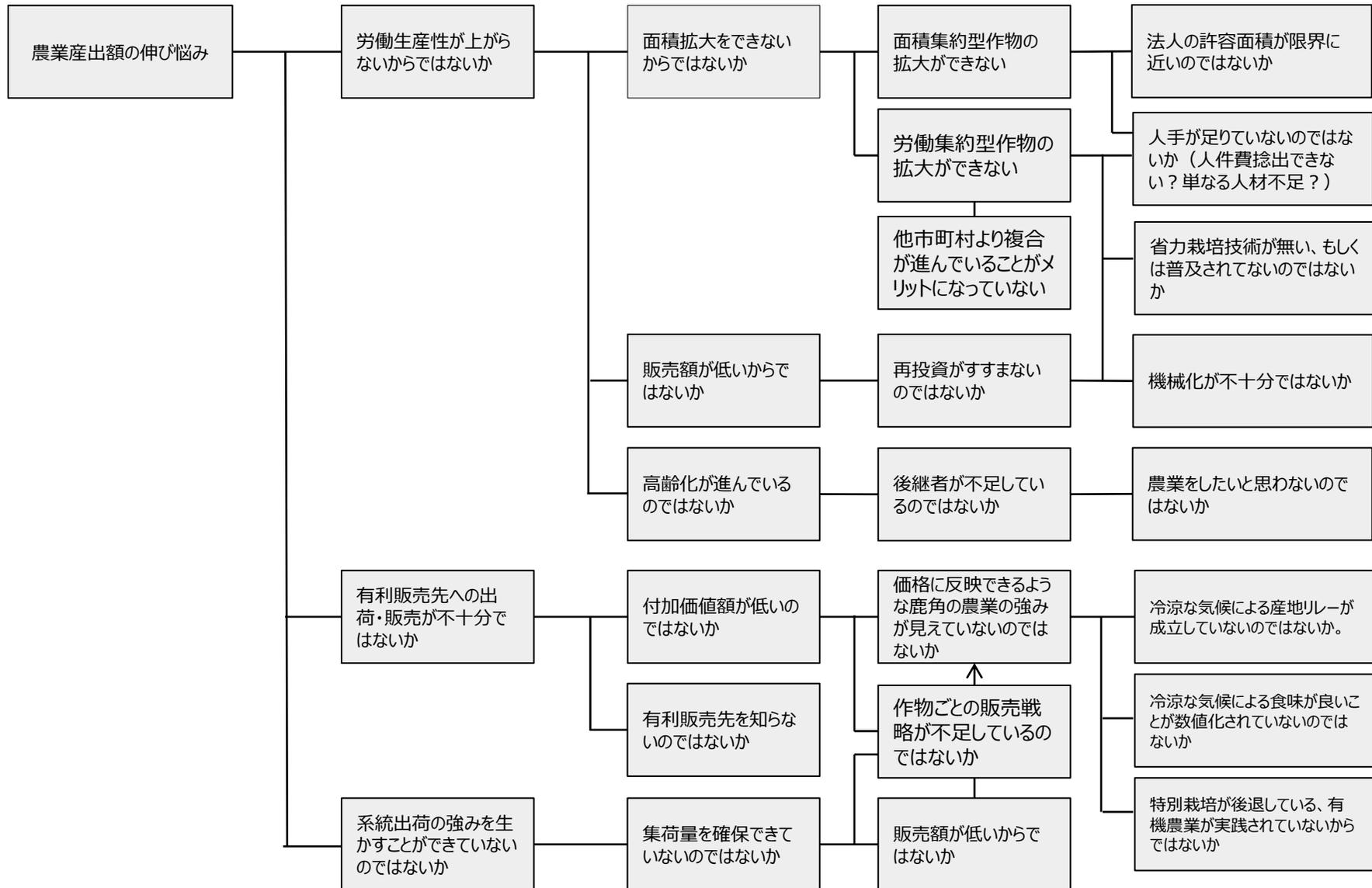
鹿角市（農業）のSWOT分析

	強み (strength)	弱み (weakness)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・法人が担っている面積は県平均よりも大きい ・J A 出荷率が低く、有利販売の素地がある ・複合経営が進んでいる ・推したい作物がたくさんある ・養豚が盛んである 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の経営面積が限界に近い ・系統出荷の強みが出せていない ・複合経営のメリットが感じられない ・作物のアピールポイントがない ・個別販売、有利販売が体系化されていない ・域内取引、付加価値追加が弱い ・高齢化、人材不足
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹については全国的な生産者数減による価格安定傾向 ・寒冷な気候による産地リレー ・道の駅（産地直売所）が2か所ある 	<ul style="list-style-type: none"> ・米価下落 ・国内市場の縮小傾向 ・生産者の高齢化 ・労働力不足 ・温暖化による産地リレーのずれ



【注力すべき問題点】農業産出額の伸び悩み

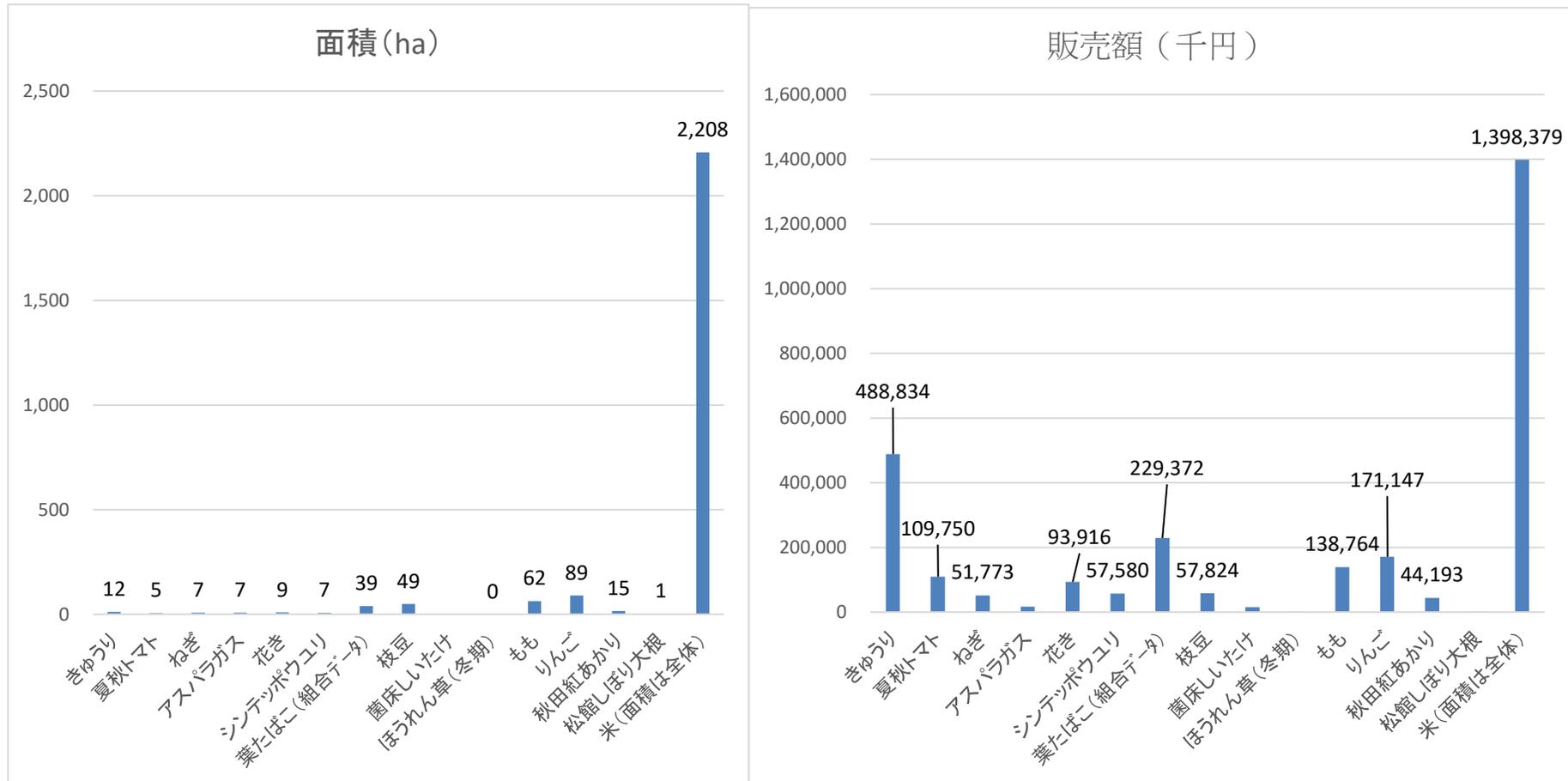
ロジックツリー 農業



課題を裏付けるデータ

主要作物の作付面積および販売額(R2JAかつのデータ)

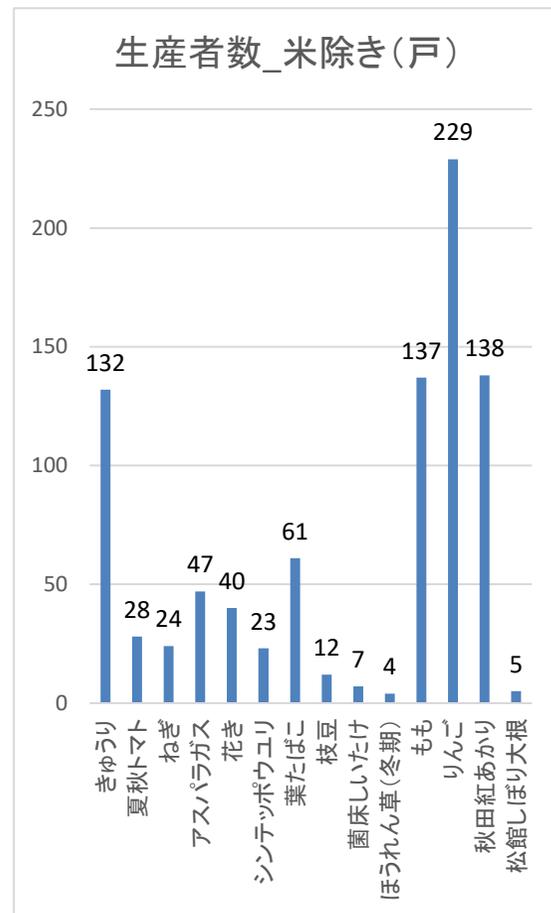
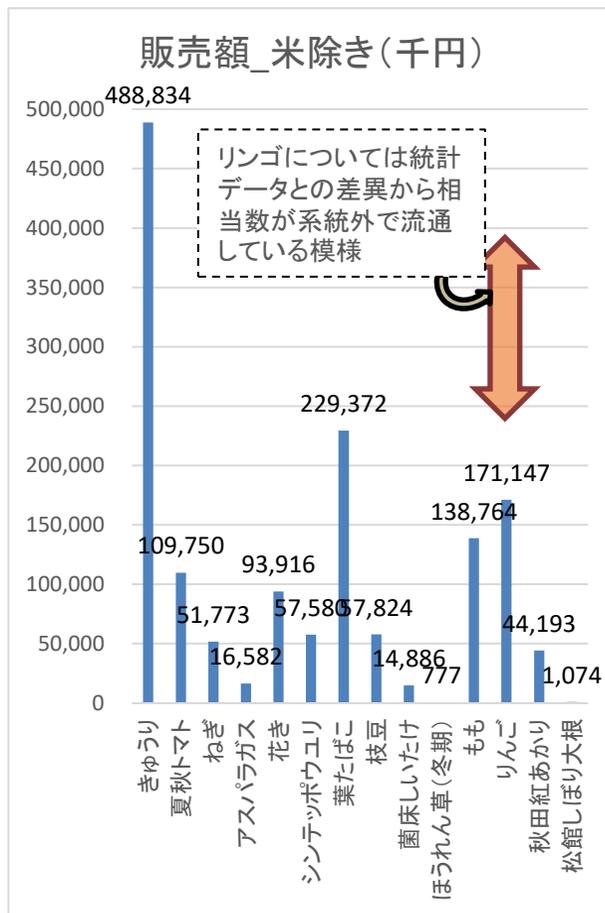
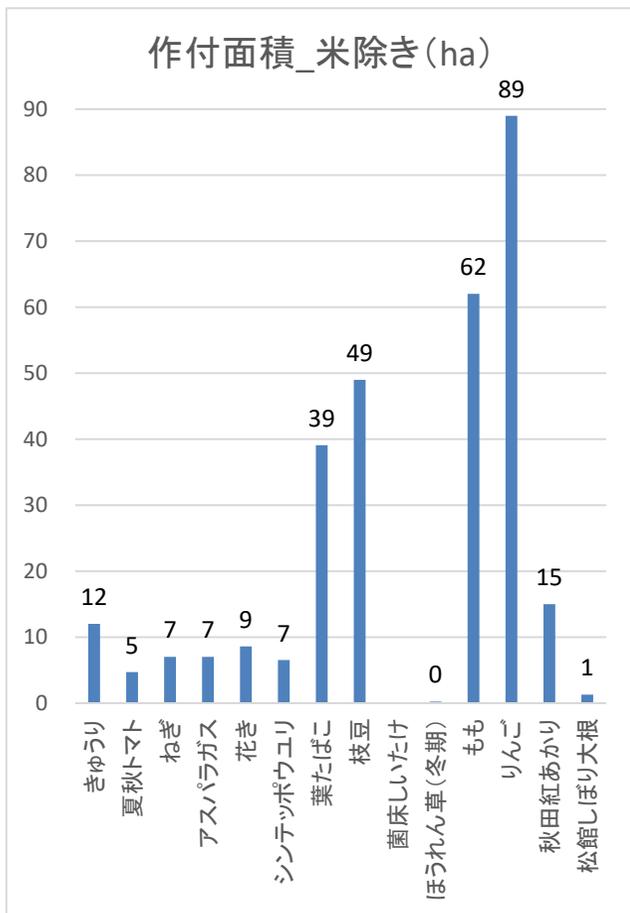
作成：鹿角市農業振興課



- 面積、販売額ともに米の占める割合が圧倒的に多い。
- 圧倒的な稼ぎ頭の米に需要減という大きな課題がある。コロナ前からの需要減少傾向とコロナによる需要減を踏まえ、米を品種ごと、販売先ごとにどのように有利販売するか検討が必要。

課題を裏付けるデータ

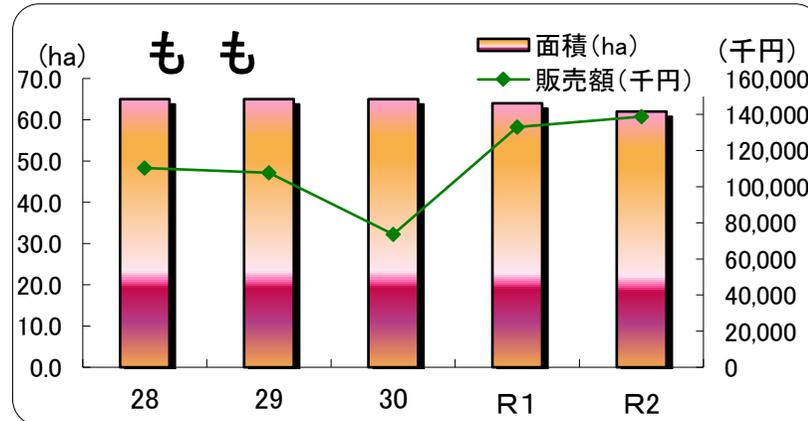
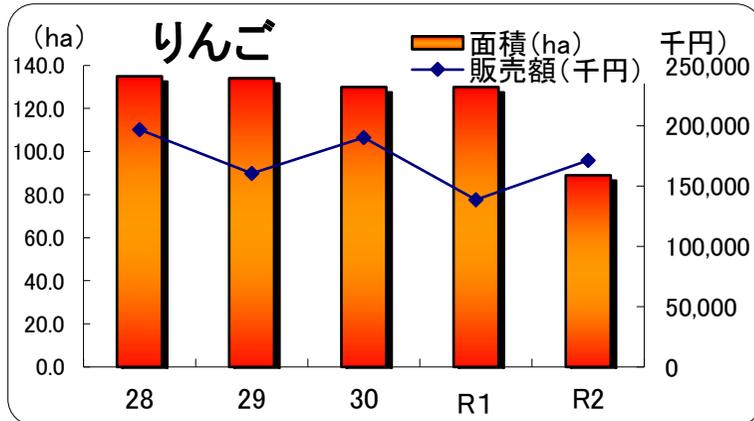
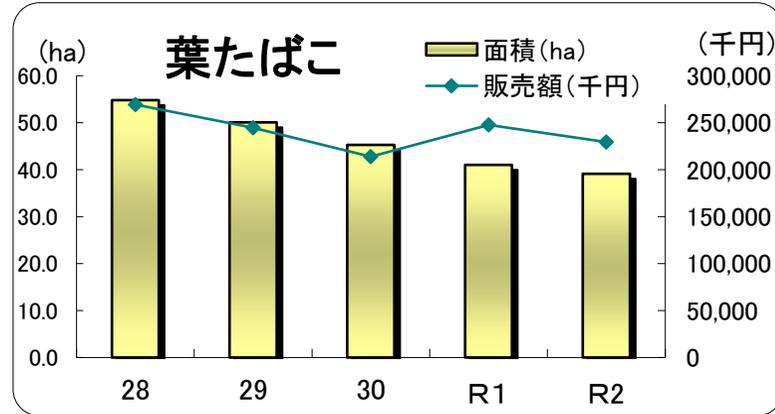
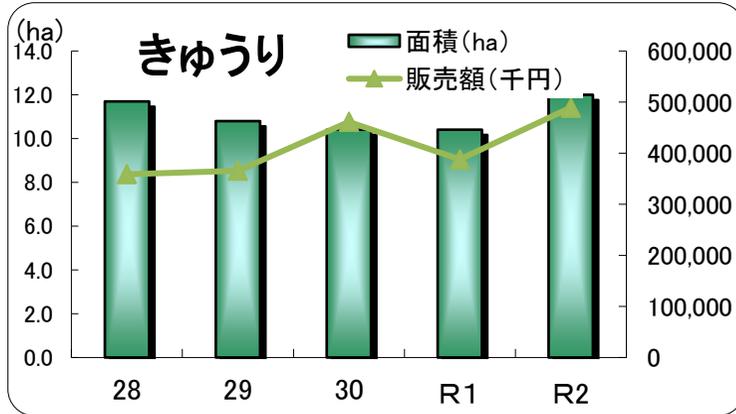
米以外の主要作物の作付面積および販売額(R2JAかつのデータ) 作成：鹿角市農業振興課



- 面積はりんご、もも、えだまめ、葉たばこの順に多い。もも生産者数はりんごの内数。
- 販売額はきゅうり、葉たばこ、りんご、ももの順に多い。りんご・ももはJA以外の出荷も多い。

課題を裏付けるデータ

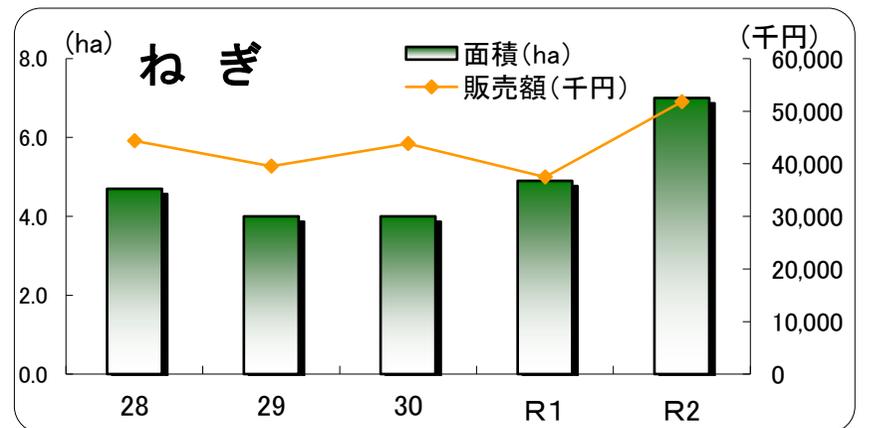
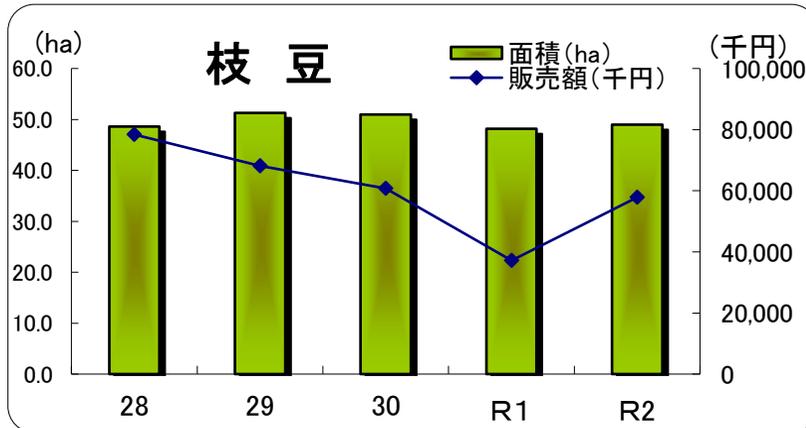
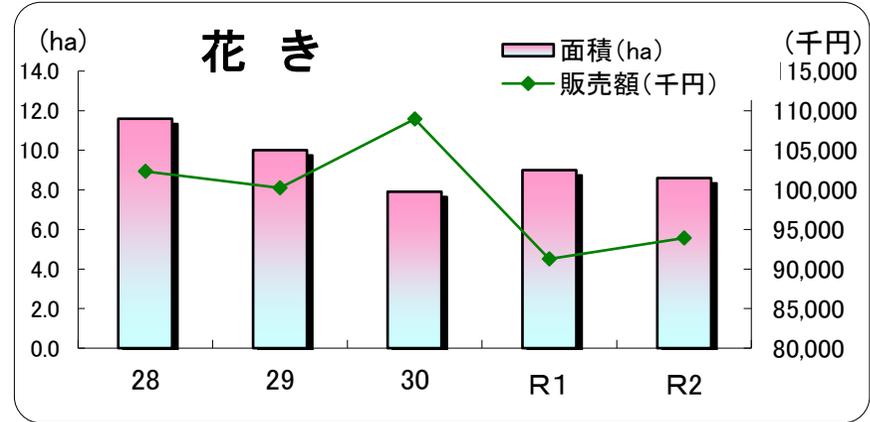
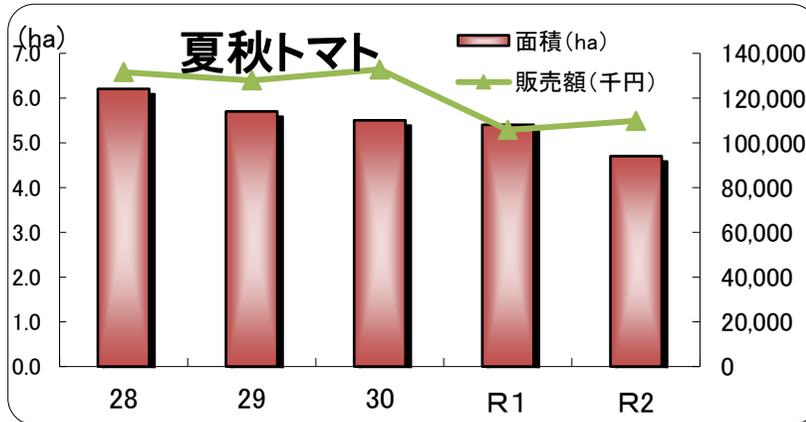
過去5年の作付面積と販売実績 (R2JAかつの等のデータ)



- キュウリのみ面積増加しているが、りんご、ももは頭打ち。減少に転じる危険あり
- 葉たばこは換金作物の代表であったが、廃策が進んでいる。

課題を裏付けるデータ

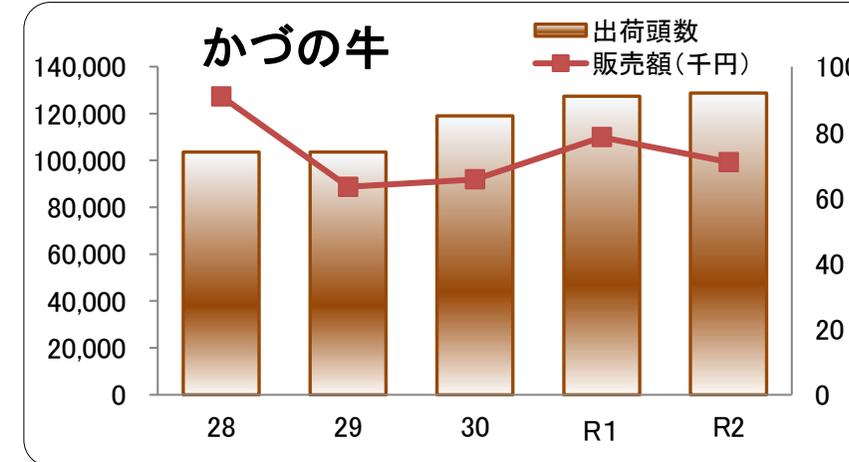
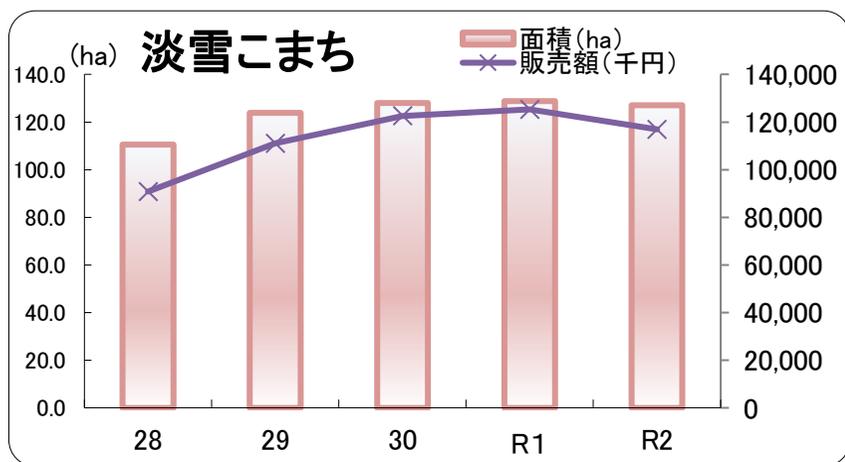
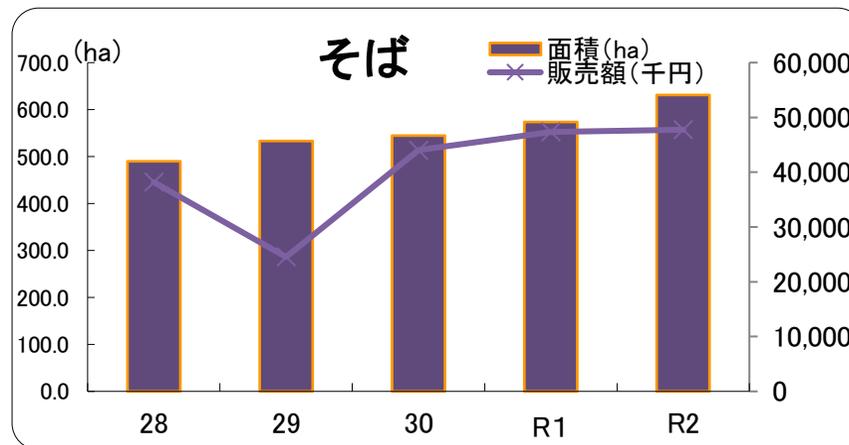
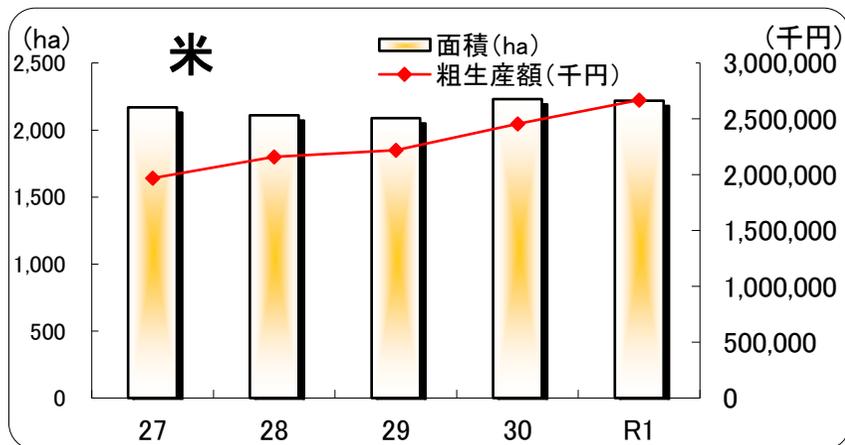
過去5年の作付面積と販売実績 (R2JAかつの等のデータ)



- ねぎのみ面積増加 (メガ団地)。
- その他は減少傾向
- 枝豆はJA以外の出荷が多く、販売額を把握していない。

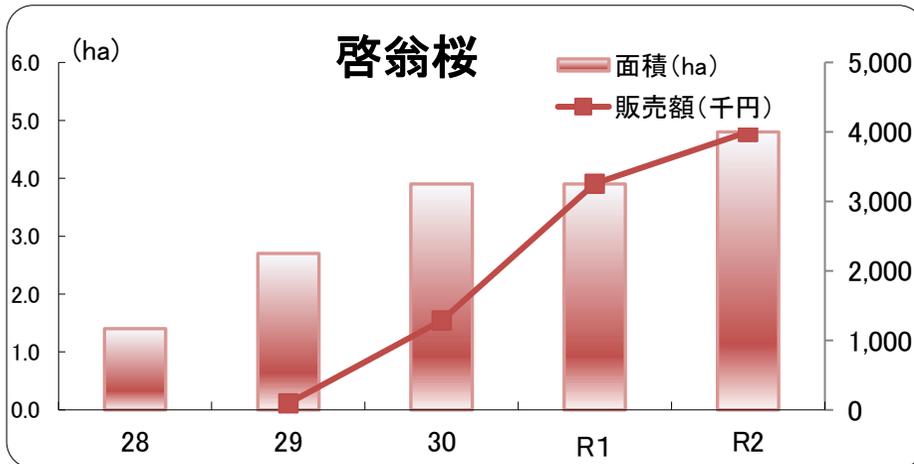
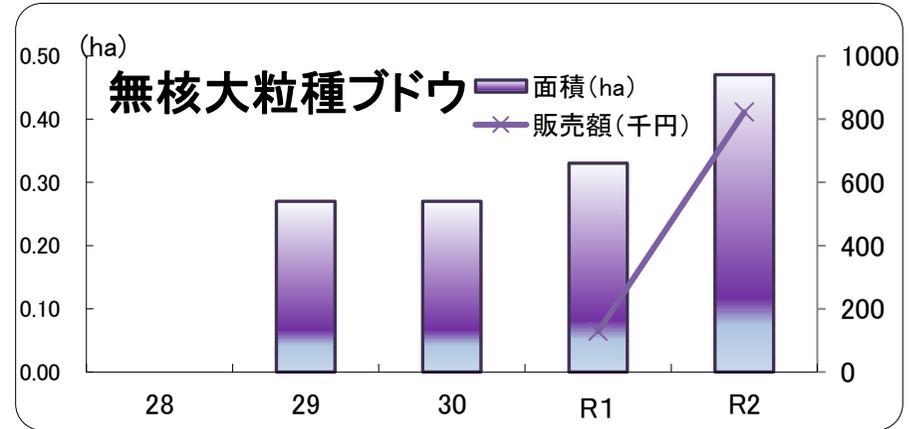
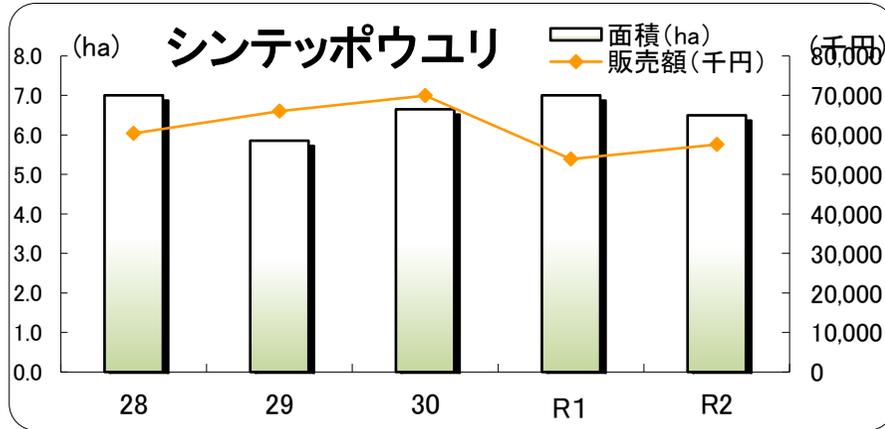
課題を裏付けるデータ

過去5年の作付面積と販売実績 (R2JAかづの等のデータ)

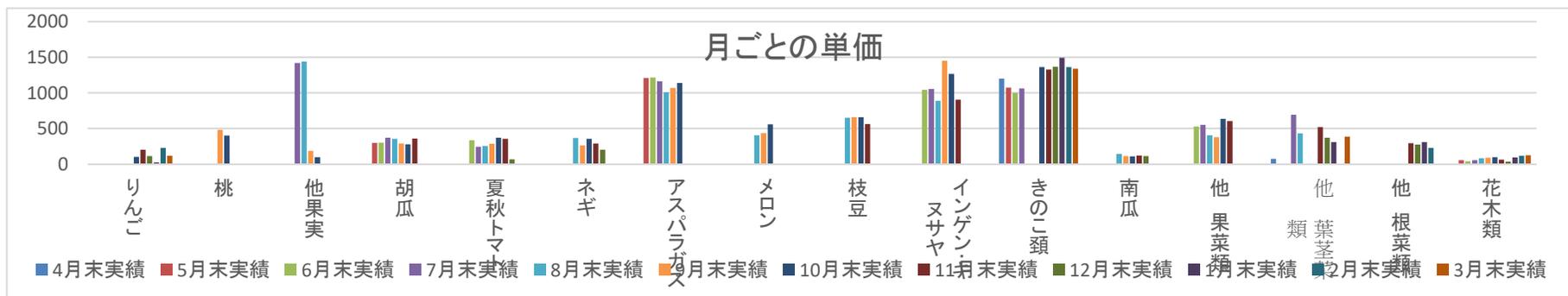
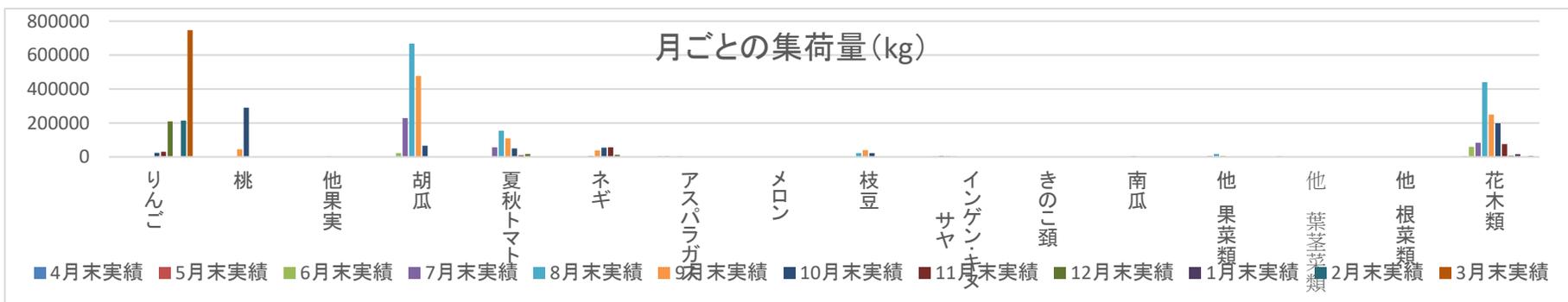


課題を裏付けるデータ

過去5年の作付面積と販売実績(R2JAかづの等のデータ)

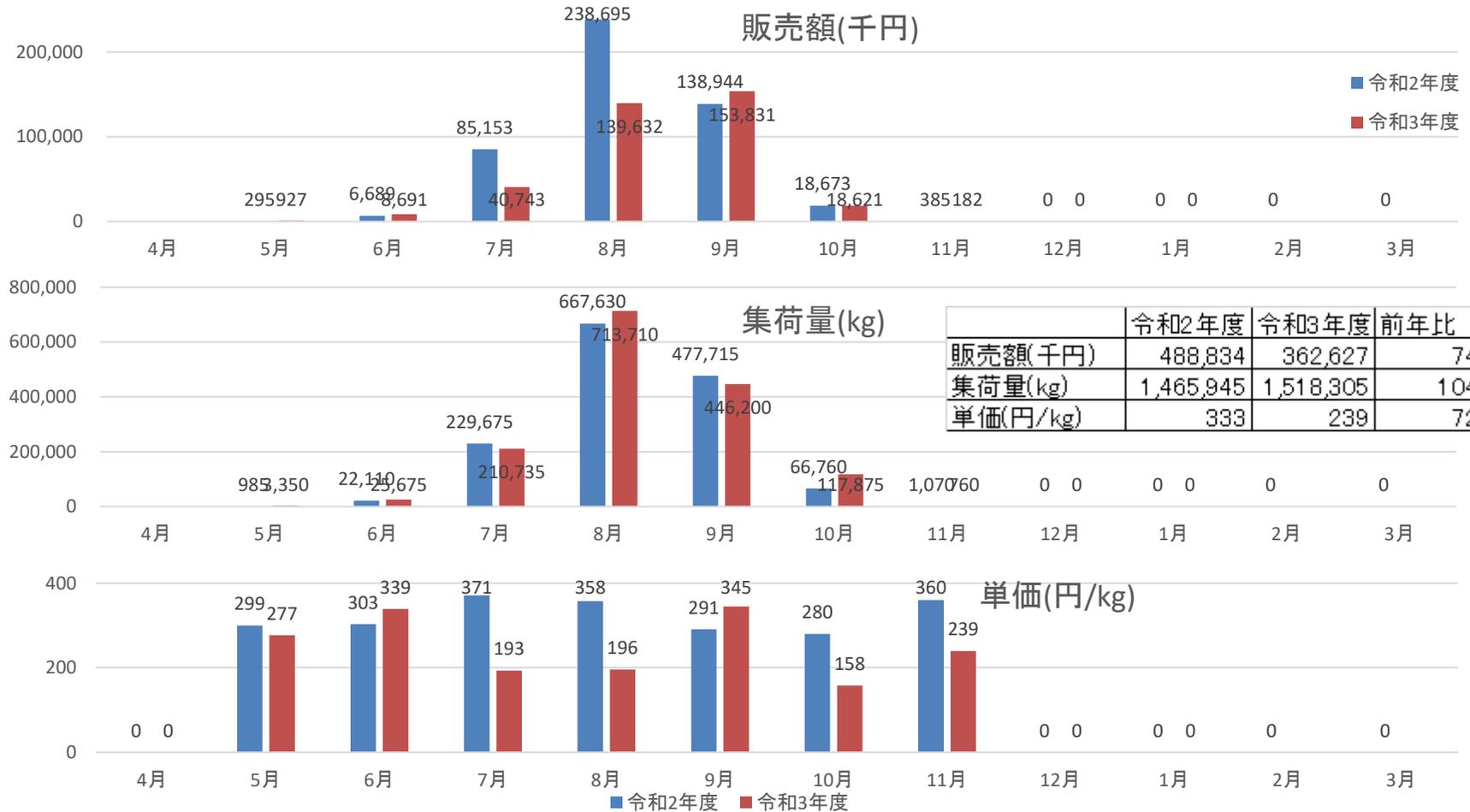


課題を裏付けるデータ (R2年度JAかつの月ごと販売データ)



- きゅうりが一番の稼ぎ頭、次いでりんご、桃。キュウリは令和2年度の単価がよかった。
- 鹿角市が産地指定を受けているのは、きゅうり、トマト、ネギ。

課題を裏付けるデータ（きゅうり月別販売額（R2⇔3比較））



- 系統出荷は市場の影響を大きく受ける
- 令和3年は出荷のピークである8月の価格下落が主因で販売額は前年比74%へ減少した。
- 促成栽培、抑制栽培での単価の平準化、省力化・収量増による売り上げ確保できる可能性

課題を裏付けるデータ（栽培方法の工夫）

有機農業（JAS有機＋無農薬・無化学肥料（自己申告））への取組（2020センサス）

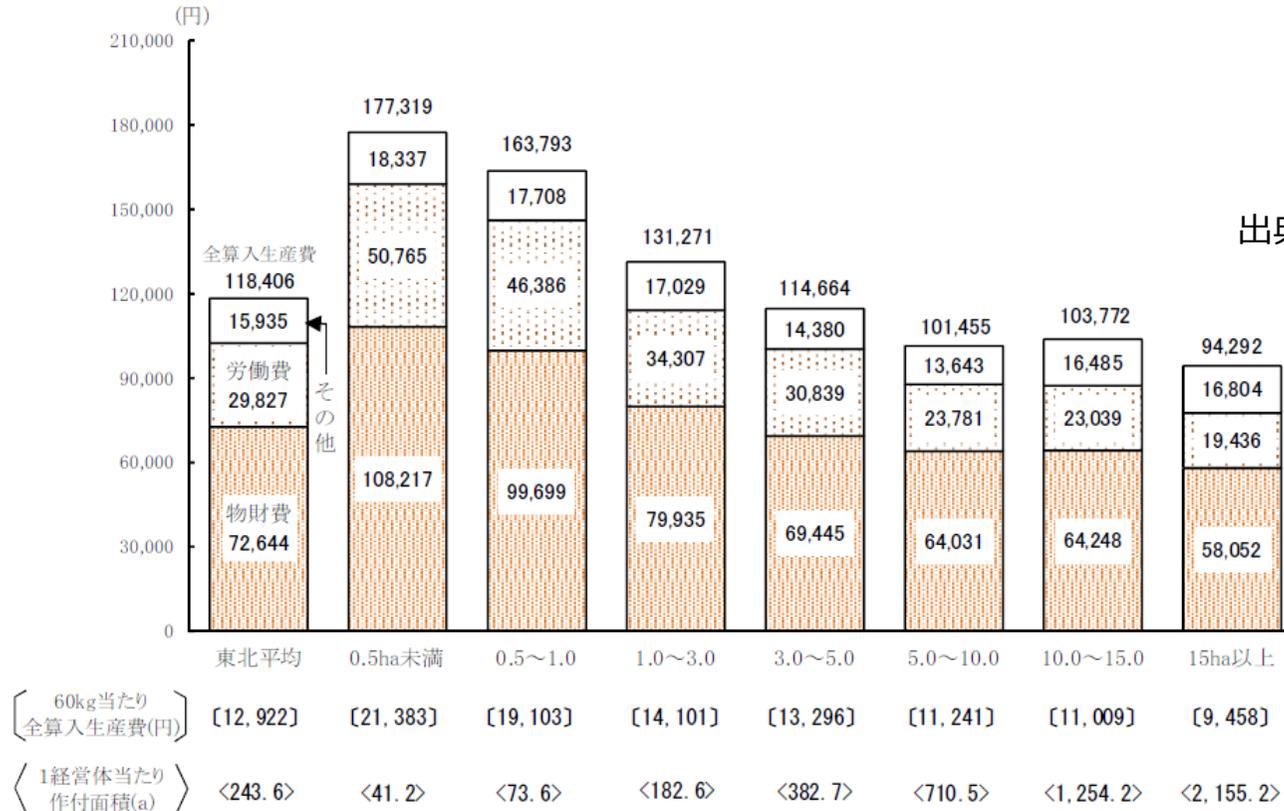


- 鹿角市の有機JASは1件のみであるため、その他は自己申告の無農薬・無化学肥料栽培と思われる。県内での順位は経営体数13位、面積12位。
- かつてJAかづので、減農薬・減化学肥料の取り組み（エコニコかづの）を進めたが、価格に反映できず、現在は米でのみ行っている。

課題を裏付けるデータ

米の生産費(全参入生産費)

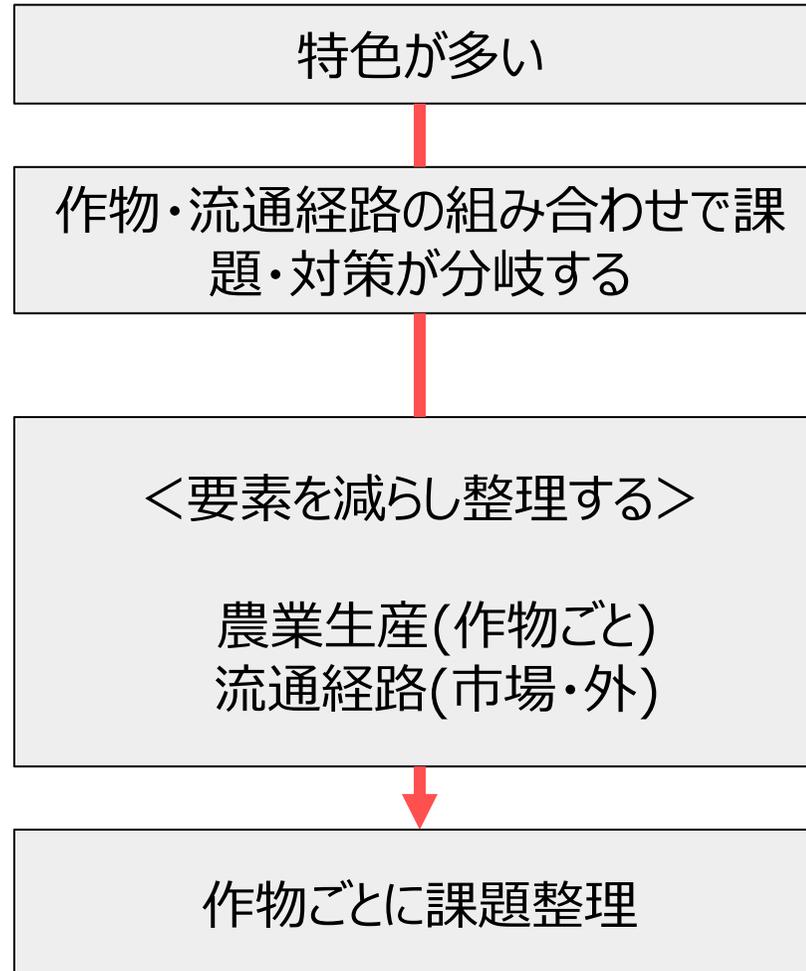
図2 作付規模別の全算入生産費(令和2年産・東北、10a当たり)



出典：鹿角市農業振興課

- 秋田県単独のデータはH29で終了。
- 東北平均では10俵/10aだと、1万2千円/俵を切ると赤字になってくる。
- 米価下落傾向に対応するためには、経営面積の拡大と集約。さらなるコストカット（省力化・スマート機器導入など）。有利販売先の確保、などが必要となる。

特色と課題を再整理



課題の整理（農業生産と流通）

	課題を抱える作物	伸びしろがある作物
J A 系統出荷	<p><現状維持></p> <p>○米、りんご</p> <p>※人材確保・省力化へテコ入れ ※多数が取り組める有利販売につながる生産方法や市場分析を実施</p>	<p><作付け拡大></p> <p>○桃：市場に求められている。今まで以上に作付け拡大を推進</p> <p>○きゅうり：作りやすさから作付け伸びている。時期分散など市場分析が必要</p> <p>○ネギ：法人参入により伸びている。人材確保、生産確立、市場分析。</p>
J A 以外への出荷	<p><個人販売・売り先拡大></p> <p>○りんご：ふるさと納税などをきっかけに有利販売の環境整備し広げていく</p> <p>○そば：まずは面積拡大をおさえ、適正管理に切り替え。他産地を参考に品質を向上して有利販売へ。</p>	<p><生産・流通へ仕掛け></p> <p>○いちご：実は県内でも生産上位。北東北にも観光いちご園はあるものの、道の駅と結びつけはまだないのでは。</p> <p>○米：JA・主食業者との調整も必要だが、ふるさと納税や精米販売に可能性があるのでは。</p> <p style="text-align: right; border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">観光・食品製造との連携</p>

農業産出額を向上させるために



「農業生産」への対応策（内部的）	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>◆省力化・収量増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業推進事業（拡充） ・各種機械等導入支援に関する事業（継続） <p>【期待する効果】高齢化への対応。収量・品質の増加。</p> <p>◆人手不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業サポーターマッチング事業（拡充） ・新規就農者育成支援事業（拡充） <p>【期待する効果】人材確保による生産拡大、有利販売への取り組み</p> <p>◆大規模化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地集積促進事業、県営基盤整備事業（継続） <p>【期待する効果】農地集積・集約による生産コストの削減</p>	<p>基本戦略1_活力を生む地域産業・生業を支える</p> <p>取組方針1_地域産業の成長を支援します</p> <p>③効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化</p> <p>④生産基盤の整備による農業生産力の維持・向上</p>	<p>法人の許容面積が限界に近いのではないかと</p> <p>人手が足りていないのではないかと（人件費捻出できない？単なる人材不足？）</p> <p>省力栽培技術が無い、もしくは普及されていないのではないかと</p>
	<p>取組方針2_市民等の意欲ある就労・就農を支援します</p> <p>③農林業の担い手育成と定着支援</p>	<p>農業をしたいと思わないのではないかと</p>



マーケットインの考えでつなぐ（作物ごとにフォーカスを当て、SWOT分析、要因分析）

「流通経路」への対応策（外部的）	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>◆価格へ転嫁できる取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農畜産物販売促進事業、アグリビジネス支援事業（継続） <p>【期待する効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ブランディング 域内流通（観光・食品製造との連携） 他市場、ふるさと納税、ECサイト 系統出荷（まずはゼロ予算、県・JAと連携） 	<p>経営戦略1_まちに人・モノ・外貨を呼び込む</p> <p>取組方針23_販売重視型農業と6次産業化を進めます</p> <p>①、②、③</p>	<p>価格に反映できるような鹿角の農業の強みが見えていないのではないかと</p> <p>販売額が低いからではないかと</p>

07

産業分析

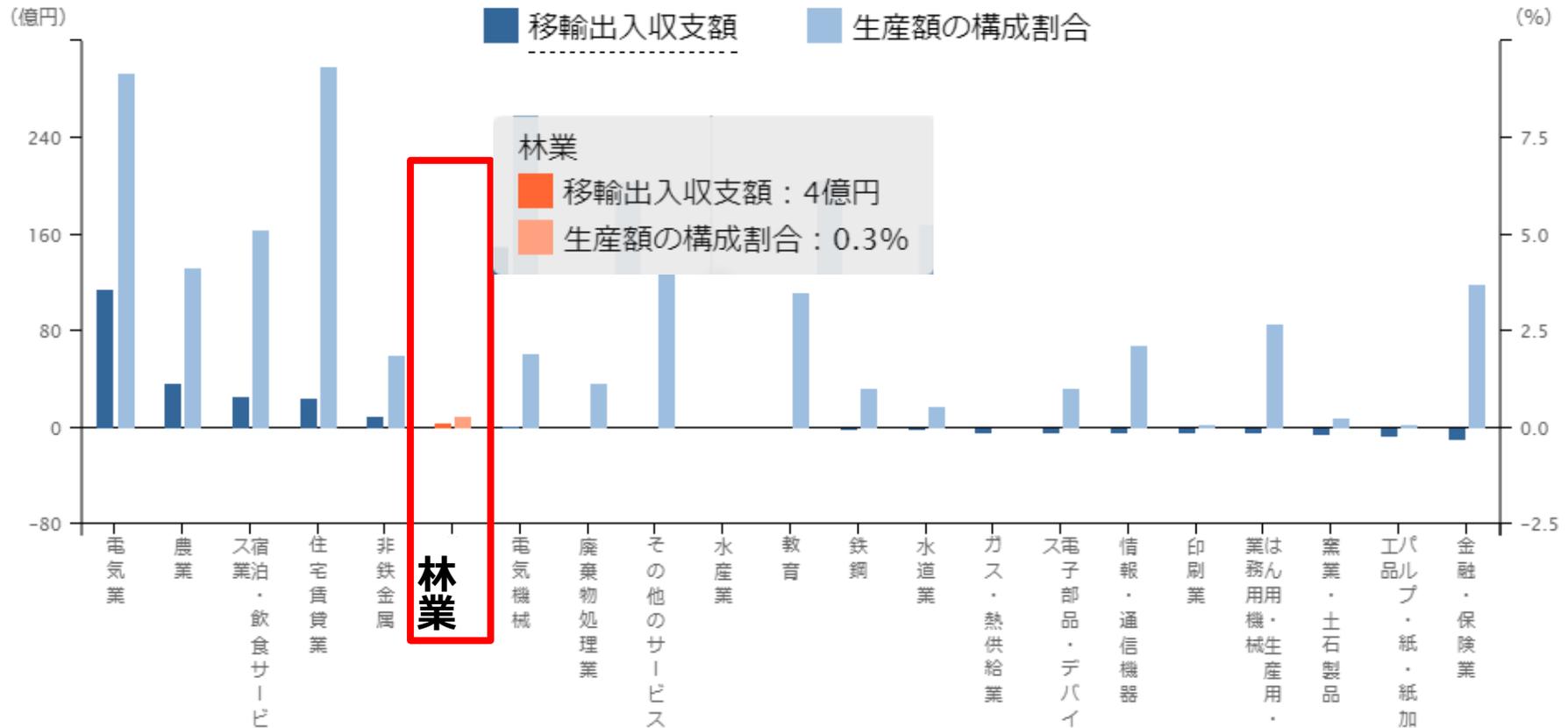
鹿角市の林業分析

鹿角市の林業の特徴

地域経済循環マップ → 生産分析

➤ 産業別の移輸出入の収支状況を表示します。

2015年 移輸出入収支額（産業別） 秋田県鹿角市



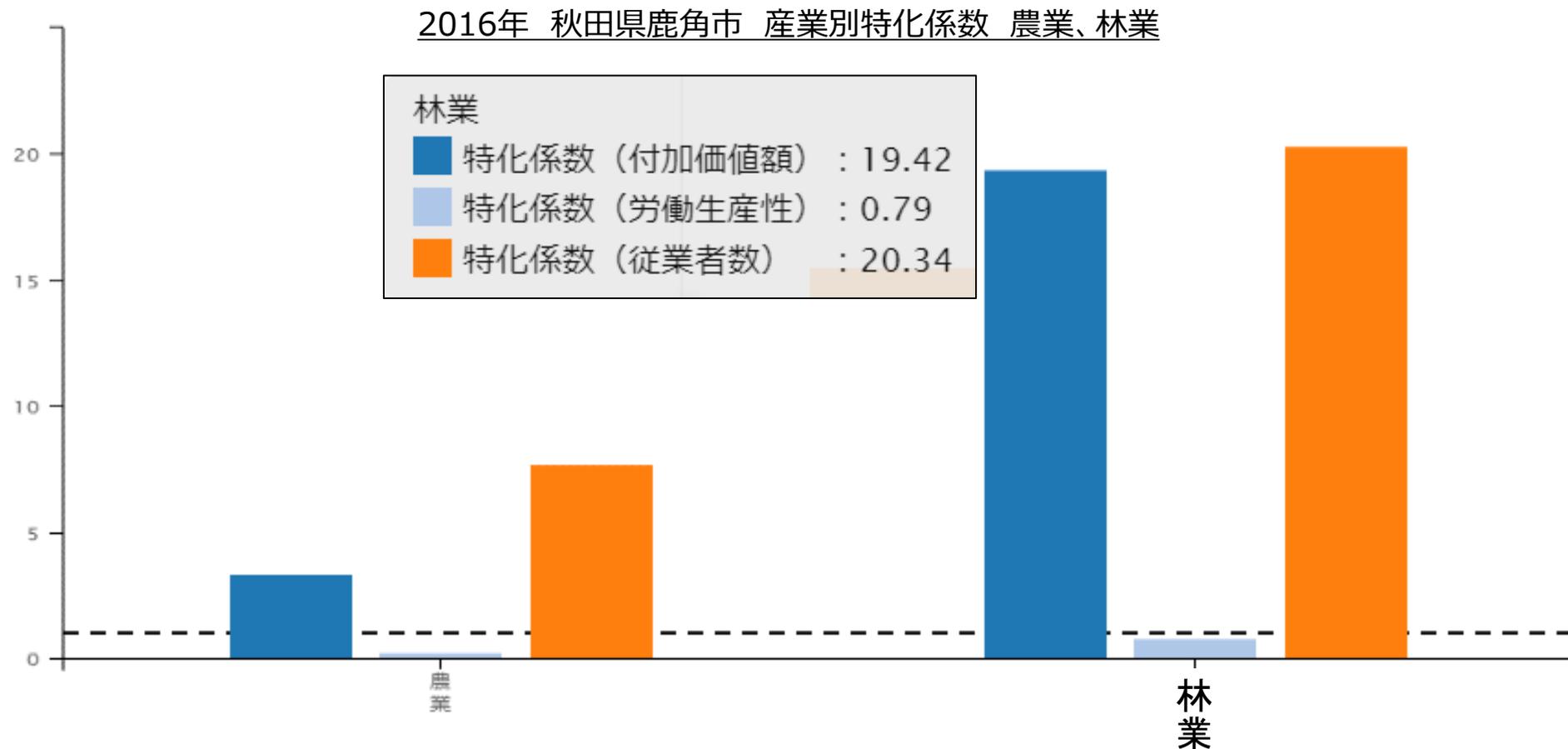
出典：RESAS_環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」

- 鹿角市の「林業」は移輸出収支額が4億円で域外から所得を稼げている産業である。

鹿角市の林業の稼ぐ力

産業構造マップ → 全産業 → 稼ぐ力分析

➤ どの産業が効率的に稼いでいるか、全国と比較できる特化係数を用いて表示します。



出典：RESAS_経済産業省「経済センサス-活動調査」

- 鹿角市の「林業」は全国と比較して付加価値額は高く、労働生産性は低い。雇用力は高い。

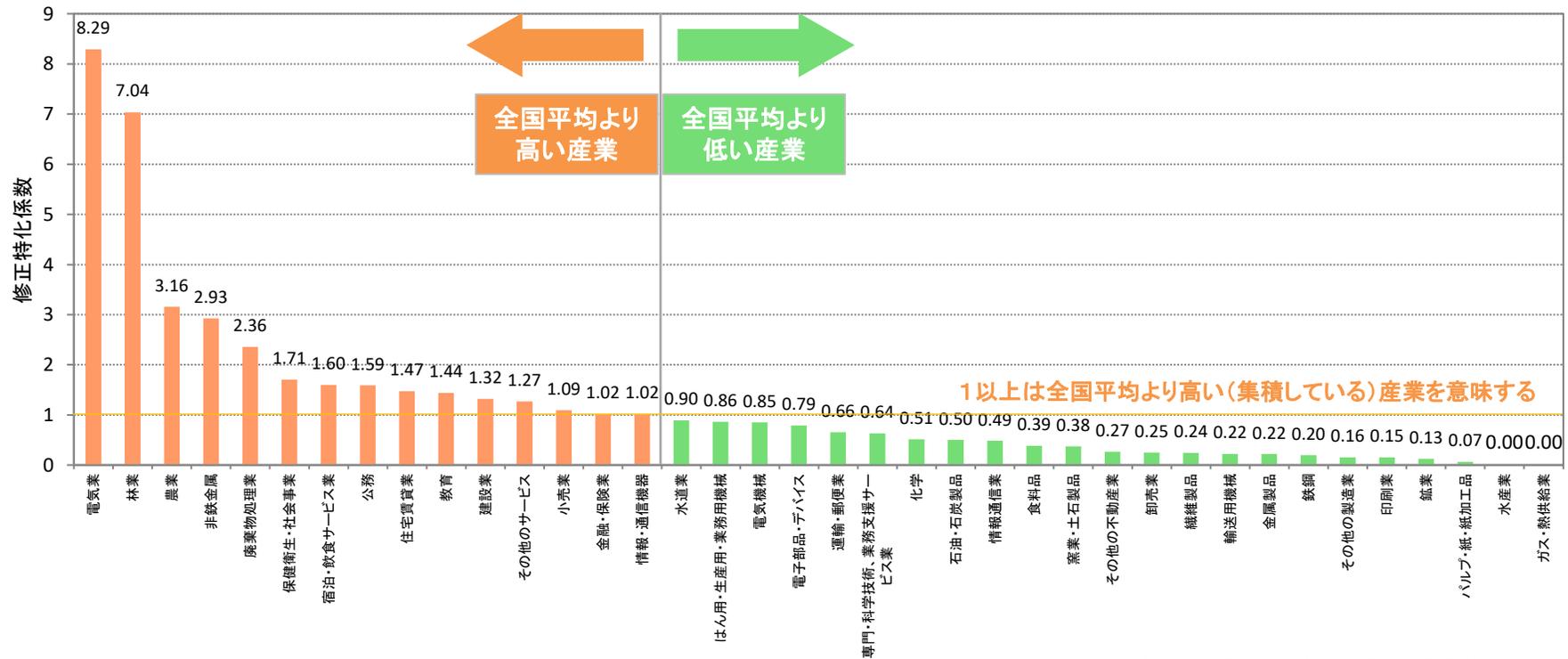
【RESAS外】地域の中で得意な産業は何か：産業別修正特化係数

分析の視点

- 全産業の生産額に占める割合が全国平均と比較して高い産業は、地域にとって比較優位な産業であり、地域の得意な産業である。
- ここでは、修正特化係数を用いて、全国平均と比較して地域で得意な産業が何かを把握する（下図）。

全国と比較して得意としている産業は、電気業、林業、農業、非鉄金属、廃棄物処理業、保健衛生・社会事業等である。

産業別修正特化係数（生産額ベース）



出典：環境省「地域経済循環分析」

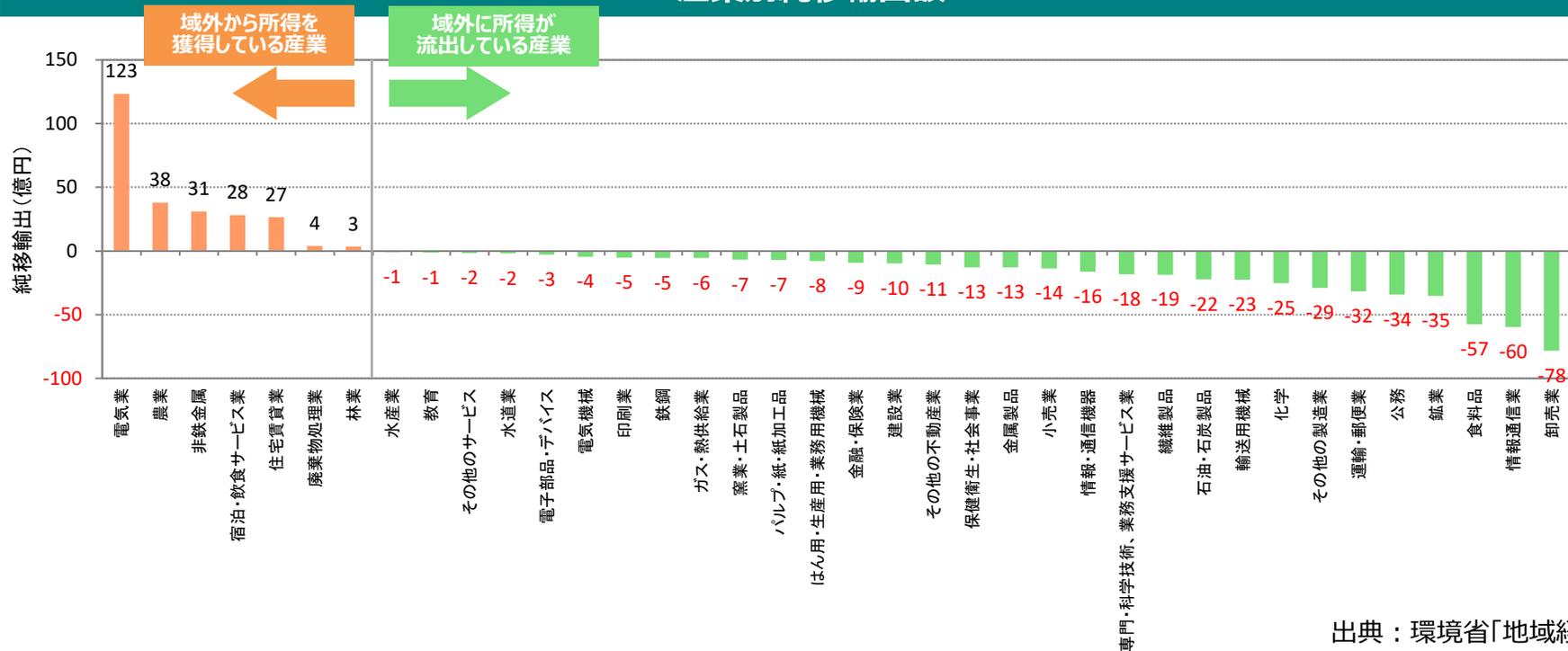
【RESAS外】域外から所得を獲得している産業は何か：産業別純移輸出額

分析の視点

- 域内の経済循環の流れを太くするためには、地域が個性や強みを生かして生産・販売を行い、域外からの所得を獲得することが重要である。
- 純移輸出額がプラスとなっている産業は、モノやサービスの購入に関して、域外への支払い額よりも域外からの受取り額の方が多く、域外から所得を獲得できる強みのある産業である。
- ここでは、産業別純移輸出額を用いて、域外から所得を獲得している産業が何かを把握する。

域外から所得を獲得している産業は電気業、農業、非鉄金属、宿泊・飲食サービス業、住宅賃貸業、廃棄物処理業等である。これらは、域内での生産額が大きい産業であり、地域で強みのある産業といえる。

産業別純移輸出額

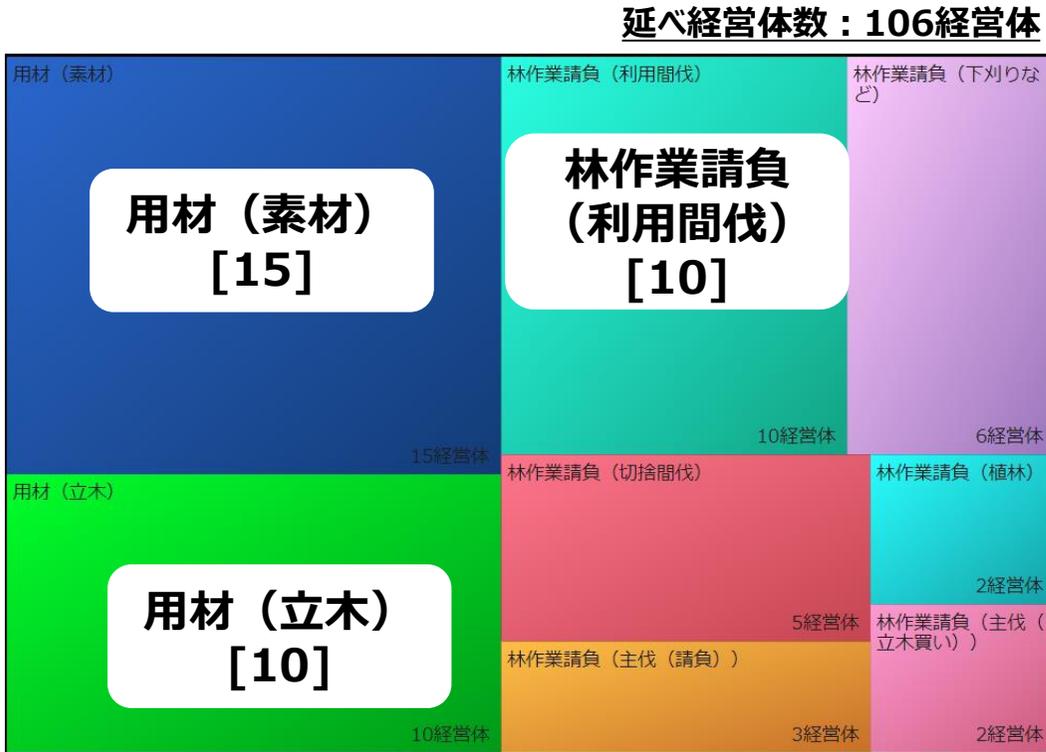


出典：環境省「地域経済循環分析」

鹿角市の林業の構造

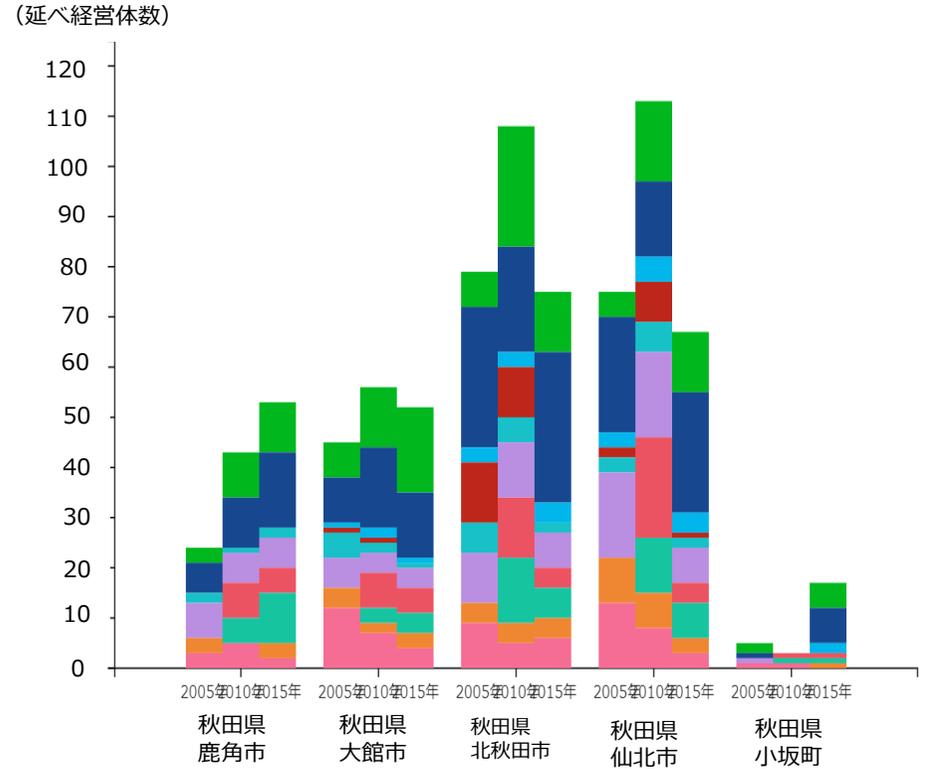
産業構造マップ → 林業 → 林業総収入

2015年 林業部門別延べ経営体数 鹿角市



出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

林業部門別延べ経営体数の構成



- ほど木用原木
- 林作業請負(切捨間伐)
- 用材(立木)
- 林作業請負(植林)
- 林作業請負(主伐(請負))
- 林作業請負(主伐(立木買い))
- 林作業請負(利用間伐)
- 用材(素材)
- 林作業請負(下刈りなど)
- 林作業請負(主伐(立木買い))

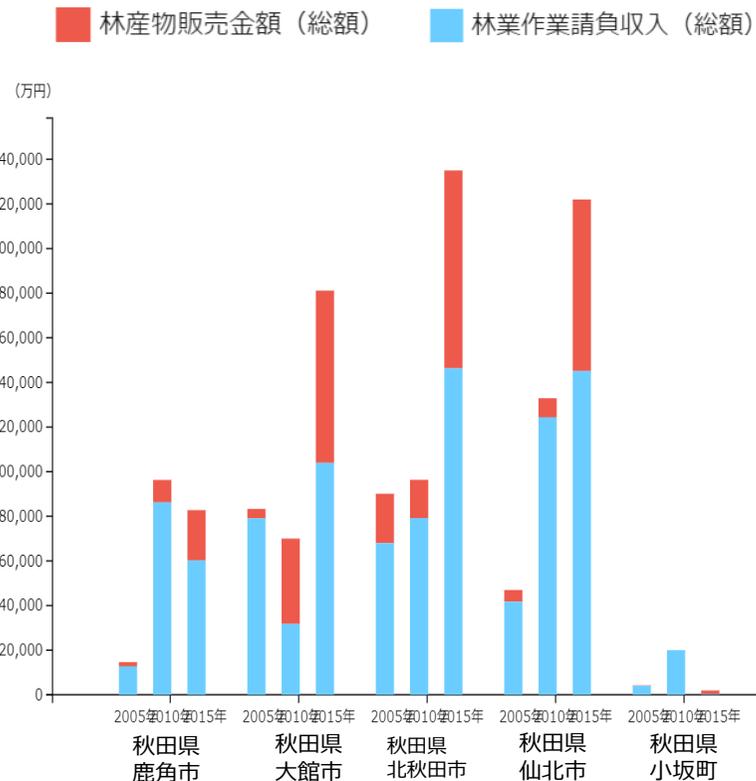
POINT >>

- 鹿角市の林業部門別の経営体数が最も大きい経営体は「用材(素材)」で15経営体。構成割合をみると、経営体の総数は増加傾向にあり、特に「用材(立木)」や「用材(素材)」、「林作業請負(利用間伐)」など経営体数が多い部門は2005年から増加傾向にある。

鹿角市の林業の総収入

産業構造マップ → 林業 → 林業総収入

林業総収入（総額） 鹿角市

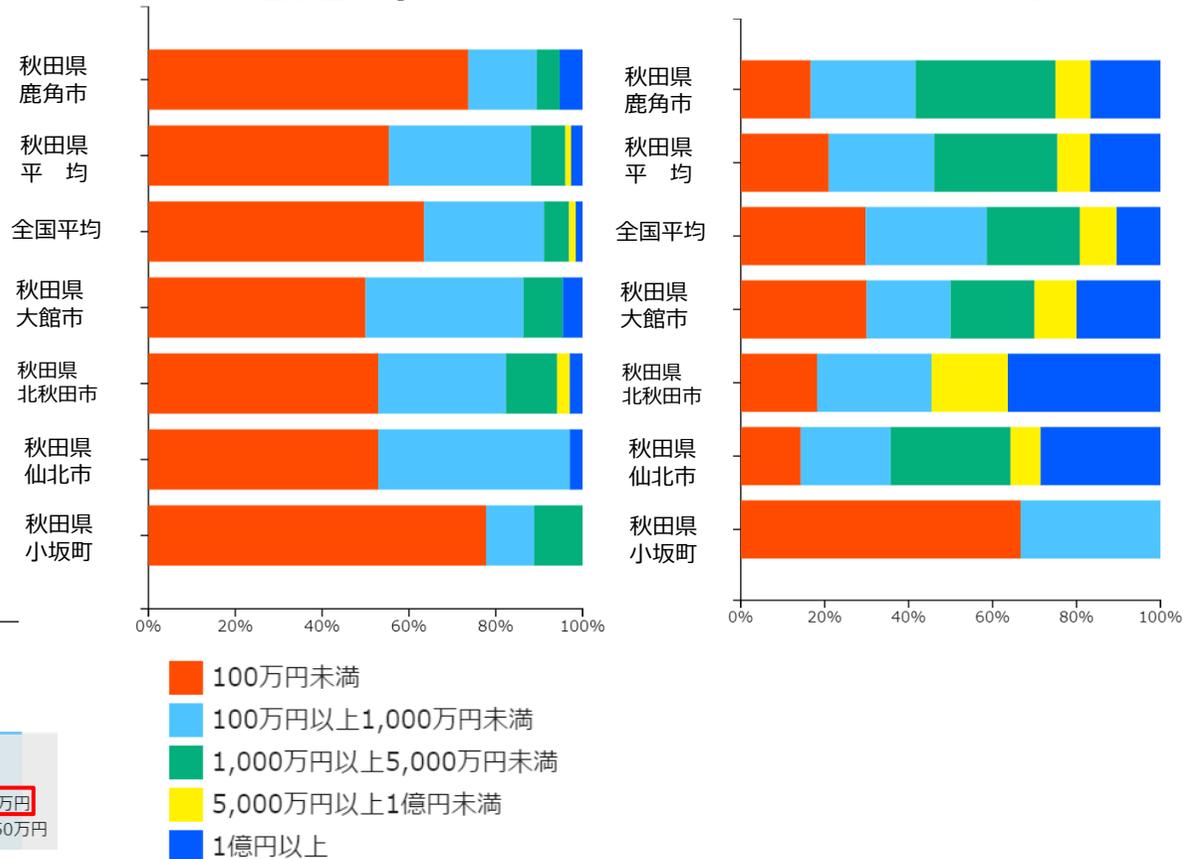


林産物販売金額帯別の経営体の割合（左）

林業作業請負収入金額帯別の経営体の割合（右）

2015年

2015年



出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

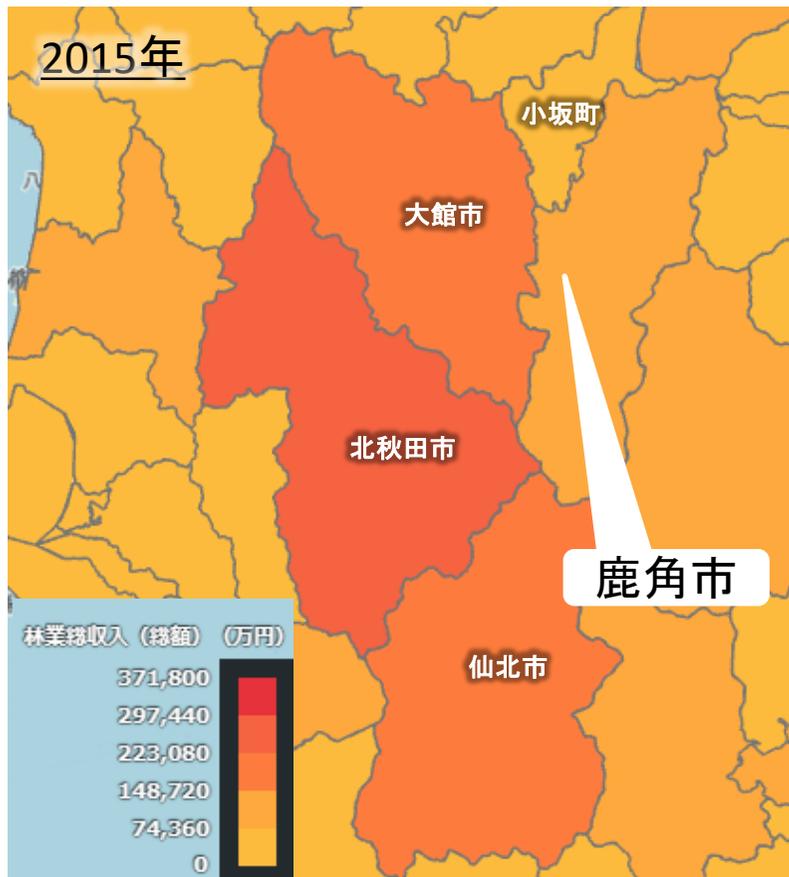
POINT >>

鹿角市の林業の総収入全体では2010年と比較して2015年は減少している。しかし、「林産物販売金額（総額）」は2010年と比較して約2倍増加している。林産物販売金額大別の経営体割合では「100万円未満」が最も大きく、林業作業請負収入金額帯別の経営体の割合は「1,000万円以上5,000万円未満」が最も大きい。

鹿角市の林業の総収入の比較

産業構造マップ → 林業 → 林業総収入

林業総収入（総額） 鹿角市



集計年	市区町村名	林業総収入（総額） （万円）
2015	北秋田市	235,000
2015	仙北市	222,000
2015	大館市	181,150
2015	鹿角市	82,750
2015	小坂町	1,925

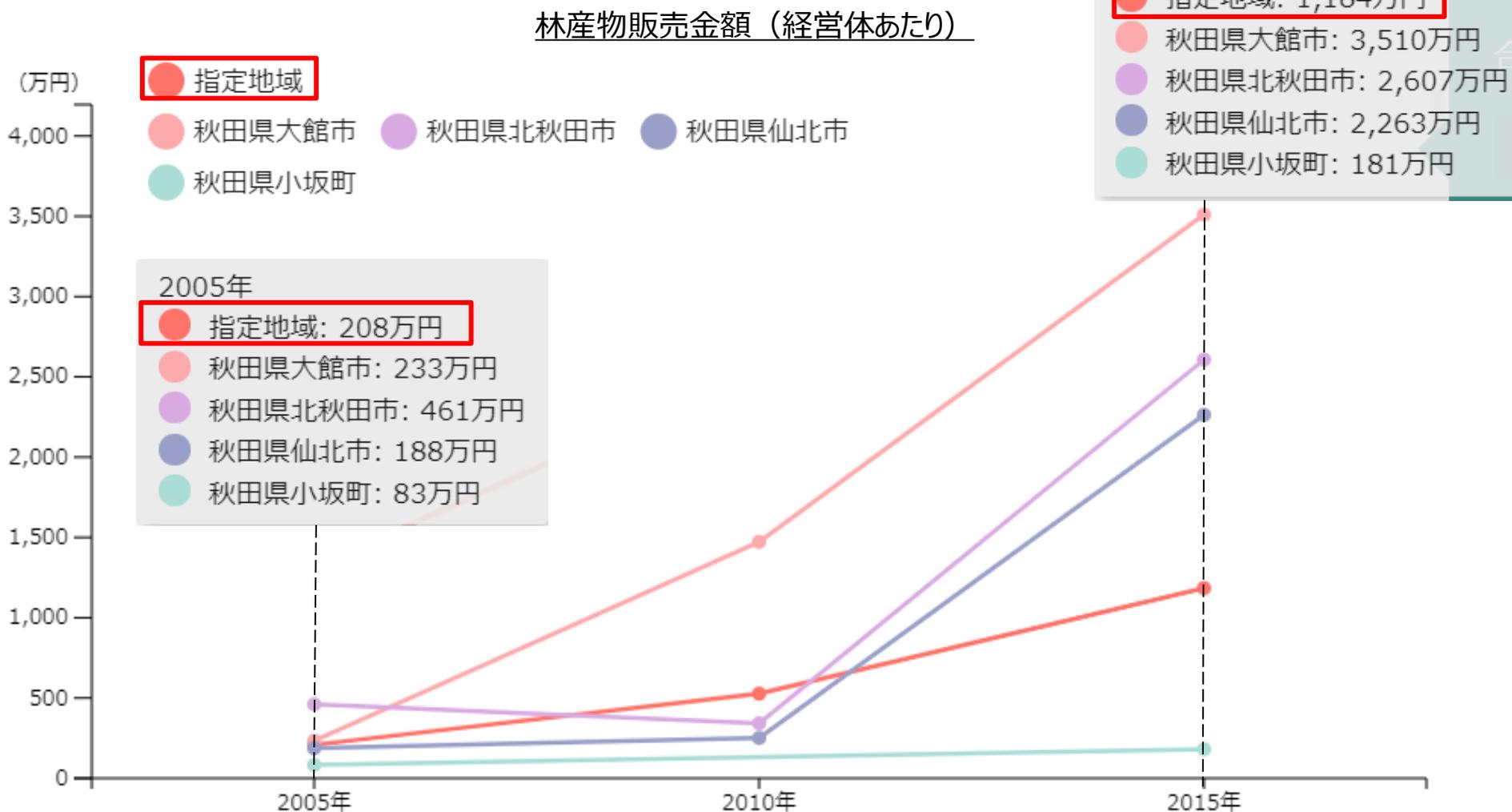
出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

POINT >>

鹿角市の林業の総収入全体を近隣の自治体と比較すると北秋田市、仙北市、大館市、能代市に次ぎ4位となっている。県全体では8位に位置している。

鹿角市の林業の総収入の比較

産業構造マップ → 林業 → 林業総収入



出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

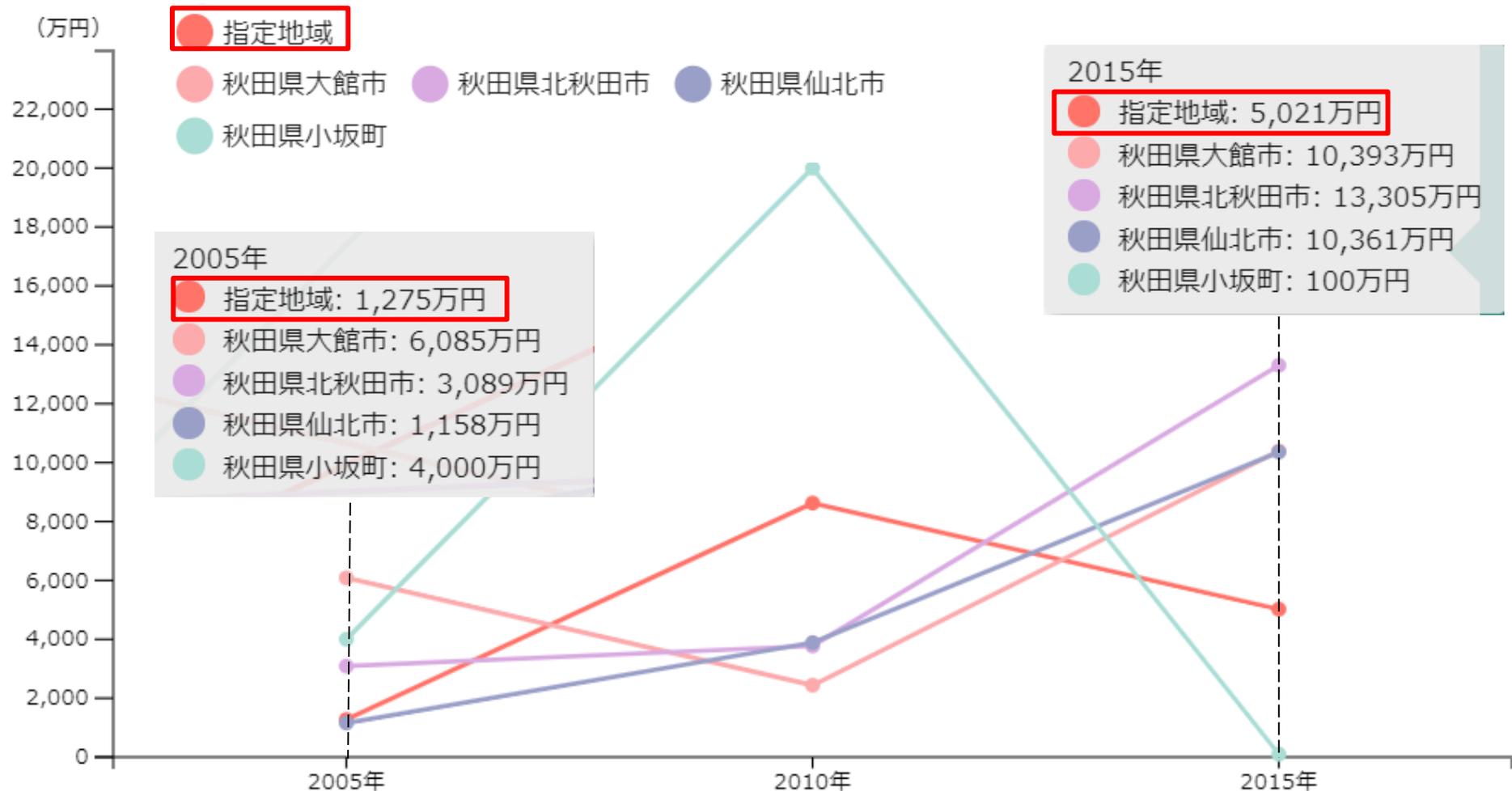
POINT >>

鹿角市の林業の経営体あたりの林産物販売金額は2005年から2015年にかけて大きく増加している。近隣の自治体の大館市、北秋田市、仙北市も経営体あたりの林産物販売金額の額が増加している。

鹿角市の林業の総収入の比較

産業構造マップ → 林業 → 林業総収入

林業作業請負収入（経営体あたり）



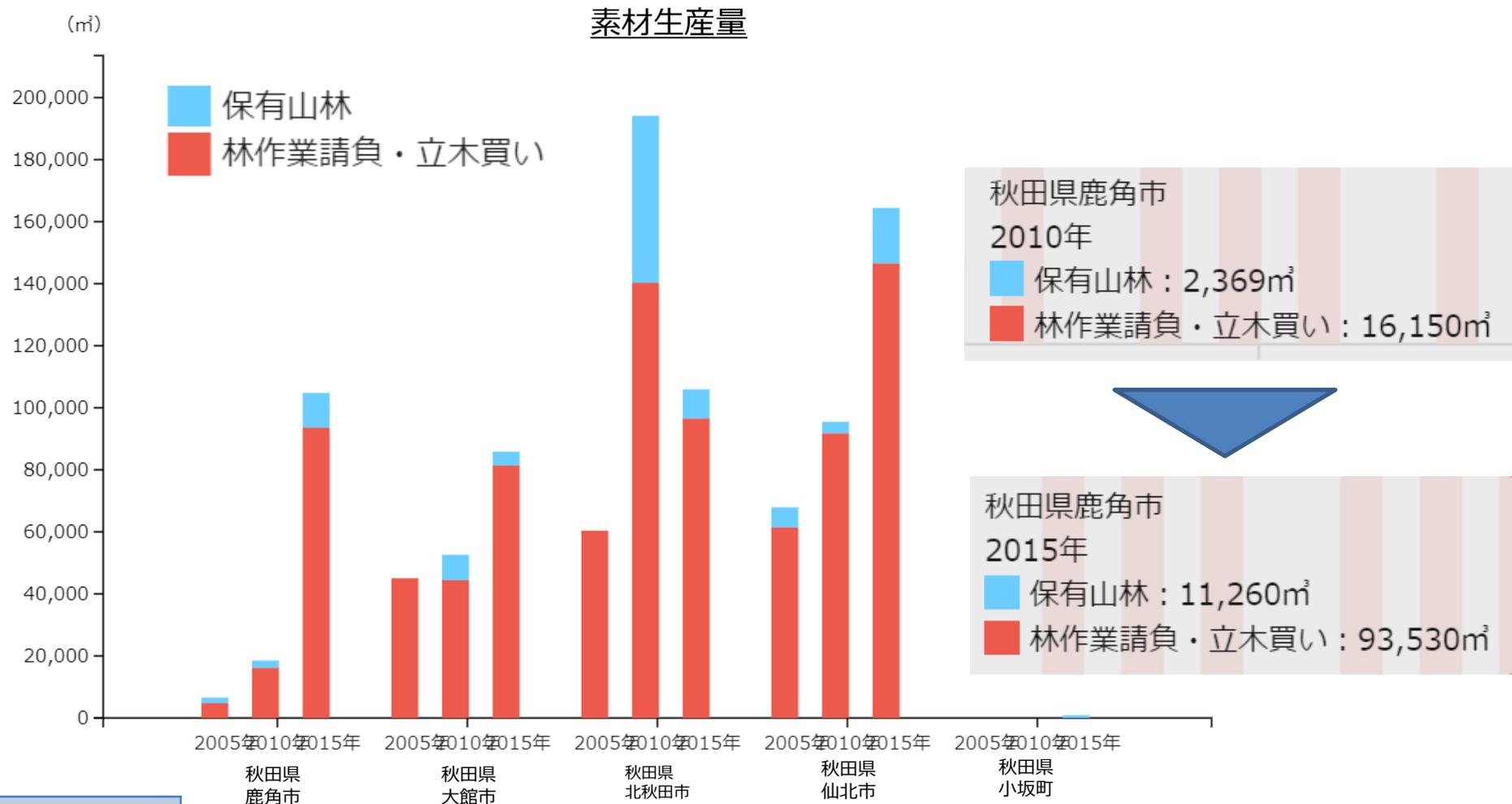
出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

POINT >>

経営体あたりの林業作業請負収入は2010年から2015年にかけて減少しているものの、2005年に比べると大きく増加している。周辺の自治体も同じく増加傾向にある自治体が多い。

鹿角市の素材生産量（丸太の量）

産業構造マップ → 林業 → 山林分析



POINT >>

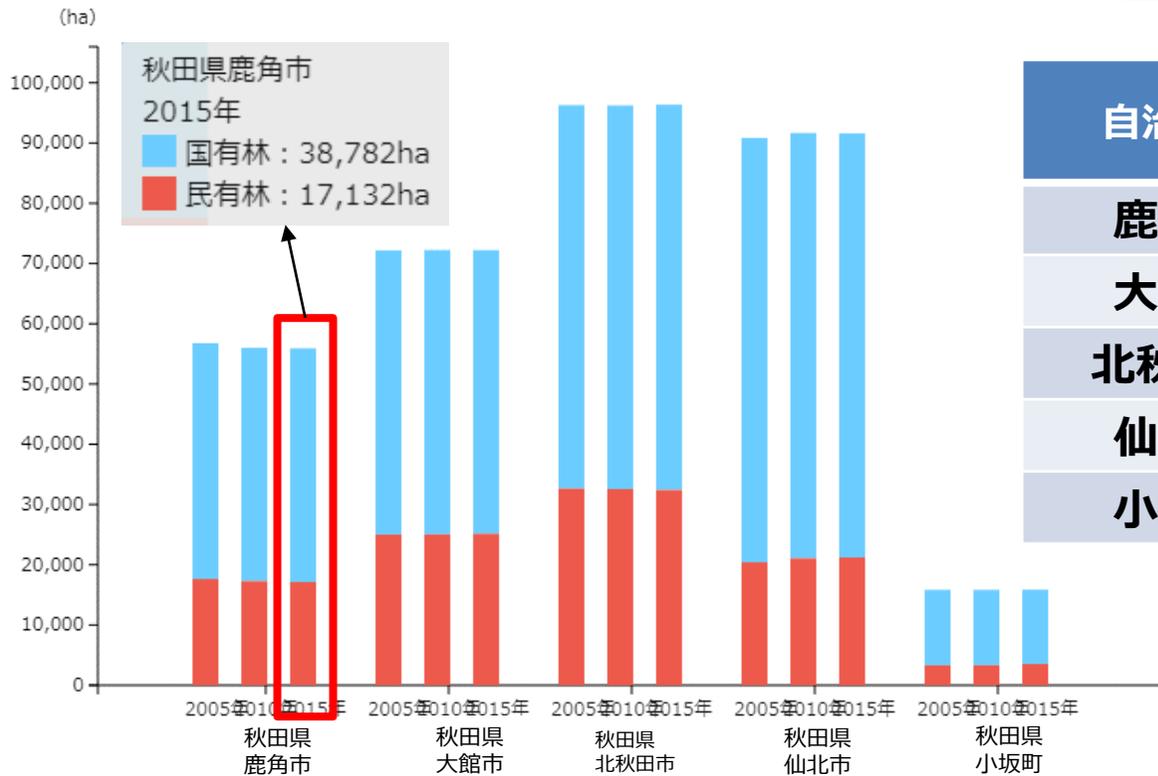
出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

鹿角市の素材生産量は2005年から増加しているが、2010年から2015年にかけて大きく増加している。「林業作業実施率」や「年間延べ林業作業日数」、「林業経営帯の法人化率」と関連があるか。素材生産量の中でも「林作業請負・立木買い」が大きく増加している。

鹿角市の林野面積

産業構造マップ° → 林業 → 山林分析

林野面積（総面積）



鹿角市周辺の自治体の総面積と林野面積（総面積）
における民有林の割合 2015年

自治体名	自治体の総面積 (km ²)	林野面積（総面積） における民有林の割合 (%)
鹿角市	707.52	30.6
大館市	913.22	34.8
北秋田市	1,152.76	33.6
仙北市	1,094.00	18.7
小坂町	201.70	22.3

POINT >>

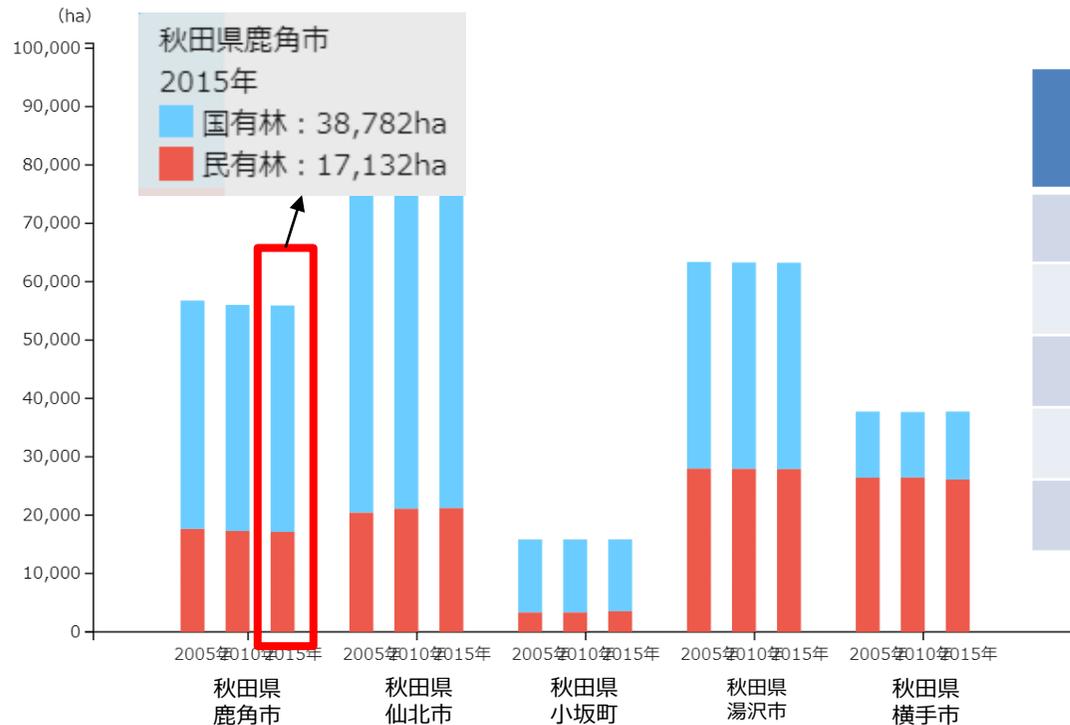
出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

鹿角市の林野面積は2005年とから2015年にかけて国有林、民有林ともに若干減少している。周辺の自治体と面積を比較すると、鹿角市は4番目の面積規模となっている。林野面積（総面積）における民有林の割合は、仙北市・小坂町より高く、自治体の総面積が鹿角市より大きい大館市や北秋田市と大きな差はない。

鹿角市の林野面積

産業構造マップ° → 林業 → 山林分析

林野面積（総面積）



鹿角市周辺の自治体の総面積と林野面積（総面積）
における民有林の割合 2015年

自治体名	自治体の総面積 (km ²)	林野面積（総面積） における民有林の割合 (%)
鹿角市	707.52	30.6
仙北市	1,094.00	18.7
小坂町	201.70	22.3
湯沢市	790.90	44.0
横手市	692.80	69.1

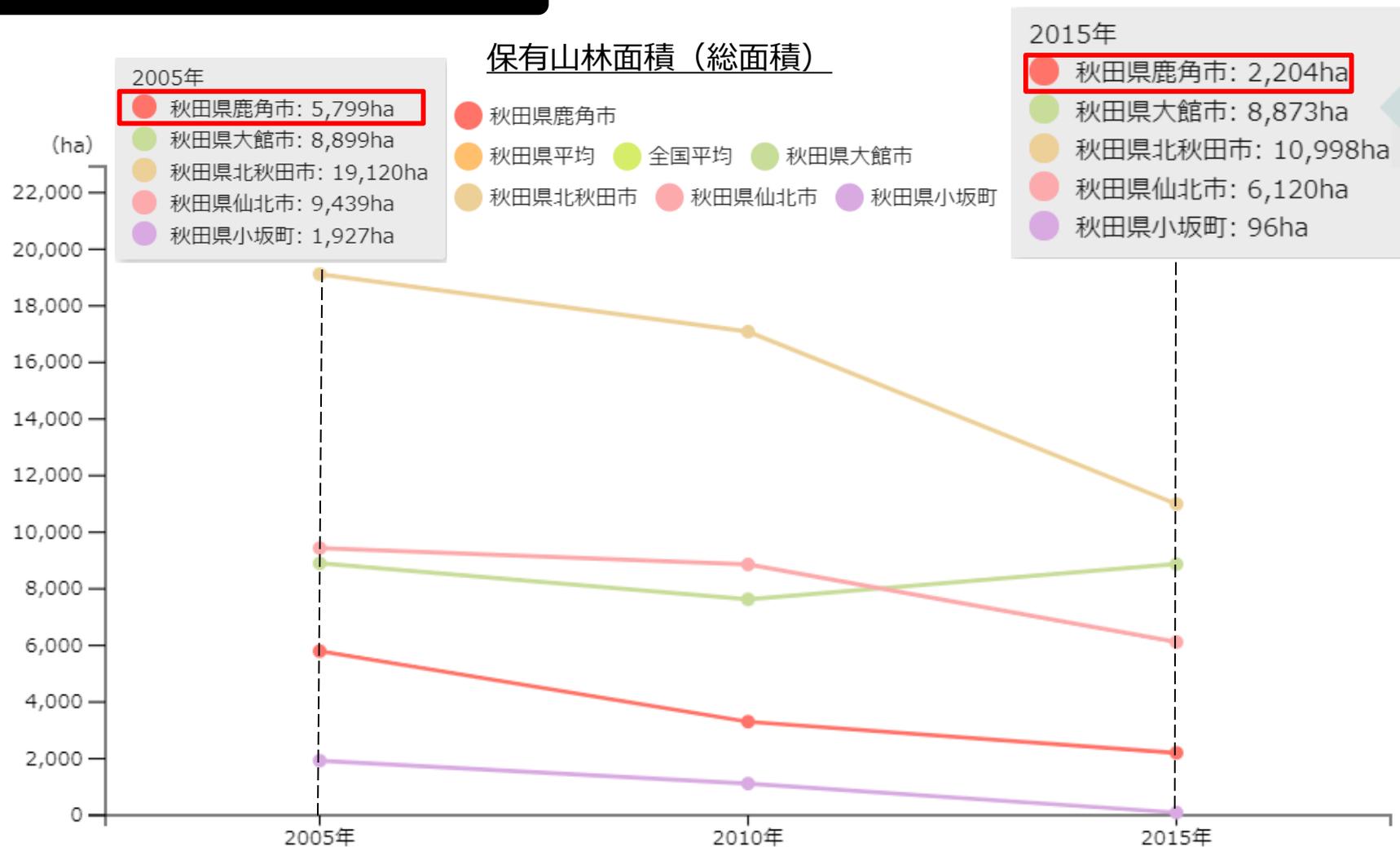
POINT >>

出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

鹿角市の林野面積は2005年とから2015年にかけて国有林、民有林ともに若干減少している。周辺の自治体と面積を比較すると、鹿角市は4番目の面積規模となっている。林野面積（総面積）における民有林の割合は、近隣の仙北市・小坂町より高く、県内の自治体で総面積が鹿角市と近い湯沢市や横手市より小さい。

鹿角市の保有山林面積

産業構造マップ → 林業 → 山林分析



出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

POINT >>

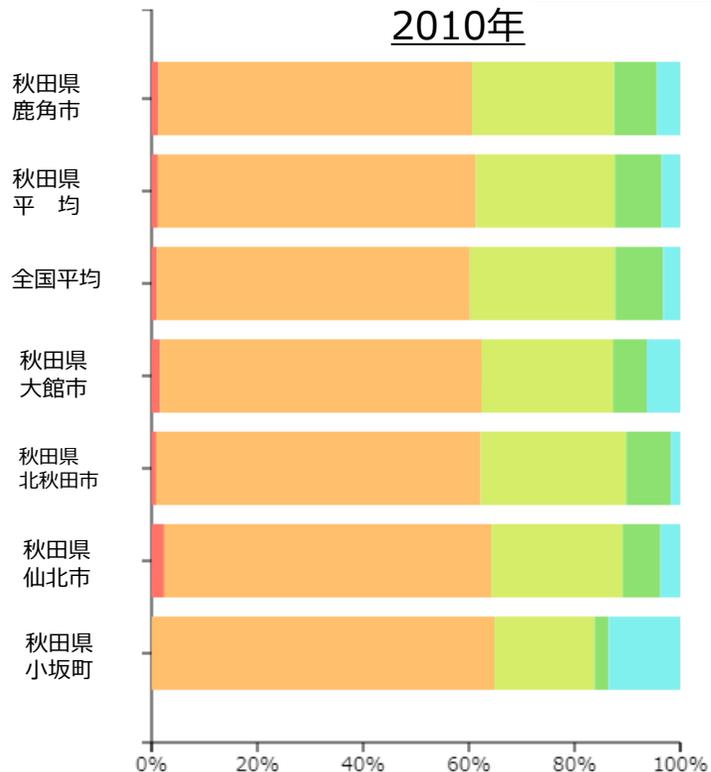
鹿角市の保有山林面積は2005年から2015年にかけて減少している。周辺の自治体と面積を比較すると、鹿角市は4番目の面積規模となっている。

鹿角市の面積別の経営体の割合

産業構造マップ° → 林業 → 山林分析

保有山林面積規模別の経営体の割合

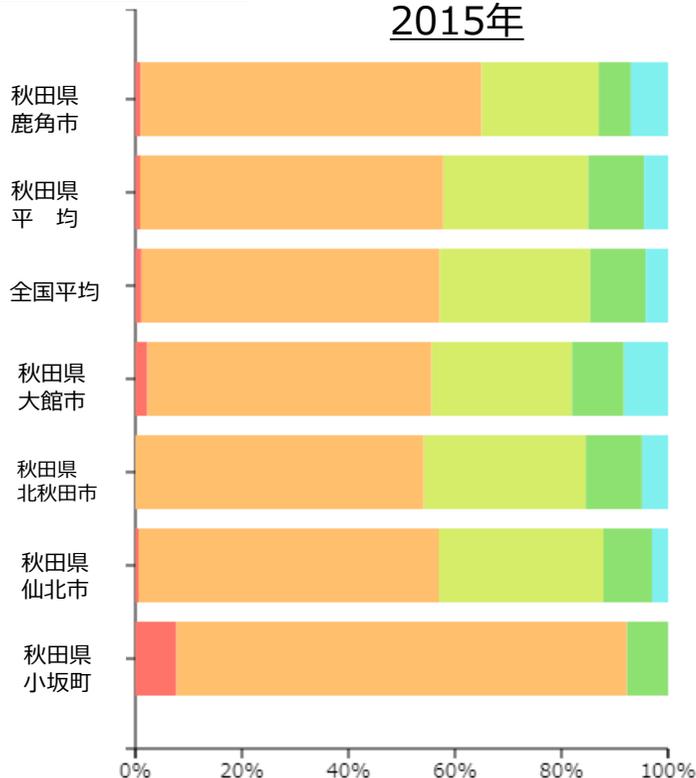
2010年



秋田県鹿角市

- 3ha未満：1.25%
- 3ha以上10ha未満：59.38%
- 10ha以上30ha未満：26.88%
- 30ha以上100ha未満：8.13%
- 100ha以上：4.38%

2015年



秋田県鹿角市

- 3ha未満：1.00%
- 3ha以上10ha未満：64.00%
- 10ha以上30ha未満：22.00%
- 30ha以上100ha未満：6.00%
- 100ha以上：7.00%



出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

POINT >>

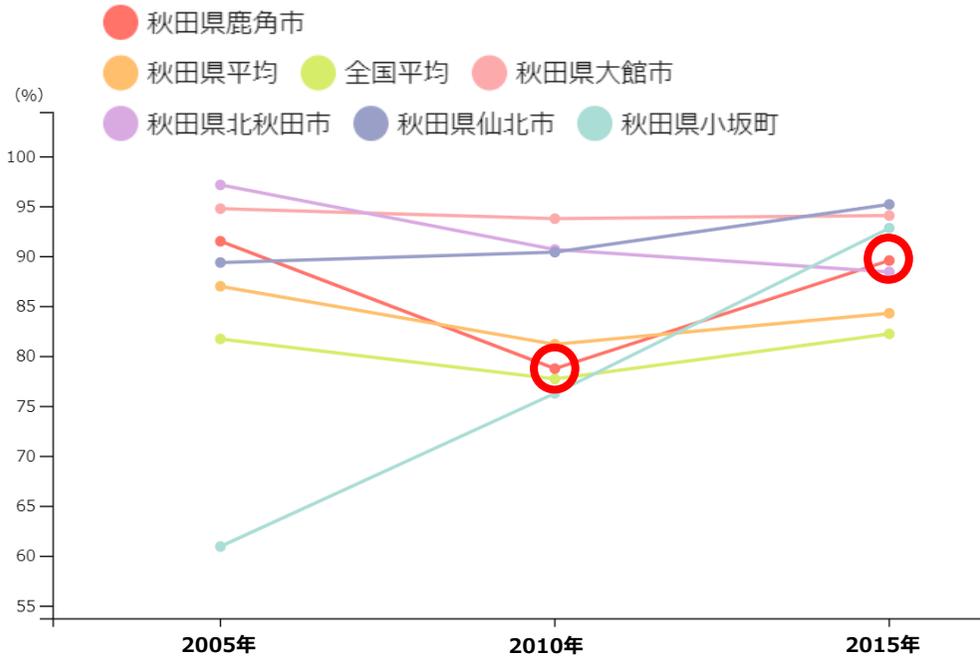
鹿角市の保有山林面積規模別の農業経営体の割合を見ると、「3ha以上10ha未満」の割合が最も多く、2015年にはその割合が増加している。「100ha以上」の経営体も増加している。一方、それ以外の面積規模の経営体の割合は全て減少している。

鹿角市の林業作業状況

産業構造マップ → 林業 → 山林分析 (左) / 林業者分析 (右)

出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

林業作業実施率



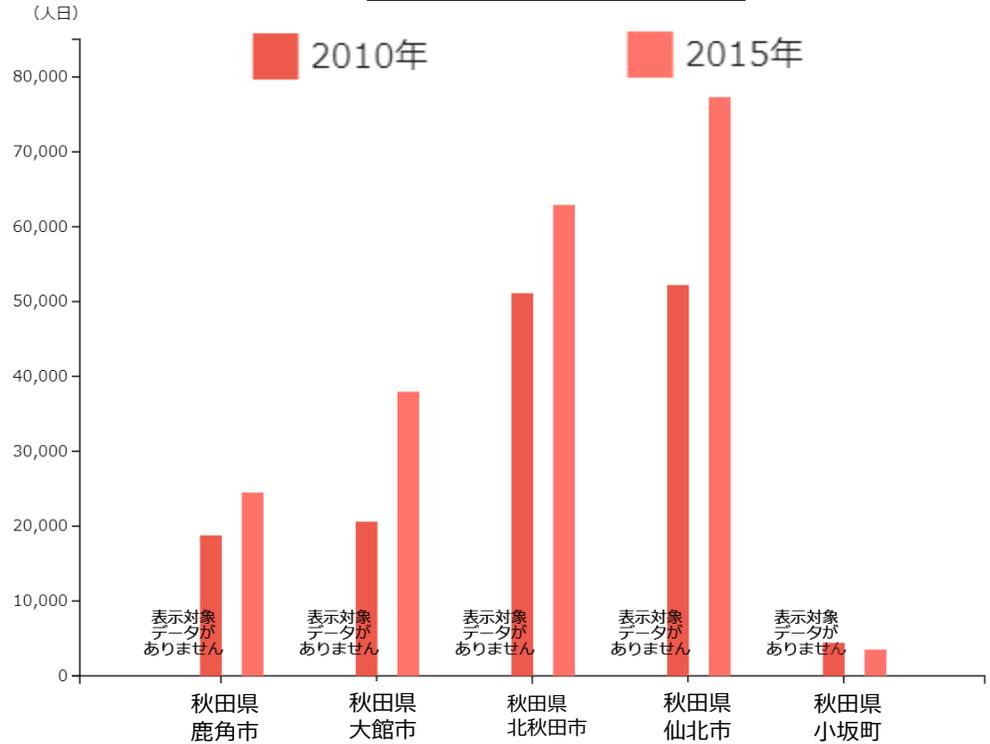
2010年

- 秋田県鹿角市: 78.79%
- 秋田県平均: 81.24%
- 全国平均: 77.76%
- 秋田県大館市: 93.81%
- 秋田県北秋田市: 90.72%
- 秋田県仙北市: 90.46%
- 秋田県小坂町: 76.32%

2015年

- 秋田県鹿角市: 89.62%
- 秋田県平均: 84.34%
- 全国平均: 82.28%
- 秋田県大館市: 94.12%
- 秋田県北秋田市: 88.48%
- 秋田県仙北市: 95.24%
- 秋田県小坂町: 92.86%

年間延べ林業作業日数



秋田県鹿角市

- 2005年: 0人日
- 2010年: 18,770人日
- 2015年: 24,493人日

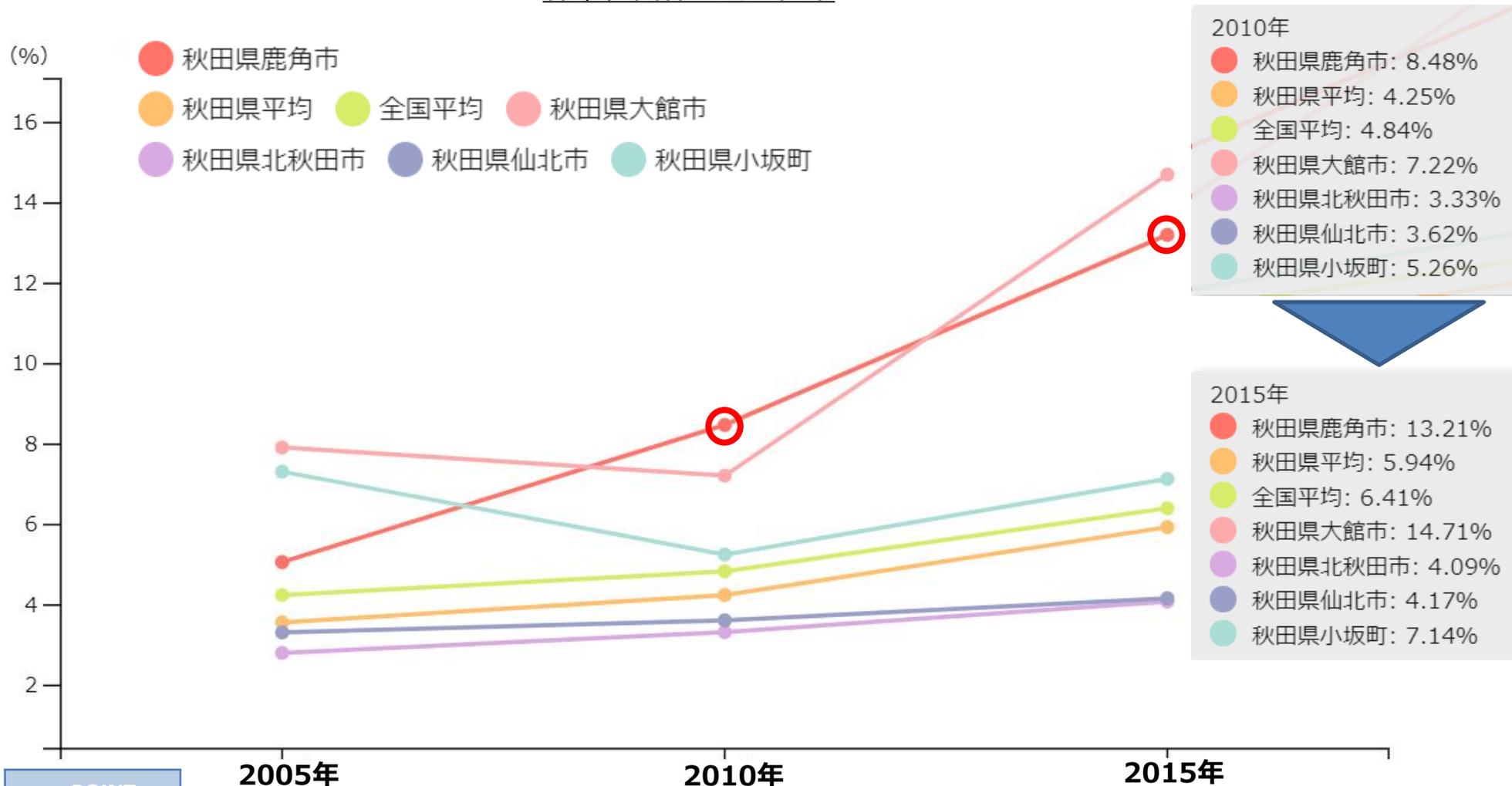
POINT >>

鹿角市の「林業作業実施率」は2005年から2010年にかけて減少したものの、2010年から2015年にかけて増加している。ただし、2005年ほどの実施率にはなっていない。近隣自治体より実施率は低い、県平均や全国平均は上回っている。「年間延べ林業作業日数」は2010年から2015年にかけて増加している。

鹿角市の林業経営体の法人化率

産業構造マップ → 林業 → 林業者分析

林業経営体の法人化率



出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

・「林業経営体」の法人化率は年々増加している。2015年には10%を超えている。近隣自治体では大館市に次ぎ、他の自治体を大きく上回っている。法人化率の増加は「素材生産量」の増加に影響しているか。

林業についてのまとめ

- ・経営体数は、他地域は減少傾向だが、鹿角市は増加している(S)。鹿角市では林業に参画しやすい環境にあるか。林業に関する制度の活用が進んでいるのではないか。
- ・経営体数は用材(素材)が多く、2010年に比べて増加している(S)。
- ・林業の総収入は、林産物販売金額が増加したものの(S)、林業作業請負収入が減少したため、全体としては2010年に比べて減少した(W)。他の自治体の請負収入は増えているので、鹿角市で請け負っていた分が外に漏れていると推定される。
- ・経営体あたりの収入では、林産物販売金額は増加傾向だが(S)、請負は減少傾向にある(W)。他の自治体も林産物の販売金額が増加しているところが多い。優れた林産物を生産できていると推定される。
- ・販売金額帯別の経営体の割合では、他と比べて100万円未満・1億円以上が多い(S)。
- ・作業請負収入の経営体の割合では、1,000万円以上5,000万円未満が多い(S)。
- ・素材生産量を見ると、林作業請負・立木買いが大幅に増加している(S)。(素材は多いが、収入に結びついていない？(W))
- ・総人口や生産年齢人口の減少により、今後の林業の人手不足が考えられる(T)

林業についてのまとめ（続き）

- ・林業作業実施率は2005年から2010年にかけて減少したものの、2010年から2015年にかけて増加している（S）ただし、近隣の自治体と比較して実施率は高くない。（W）
- ・林業は全国より地域で得意な産業である。全国より秋田県は林業が盛んであること、移輸出入額もプラスであることが要因であると考えられる（S）。（地域経済循環分析）
- ・林業経営体の法人化率は年々上昇し、2015年には県平均を2倍以上上回っている。（S）法人化に関する制度の利用の促進や鹿角市の林業施策に効果があったのではないか。
- ・林業の作業日数は2010年から2015年にかけて増加している。他の自治体も同じ傾向にある（S）。
- ・面積別の経営体の割合を見ると、「3ha以上10ha未満」の経営体が多く割合も増加している（S）。「100ha以上」の経営体の割合も増加している（S）。しかしそれ以外の経営体の割合は減少している（W）。
- ・鹿角市の山林面積は2005年から2015年にかけて若干減少している（W）。経営体の保有山林面積も減少傾向にある。（W）
- ・国有林、民有林ともに減少しているが、林野面積（総面積）における民有林の割合が自治体の総面積に近い湯沢市や横手市より低い、近隣の仙北市や小坂町より高い。現状整備されていない民有林がかなり多く、今後の山林整備に不安がある。（W、T）

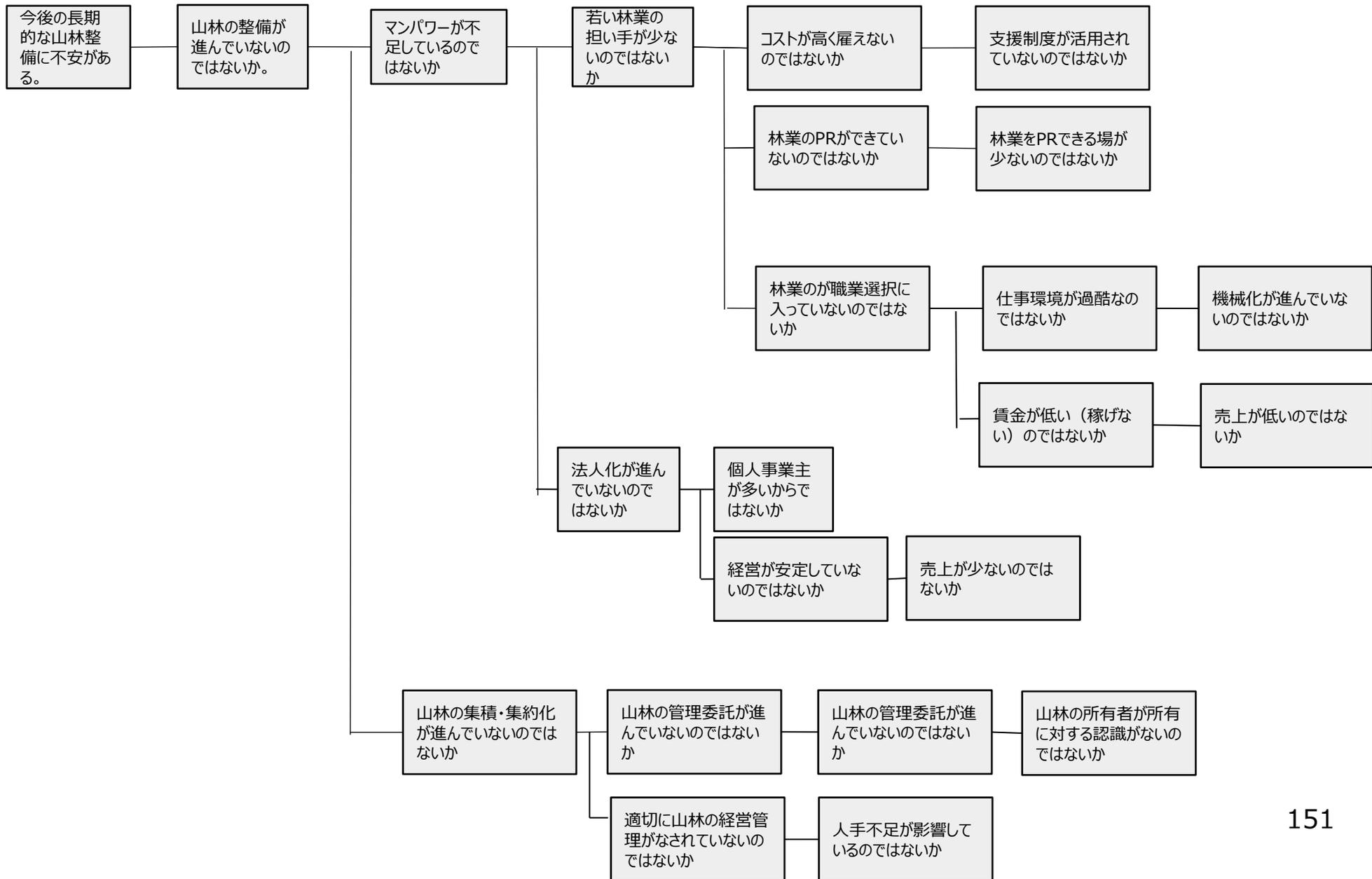
鹿角市（林業）のSWOT分析

	強み (strength)	弱み (weakness)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> 鹿角市の経営体数は増加している。 経営体数は用材が多く、2010年に比べて増加している。 林業の総収入は林産物販売額が増加した。 経営体あたりの収入では、林産物販売額は増加傾向にある。 販売金額帯別の経営体の割合では、周辺の自治体と比較して、100万円未満・1億円以上が多い。 作業請負収入の経営体の割合では、1000万円以上・5000万円未満が多い。 素材生産量では、林作業請負・立木買いが大幅に増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 林業作業請負収入が減少したため、林業の総収入は2010年よりも減少した。 経営体あたりの請負収入は減少傾向にある。 素材は多いが、収入に結びついていないのではないか。（付加価値をつけられていない？） 林野面積が2010年から2015年にかけて減少している。 林野面積は国有林・民有林ともに減少傾向にある。 林野面積（総面積）における民有林の割合が、鹿角市よりも自治体の総面積に近い湯沢市や横手市より低いが、仙北市や小坂町よりも大きく、整備に手が回っていない民有林が多い。
	機会 (opportunity)	脅威 (threat)
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> CNにより木質バイオマス発電が注目されている 	<ul style="list-style-type: none"> 総人口や生産年齢人口の減少により林業の人手不足が想定される。 整備されていない山林が多く、人手不足による今後の山林の整備に不安がある。 ウッドショックによる丸太や製材価格の上昇



注力すべき問題点：手のかかっていない山林が多く、今後の整備に不安がある

ロジックツリー 林業



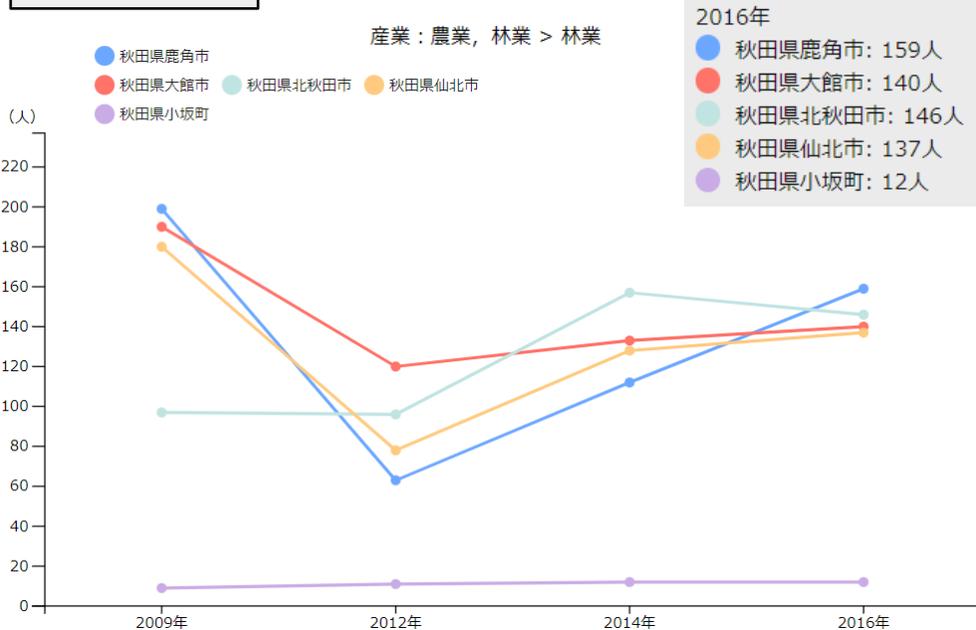
鹿角市の山林整備の状況

産業構造マップ → 全産業 → 従業者数（事業所単位）（左）
 産業構造マップ → 林業 → 山林分析（右）

山林の整備が進んでいないのではないか。

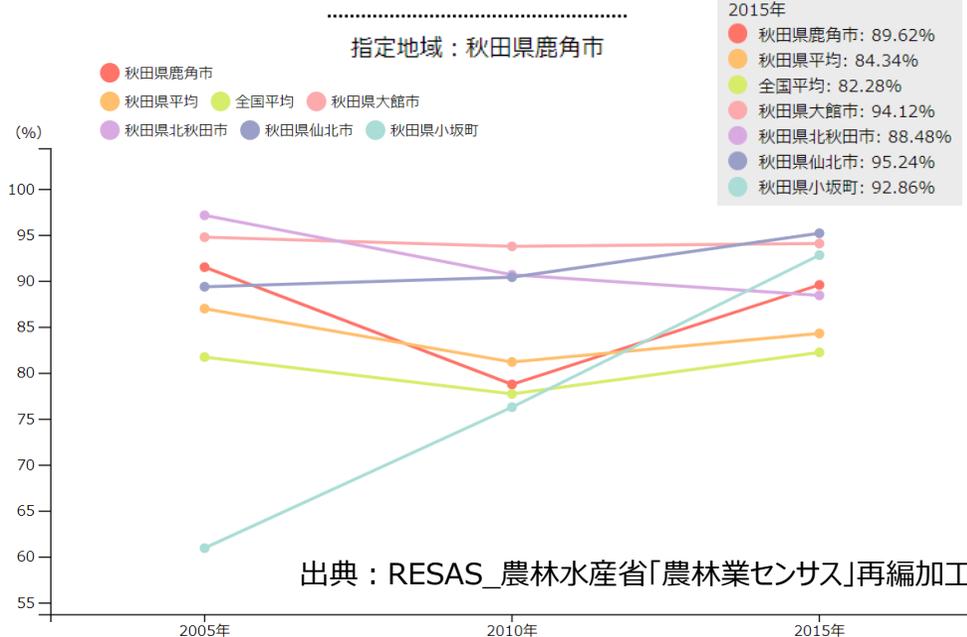
従業者数（事業所単位）

産業：農業，林業 > 林業



林業作業実施率

指定地域：秋田県鹿角市



出典：RESAS_農林水産省「農林業センサス」再編加工

従業者数（事業所単位）順位

秋田県鹿角市

2016年

都道府県内

3 位

全国

28 位

出典：RESAS_総務省「経済センサス-基礎調査」
 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

「過去5年間に保有山林で林業作業を行った経営体数÷経営体数総数」で算出。

POINT >>

- 鹿角市の林業の従業者数は秋田県内で3位に位置しているが、林業の作業実施率は従業者数で上回る大館市、仙北市、小坂町を下回る。山林整備に限らず、作業実施が進んでいないと思われる。

鹿角市の林業従事者について

産業構造マップ → 全産業 → 従業者数（事業所単位）（左）
 産業構造マップ → 林業 → 山林分析（右）

マンパワーが不足しているのではないか

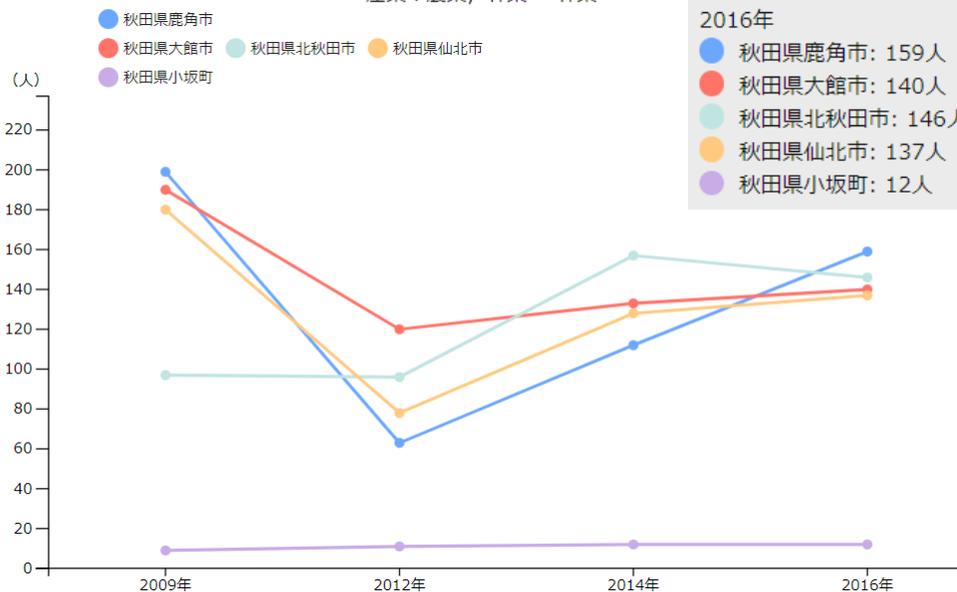
山林の整備が進んでいないのではないか。

民有林の整備に手が回っていないのではないか

出典：RESAS_総務省「経済センサス-基礎調査」
 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

従業者数（事業所単位）

産業：農業，林業 > 林業



従業者数（事業所単位）順位

秋田県鹿角市

2016年

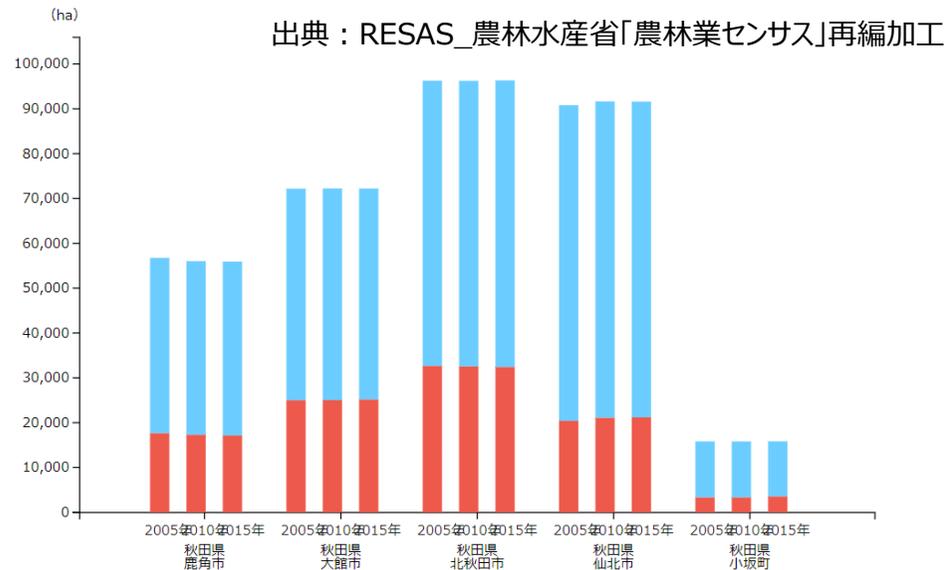
3位

28位

林野面積（総面積）

指定地域：秋田県鹿角市

■ 国有林 ■ 民有林



自治体名	自治体の総面積	林野面積（総面積） における民有林の割合
鹿角市	707.52km ²	30.6%
大館市	913.22 km ²	34.8%
北秋田市	1152.76km ²	33.6%
仙北市	1094km ²	18.7%
小坂町	201.70km ²	22.3%

POINT >>

- 前項のとおり鹿角市の林業従業者は秋田県内でも3位と高く、従業者自体は多い。ただし、林野面積（総面積）における民有林の面積は仙北市や小坂町より高く、面積の大きい大館市、北秋田市とも大きな差がない。民有林が多いため今後の山林整備の人手不足が懸念される。

鹿角市の林業従事者について

産業構造マップ → 全産業 → 従業者数（事業所単位）（左）
 産業構造マップ → 林業 → 山林分析（右）

マンパワーが不足しているのではないか

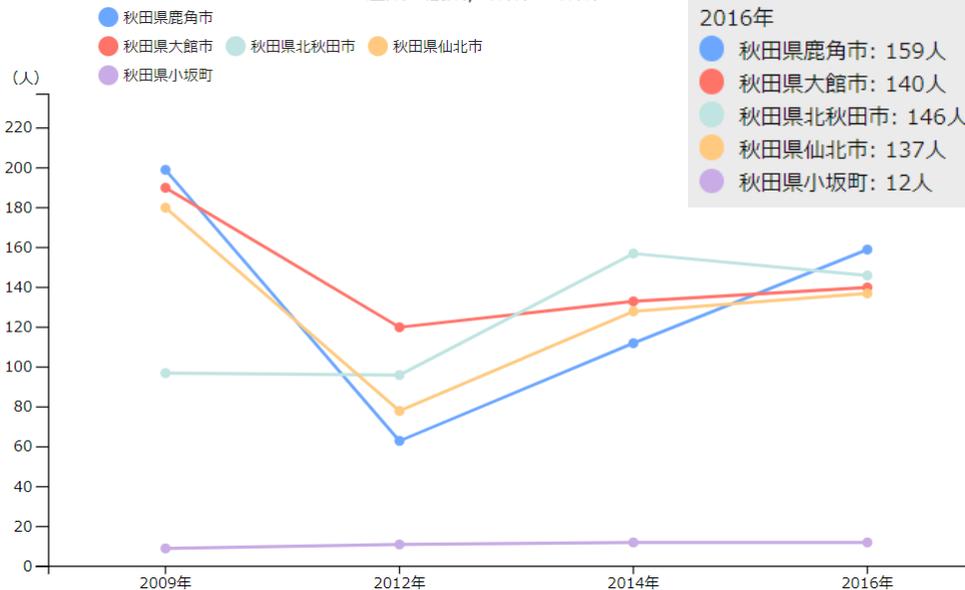
山林の整備が進んでいないのではないか。

民有林の整備に手が回っていないのではないか

出典：RESAS_総務省「経済センサス-基礎調査」
 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

従業者数（事業所単位）

産業：農業，林業 > 林業



従業者数（事業所単位）順位

秋田県鹿角市

2016年

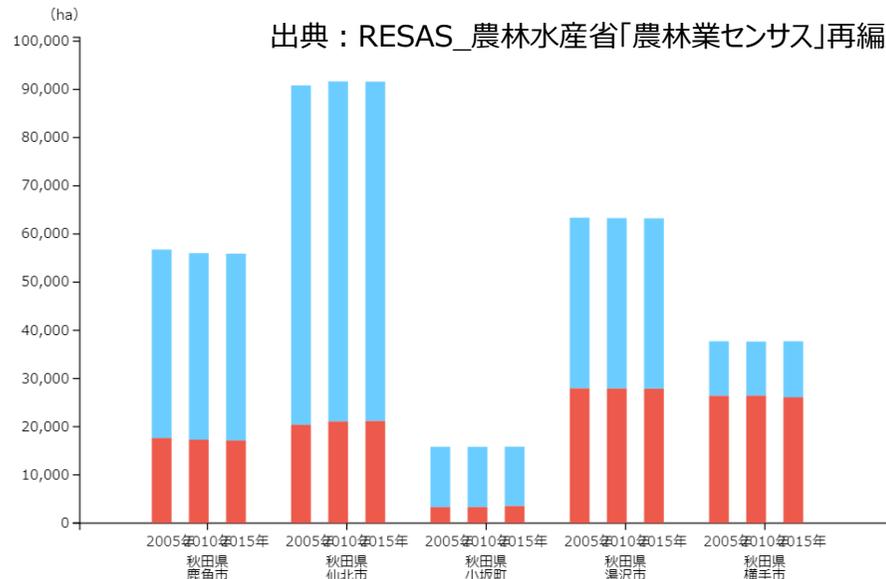
3位

28位

林野面積（総面積）

指定地域：秋田県鹿角市

■ 国有林 ■ 民有林



自治体名	自治体の総面積	林野面積（総面積） における民有林の割合
鹿角市	707.52km ²	30.6%
仙北市	1094km ²	18.7%
小坂町	201.70km ²	22.3%
湯沢市	790.9km ²	44%
横手市	692.8km ²	69.1%

POINT >>

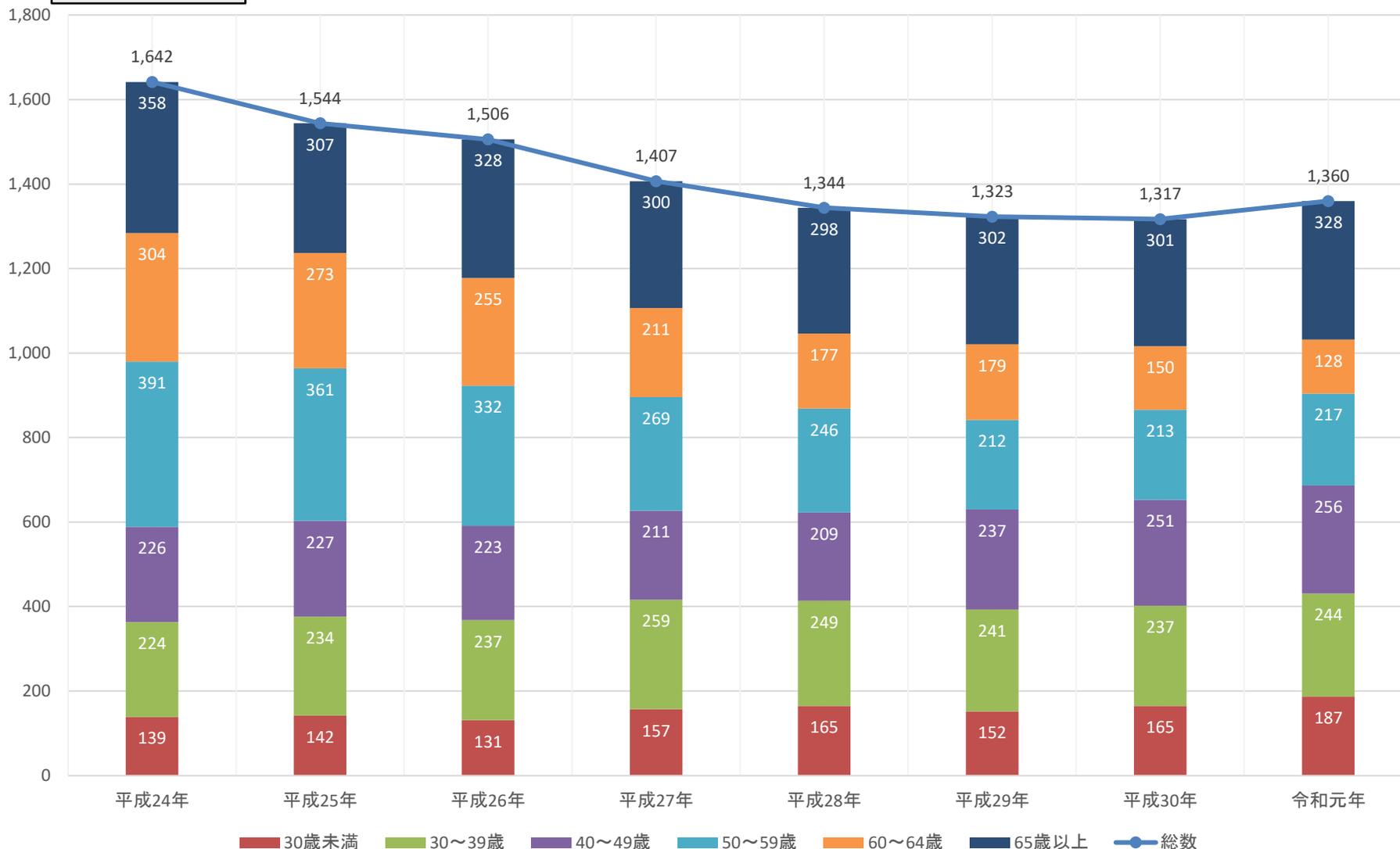
- 前項のとおり鹿角市の林業従業者は秋田県内でも3位と高く、従業者自体は多い。ただし、林野面積（総面積）における民有林の面積は県内で自治体の総面積に近い湯沢市や横手市よりは低い、仙北市や小坂町より高い。民有林が多いため今後の山林整備の人手不足が懸念される。

秋田県の林業従事者の年齢構成について

若い林業の担い手が少ないのではないか

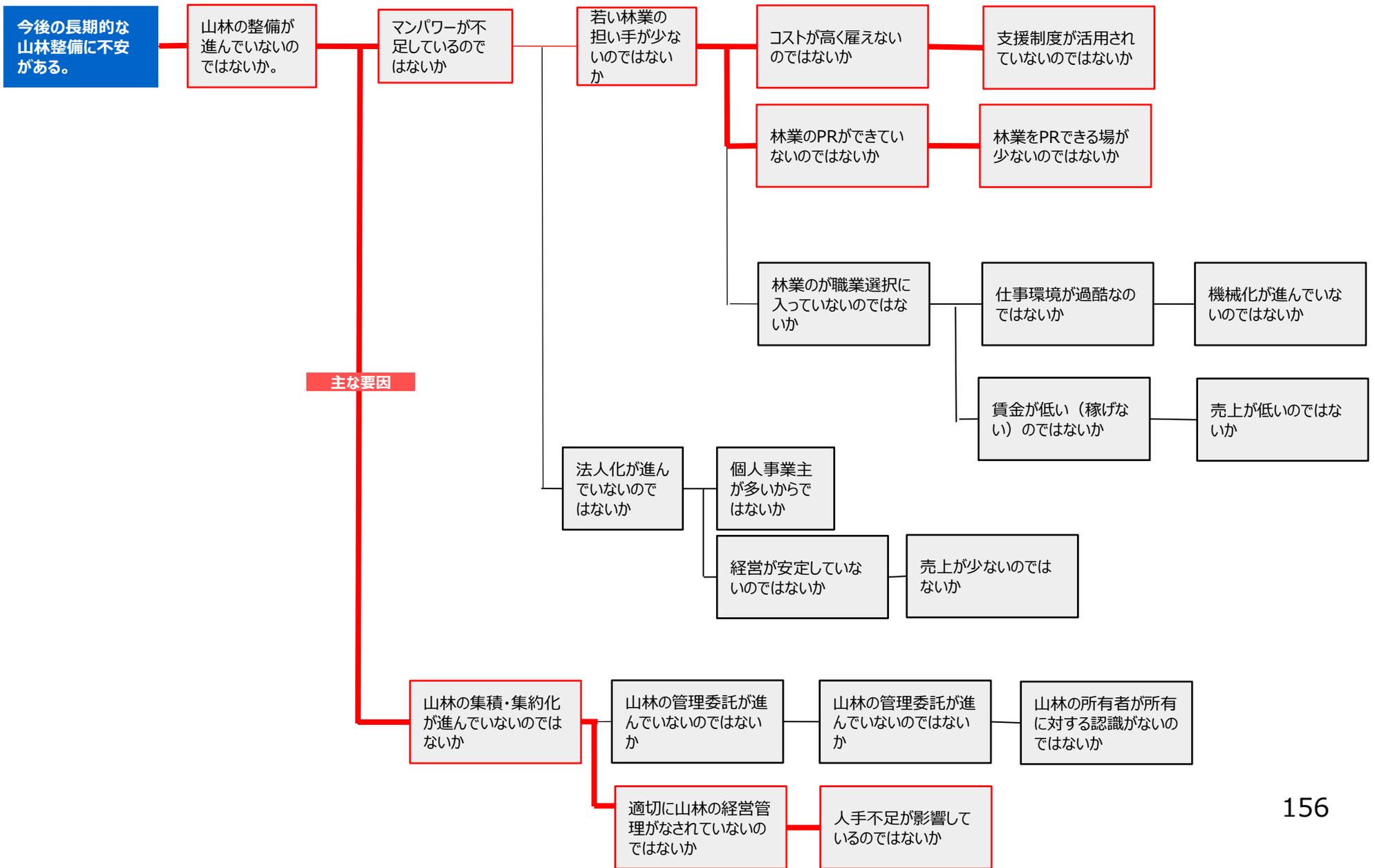
林業従事者の年齢構成_秋田県

秋田県 令和2年度林業統計より作成



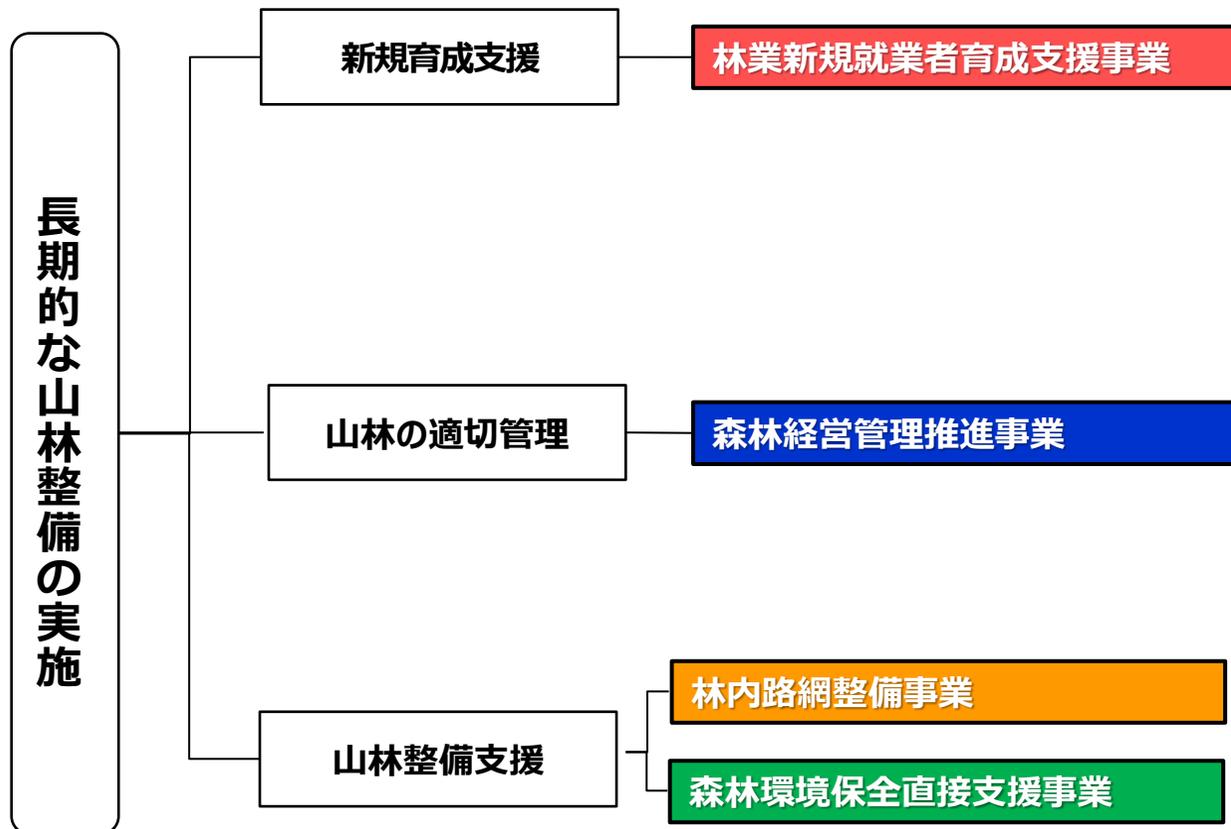
- 現状、若い林業従事者が減少しているとはいえない。しかし今後の総人口や生産年齢人口の減少により、若い従事者の減少が想定される。

林業の問題点の主要因を抽出



長期的な山林整備に対する不安を解消するために

長期的な山林整備の実施のために取り組む事業



長期的な山林整備に対する不安を解消するために

林業新規就業者育成支援事業	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>取組内容</p> <p>①林業担い手育成事業費補助金（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人式の対象者へ補助内容のチラシを配布 ・大学校の生徒募集の際の周知 <p>②新規林業就労者雇用助成金（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の意欲と能力のある林業経営社に対して、制度説明会を開催 <p>【期待する効果】地元就職の促進、担い手の確保</p>	<p>基本戦略1_02_③農林業の担い手育成と定着支援</p>	<p>マンパワーが不足しているのではないか</p> <p>若い林業の担い手が少ないのではないか</p> <p>支援制度が活用されていないのではないか</p> <p>林業のPRができていないのではないか</p>
森林経営管理推進事業	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>取組内容：森林の集積計画の策定、森林所有者の経営管理の委託調査の実施と民間事業者と市による森林の適切な管理（継続）</p> <p>【期待する効果】意欲と能力のある林業経営者への集積・集約化 林業の適切な経営管理と林業の成長産業化を図る</p>	<p>基本戦略1_01_③効率的な農林業経営による経営安定と競争力の強化</p>	<p>山林の集積・集約化が進んでいないのではないか</p> <p>適切に山林の経営管理がなされていないのではないか</p>
林内路網整備事業	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>取組内容：森林施業を行う際の作業道の新設について補助金を交付する（継続）</p> <p>【期待する効果】国や県の補助要件を満たさない小規模作業道の開設の支援と高性能機械の導入や森林施業を効率的に実施する</p>	<p>基本戦略3_14_②森林の更新・保護による環境保全</p>	<p>山林の整備が進んでいないのではないか。</p>
森林環境保全直接支援事業	鹿角市第7次総合計画との関連性	解消したい要因
<p>取組内容：間伐及び再造林について、国、県の補助金に加え、市独自の嵩上げ補助金を交付する（継続）</p> <p>【期待する効果】間伐を要する森林組織的、計画的な施業を推進し、健全な森林を構成することにより森林の有する、多面的機能の高度化を図る。また、再造林については、市の嵩上げ補助を実施する</p>	<p>基本戦略3_14_②森林の更新・保護による環境保全</p>	<p>山林の整備が進んでいないのではないか。</p>

08

まとめ

活用の現場から

(1) 活動内容

【令和3年】

- ・7月19日（月） RESAS・V-RESAS研修会
- ・7月20日（火） ハンズオン支援「分析手順について」
- ・8月2日（月） 産業部班長会議「鹿角市の現状分析（魅力と課題）の役割分担について」
- ・8月23日（月） ハンズオン支援「現状分析」（オンライン）
- ・9月14日（火） ハンズオン支援「現状分析」（オンライン）
- ・10月19日（火） 産業活力課・かつの商工会・東北経済産業局との意見交換
- ・11月22日（月） ハンズオン支援「SWOT分析」
- ・11月26日（金） 政策立案ワークショップ打ち合わせ（東北経済産業局）
- ・12月10日（金） ハンズオン支援「仮説の構造化」
- ・12月27日（月） 政策立案ワークショップ打ち合わせ（オンライン）

【令和4年】

- ・1月17日（月） 政策立案ワークショップ打ち合わせ（有識者・内閣府）
- ・2月3日（月） ハンズオン支援「課題設定・課題分析・注力テーマの設定・打ち手の検討」（オンライン）
- ・3月17日（木） 産業部班長会議「感想と効果」
- ・3月23日（水） RESASを活用した政策立案ワークショップ

(2) 取組への感想と効果

- 普段行っている業務を深掘りして分析する貴重な機会だった。分析に慣れていなかったのも、ハンズオン支援はとても助かった。
- 他市町村と簡単に比較でき、鹿角市の状況について新鮮な発見があった。
- RESASだけでなく、市の統計書や市民アンケート結果等を見ることで、市の状況を把握することの大切さがわかった。
- 人口減少による様々な悪影響をどのように解決するか考えるきっかけになった。
→政策提案書としてまとめる際の参考になった。
- 感覚や憶測ではなくデータの整理方法や見せ方を学ぶことができ、頭の整理ができた。
- 若手職員にも、データ分析のやり方を覚えてもらいたい。
- 課題を絞って分析し、政策立案をすることも必要と感じた。
- 鹿角市のオープンデータをもっと充実させる必要があると思った。
- 総合計画に掲げた成果指標の目標を達成するためのKPI設定、それを管理していく体制づくりが必要と感じた。
→政策評価・施策評価・事務事業評価及び人事評価との連動

STAFF

【総務部】

総務課 デジタル行政推進室	政策監兼班長	黒澤 昌基
政策企画課 総合戦略室	主査	海沼 寿和

【産業部】

農業振興課 構造改革推進班	政策監兼班長	佐藤 寛
農業振興課 ブランド作物推進班	政策監兼班長	阿部 卓也
農地林務課 農地整備班	主幹兼班長	柳舘 秀人
農地林務課 森林経営管理班	副主幹兼班長	土舘 広人
産業活力課 観光交流班	政策監兼班長	黒澤 香澄
産業活力課 産業戦略班	政策監兼班長	成田 靖浩

SPECIAL THANKS

【東北経済産業局】

企画調査課 地域経済システム普及活用支援調査員	植木 吉人 様
	山本 雄麻 様